四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十冊

飯野・東二瓦礫遺跡

1996. 3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十冊

飯野・東二瓦礫遺跡

1996. 3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

序　　文

四国横断自動車道は，高松～善通寺間が平成４年５月に開通しました。これにより，瀬戸大橋と香川県の高速道路が結ばれることになり，香川県は本格的な高速交通時代を迎えることになりました。

香川県教育委員会では，四国横断自動車道（高松～善通寺間）の建設に伴い，昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して，用地内の埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。３年６か月の期間を要して28遺跡の発掘調査を実施し，平成３年９月に発掘調査を終了いたしました。また，平成３年度からは同センターにおきまして発掘調査の出土品の整理を順次行っているところであり，平成４年度からは発掘調査報告書の刊行を開始いたしております。

このたび「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第二十冊」として刊行いたしますのは，丸亀市飯野町に所在します飯野・東二瓦礫遺跡についてであります。飯野・東二瓦礫遺跡では，弥生時代から江戸時代にかけての多数の遺構・遺物が検出され，特に鎌倉時代から室町時代にいたる集落跡は，丸亀平野の中世集落の基準資料になるものと考えられます。

本報告書が，本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間，日本道路公団及び関係機関並びに地元関係各位には多大の御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに，今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成８年３月

香川県教育委員会

教育長　田　中　壮一郎

例　　言

1．本報告書は，四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第二十冊で，香川県丸亀市飯野町東二字瓦礫・東分字神谷に所在する飯野・東二瓦礫遺跡（いいのひがしふたがらくいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が日本道路公団から委託され，香川県教育委員会が調査主体，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

予備調査　期間　昭和63年９月,11 月

担当　金丸真明，山下平重，岡野　順

本調査　期間　昭和63年12月13日～平成元年３月27日

担当　金丸真明，山根　進，山下平重，岡野　順

4．調査にあたって，下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。

（順不同，敬称略）

香川県土木部横断道対策室，善通寺土木事務所横断道対策課，丸亀市土木部高速自動車道担当，四国横断自動車道建設丸亀市飯野地区対策協議会，地元自治会

5．本報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆，編集は山下平重が担当した。

6．本報告書の作成にあたっては，下記の方に御教示を得た。記して謝意を表したい。

（順不同，敬称略）

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所　鈴木康之

7．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高はＴ．Ｐ．を基準としている。

また，遺構は下記の略号により表示している。

ＳＡ　柵列	ＳＢ　掘立柱建物跡	ＳＤ　溝状遺構	ＳＥ　井戸
ＳＨ　竪穴住居跡	ＳＫ　土坑	ＳＰ　柱穴	ＳＸ　不明遺構
ＳＲ　川跡			

8．土器及び陶磁器については，遺物番号の横に産地及び種類を以下のように表示した。ただし，表示のないものは弥生土器，土師器及び土師器系の土器である。

須	須恵器	黒	黒色土器	黒A	黒色土器A類	黒B	黒色土器B類
瓦	瓦器	瓦質	瓦質土器	東	東播系須恵器	亀	亀山焼
備	備前焼	唐	唐津焼	陶	陶器	青	青磁
白	白磁	染	染付	磁	磁器	色	色絵
灰	灰釉	褐	褐色釉	青緑	青緑色釉	鉄	鉄釉
天	天目釉						

また，石器実測図の網目は摩滅痕を，輪郭線の回りの点線は潰れ痕を表す。剝離面の風化の程度が違う場合，新しい剝離面は淡く黒で塗っている。なお，現代の折損は濃く黒で潰している。

9．挿図の一部に国土地理院地形図　丸亀（1/25,000）及び丸亀市都市計画図を使用した。

10．本遺跡の報告にあたっては，下記の機関に分析を委託した。

樹種同定　　パリノ・サーヴェイ株式会社

プラント・オパール分析　　帝京大学山梨文化財研究所

目　　次

序　　文
例　　言

第1章　調査の経緯
　第1節　調査にいたる経過……1
　第2節　調査の経過……5

第2章　遺跡の立地と環境
　第1節　地理的環境……7
　第2節　歴史的環境……7

第3章　調査の成果
　第1節　調査の方法……16
　第2節　土　層　序……16
　第3節　遺構・遺物
　　1　弥生時代中期……24
　　2　古墳時代～平安時代……24
　　3　鎌倉時代・室町時代……33
　　4　江戸時代以降……64
　　5　包含層出土の遺物……66
　第4節　自然科学調査の成果
　　1　飯野・東二瓦礫遺跡から出土した柱の樹種……73
　　2　丸亀平野における遺跡の立地と環境　その2……78
　第5節　ま　と　め……96

観察表及び一覧表……100

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（高松～善通寺）……2
第２図　遺跡位置図(1)……9
第３図　遺跡位置図(2)(1/5,000)……10
第４図　周辺の遺跡（1/25,000）……11
第５図　調査区名図（1/1,000）……17
第６図　包含層分布図及び土層断面図作成位置図(1/1,000)……17
第７図　①区Ａ２・Ｂ２区画北壁断面図（断面①)(1/80)……18
第８図　②区Ｃ４・Ｄ４区画北壁断面図（断面②）及び③区南壁断面図（断面③）①(1/80)……19
第９図　③区南壁断面図（断面③）②及び④⑤区北壁断面図（断面④）①（1/80）…20
第10図　④⑤区北壁断面図（断面④）②(1/80)……21
第11図　④⑤区北壁断面図（断面④）③(1/80)……22
第12図　⑤区東壁断面図（断面⑤）(1/80)……23
第13図　ＳＤ15断面図（1/40）……24
第14図　ＳＤ16断面図（1/40）及び出土土器(1/4)・石器（1/2）……25
第15図　ＳＤ21・22・23断面図（1/40）……26
第16図　ＳＤ21・22出土土器（1/4）及び石器(1/2)……27
第17図　ＳＤ24・25・26断面図（1/40）及び出土土器（1/4)・石器（1/2）……28
第18図　ＳＤ27断面図(1/40)及び出土石器(1/2)……28
第19図　ＳＤ29断面図(1/40)及び出土土器(1/4)……29
第20図　ＳＤ21・27・29断面図（1/40）……30
第21図　ＳＤ31・32断面図（1/40）及び出土土器(1/4)……31
第22図　水田畦畔跡断面図（1/40）及び出土土器(1/4)・石器（1/2）……32
第23図　②区溝跡断面図（1/40）……34
第24図　②区掘立柱建物群平面図（1/100）……35・36
第25図　ＳＤ02出土土器（1/4)・石器(1/2)……37
第26図　②区溝跡出土土器（1/4)・石器(1/2)……38
第27図　ＳＤ14出土土器（1/4)・石器(1/2)・鉄器（1/2）……39
第28図　ＳＢ01平・断面図（1/100）……40
第29図　ＳＢ02平・断面図（1/100）……41
第30図　ＳＢ02出土土器（1/4）……42
第31図　ＳＢ03平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）……42
第32図　ＳＢ04平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4)・石器（1/2）……43
第33図　ＳＢ05平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）……44
第34図　ＳＢ06平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）……45
第35図　ＳＢ07平・断面図（1/100）……45
第36図　ＳＢ08平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）……46
第37図　ＳＢ09平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）……46

第38図　柵列跡平・断面図（1/100）……48
第39図　②区柱穴跡出土土器①（1/4），石器・鉄器(1/2）及び木器（1/6）……49
第40図　②区柱穴跡出土土器②（1/4）……50
第41図　②④⑤区柱穴跡出土土器（1/4）……51
第42図　ＳＫ01平・断面図（1/40）及び出土土器(1/4）……53
第43図　ＳＫ02平・断面図（1/40）及び出土土器(1/4）……54
第44図　ＳＤ01断面図（1/40）……54
第45図　ＳＤ06断面図（1/40）……54
第46図　ＳＤ17・18断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）……55
第47図　ＳＤ23断面図（1/40）及び出土土器(1/4）……56
第48図　ＳＲ01断面図（1/40）……56
第49図　ＳＲ01①層出土土器（1/4）……57
第50図　ＳＲ01②層出土土器①（1/4）……58
第51図　ＳＲ01②層出土土器②（1/4）……59
第52図　ＳＲ01③層出土土器①（1/4）……60
第53図　ＳＲ01③層出土土器②（1/4）……61
第54図　ＳＲ01③層出土土器③（1/4）及び石器(1/2）……62
第55図　ＳＲ01その他の層の出土土器（1/4）及び石器（1/2）……63
第56図　ＳＫ03平・断面図（1/40）……64
第57図　ＳＫ04平・断面図（1/40）……64
第58図　ＳＫ05平・断面図（1/40）……64
第59図　ＳＫ07出土土器（1/4）及び瓦（1/4）65
第60図　ＳＫ09平・断面図（1/40）及び出土土器(1/4）……66
第61図　ＳＤ28断面図（1/40）……66
第62図　②区包含層出土土器（1/4）……67
第63図　②区包含層及び①層出土土器（1/4）・石器（1/2）……68
第64図　②区②層出土土器（1/4）及び石器(1/2）……69
第65図　②区③④層出土土器（1/4）及び石器(1/2）……70
第66図　④区包含層出土石器（1/2）……71
第67図　⑤区包含層出土土器（1/4）・石器（1/2）及び瓦（1/4）……72
第68図　位置図……78
第69図　遺構図……79
第70図　断面図……80
第71図　郡家一里屋遺跡花粉分析結果……83・84
第72図　郡家一里屋遺跡プラント・オパール分析結果……87・88
第73図　飯野・東二瓦礫遺跡プラント・オパール分析結果……89・90
第74図　弥生時代中期及び古墳時代～平安時代の遺構配置図（1/1,500）……97
第75図　鎌倉・室町時代及び江戸時代以降の遺構配置図（1/1,500）……98

表　目　次

第１表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要(1）……3
第２表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要(2）……4
第３表　周辺の遺跡一覧表(1）……12
第４表　周辺の遺跡一覧表(2）……13
第５表　周辺の遺跡関連文献一覧表(1）……14
第６表　周辺の遺跡関連文献一覧表(2）……15

第７表　樹種同定結果……74
第８表　香川県における柱材の樹種……75
第９表　試料採取地点の地層の堆積状況（郡家一里屋遺跡）……81
第10表　試料採取地点の地層の堆積状況（飯野・東二瓦礫遺跡）……81
第11～42表　土器表(1)～(32)……101～132
第43表　平瓦表……132
第44表　丸瓦表……133
第45・46表　石器表(1)・(2)……133・134
第47表　鉄器表……134
第48表　木器表……134
第49表　掘立柱建物表……135
第50表　柵列表……135
第51～64表　ピット表(1)～(14)……135～148
第65表　土坑表……149
第66表　溝出土遺物一覧表……149

図　版　目　次

図版１　遺跡全景　東から
図版２　①区空中写真
図版３　②区空中写真
図版４　③区西半上層空中写真
図版５　③区東半上層空中写真
図版６　③区東半下層空中写真
図版７　④区上層空中写真
図版８　⑤区上層空中写真
図版９　④区下層空中写真
図版10　⑤区下層空中写真
図版11　①区完掘全景　北から，②区全景　北から
図版12　②区全景　西から，②区全景　東から
図版13　③区水田跡　西から，⑤区全景　西から
図版14　④⑤区完掘全景　西から
①区断面６　Ａライン以西(西)　北から
図版15　①区断面６　Ａライン以西(東)　北から
①区断面６　Ａライン以東(西)　北から
図版16　①区断面６　Ａライン以東(中)　北から
①区断面６　Ａライン以東(東)　北から
図版17　③区調査区北壁断面　南から
⑤区調査区北壁断面(1)　南から
図版18　⑤区調査区北壁断面(2)　南から
⑤区調査区北壁断面(３)　南から
図版19　⑤区調査区北壁断面(４)　南から
⑤区調査区北壁断面(５)　南から
図版20　⑤区調査区北壁断面(６)　南から
⑤区調査区北壁断面(７)　南から
図版21　⑤区調査区北壁断面(８)　南から
⑤区調査区北壁断面(９)　南から
図版22　⑤区調査区東壁断面　西から
ＳＤ21完掘　東から
図版23　ＳＤ21完掘　南から
ＳＤ21完掘　東から
図版24　ＳＤ22完掘　南から
ＳＤ24断面　北から
図版25　ＳＤ24～26完掘　南から
ＳＤ27完掘　南から
図版26　ＳＤ25・26完掘　南から
ＳＤ29完掘　南から
図版27　ＳＤ29断面　北から
ＳＤ29・21断面　南から
図版28　ＳＤ30完掘　南から
ＳＤ31完掘　南から

図版29　ＳＤ31（東）断面　南から
ＳＤ32断面　南から
図版30　②区ＳＰ168断面（柱）　南から
②区ＳＰ204土器出土状況　南から
図版31　②区ＳＰ232土器出土状況　南から
②区ＳＰ277土器出土状況　南から
図版32　②区ＳＰ365土器出土状況　南から
②区ＳＰ455土器出土状況　南から
図版33　②区ＳＰ526断面（柱）　南から
②区ＳＰ547断面（柱）　北から
図版34　ＳＫ01礫出土状況　東から
ＳＫ02礫出土状況　北から
図版35　ＳＤ01全景　西から
ＳＤ07完掘　北から
図版36　ＳＤ14完掘　東から
ＳＤ17完掘　北から
図版37　ＳＤ17完掘　南から
ＳＤ17断面　南から
図版38　ＳＤ23断面　南から
ＳＤ28・23完掘　南から
図版39　①区河道底部断面（北）　北から
ＳＫ０４断面　西から
図版40　ＳＫ０５断面　西から
ＳＫ０９完掘　南から
図版41～66　遺物写真
図版67　木材の顕微鏡写真
図版68　写真１．花粉化石・胞子化石
図版69　写真２．プラント・オパール

付　　図

遺構配置図（1/200）

第1章　調査の経緯

第1節　調査にいたる経過

四国横断自動車道高松～善通寺間の建設は，同善通寺～豊浜間に引き続き，昭和57年1月8日に整備計画決定され，昭和59年11月30日に建設大臣から日本道路公団総裁に対して施工命令が下された。

香川県教育委員会では，この間路線内の埋蔵文化財包蔵地の確認を目的に国庫補助事業として分布調査[1]を実施し，これをもとに調査対象面積を39万m²余りと判断した。路線内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては，日本道路公団と文化庁の協議により，基本的には記録保存で対応することが決定した。

香川県教育委員会では，これを受けて香川県の担当課である土木部横断道対策室及び日本道路公団高松建設局高松工事事務所と昭和62年度から調査体制等について協議を開始した。

協議の結果，昭和63年度当初から2カ年の予定で本調査を実施すること，整理報告は発掘調査の終了後に実施すること等が決定した。これを受けて香川県教育委員会では調査体制の充実を図ることを目的に，昭和62年11月に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを設置すると同時に，専門職員の増員等の措置を実施した。

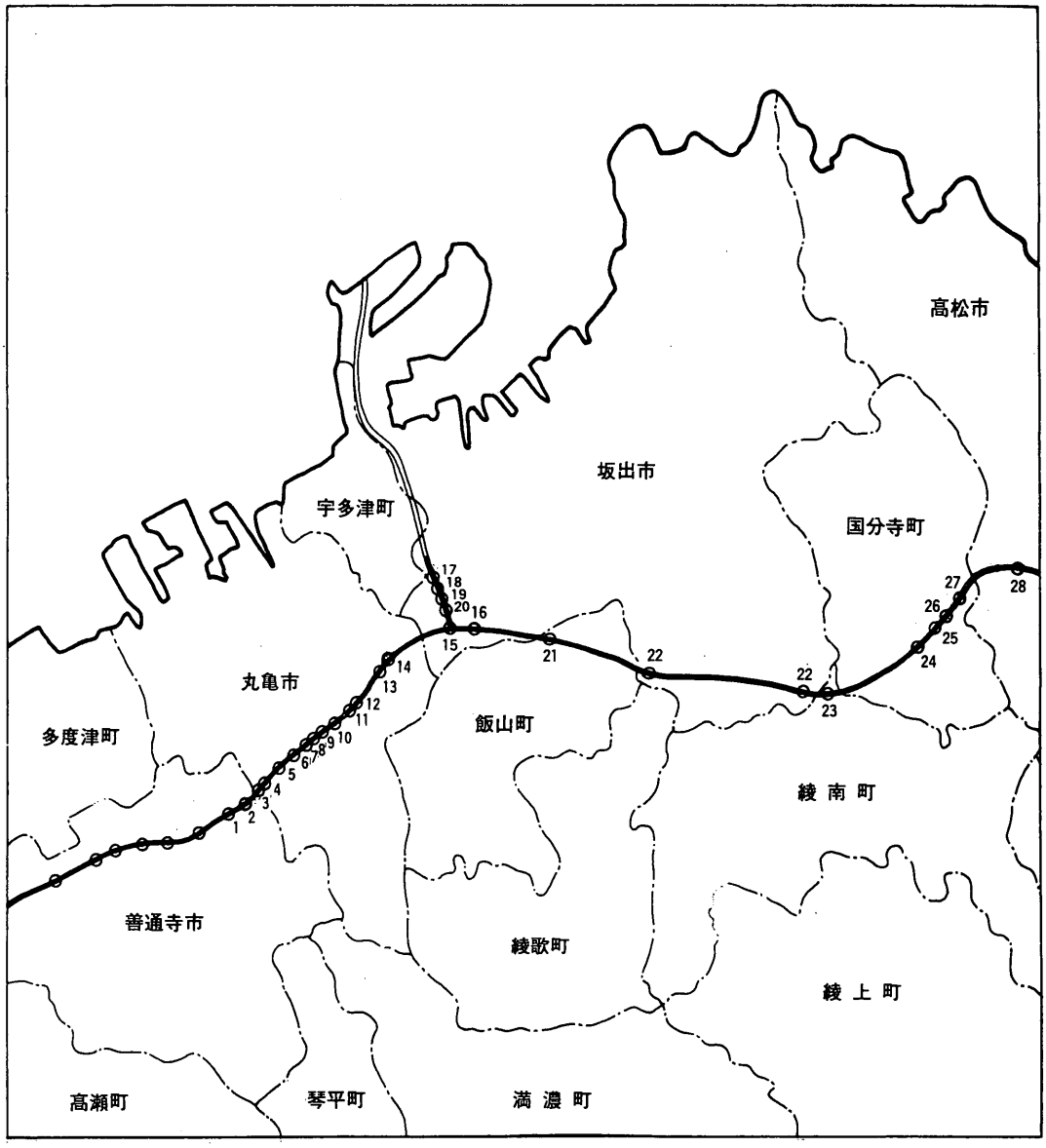
昭和63年には，横断道路線内の埋蔵文化財包蔵地の具体的な内容を把握するため，日本道路公団と協議の上，用地買収の進捗にあわせて予備調査を実施した。予備調査の着手に当たっては，地元の四国横断自動車道建設丸亀市飯野地区対策協議会，丸亀市土木部高速自動車道担当及び香川県善通寺土木事務所横断道対策課の多大な協力を得た。

予備調査の結果，飯野地区で2遺跡の存在を把握することができ，当地区での本調査面積を3,666m²に確定した。

今回報告する飯野・東二瓦礫遺跡は，調査対象面積は3,366m²である。調査は昭和63年12月13日に着手し，平成元年3月27日に終了した。

註(1)　香川県教育委員会『国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報』1987

調査は，香川県教育委員会が日本道路公団高松建設局から委託を受け，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施された。



第１図　四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵他（高松～善通寺）

第Ⅰ表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要(Ⅰ)

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査面積(㎡)	調　査　期　間	遺　　構	遺　　物
1	龍川五条遺跡	善通寺市原田町	12,300 10,200	元.6.26～2.3.31 2.4.9～2.12.5	弥生時代(環濠，竪穴住居，溝)，古代溝，中世建物，近世井戸	弥生土器，土師器，須恵器，石器，木製品
2	龍川四条遺跡	善通寺市原田町・木徳町	20,200 1,700 300	元.7.1～2.3.31 2.5.28～2.12.5 3.4.4～3.6.18	古代掘立柱建物，中世建物，溝，土坑墓，自然河川	縄文土器，土師器，須恵器，瓦器，磁器，中世鏡
3	三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町中村	12,041 1,300	63.4.18～元.2.10 元.4.10～2.3.31	弥生時代竪穴住居，溝，自然河川	弥生土器ほか
4	三条黒島遺跡	丸亀市三条町黒島	7,677	63.6.15～63.11.26	ユニット，溝，建物	旧石器，弥生土器，陶磁器
5	郡家原遺跡	丸亀市三条町黒島・郡家町原	17,099 2,600	63.4.18～元.3.31 元.4.10～2.3.31	竪穴住居，掘立柱建物，溝	弥生土器，土師器，須恵器，緑釉陶器，斎串ほか
6	郡家一里屋遺跡	丸亀市郡家町八幡上	14,067 6,450	63.4.18～元.3.31 元.4.10～2.3.31	掘立柱建物，溝，自然河川	弥生土器，土師器，須恵器，緑釉陶器，灰釉陶器，有舌尖頭器ほか
7	郡家大林上遺跡	丸亀市郡家町大林上	11,175	63.6.15～元.3.22	掘立柱建物，溝，自然河川	須恵器，斎串ほか
8	郡家田代遺跡	丸亀市郡家町田代	12,741	63.6.15～元.2.17	掘立柱建物，溝，火葬墓	弥生土器，須恵器，近世陶磁器，ナイフ形石器
9	川西北・原遺跡	丸亀市川西町北・原	3,033	63.12.12～元.3.25	掘立柱建物，溝	
10	川西北・七条Ⅰ遺跡	丸亀市川西町北・七条	4,034	63.12.13～元.3.27	溝，自然河川	土師器，須恵器
11	川西北・七条Ⅱ遺跡	丸亀市川西町北・七条	4,760	元.2.2～元.3.31	掘立柱建物，溝	土師器
12	川西北・鍛冶屋遺跡	丸亀市川西町北	12,208	元.4.10～元.8.11	中世掘立柱建物，溝，自然河川	土師器，須恵器，近世陶磁器
13	飯野・東二瓦礫遺跡	丸亀市飯野町東二瓦礫	3,366	63.12.13～元.3.27	掘立柱建物，溝，自然河川	土師器，須恵器
14	飯野・東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町	300	2.3.1～2.3.31		
15	川津東山田遺跡	坂出市川津町 飯山町東坂元	28,100 500	2.8.2～3.3.20 3.9.2～3.9.4	弥生時代竪穴住居，古墳時代竪穴住居，柱穴	弥生土器，土師器，須恵器

第２表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要（２）

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査面積(㎡)	調　査　期　間	遺　　構	遺　　物
16	川津川西遺跡	坂出市川津町	5,400	2．5．10～3．1．17	古墳時代竪穴住居，古代～中世建物，溝	縄文土器，土師器，須恵器，墨書土器，土馬，耳環
17	川津中塚遺跡	坂出市川津町	15,290 5,700	2．5．10～3．2．28 3．4．4～3．9．13	弥生時代竪穴住居，古代～中世掘立柱建物，溝，土坑，土坑墓	弥生土器，土師器，須恵器，耳環，鉄小刀
18	川津下樋遺跡	坂出市川津町	9,650 200	2．5．10～3．1．31 3．7．1～3．7．16	弥生時代（水田，井堰），溝，自然河川	縄文晩期土器，弥生土器，石器（打製石庖丁ほか），木製品
19	川津二代取遺跡	坂出市川津町	10,400	2．5．10～3．3．8	弥生時代（溝，自然河川），中世（建物，溝）	弥生土器，土師器，石器
20	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	35,160 1,350	2．4．12～3．3．28 3．7．18～3．9．27	弥生時代自然河川，弥生時代～古墳時代（竪穴住居，掘立柱建物，土坑），古代～中世（溝，水田）	弥生土器，土師器，須恵器，石器，木製品，帯金具
21	飯山一本松遺跡	飯山町	2,200	元．4．17～元．5．16		弥生土器，土師器，須恵器
22	府中地区	坂出市府中町	3,000	2．10．30～2．12．26	土坑	須恵器
23	綾南奥下池南遺跡	綾南町	2,900	元．5．22～元．7．24	須恵器窯跡	須恵器
24	国分寺下日名代遺跡	国分寺町福家	11,350	元．8．19～2．2．28	弥生時代溝，水田，動物足跡	弥生土器，土師器，須恵器
25	国分寺楠井遺跡	国分寺町福家	4,400	2．4．11～2．10．2	古墳時代横穴式石室，中世窯，建物	土師器，須恵器，瓦質土器，耳環
26	国分寺六ツ目古墳	国分寺町福家	900	元．9．1～元．12．28	前方後円墳（主体部３基）	古式土師器，鉄器
27	国分寺六ツ目遺跡	国分寺町福家	5,600	元．10．1～2．2．28	中近世建物	弥生土器，近世陶磁器，石器
28	中間西井坪遺跡	高松市中間町	11,600 8,680 1,270	元．8．19～2．3．25 2．5．10～3．3．25 3．4．5～3．7．18	旧石器ブロック，弥生時代～近世建物，埴輪焼成土坑，古墳，溝，土坑	弥生土器，土師器，須恵器，埴輪，陶棺，ナイフ形石器，船底形石器

第2節　調査の経過

1　飯野・東二瓦礫遺跡の調査の経過

飯野・東二瓦礫遺跡の発掘調査は，昭和63年9月と11月に予備調査を行い，本調査は昭和63年12月に着手した。調査方式は工事請負方式で行い，調査面積3,366m²で，平成元年3月27日に調査を終了した。発掘調査の概要は昭和63年度の概報及び当センター年報[1]で報告している。

整理作業は平成6年4月1日から開始し，4カ月の期間をかけて平成6年7月29日に終了した。整理作業の概要は平成6年度の当センター年報[2]で報告している。

2　発掘調査及び整理作業の体制

昭和63年度

文化行政課

総括	課長	廣瀬　和孝
	課長補佐	高木　尚
	副主幹	野網朝二郎（6．1～）
総務	係長	宮谷　昌之（～5．31）
	係長	宮内　憲生（6．1～）
	主事	横田　秀幸（6．1～）
	主事	水本久美子
埋蔵文化財調査	係長	大山　真充
	主任技師	安藤　清和
	技師	國木　健司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	田丸　秀明
	次長	小原　克己
総務	主査（総務）	加藤　正司
	主査（土木）	山地　修（6．1～）
	主事	三宅　浩司
調査	参事	見勢　護
	文化財専門員	真鍋　昌宏
	主任技師	金丸　真明
	主任技師	山根　進
	技師	山下　平重
	調査技術員	岡野　順

註(1)　香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　昭和63年度』1989
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　1988年度』1989

(2)　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成6年度』1995

平成６年度

文化行政課

総括	課　長	高木　尚
	主　幹	小原　克己
	課長補佐	高木　一義
総務	係　長	源田　和幸
	主任主事	櫻木　新士（～５．31）
	主　査	星加　宏明（６．１～）
	主　事	藤原　和子（～５．31）
	主　事	高倉　秀子（６．１～）
埋蔵文化財調査	係　長	藤好　史郎
	主任技師	國木　健司
	主任技師	森下　英治

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所　長	松本　豊胤
	次　長	真鍋　隆幸
総務	参事（土木）	別枝　義昭
	係長（事務）	土井　茂樹（～５．31）
	係長（事務）	前田　和也（６．１～）
	主　査	西村　厚二
調査	係　長	廣瀬　常雄
	主任技師	山下　平重

飯野・東二瓦礫遺跡の調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員	香川福恵
現場事務員	大井由紀子
整理補助員	葛西　薫，小畑三千代，香川明美
整理作業員	谷　純子，藤野麻理，鈴木奈穂子

第2章　立地と環境

第1節　地理的環境（第2～4図参照）

飯野・東二瓦礫遺跡は丸亀平野東部，飯野山西麓に位置する。現在の標高は11～12mである。調査前の土地利用は水田であった。調査地周辺の地形については，木下晴一氏の論文[1]に詳しく述べられている。それによれば，調査地周辺は条里型地割の認められない地形面（氾濫原）と条里型地割の認められる地形面（段丘）等に分けられるという。氾濫原は土器川が東方に移動した結果形成されたもので，この移動はまた川床の低下を伴うものであったため，条里型地割の認められる地形面は段丘化したものとしている。調査地を南北に横切る市道を挟んで，認められる地形の段差を段丘崖としている。

第2節　歴史的環境（第4図参照）

旧石器時代

遺構が検出された遺跡は現在のところない。石器が採集されているのみである。郡家田代遺跡と飯野山西斜面の登山道ではナイフ形石器が出土している。川西北・七条Ⅰ遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡では旧石器時代と考えられるサヌカイトの剝片が出土している。また飯野山南斜面の坂元神社遺跡でも遺物の出土が知られている。

縄文時代

この地区では縄文時代の遺跡・遺物はほとんど知られていない。わずかに郡家一里屋遺跡において有舌尖頭器が出土しているのみである。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡は西又遺跡と川津元結木遺跡がある。いずれも溝跡が検出されているのみである。また川西北・鍛冶屋遺跡では当時期のものと考えられる磨製石庖丁が出土

註(1)　木下晴一「条里型地割施工以後の微地形変化　―丸亀市飯野町付近の事例―」『香川地理学会会報　No.11』1991

している。弥生時代中期の遺跡は郡家一里屋遺跡，川西北・七条Ⅰ遺跡，飯野・東二瓦礫遺跡，飯野山山頂遺跡及び西又遺跡がある。郡家一里屋遺跡と飯野・東二瓦礫遺跡では溝跡が検出されているが，川西北・七条Ⅰ遺跡と飯野山山頂遺跡では土器の出土が知られているのみである。西又遺跡は前期から続く環濠集落とされている。弥生時代後期の遺跡は川津元結木遺跡，郡家一里屋遺跡，郡家大林上遺跡及び川西北・七条Ⅰ遺跡があるが，竪穴住居跡が検出されているのは川津元結木遺跡のみである。

古墳時代

古墳時代前期の遺物は郡家田代遺跡で出土している。中期の遺物は，飯野・東二瓦礫遺跡で須恵器の高坏が出土している。後期になると郡家一里屋遺跡では掘立柱建物跡が検出され，川津元結木遺跡では竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出されている。このほか郡家田代遺跡，川西北・七条Ⅰ遺跡，川西北・鍛冶屋遺跡，飯野・東二瓦礫遺跡でも遺構・遺物がわずかに検出されている。飯野・東二瓦礫遺跡の水田跡はこの時期と考えられる。

古墳は青ノ山山麓と飯野山山麓に分布している。青ノ山山麓の吉岡神社古墳は香川県の代表的な前期の前方後円墳である。近年発掘調査が行われている。飯野山山麓には前期と考えられる箱式石棺が分布するとされている。そのうち南麓の国持古墳からは変形神獣鏡や鍍金勾玉などが出土している。後期古墳は青ノ山山麓の古墳の調査が行われているが，飯野山山麓の古墳については実態は不明である。また青ノ山山麓の古墳に須恵器を供給した窯跡も同山麓に存在する。

奈良時代

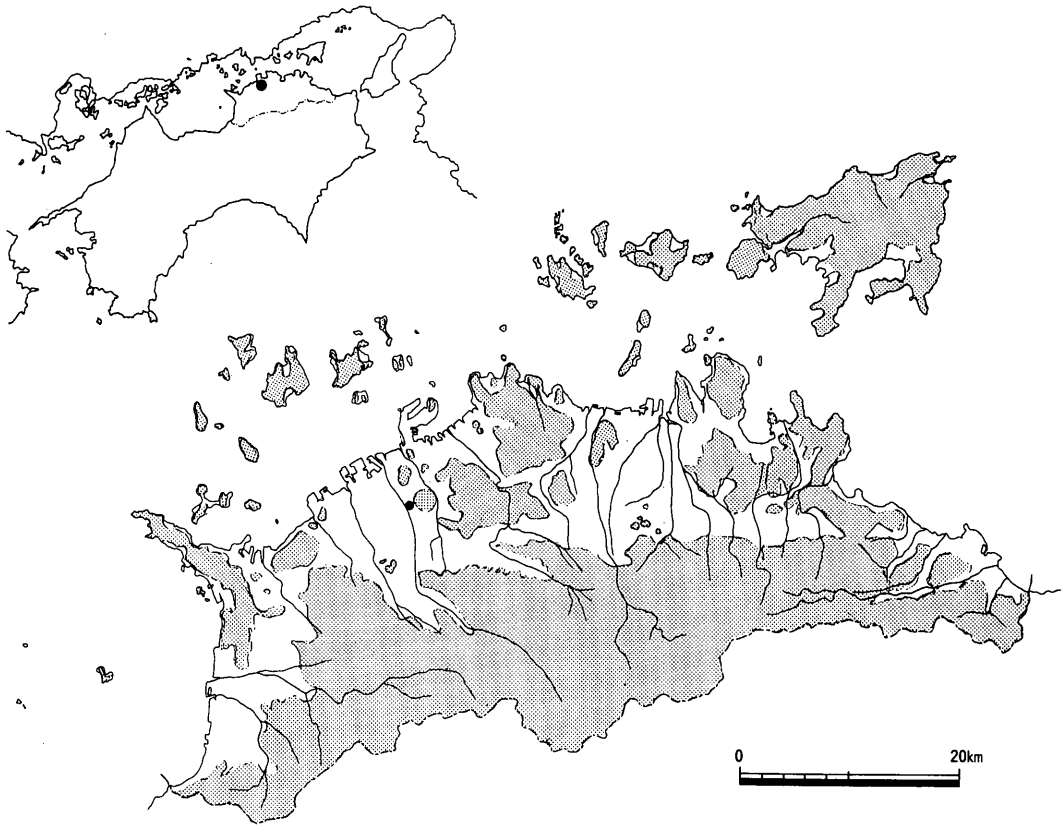
郡家一里屋遺跡で掘立柱建物跡が検出されている。郡家町重元には郡衙跡が比定されているが実態は不明である。郡家田代遺跡では奈良時代の火葬墓が検出されている。川西北・七条Ⅰ遺跡では川跡から当時期と考えられる掛矢が出土している。

平安時代末から室町時代

飯野・東二瓦礫遺跡では当時期の溝で囲まれた集落跡が検出されている。川西北・七条Ⅱ遺跡で屋敷墓と掘立柱建物跡が，川津元結木遺跡では掘立柱建物跡群が検出されている。その他，郡家一里屋遺跡，川西北・七条Ⅰ遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡では溝跡が検出されている。

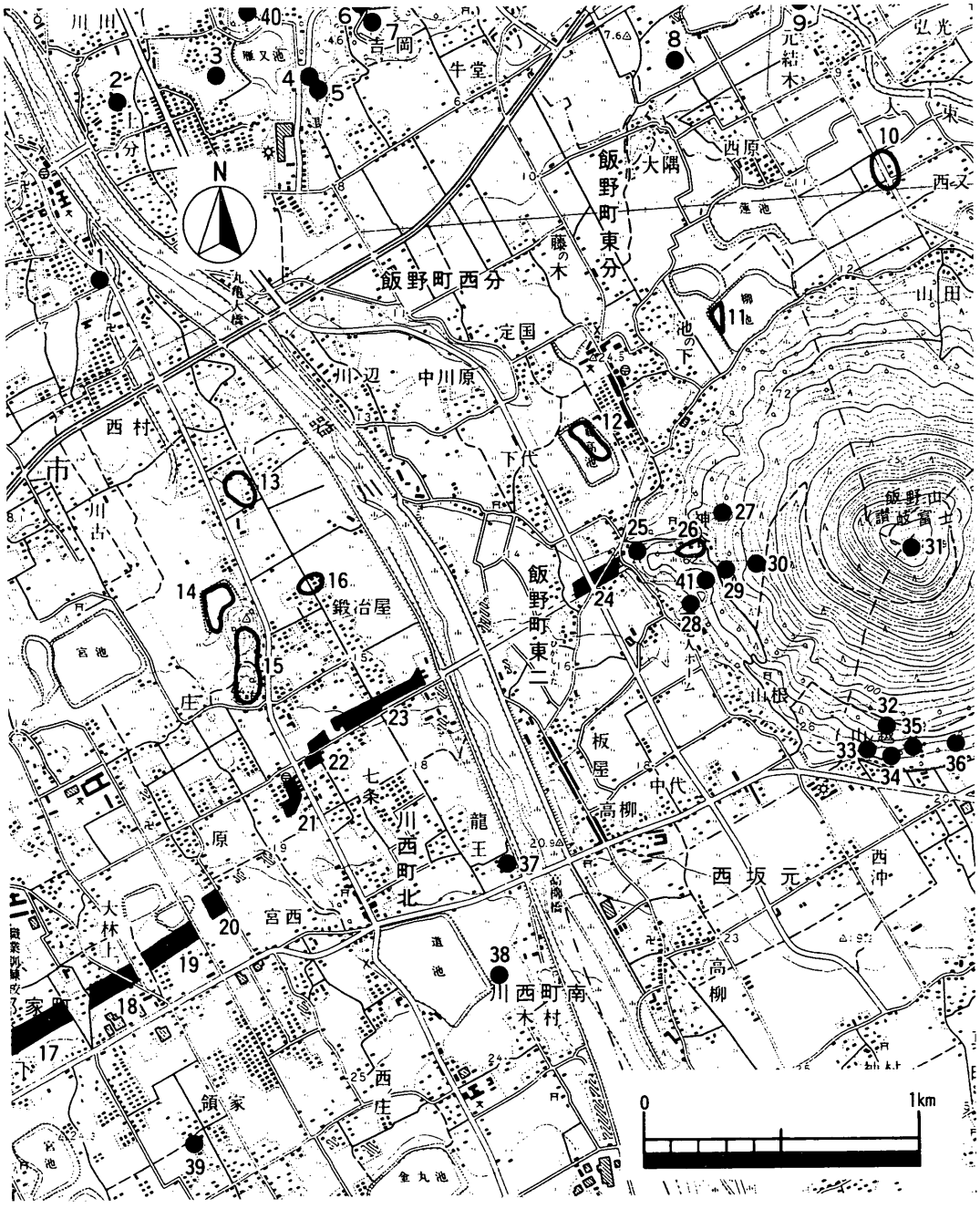
近世以降

郡家大林上遺跡では掘立柱建物跡と廃棄土坑が検出されている。郡家一里屋遺跡では掘立柱建物跡のほかに水溜用と考えられる土坑が多数検出されている。水溜用と考えられる土坑は発掘調査の行われた遺跡の大部分で検出されているが，郡家田代遺跡では石組の堀が検出されている。



第２図　遺跡位置図(Ⅰ)

第３図　遺跡位置図（２）（1/5,000）



2　青ノ山城跡
3　青ノ山２号窯跡
5　吉岡神社古墳
6　青ノ山７号墳(竜塚)
8　野津古墳
9　川津元結木遺跡
10　西又遺跡
17　郡家一里屋遺跡
18　郡家大林上遺跡
19　郡家田代遺跡
20　川西北・原遺跡
21　川西北・七条Ⅰ遺跡
22　川西北・七条Ⅱ遺跡
23　川西北・鍛冶屋遺跡
24　飯野・東二瓦礫遺跡
25　飯野・東分山崎南遺跡
30　飯野山登山道
31　飯野山山頂遺跡
32　坂元神社西古墳群２号墳
33　坂元神社西古墳群１号墳
34　坂元神社西古墳群３号墳
35　坂元神社遺跡
36　国持(塚)古墳(伝鷲住王墓)
37　和泉屋敷跡
38　行者塚古墳
39　那珂郡衙跡
40　青ノ山古墳群南麓支群３号

第４図　周辺の遺跡（1/25,000）

第３表　周辺の遺跡一覧表（Ｉ）

遺跡番号	遺　跡　名	種　別	所　在　地	概　　要	文　　献
1		古墳	丸亀市土器町高津	消滅。埴輪，高坏など出土	11,12,24
2	青ノ山城跡	城跡	丸亀市土器町上分	生駒家の家臣，尾池玄蕃の居城	2,11,12,23,25,26
3	青ノ山２号窯跡	窯跡	丸亀市土器町掛樋	窯壁，須恵器出土。本来の位置ではない	3
4		箱式石棺			3,4,12
5	吉岡神社古墳	前方後円墳	丸亀市飯野町	竪穴式石室。筒形銅器，銅鏃出土	1,2,3,4,5,6,8,10,11,12,13,18,19,23,24,26,29
6	青ノ山７号墳（竜塚）	古墳	丸亀市飯野町東分字山下599番地の2	横穴式石室。須恵器・土師器・金環出土	1,3,4,5,11,12,14,15,18,19,24
7				古墳状隆起（消滅）	3,7,12
8	野津古墳	経塚	綾歌郡宇多津町東分		12
9	川津元結木遺跡	集落遺跡	坂出市川津町元結木6394番地他	弥生時代から中世にかけての集落	12,18,19,24,25,28
10	西又遺跡	集落遺跡	坂出市川津町	弥生時代の環濠集落	12,18,19,24,25,28
11		散布地	丸亀市飯野町	石器，石鏃	11,12,18
12		散布地	丸亀市飯野町	弥生時代から中世の土器散布地	11,12,18
13		散布地	丸亀市土器町	弥生土器（後期）	11,12
14		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地	11,12
15		散布地	丸亀市土器町	須恵器，土師器	11,12
16		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地	11,12
17	郡家一里屋遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町八幡下2695番地他	古墳時代から近世までの遺構・遺物	16,17,20,21,25,26,27
18	郡家大林上遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町大林上	古代から近世までの遺構・遺物	16,17,25,26,27,30
19	郡家田代遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町田代	旧石器時代から近世までの遺構・遺物	16,17,25,26,27
20	川西北・原遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・原	中世から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27
21	川西北・七条Ｉ遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・七条	古代から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27
22	川西北・七条II遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・七条	中世から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27

第4表　周辺の遺跡一覧表(2)

遺跡番号	遺　跡　名	種　別	所　在　地	概　　要	文　　献
23	川西北・鍛冶屋遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・山の側，鍛冶屋	弥生時代から中世の遺構・遺物	20,21,25,26,27
24	飯野・東二瓦礫遺跡	集落遺跡	丸亀市飯野町東二字瓦礫，東分字神谷	弥生時代から中世の遺構・遺物	16,17,25
25	飯野・東分山崎南遺跡	古墳	丸亀市飯野町東分字神谷	円筒埴輪出土	
26		古墳	丸亀市飯野町	かつて数基存在。全て消滅	11,18,24
27		古墳	丸亀市飯野町山崎		2,3,5,11,18,24
28		石棺	丸亀市飯野町	箱式石棺。消滅	11,18,24
29		古墳	丸亀市飯野町山崎		12,18,24
30	飯野山登山道	散布地	丸亀市飯野町	国府型ナイフ出土	12,13
31	飯野山山頂遺跡	集落遺跡	飯山町東坂元字三ノ池	弥生中期土器	4,9,12,13,14,15,18,25,28,29
32	坂元神社西古墳群2号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越207	現状で全壊	9,12,13,18,19,24,25
33	坂元神社西古墳群1号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越207	6世紀末。円墳。横穴式石室。石材散乱全壊	9,12,13,18,19,24,25
34	坂元神社西古墳群3号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越	石材が露出しているが自然石かどうか確認できない	9,12,13,18,19,24,25
35	坂元神社遺跡	散布地	飯山町西坂元字山ノ越	旧石器時代の遺物散布地	12,13
36	国持（塚）古墳（伝鷲住王墓）	古墳	飯山町西坂元字山ノ越	鏡・玉・剣等出土	6,13,14
37	和泉屋敷跡	館跡	丸亀市川西町北		2,11
38	行者塚古墳	古墳	丸亀市川西町宮ノ前	消滅	2,3,11
39	那珂郡衙跡	郡衙跡	丸亀市郡家町郡家重元		1,2,11,27
40	青ノ山古墳群南麓支群3号	古墳	丸亀市土器町	円墳。昭和58年発見。2石露呈	11,12,18,24
41		古墳	丸亀市飯野町	石室石材一部露出。竪穴式石室か	11,12,18

第５表　周辺の遺跡関連文献一覧表（Ｉ）

文献番号	編　著　者	書　　名	発　行　者	発行年月日
1	松本敏三	青ノ山６号墳調査報告（香川県埋蔵文化財調査報告昭和51年度）	丸亀市教育委員会，香川県教育委員会	1977．5．1
2	文化庁文化財保護部	全国遺跡地図37　香川県	文化庁文化財保護部	1977.5.20
3	伊沢肇一，竹下和男，真鍋昌宏	青ノ山南麓における埋蔵文化財調査概報－香川県丸亀市飯野町所在の後期古墳と須恵器窯の調査－	丸亀市教育委員会	1980．9．30
4	廣瀬常雄	日本の古代遺跡８　香川	保育社	1983
5	森本義臣	青ノ山宇多津５号墳調査報告	香川県宇多津町教育委員会	1983．3
6	松本敏三，岩橋　孝	讃岐青銅器図録	瀬戸内海歴史民俗資料館	1983．3．31
7	松本豊胤，川畑　迪，高橋邦彦，六車恵一，森井　正	新編香川叢書　考古編	新編香川叢書刊行企画委員会	1983．3．31
8	松本豊胤，大山真充，真鍋昌宏，秋山　忠，松本敏三，藤好史郎，廣瀬常雄，伊沢肇一，千葉幸伸，丹羽佑一，大平　要	香川の前期古墳	日本考古学協会昭和58年度大会香川県実行委員会	1983.11．1
9	瀬戸内海歴史民俗資料館	「飯野山周辺出土の須恵器（１）」瀬戸内海歴史民俗資料館だより　第16号	瀬戸内海歴史民俗資料館	1983．8．31
10	秋山　忠	「吉岡神社古墳」香川県埋蔵文化財調査概報	香川県教育委員会	1984．2．29
11	東原輝明	青ノ山８号・９号墳発掘調査概報－香川県丸亀市青ノ山山頂所在の後期，終末期古墳－	丸亀市教育委員会	1984．3．31
12	大山真充，藤好史郎，松野一博，松原伸二，安藤史郎，坂口淳子，藤田任亮	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(Ⅶ)下川津遺跡，岡宮古墳，聖通寺城跡	香川県教育委員会，本州四国連絡橋公団	1986．3．31
13	竹下和男	「原始編」飯山町誌	香川県飯山町	1987
14	香川県	香川県史第十三巻　資料編考古	香川県	1987.3.31
15	斎藤賢一	「第四章第二節九，土器川流域の古墳」香川県史１　原始・古代	香川県	1988．3．31

第6表　周辺の遺跡関連文献一覧表(2)

文献番号	編　著　者	書　名	発　行　者	発行年月日
16	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	㈶香川県埋蔵文化財調査センター年報　1988年度	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	1989.4.1
17	真鍋昌宏	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報昭和63年度	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団高松建設局	1989.9
18	藤好史郎，西村尋文，大久保徹也	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ　下川津遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，本州四国連絡橋公団	1990.3
19	國木健司，岩橋　孝	香川県埋蔵文化財調査概報集　三反地遺跡，西又遺跡，堂之岡遺跡	香川県教育委員会	1990.3.31
20	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	㈶香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成元年度	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	1990.4.1
21	真鍋昌宏	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成元年度	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団高松建設局	1990.8
22	渡部明夫	「吉岡神社古墳」前方後円墳集成中国・四国編	株式会社山川出版社	1991.2.25
23	宮崎哲治	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　道下遺跡	香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター	1991.11
24	片桐孝浩	中小河川大束川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津元結木遺跡	香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター	1992.1
25	片桐孝浩	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊　三条番ノ原遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1992.8.31
26	和田素子	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊　郡家一里屋遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1993.11
27	岡　敦憲，真鍋昌宏，山下平重	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊　郡家原遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1993.11.30
28	西岡達哉，山下平重	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第14冊　川津中塚遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1994.3.31
29	丸亀市史編さん委員会	新編丸亀市史4　資料編	丸亀市	1994.1
30	廣瀬常雄	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第17冊　郡家大林上遺跡	香川県教育委員会，㈶香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1995.3

第3章　調査の成果

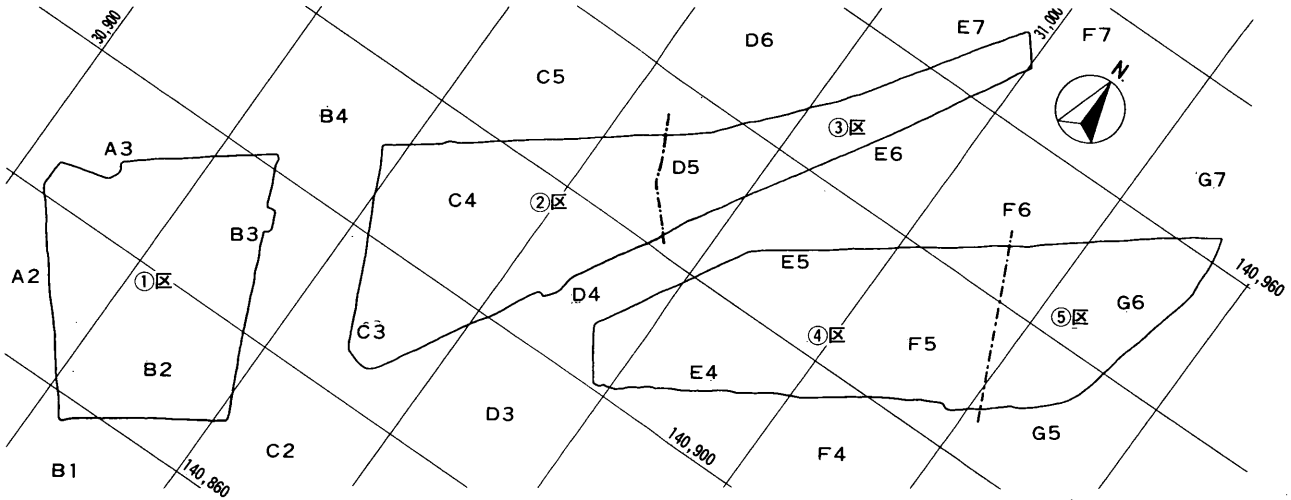
第1節　調査の方法

調査工程及び現在の地割に従い，調査区を第5図のように設定した。また調査地全体を覆うような形で，国土座標第Ⅳ系に沿う20m四方の小区画を第5図のように設定した。遺構名付け及び遺物の取り上げにおいては，調査区と小区画名を使用している。遺構平面の測量はヘリコプターによる航空測量で行い，一部の平面図及び断面図の作成を手書きで行った。

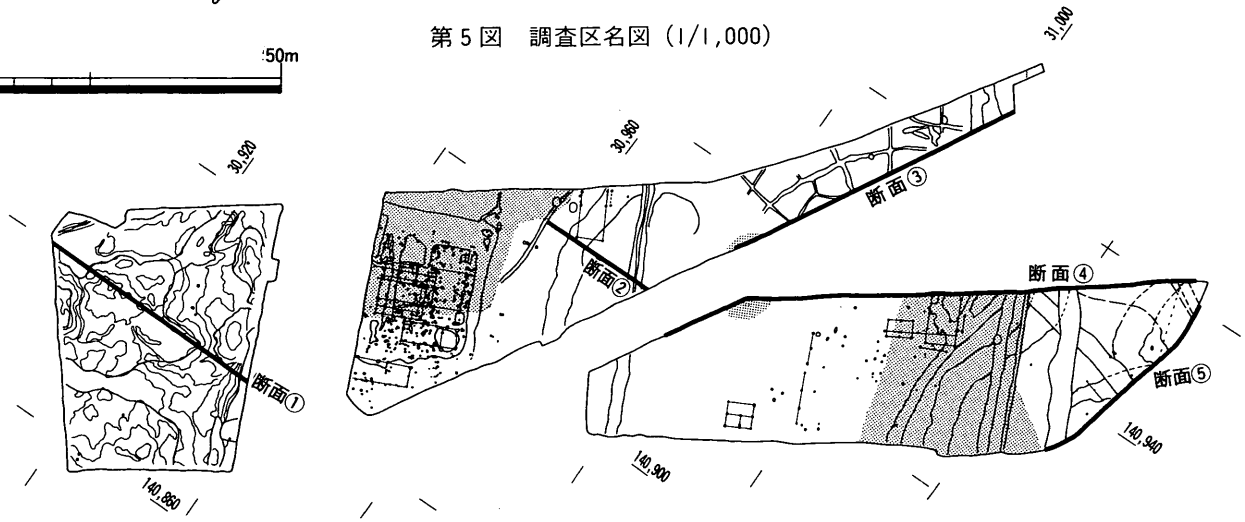
第2節　土　　層　　序（第6～12図）

遺跡全面に基盤層として白黄色粘質土が広がる。遺構の深度が大きい場所では下位の砂礫層がみられる。白黄色粘質土層の上面には凹凸が見られ，その高まりが見られるのは②区の柱穴が集中する部分と③区と④区の間，及び④区と⑤区の間である。この高まりと高まりの間には弥生時代以降の遺物包含層が存在する。以下，各調査区ごとに報告する。

①区は，調査区東端に基盤層の白黄色粘質土が見られるものの，それ以外の部分は川の水流によって削られており存在しない。川の流水が停止した後は埋没が進み，最上層には江戸時代の遺物を包含する水平堆積層がみられる。②区は，調査区北西部分が耕作土直下で白黄色粘質土層が見られるものの，それ以外の部分には茶色系粘質土が広がる。中世の遺構はこの茶色系粘質土の上面で検出された。茶色系粘質土の最も厚い部分は弥生時代中期の溝の上面であることとその広がりの範囲から，茶色系粘質土の堆積は弥生時代中期の溝の埋没に伴うものであることがわかる。③区は調査区南西部に白黄色粘質土の高まりがある。この部分では耕作土直下でこの層が検出され，周囲に向かって茶色系粘質土の堆積がみられる。これは②区の溝の埋没及び③区調査区東端の溝及び川跡の埋没に伴うものと考えられる。この埋没土を利用した水田畦畔が検出された。④⑤区においては④区の北端と④区と⑤区の間において耕作土直下で白黄色粘質土が検出された。④区の茶色系粘質土の堆積は周囲の状況が不明であるため，原因はわからない。⑤区東部は川及び溝の掘削が何度も行われており，これらの埋没に伴う包含層の堆積がみられる。

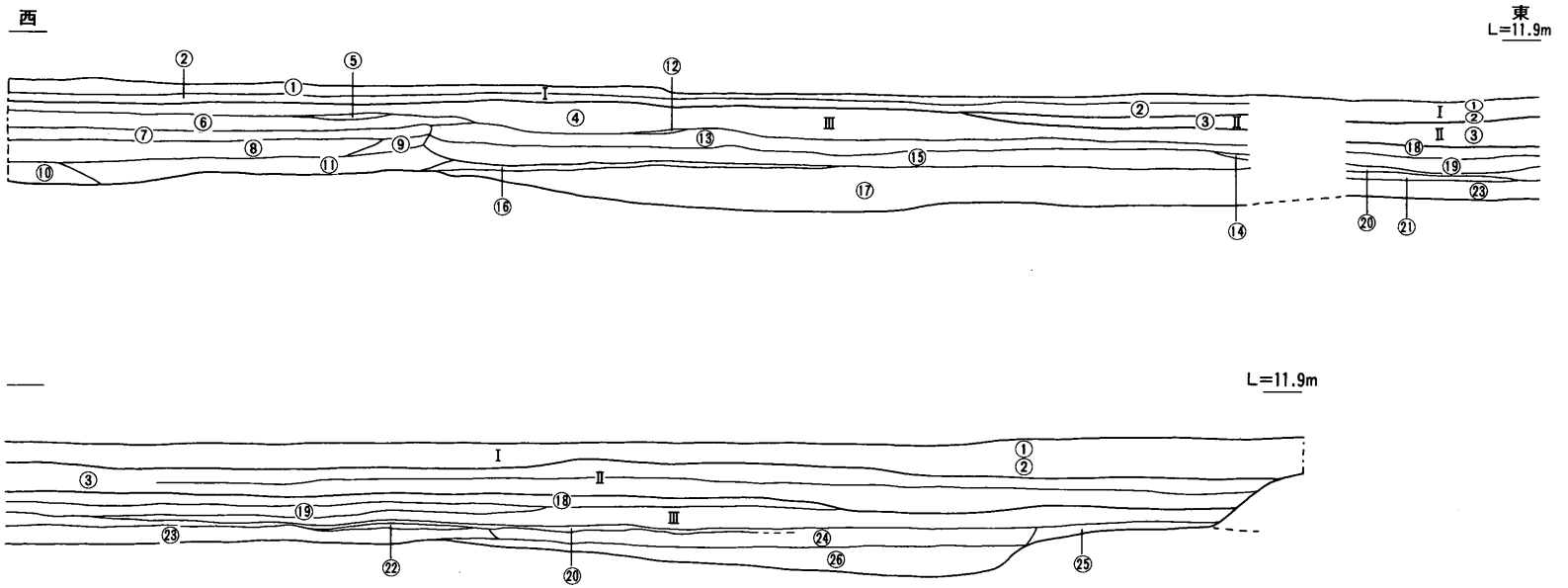


第５図　調査区名図（1/1,000）



第６図　包含層分布図及び土層断面図作成位置図（1/1,000）

網目は表土直下で基盤層が検出された部分，断面の番号は第７～12図の番号に一致する。



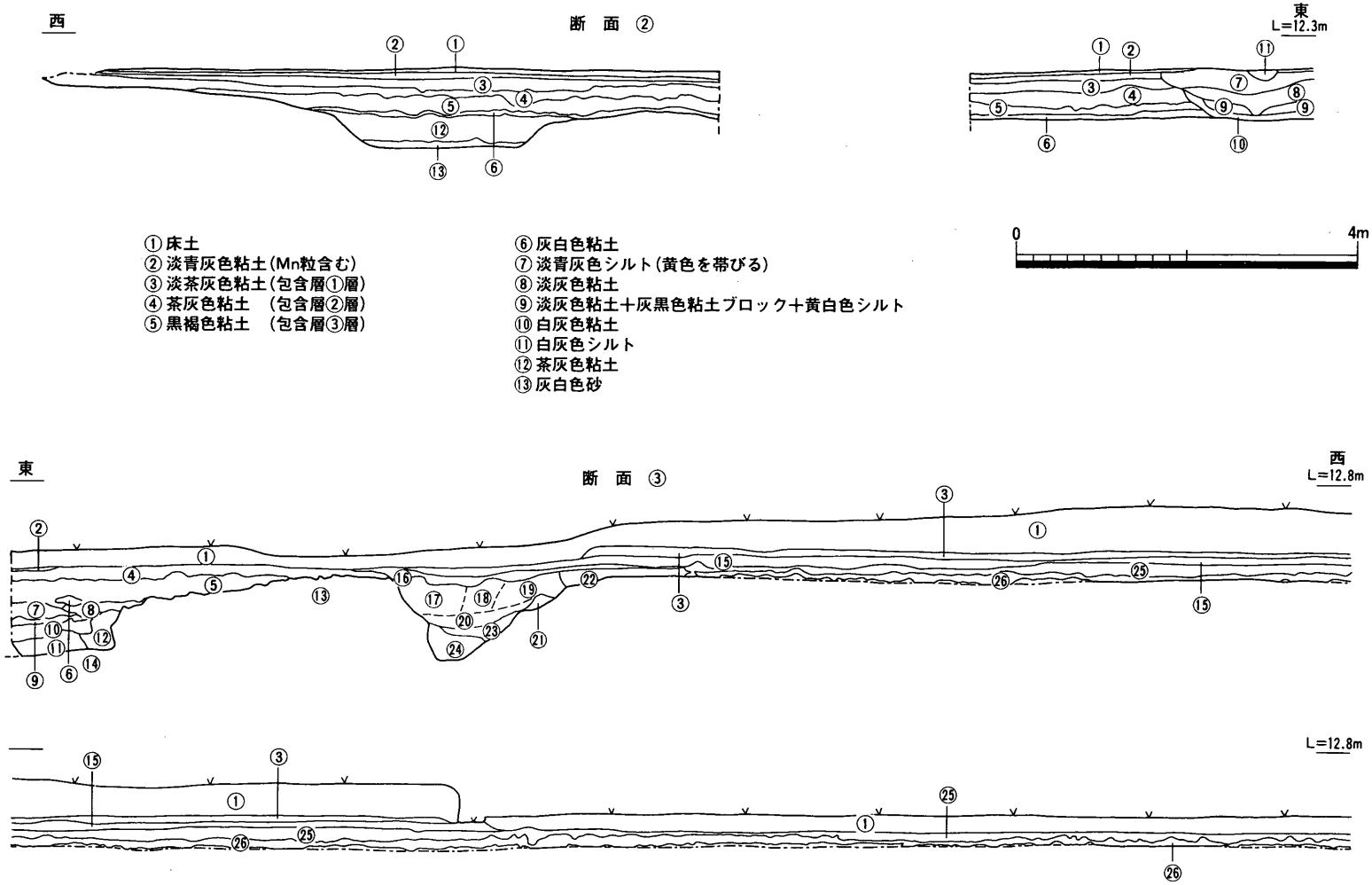
Ⅰ
① 淡青灰色シルト
② 淡青灰色シルト(Mn含)下部は黄色がかる

Ⅱ
③ 暗淡青灰色粘土

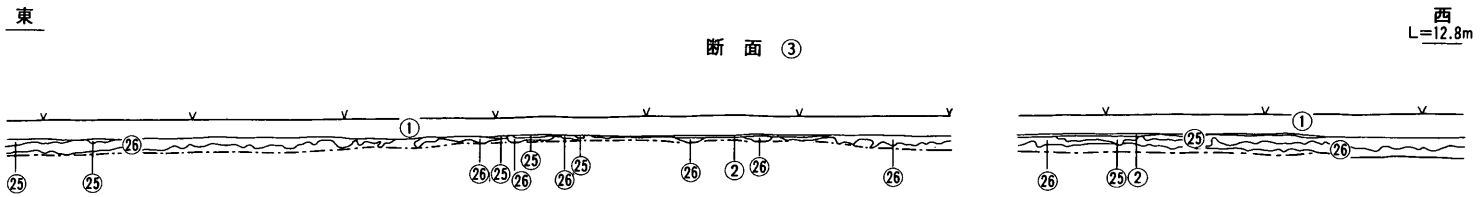
Ⅲ
④ 中砂混白灰色シルト
⑤ 白黄色細砂
⑥ 灰淡茶色細砂 Mn
⑦ 淡黄白色中砂
⑧ 灰白淡茶色シルト
⑨ 淡青灰色細砂
⑩ 淡青灰色中砂
⑪ 白灰色中砂(1～2cm大の礫を含む)
⑫ 淡茶灰色シルト
⑬ 粗砂混灰白色シルト
⑭ 淡青灰色シルト
⑮ 淡灰色粗砂～1cm以下の礫
⑯ 淡緑灰色シルトと淡青灰色シルトがラミナ状になっている
⑰ 青灰色シルト
⑱ 黄褐色砂混粘土
⑲ 白灰色シルト 砂粒多し
⑳ 淡緑灰色砂
㉑ 淡灰色シルト
㉒ 淡灰色粗砂
㉓ 白灰色砂混シルト
㉔ 黒灰色シルトと白灰色シルトがラミナ状にまじる
㉕ 白灰色粘土
㉖ 青灰色砂混粘土

0 4m

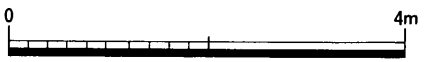
第７図　①区Ａ２・Ｂ２区画北壁断面図(断面①)(1/80)

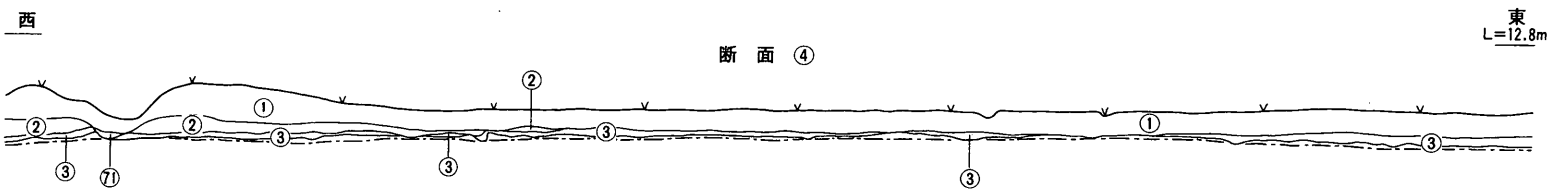


第8図 ②区C4・D4区画北壁断面図(断面②)及び③区南壁断面図(断面③)①(1/80)

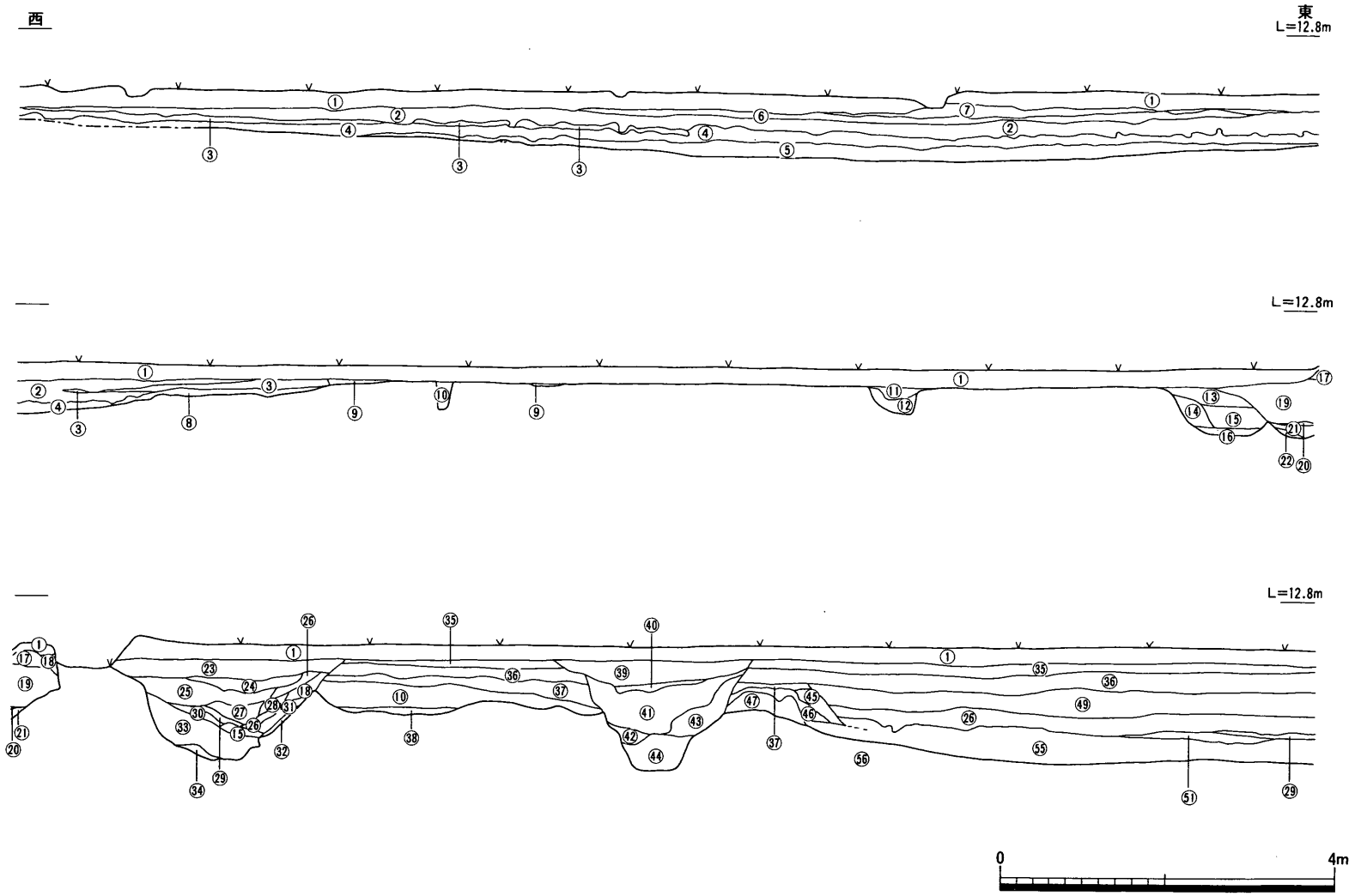


① 耕土
② 床土
③ 灰白色シルト(やや黄白色粗砂含)
④ 白灰色シルト(Mn白色砂礫含)
⑤ 淡灰色シルト(Mn白色礫5mm以下含)
⑥ 黒灰色粘土
⑦ 白灰色細砂(やや茶色)
⑧ 白灰色細砂混シルト
⑨ 灰白色細砂混灰色シルト
⑩ 灰黒色シルト
⑪ 灰色シルト 灰白色細砂
⑫ 淡灰色シルト
⑬ 淡黄灰色粘土
⑭ 淡灰黄色粗砂層
⑮ 白灰色シルト(白色粗砂含)
⑯ 白灰色シルト褐色シルトブロック黄白色粗砂ブロック混
⑰ 白灰色シルト(やや茶色)
⑱ 白灰色シルト(黄褐色シルトブロック多)
⑲ 白灰色シルト(淡灰黄色中砂多)
⑳ 白灰色シルト 灰黒色シルト 淡灰黄色中砂混合層
㉑ 黒灰色シルト
㉒ 茶灰色シルト
㉓ 灰色シルト(灰黒色シルトブロック含)
㉔ 灰色シルトと白黄色中～粗砂の互層
㉕ 白灰色シルト Mn Feで茶褐色をやや呈す
㉖ 灰黒色シルト(水田土壌)

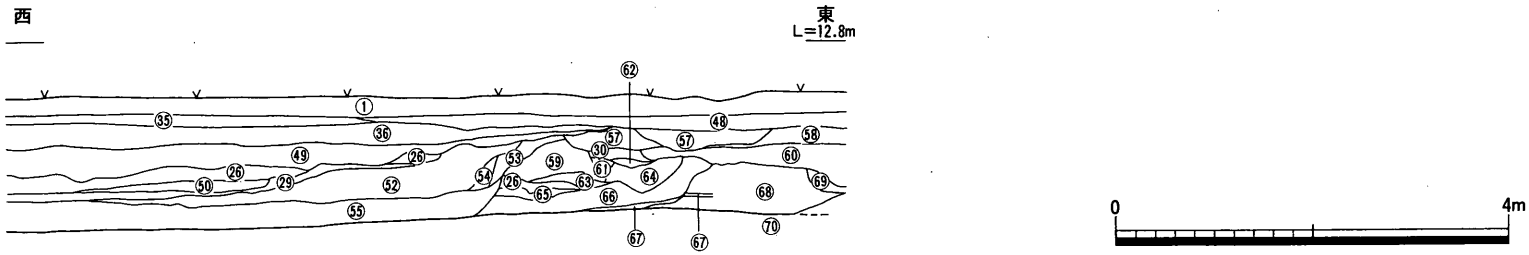




第 9 図　③区南壁断面図(断面③)②及び④⑤区北壁断面図(断面④)①(1/80)

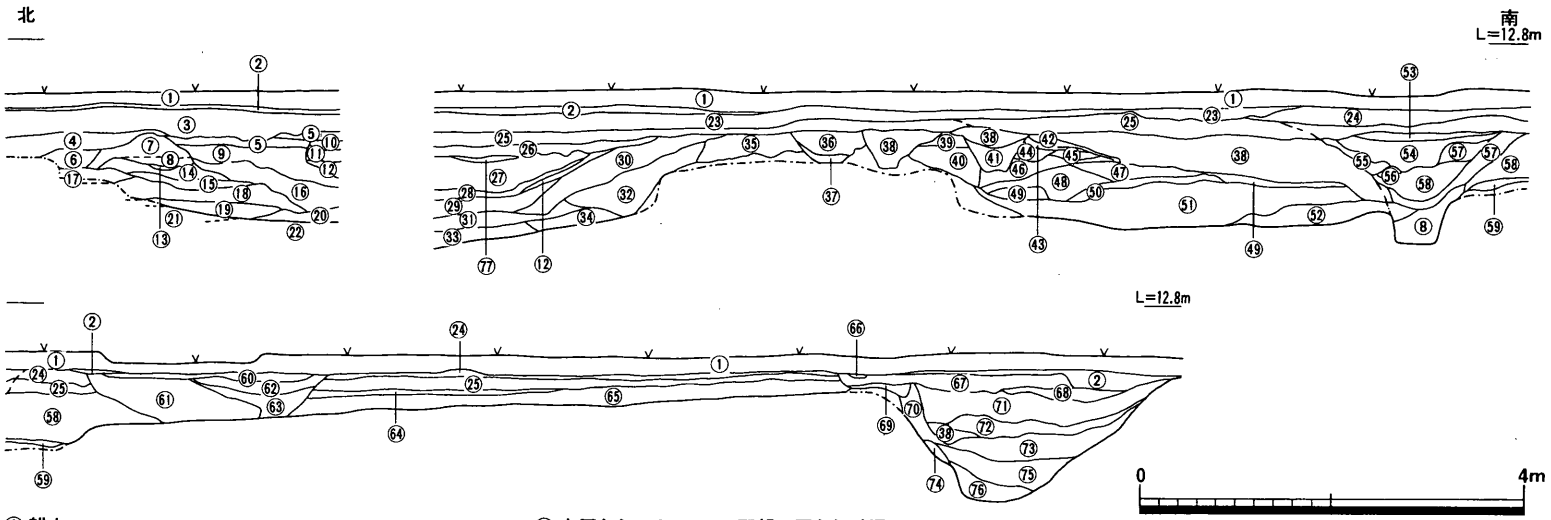


第10図　④⑤区北壁断面図(断面④)②(1/80)



① 耕土
② 白灰色シルトMn Fe 多
③ 灰茶色シルト(白色砂礫含5mm以下)水田土壌
④ 灰黒色粘土
⑤ 白灰色粘土(白色砂礫含5mm以下)
⑥ 灰白色シルトMn小粒Fe黄色に見える
⑦ ⑥よりさらに白い
⑧ 淡灰色細～中砂層
⑨ 褐茶色シルト
⑩ 灰白色シルト
⑪ 茶褐色シルト
⑫ 灰茶色シルト
⑬ 茶黒色シルト(白色砂礫5mm以下含)
⑭ 黄灰色中砂
⑮ 暗灰色シルト
⑯ 淡黄灰色砂礫(5mm以下)
⑰ 灰白色シルト(5mm以下の砂礫含)
⑱ 淡灰色シルト
⑲ 白灰色シルトMn白色砂礫含
⑳ 灰白色細～中砂
㉑ 青灰色シルト　白黄色中砂混
㉒ 黄白色細～中砂
㉓ 灰白色シルトMn白色砂礫(5mm以下含)
㉔ 茶褐色シルト　黄褐色シルトブロック含
㉕ 白灰色シルト　Mn小粒多
㉖ 白灰色シルト
㉗ 白灰色シルト　灰黒色シルトブロック混
㉘ 白灰色シルト　黄褐色シルトブロック
㉙ 灰黒色シルト
㉚ 灰色シルト
㉛ 灰色シルト　灰黒色シルト混合
㉜ 黒灰色シルト　黄白色シルト～細砂混合層
㉝ 灰黒色シルト　灰白色細砂互層　白黄色シルトブロック含
㉞ 白黄色細砂
㉟ 淡青灰色シルト　Mn白色砂礫(5mm以下)多
㊱ 灰色シルトMn多
㊲ 茶黒色シルト
㊳ 灰白色粗砂
㊴ 灰白色シルトMn白色砂礫含(5mm以下)
㊵ 黄白色粗砂
㊶ 上部、白灰色シルト、下部、灰色シルト
㊷ 黄褐色　黄白色粗砂
㊸ 白灰色シルト　白色砂礫含(5mm以下)
㊹ 白灰色シルトと黄褐色粗砂の互層
㊺ 白灰色シルト　Mn小粒
㊻ 灰白色　黄褐色細～中砂
㊼ 黒灰色　灰色粘土混合
㊽ 灰白色シルト(緑がかる)　白色砂礫含(5mm以下)
㊾ 白灰色シルトMn(黄褐色に見える)
㊿ 淡灰色中砂
51 淡灰色中砂～細砂　灰色シルト混
52 白灰色中砂　やや茶色
53 暗灰色シルト　白灰色シルト混合
54 白灰色シルト　白色細砂含
55 暗灰色シルト　白黄色淡灰色細砂互層になっている
56 灰黄色シルト～黄色シルト
57 白灰色シルト　灰白色細～粗砂含
58 灰色シルトMn Fe　茶褐色に見える
59 白灰色粘土Mn小粒白色砂礫(5mm以下)若干含む
60 灰白色砂礫(5mm以下)
61 灰色粘土
62 灰白色中砂
63 白灰色粘土　黄褐色粘土
64 黒灰色粘土
65 淡灰色～白黄色中～粗砂
66 灰白色粘土～灰色シルト
67 灰白色粗砂
68 黄褐色粘土　灰白色粘土
69 灰色シルト　淡灰色細砂含
70 よくしまった暗灰色シルト
71 攪乱

第11図　④⑤区北壁断面図(断面④)③(1/80)



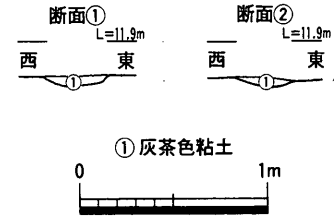
① 耕土
② 床土
③ 灰白色シルト　上部Mnやや青く見える
④ 灰白色シルト　上よりきめがやや粗い
⑤ 白灰色シルト　Mn多
⑥ 灰色　白黄色　中～粗砂
⑦ 茶褐色シルト　白色粗砂含
⑧ 灰色シルト
⑨ 白灰色シルト　白色細砂含
⑩ 褐白灰色シルト
⑪ 白灰色シルト　やや砂っぽい白色砂礫含
⑫ 黒灰色粘土
⑬ 灰白色粗砂
⑭ 灰色細～中砂
⑮ 灰黒色粘土　白色粗砂含
⑯ 灰色　黄褐色細～中砂層
⑰ 白灰色粘土
⑱ 白灰色粘土 Fe 多
⑲ 灰色粘土
⑳ 淡灰色シルト　灰白色細～中砂
㉑ 黄褐色粗砂
㉒ 灰黒色シルト
㉓ 灰色シルト　白色砂礫 Mn 大（5mm以下）含
㉔ 白灰色シルト　上部Mn大粒　白色砂礫含（5mm以下）
㉕ 灰白色シルト（やや緑がかる）5mm以下の砂礫含
㉖ 白灰色シルト　Mn　Feのため黄褐色に見える
㉗ 白灰色シルト　Mn　下部は灰色細砂混
㉘ 黄褐色シルト　白灰色シルト混
㉙ 灰黒色シルト　灰白色細砂をわずかに含
㉚ 白灰色シルト　Fe斑点状
㉛ 淡灰色シルト　やや青く見える
㉜ 白灰色細～中砂
㉝ 灰色シルト　やや青く見える
㉞ 灰色細砂　やや青
㉟ 灰茶色シルト　白色粗砂含
㊱ 黒色シルト　白色粗砂含
㊲ 灰色、褐色シルト
㊳ 白灰色シルト
㊴ 暗灰色粘土 Mn
㊵ 灰色シルト　上部Mn
㊶ 灰色粘土　5mm以下の砂礫を多く含
㊷ 灰色　白灰色粘土　白色砂礫含（5mm以下）Mn Fe 多
㊸ 灰白色細～中砂
㊹ 灰色細砂　小粒のMn
㊺ 白灰色シルト　白色細砂含
㊻ 灰黒色粘土
㊼ 灰色シルト　Mn Fe 多　白色砂礫（5mm以下含）
㊽ 白灰色シルト　白色細砂まじり　小粒のMn
㊾ 灰白色細～粗砂
㊿ ㊽とよく似ている　Mnやや少ない
(51) 砂・シルトがラミナ状に堆積
(52) 灰色シルトと灰白色・黄褐色粗砂のラミナ状堆積
(53) 白灰色シルト　Mn白色砂礫（5mm以下）
(54) 白灰色シルト　小粒のMn多し
(55) 灰白色砂礫（5mm以下）
(56) 淡灰色シルト　5mm以下の白色砂礫
(57) 淡灰色シルト　Mn小粒多し
(58) 淡灰色シルト　白色細砂　若干含
(59) 淡灰色シルト　白色細砂多し
(60) 灰白色シルト　やや青く見える
(61) 灰白黄色細～粗砂
(62) 淡黄灰色粗砂
(63) 淡青灰色シルト
(64) 黄褐色を帯びた白灰色シルト
(65) 白灰色シルト　Mn 小粒多し
(66) 灰白色シルト
(67) 灰白色シルト　Mn白色砂礫含（5mm以下）
(68) 白色粗～細砂
(69) 灰色シルト　茶褐色シルト　混　白色砂礫含
(70) 白灰色シルト　1cm以下　砂礫含
(71) 淡灰色シルト　白色粗～細砂含
(72) 白黄色　淡灰色細～粗砂
(73) 灰色シルト　純粋層
(74) 灰白色シルト　純粋層
(75) 白黄色　淡灰色　青灰色砂層のラミナ状堆積
(76) 青灰色シルト
(77) 茶色シルト

第12図　⑤区東壁断面図（断面⑤）（1/80）

第3節　遺構と遺物

1　弥生時代中期

弥生時代中期の遺構は，溝跡のみである。



第13図　ＳＤ15断面図(1/40)

SD15（第13図）

②区中央部Ｃ４・Ｃ５区画に位置する。埋土は灰茶色粘質土である。埋土から遺物は出土していない。後世の削平により残存状況は悪く，調査区中央から南では検出できなかった。ＳＤ16と同じ方向の溝であることから，この時期としておく。

SD16（第14図）

②区東半部Ｄ４・Ｄ５区画に位置する。埋土は下層に灰色砂，上層には茶灰色粘土が堆積している。下層から弥生時代中期の土器(２)が出土した。２は肩部に１単位８条の櫛描文を４単位以上持つと考えられるが，磨滅が著しくそれ以上のことは不明である。②区東半に広がる包含層はこの溝跡の埋没に伴い堆積したものであると考えられる。この包含層の内，黒褐色粘土は③区で検出された水田土壌層と同一層である。

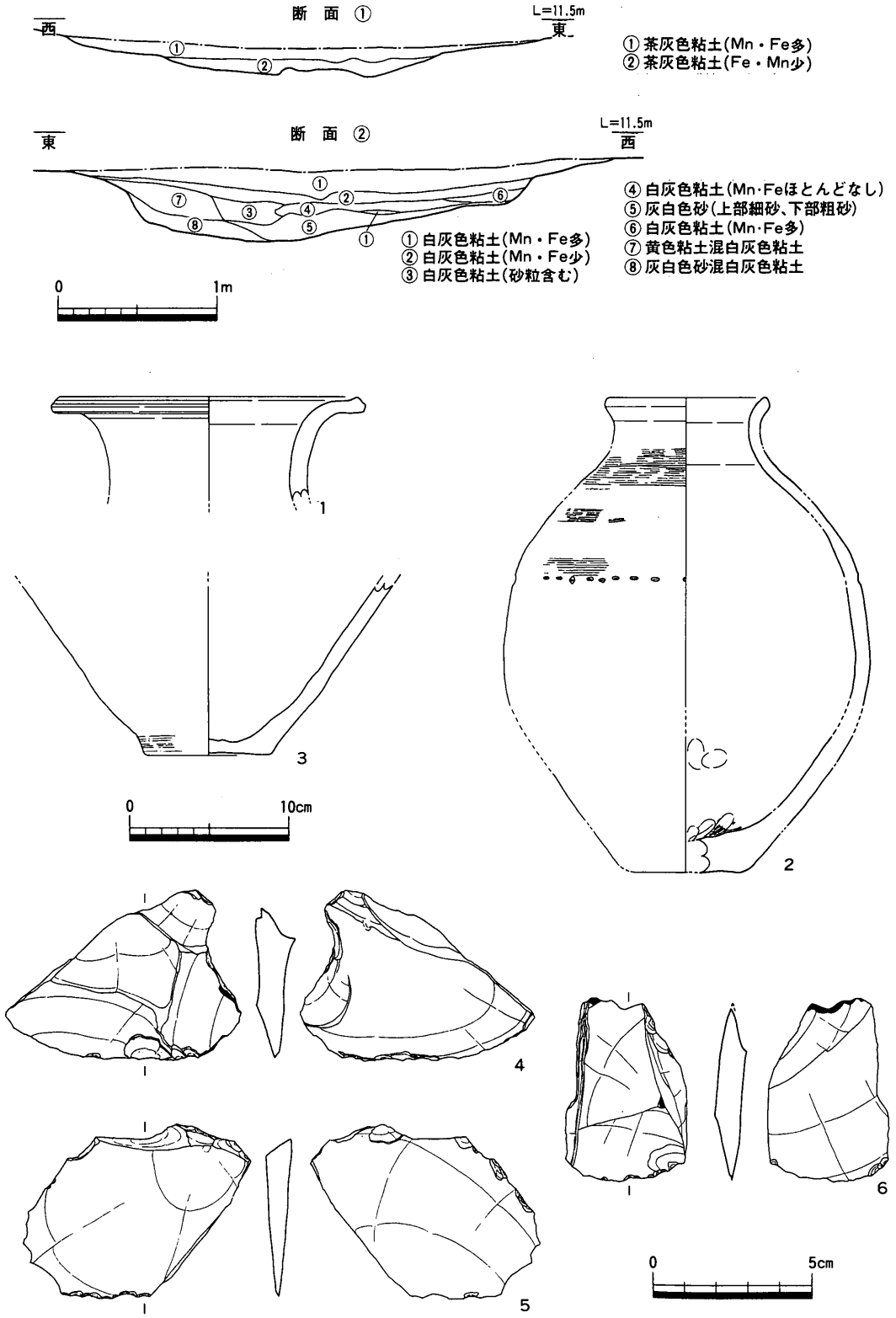
2　古墳時代～平安時代

SD21（第15・16・20図）

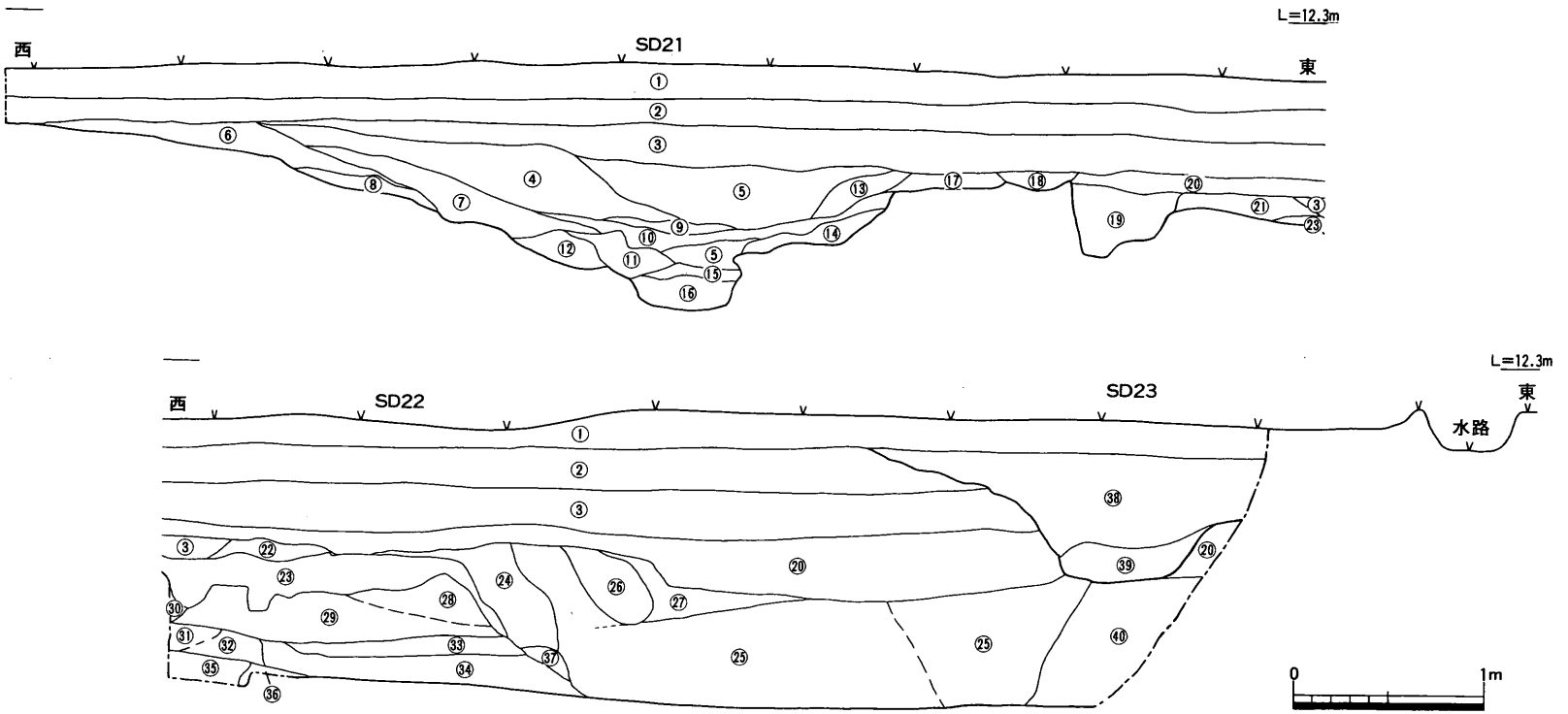
Ｅ７・Ｆ６・Ｇ６区画に位置する。埋土からの出土遺物は少量で，いずれも小片であり，遺物からの時期決定はできない。ＳＤ29よりは古い。埋土は下部では砂層とシルト層の交互堆積がみられ，上部は基盤層のブロック土を含む埋土で，人意的な埋め戻しによるものと考えられる。この溝の③区部分かそのすぐ東側のＳＤ22のいずれかから須恵器無蓋高坏の脚部(７)が出土している。面取りのある透かし穴を持つものである。

SD22（第15・16図）

Ｅ７・Ｆ７区画に位置する。ＳＤ29あるいはＳＤ32の続きの溝と考えられる。埋没後にＳＤ23が掘削されている。

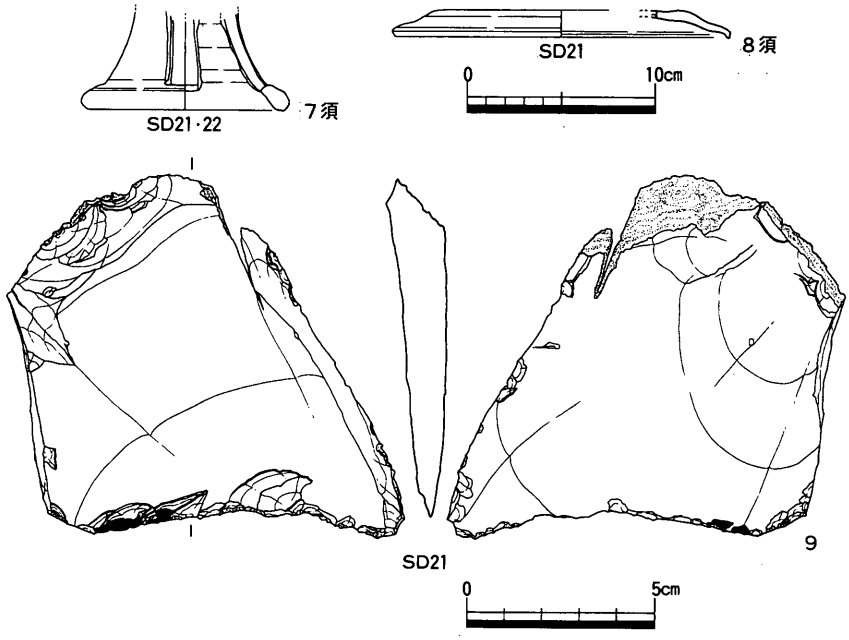


第14図　ＳＤ16断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)



① 耕作土
② 白灰色シルト(Mn、白色砂礫含)
③ 淡灰色シルト(Mn、5mm以下の白色礫含)
④ 灰白・黄灰色中砂(灰黒及び白灰色粘土ブロック含)
⑤ 灰黒色粘土
⑥ 茶黒色粘土
⑦ 白灰色中砂(白灰色粘土ブロック含)
⑧ 灰白色細砂
⑨ 灰白色細～中砂
⑩ 白灰色シルト(灰白色細砂が縞状に入る)
⑪ 淡灰色粗砂(黒灰色粘土ブロック含)
⑫ 淡青灰色砂(灰黄色細砂混)
⑬ 白灰色細～中砂
⑭ 白灰色シルト(灰色粗砂混)
⑮ 黄褐色粗砂
⑯ 灰白色粗砂・黄褐色粗砂・白灰色シルトの互層
⑰ 灰黒色粘土
⑱ 淡灰黄色中砂
⑲ 淡灰黄色中砂(白黄・灰色粘土ブロック含)
⑳ 白灰色細～中砂
㉑ 黒灰色シルト
㉒ 灰黒色シルト(白色細・中砂含)
㉓ 灰色細砂(白黄色細～中砂混)
㉔ 灰黒色粘土
㉕ 灰色シルト(5mm以下の灰白色砂礫複雑に堆積)
㉖ 白灰色細・中砂
㉗ 灰色シルト、白灰色細～中砂
㉘ 灰白色粗砂
㉙ 灰黒色粘土(黄白色細～中砂が縞状に入る)
㉚ 黄白色粘土
㉛ 灰色シルト
㉜ 白灰・灰黒色シルト～細砂
㉝ 黄褐色粗砂
㉞ 灰黒色シルト
㉟ 灰白色粗砂
㊱ 青灰色粘土
㊲ 黒色シルト
㊳ 白灰色シルト、白黄色細砂
㊴ 白灰色シルト(黄褐色粗砂ブロック含)
㊵ 灰色シルトと灰白色中～粗砂の互層

第15図　ＳＤ21・22・23断面図(1/40)



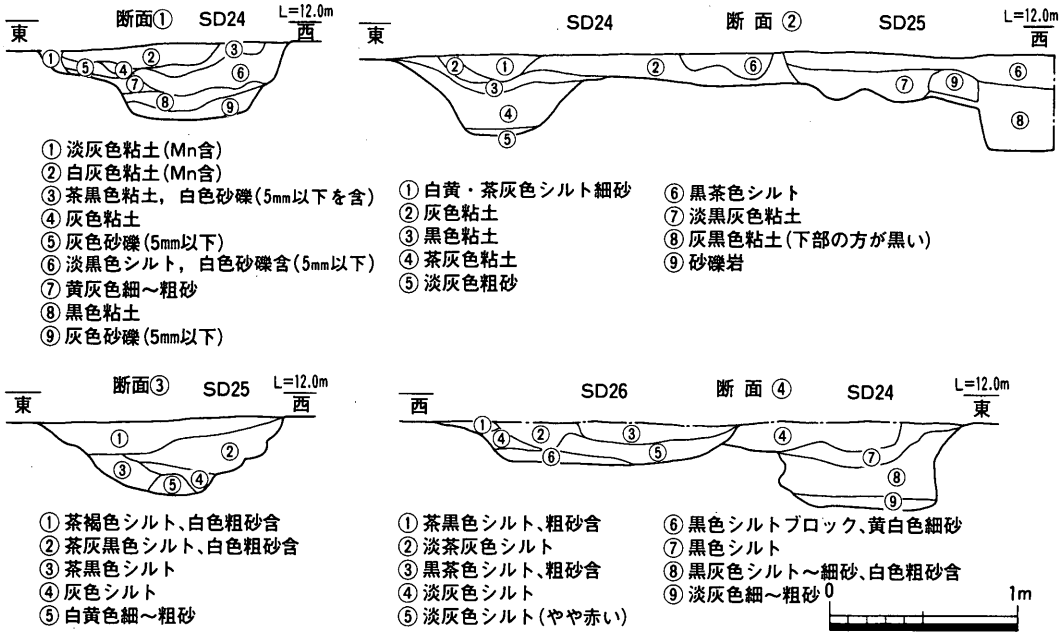
第16図　ＳＤ21・22出土土器(1/4)及び石器(1/2)

SD24，SD25，SD26（第17図）

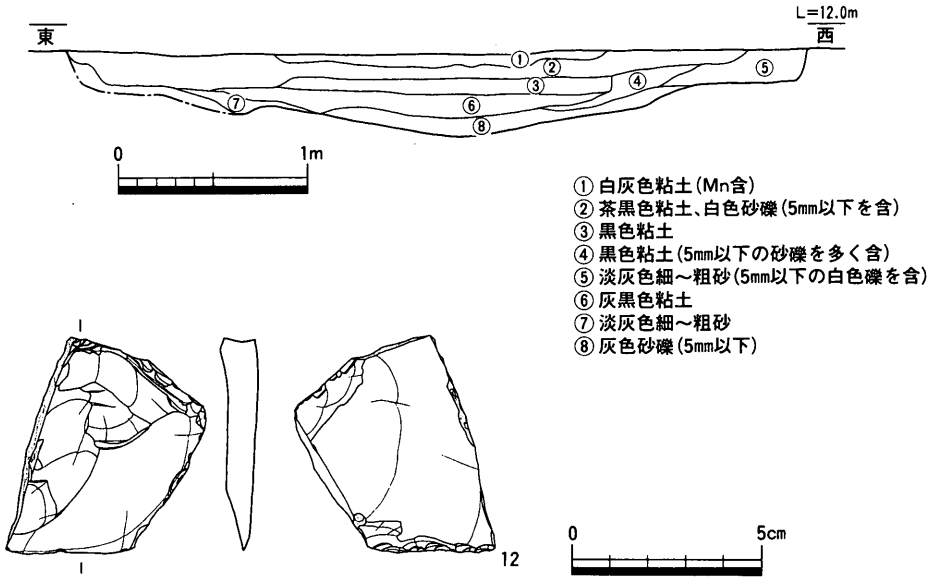
Ｆ５・Ｆ６区画に位置する。ＳＤ24の埋土は大きく２層に分かれる。上層の白灰色粘質土と下層の黒色粘質土である。ＳＤ25とＳＤ26の埋土は黒色粘質土のみである。遺物はいずれも小片であり，遺構の時期決定はできない。この溝跡が埋没した後に中世の柱穴が掘削されていることから，中世以前の掘削が考えられる。上層の白灰色粘質土は中世頃の溝跡の最終埋没土と考えられる。ＳＤ25とＳＤ26はＳＤ24から分岐する溝跡で，ＳＤ24より底面の高さが高い。また底面は凹凸が激しい。

SD27（第18図）

Ｆ５・Ｆ６区画に位置する。埋土は大きく３層に分かれる。上層の白灰色粘質土，中層の黒色粘質土，及び下層の灰色砂礫層である。遺物は弥生土器１片とサヌカイト製スクレイパーが出土しているのみで，遺物からは時期決定ができない。中世頃に埋没したＳＤ27，あるいはＳＤ21，ＳＤ29よりも古い。



第17図　ＳＤ24・25・26断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)



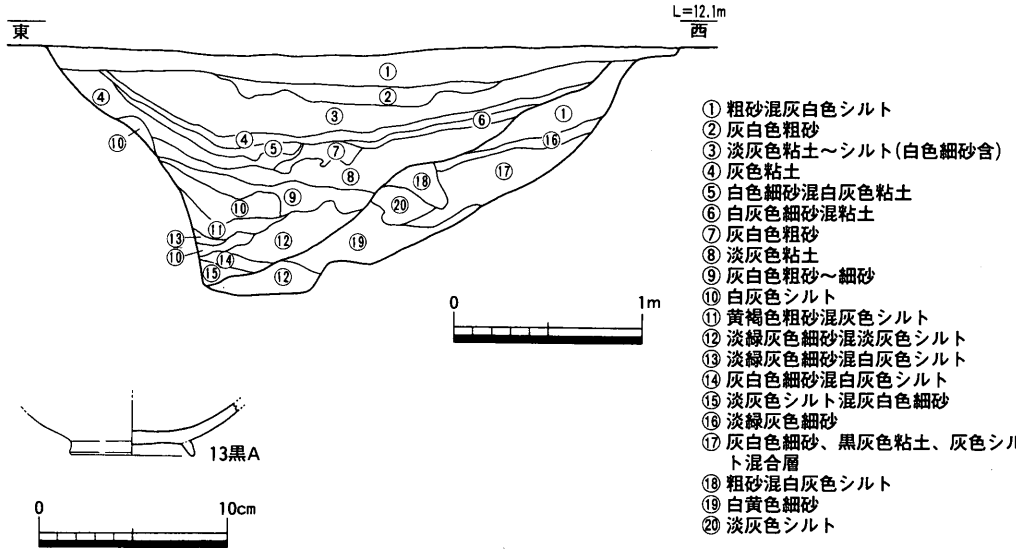
第18図　ＳＤ27断面図(1/40)及び出土石器(1/2)

SD29（第19・20図）

Ｆ６・Ｇ６・Ｇ５区画に位置する。これとＳＤ２１は規模及び埋土がほぼ同じことから新旧関係はあるもののほぼ同じ時期と考える。いずれも埋土からの出土遺物は少量で確実な時期は不明である。埋土は砂層とシルト層の交互堆積であり，一度の再掘削が観察できる。

SD30，SD31，SD32，SD34（第10・11・12・21図）

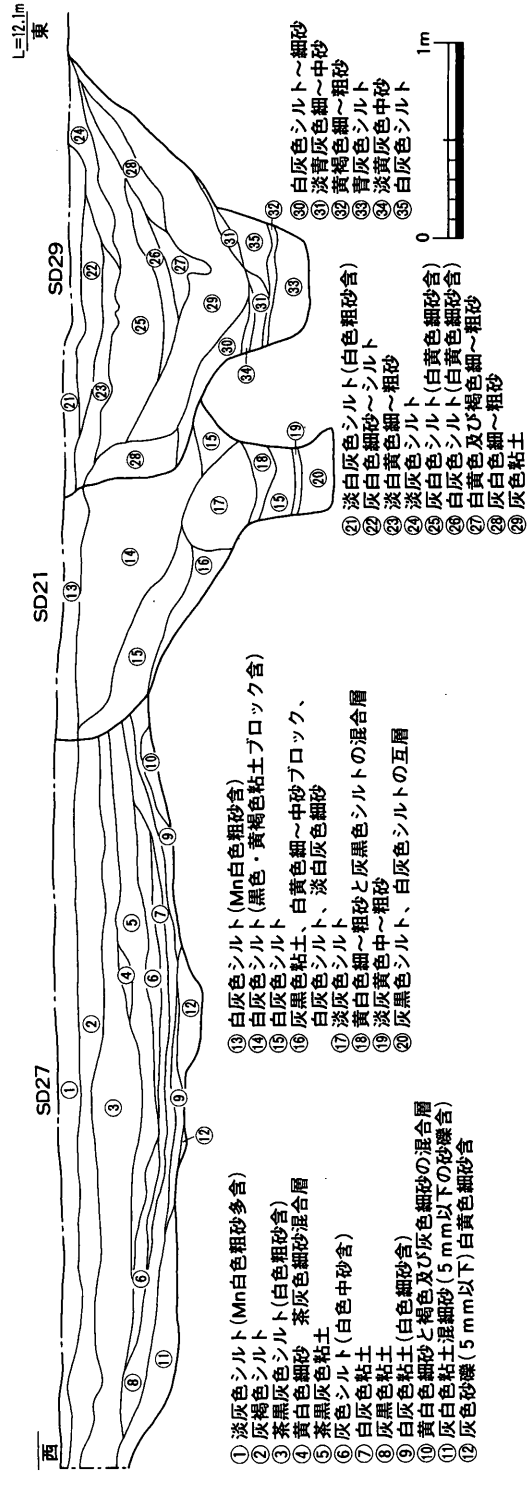
⑤区は時間がほとんど無いなかで調査を行わなければならなかったため，遺構の平面検出はほとんどできないままに，掘削を行わざるをえなかった。各溝跡の新旧関係は事後に断面図で復元したものである。遺物はほとんど出土していないため，時期は確定できない。ＳＤ32は③区の東端に続くものと考えられる。ＳＤ32は③区ではＳＤ23より古いことが明らかであるから，⑤区では中世以前に大溝の掘削が何度も繰り返されたものと考えることができる。



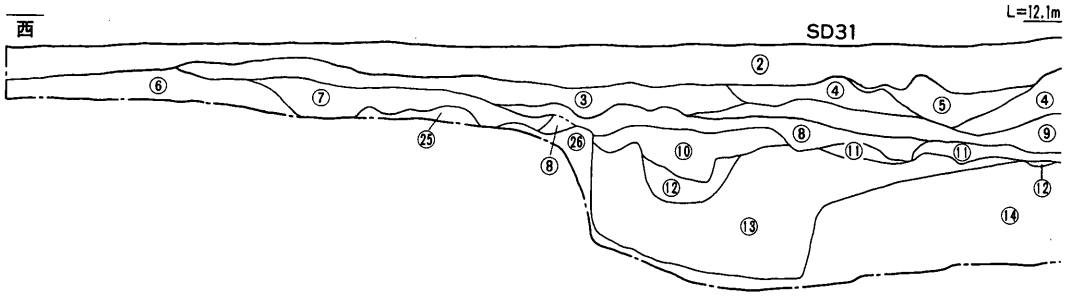
第19図　ＳＤ29断面図(1/40)及び出土土器(1/4)

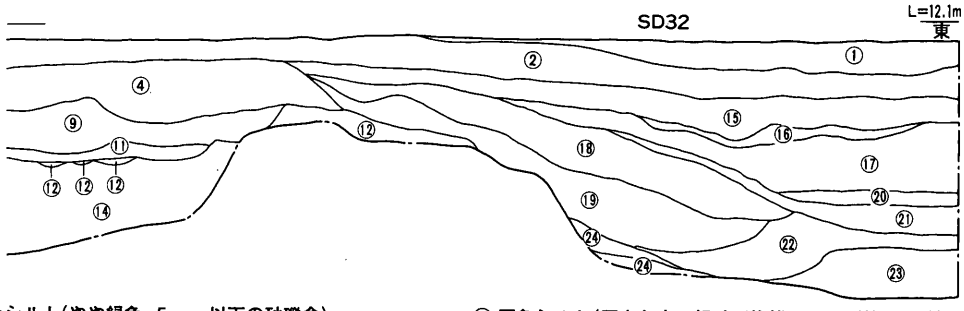
水田畦畔跡（第22図）

③区Ｅ６区画包含層上層の灰色シルト層を機械掘削時に，下層の灰黒色シルト層が部分的に帯状に検出されたため，この帯状の灰黒色シルト層上面を注意深く検出したところ，基盤層の白黄色粘質土の傾斜に沿うような形で，畦畔状の高まりが検出された。この灰黒色シルト層中から須恵器の瑳(18)が出土したこと，この層と同一層が鎌倉時代頃の遺物を出土するＳＤ17より古いことから，古墳時代の水田畦畔跡と考える。

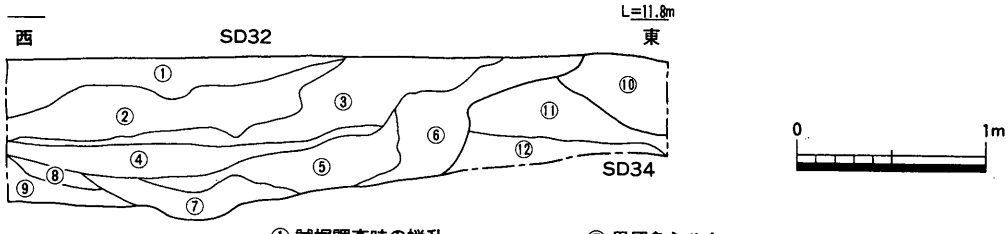


第20図　ＳＤ21・27・29断面図(1/40)

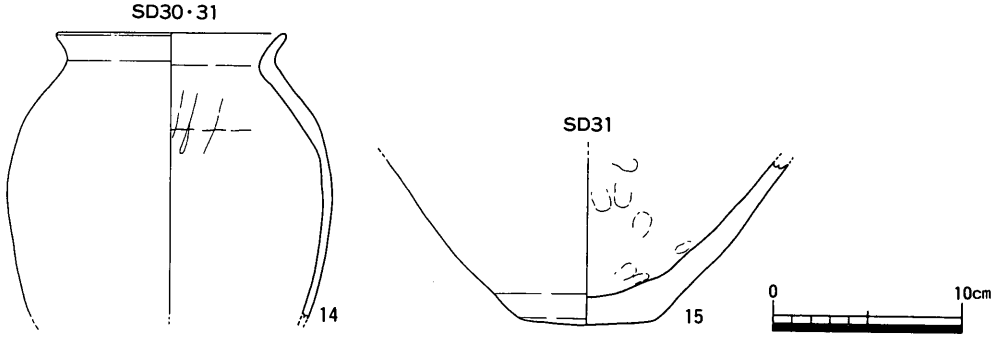




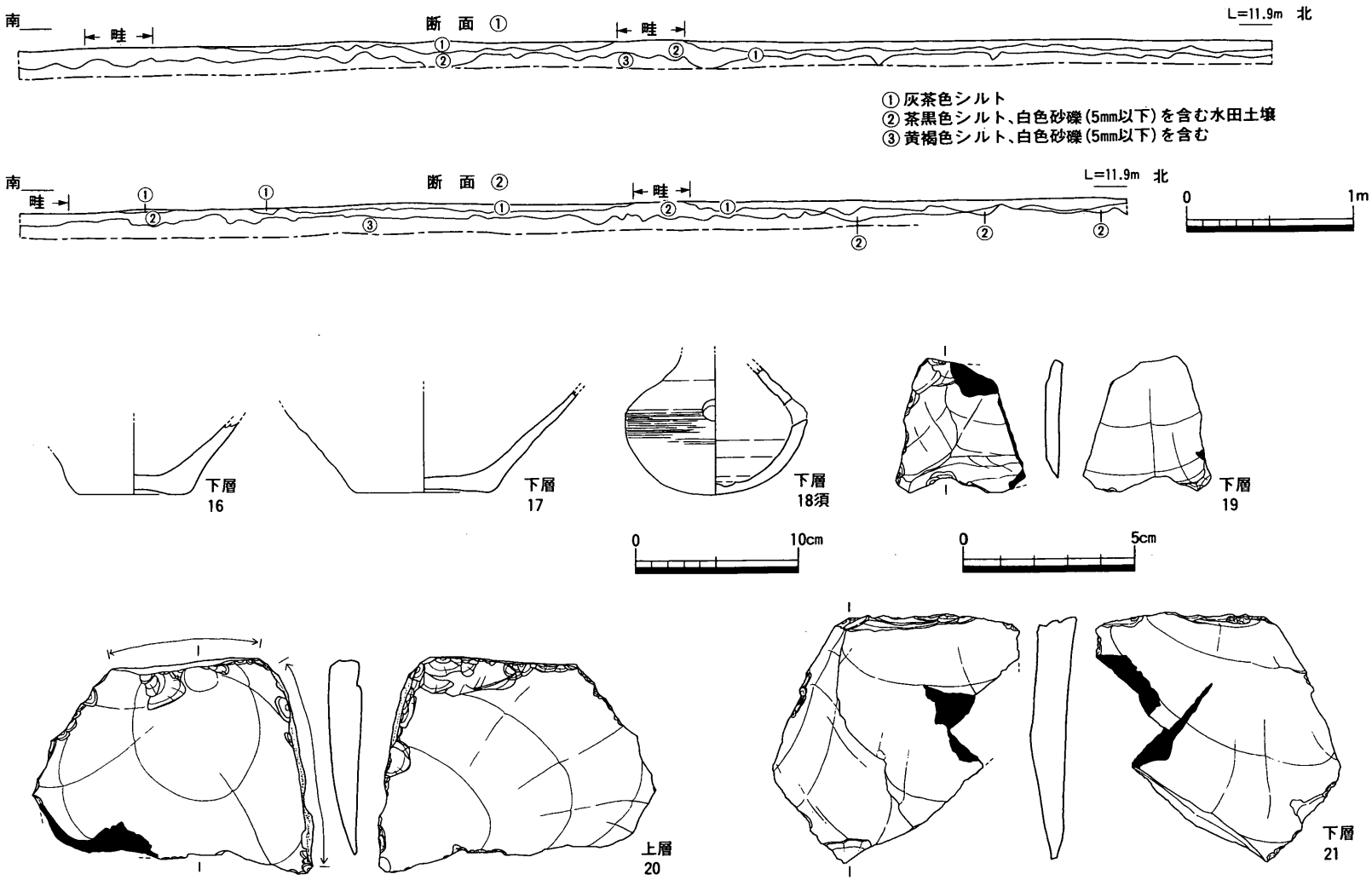
① 灰白色シルト(やや緑色、5mm以下の砂礫含)
② 灰色シルト(Mn大、5mm以下の白色砂礫含)
③ 白灰色シルト(Mn少、Fe含)
④ 黄褐色中～粗砂
⑤ 灰白色中～粗砂（灰色シルトブロック含)
⑥ 灰黄色細砂～シルト
⑦ 灰色シルト(Mn含)
⑧ 灰色砂礫(5mm以下)
⑨ 黄褐色中～粗砂・灰白色シルトの混合層(東方部シルト少)
⑩ 白黄色粗砂・灰色粗砂の混合層
⑪ 黄褐色中～粗砂(灰白色シルトブロック含)
⑫ 灰黒色粘土
⑬ 灰黒色粘土(白灰色粗砂がレンズ状に堆積)
⑭ 灰色シルト(灰白色中～粗砂が複雑にレンズ状に堆積)
⑮ 白灰色シルト(Mn、Fe含)
⑯ 灰色シルト(5mm以下の砂礫含)
⑰ 白灰色シルト(Mn少含)
⑱ 白灰色シルト
⑲ 白灰色中～粗砂
⑳ 黄褐色シルト・白灰色シルトの混合層
㉑ 灰黒色シルト(灰白色細砂少含)
㉒ 淡灰色シルト(やや青)
㉓ 灰色シルト(やや青)
㉔ 灰色細砂・白黄色細砂互層
㉕ 白黄色細砂
㉖ 灰白色シルト



① 試掘調査時の撹乱
② 灰色シルト(Mn小粒含)
③ 灰色粘土
④ 灰黒色シルト
⑤ 白灰色シルト(白色細砂含)
⑥ 灰白色細砂(白灰色シルト混)
⑦ 黒灰色シルト
⑧ 灰色シルト(淡灰色細砂含)
⑨ 淡灰色細～中砂
⑩ 灰黒色粘土
⑪ 茶褐色粘土
⑫ 灰色粗砂



第21図　ＳＤ31・32断面図(1/40)及び出土土器(1/4)



第22図　水田畦畔跡断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)

3　鎌倉・室町時代

掘立柱建物跡

②区掘立柱建物跡群（第23～27図）

②区西半では方形区画の溝に囲まれた屋敷跡を検出した。溝跡の新旧関係及び配置から掘立柱建物跡群は数時期にわかれるものと考えられるが，遺構の残りが悪いこともあって，時期ごとに区別するのは困難である。また柱穴の密度が高いことから，掘立柱建物跡の復元も困難である。掘立柱建物跡の時期は遺構出土遺物から，12世紀後半頃から15世紀頃までに渡るものと考えられる。調査時に確認された確実な新旧関係は，ＳＤ04がＳＤ03より新しいことだけであり，遺構の新旧関係からこの区画の掘立柱建物跡群の時期区分を考えることは困難である。したがって時期区分を考えるにあたり，以下のような前提条件を考える。

1　ＳＫ01，ＳＫ02はその位置から考えて，方形区画溝ＳＤ02・ＳＤ07・ＳＤ14に影響されている，つまり同じ時期と考える。

2　ＳＫ01，ＳＫ02を屋敷の施設と考えれば，これに位置的に規制される掘立柱建物跡がある。

3　ＳＫ01，ＳＫ02は礫で埋められていたが，その礫を除去した後に柱穴が検出できたことから，ＳＫ01，ＳＫ02掘削以前の建物が存在する。

4　ＳＤ14と重複する柱穴は埋土がＳＤ14と類似することからＳＤ14より新しいと考える。

以上のことから考えれば，以下の時期が最小限設定される。

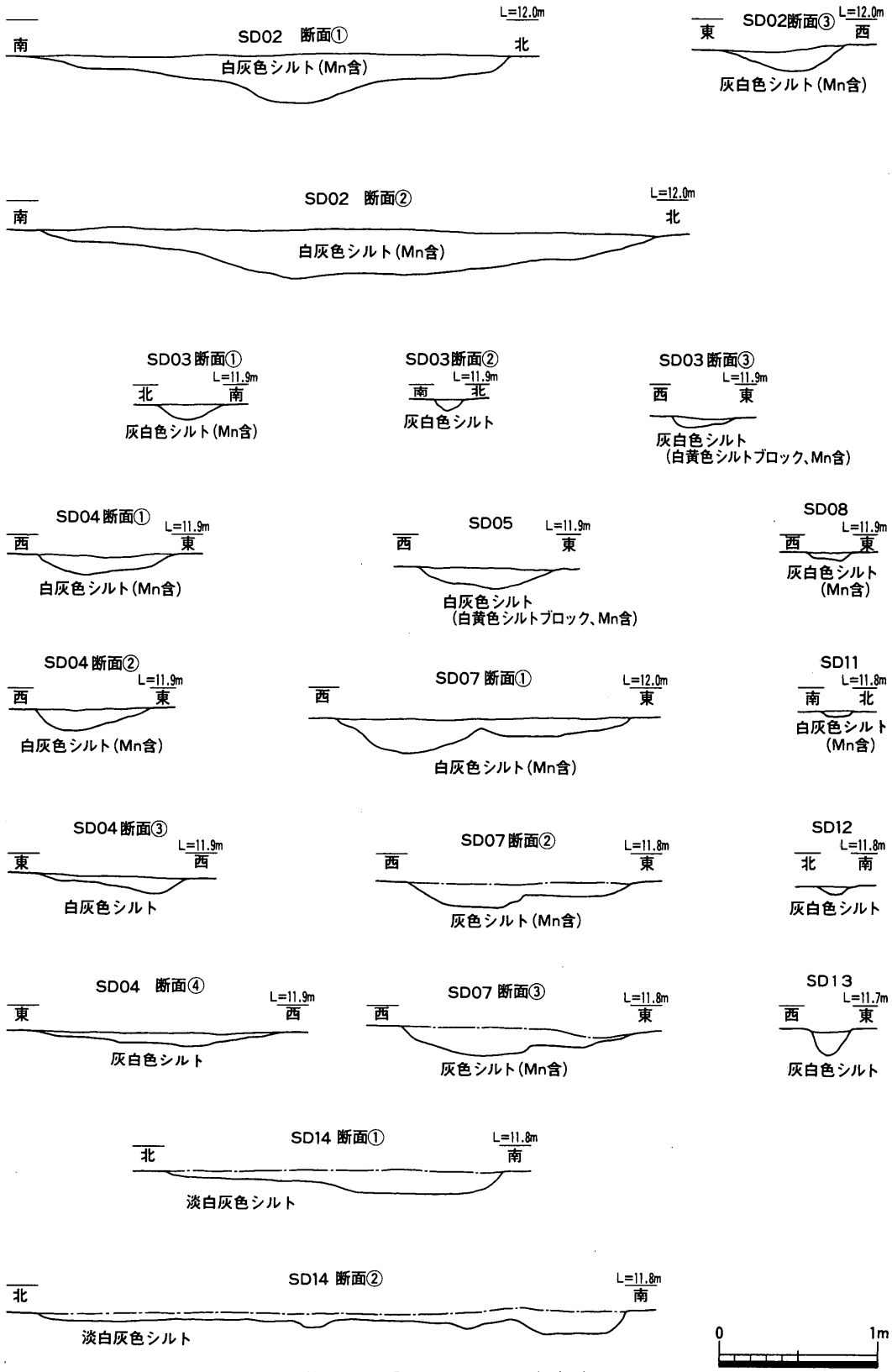
1期　ＳＫ01・ＳＫ02以前の時期

2期　ＳＫ01・ＳＫ02と方形区画溝の存在する時期　方形区画溝は2時期にわかれる

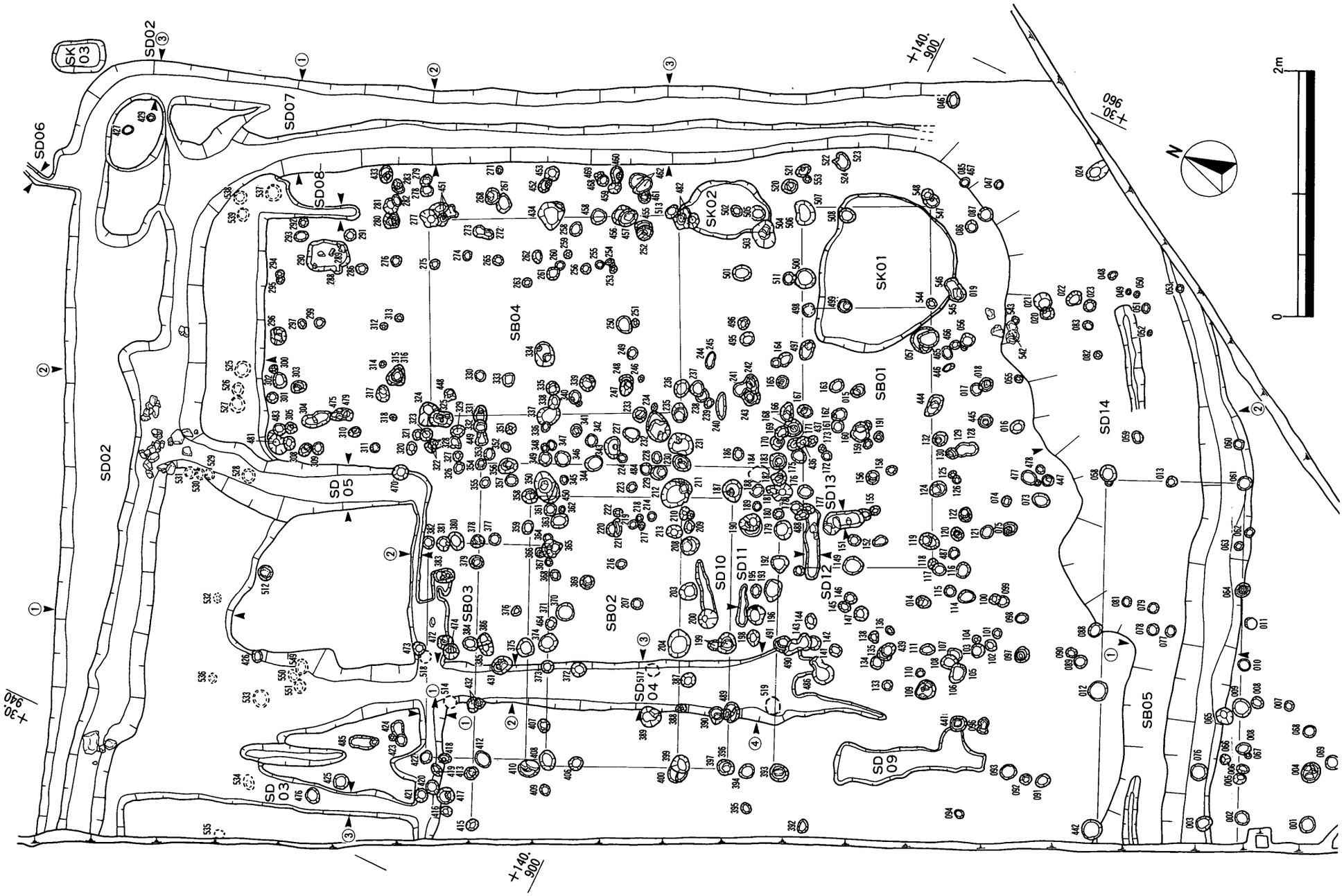
3期　方形区画溝の埋没後の時期

ＳＢ01（第28図）

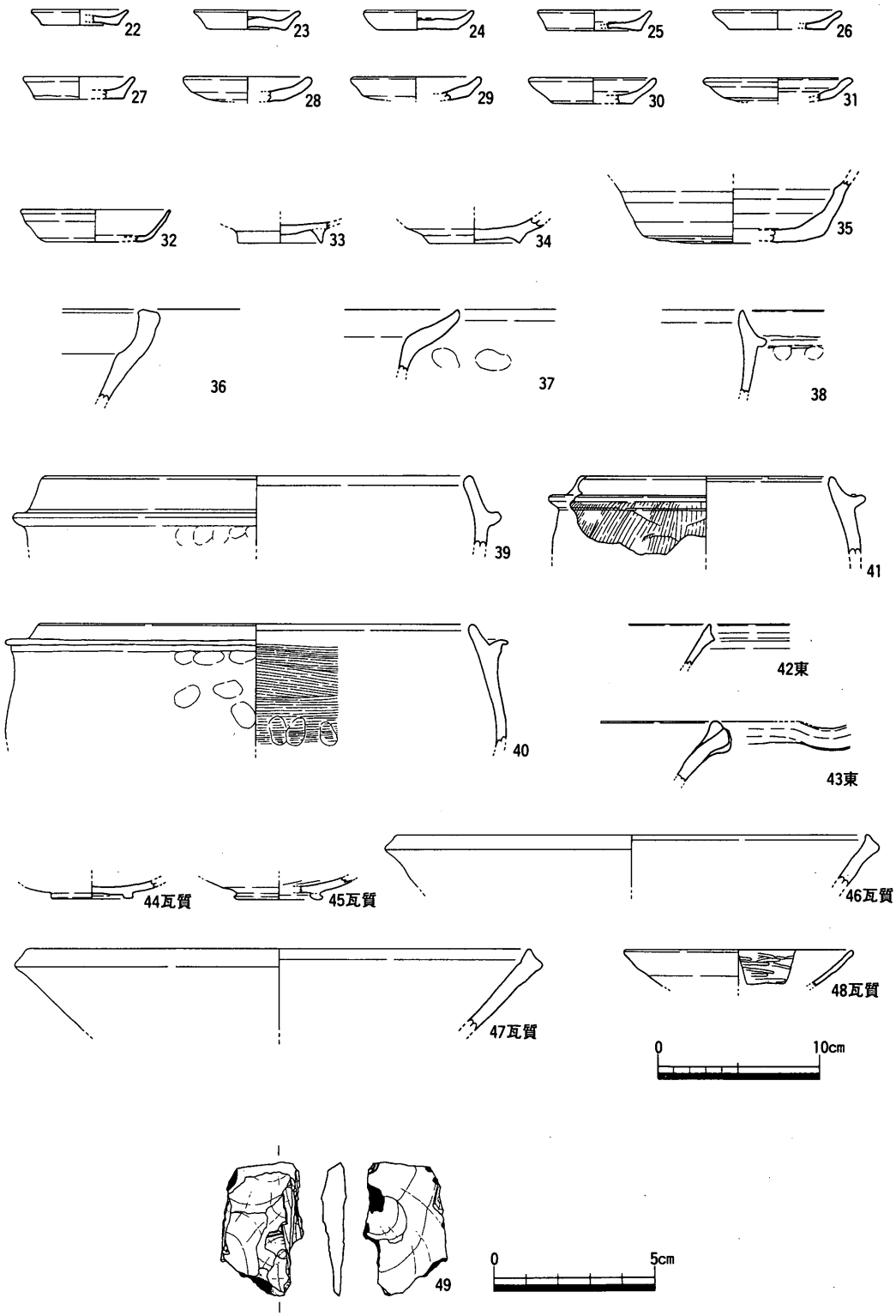
Ｃ３・Ｃ４区画に位置する。ＳＫ01より古い柱穴を含むことから１期と考える。柱穴から土師器破片が出土している。



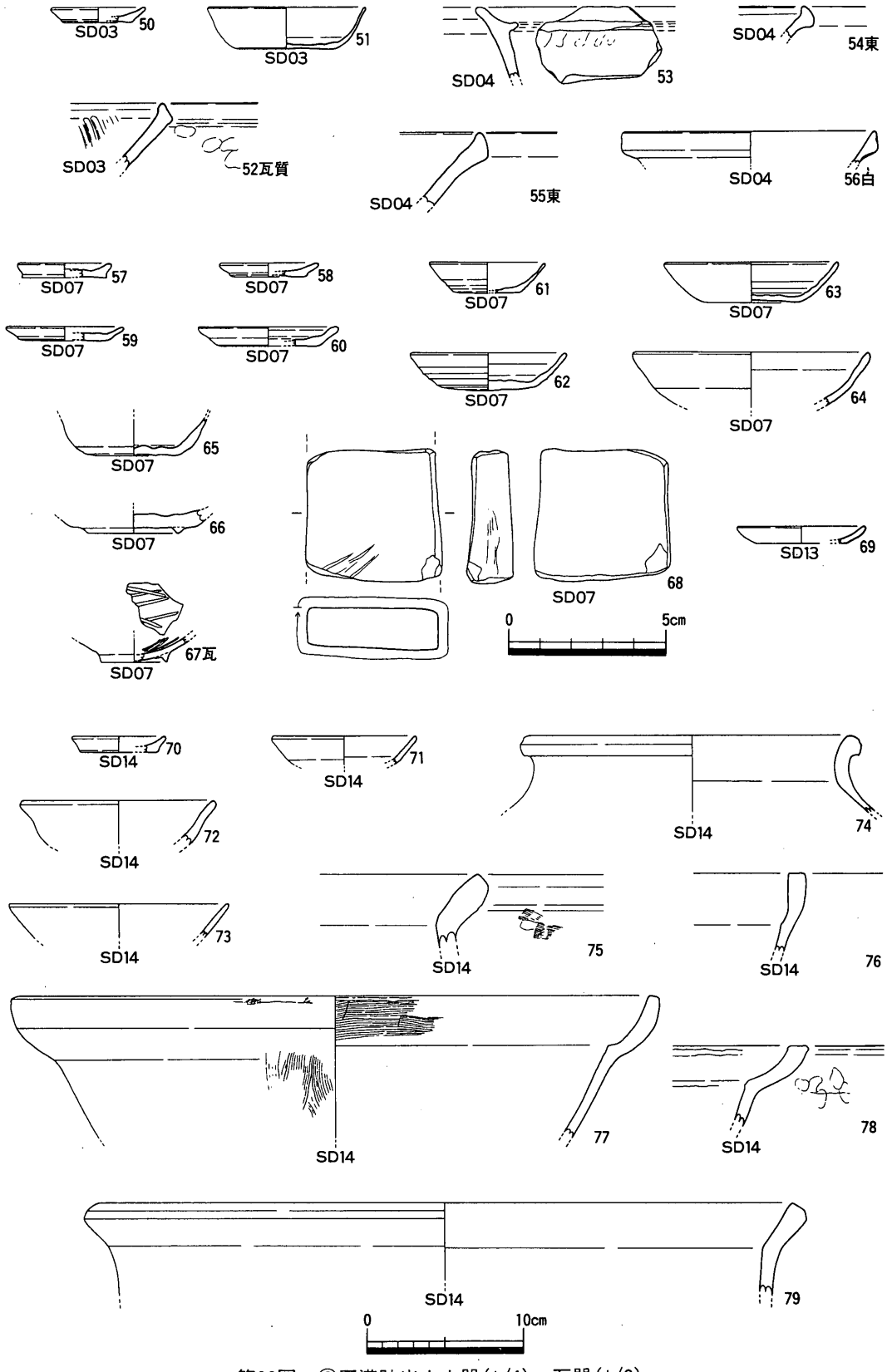
第23図　②区溝跡断面図(1/40)



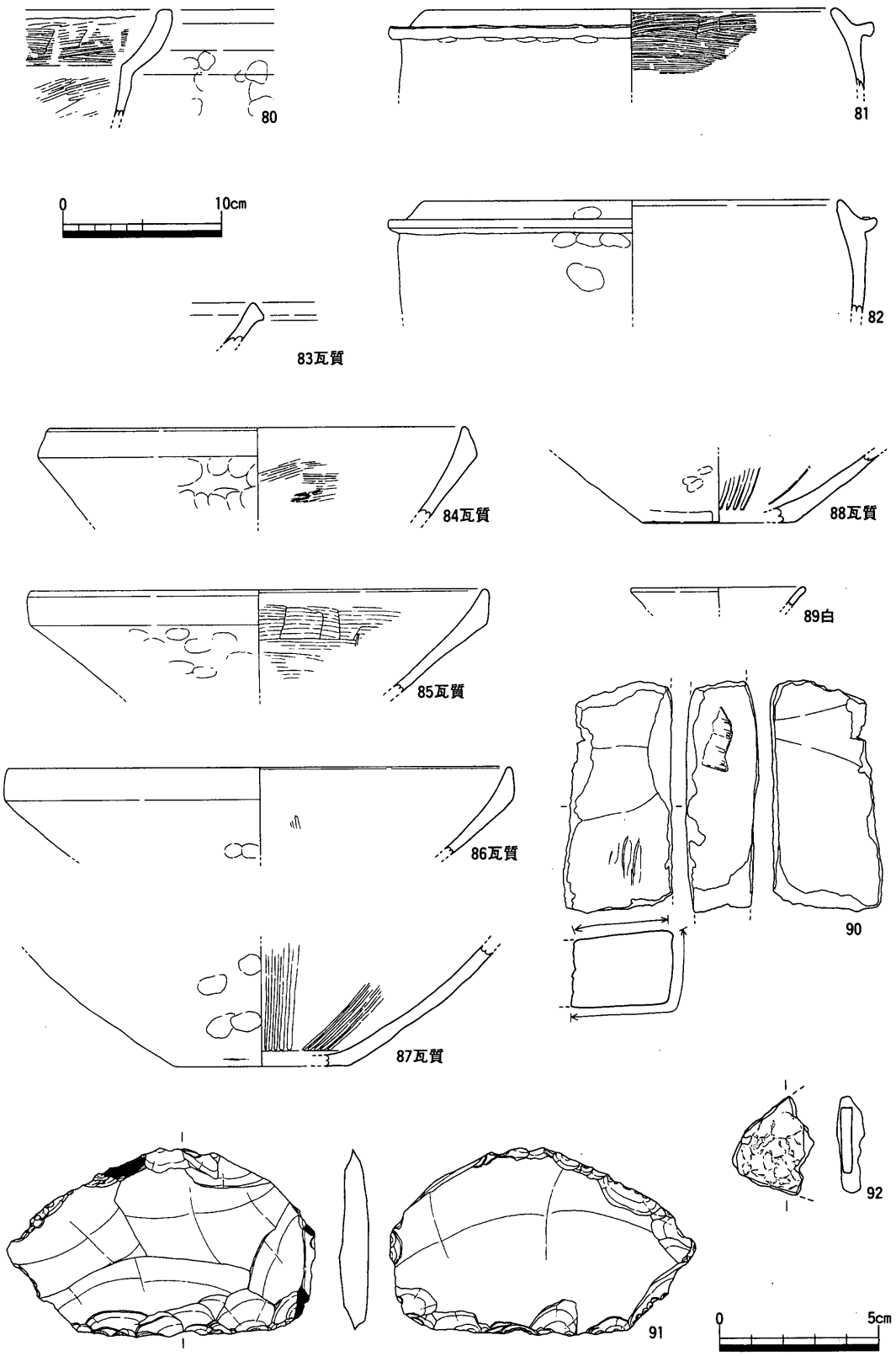
第24図　②区掘立柱建物群平面図(1/100)



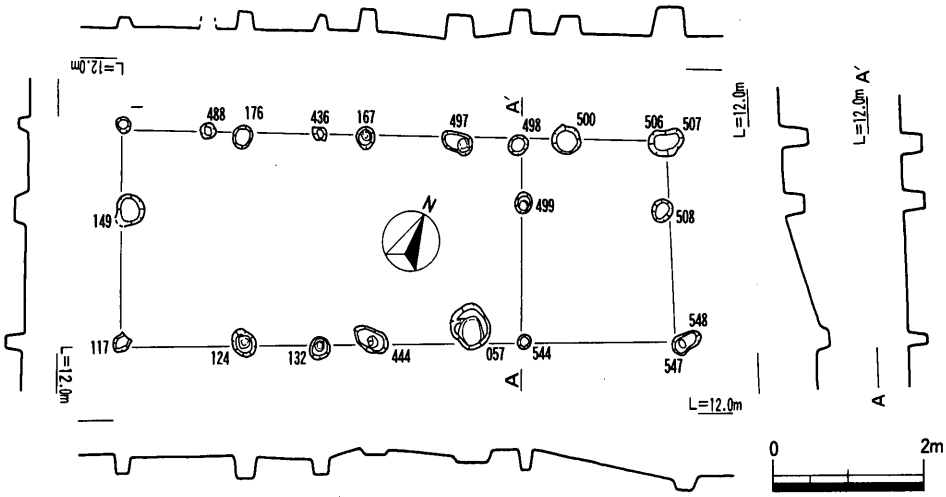
第25図　ＳＤ02出土土器(1/4)・石器(1/2)



第26図　②区溝跡出土土器(1/4)・石器(1/2)



第27図　ＳＤ14出土土器(1/4)・石器(1/2)・鉄器(1/2)



第28図　ＳＢ01平・断面図(1/100)

SB02（第29・30図）

Ｃ３・Ｃ４区画に位置する。ＳＤ04との新旧関係は不明である。位置から考えて，ＳＫ01・ＳＫ02と共存する可能性がある。ＳＰ204から土師器杯の大破片が出土している。柱穴から土師器，瓦質土器，瓦器，焼石及び焼土が出土している。

SB03（第31図）

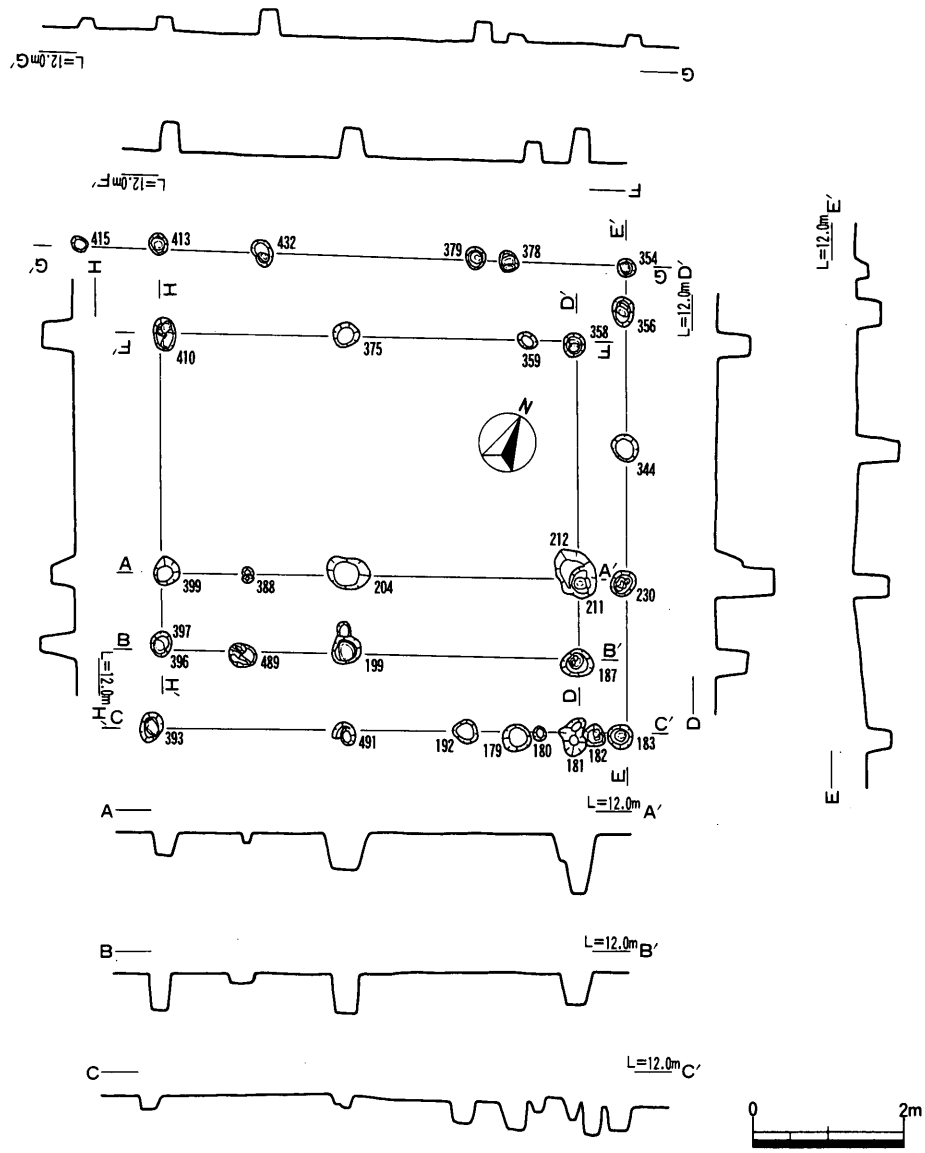
Ｃ４区画に位置する。ＳＤ03・ＳＤ04との新旧関係は不明である。ＳＰ365から完形品に近い土師器杯が出土している。柱穴から土師器，瓦質土器，瓦器，焼石及び焼土が出土している。

SB04（第32図）

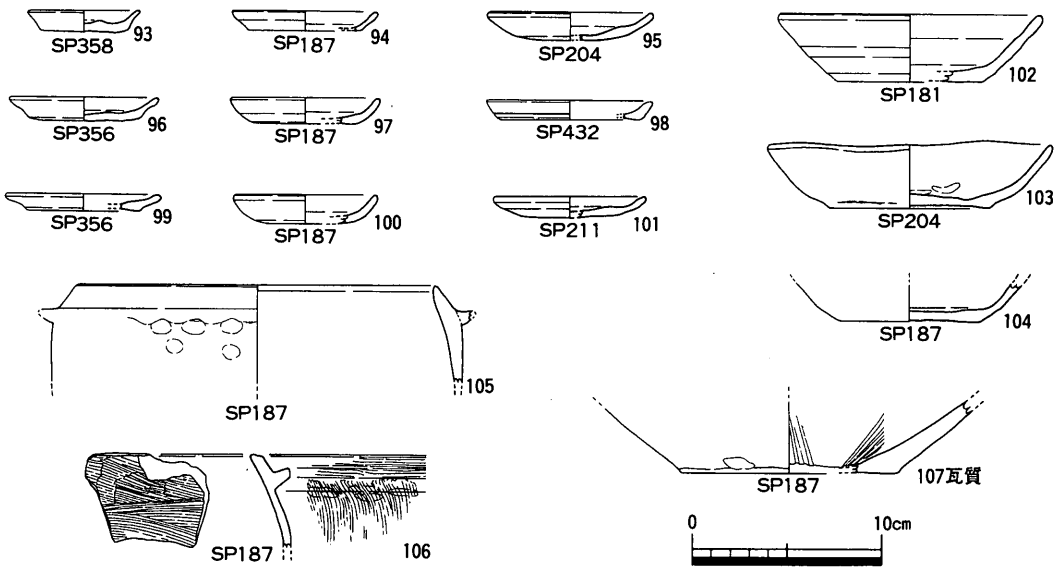
Ｃ４区画に位置する。ＳＫ02より新しい。ＳＰ277からは土師器皿の完形品が出土している。ＳＰ456には柱材が残存していた。柱穴からは，土師器，瓦質土器，滑石製石鍋(141)及び焼石が出土している。

SB05（第33図）

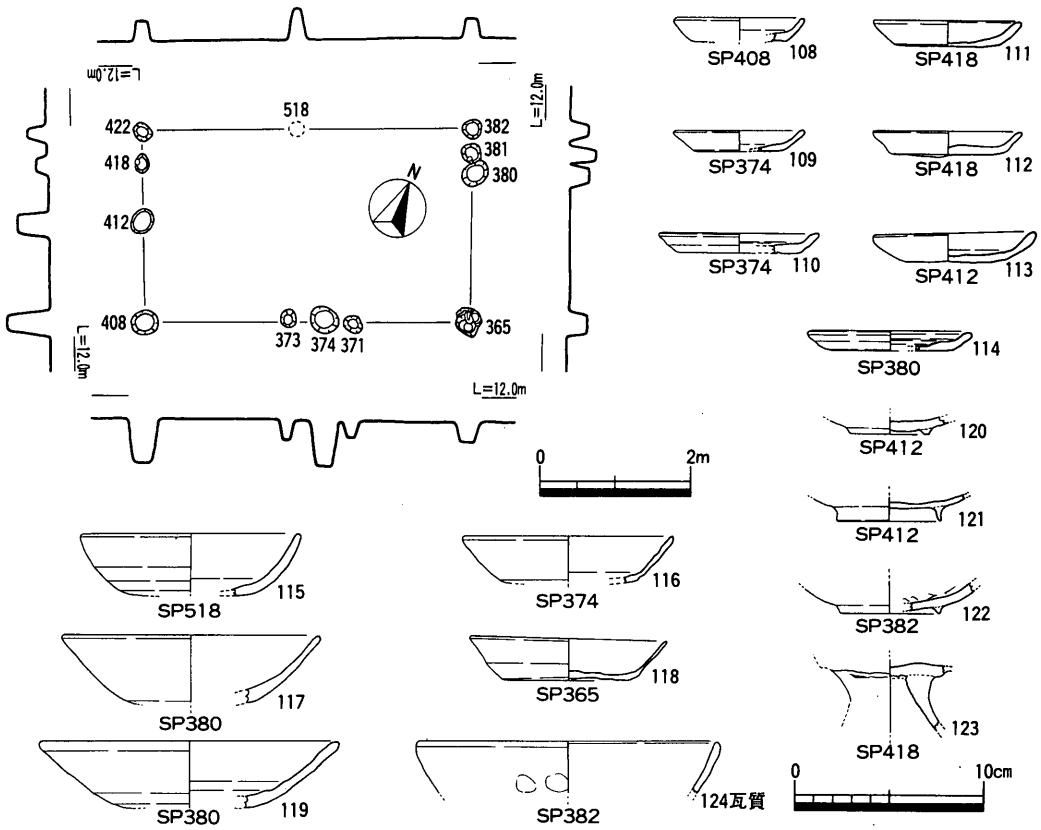
Ｃ３区画に位置する。ＳＤ14と重複する柱穴の埋土が，ＳＤ14埋土と類似することから，ＳＤ14埋没後に建てられた掘立柱建物跡と考える。柱穴から弥生土器及び土師器の破片が少量出土している。



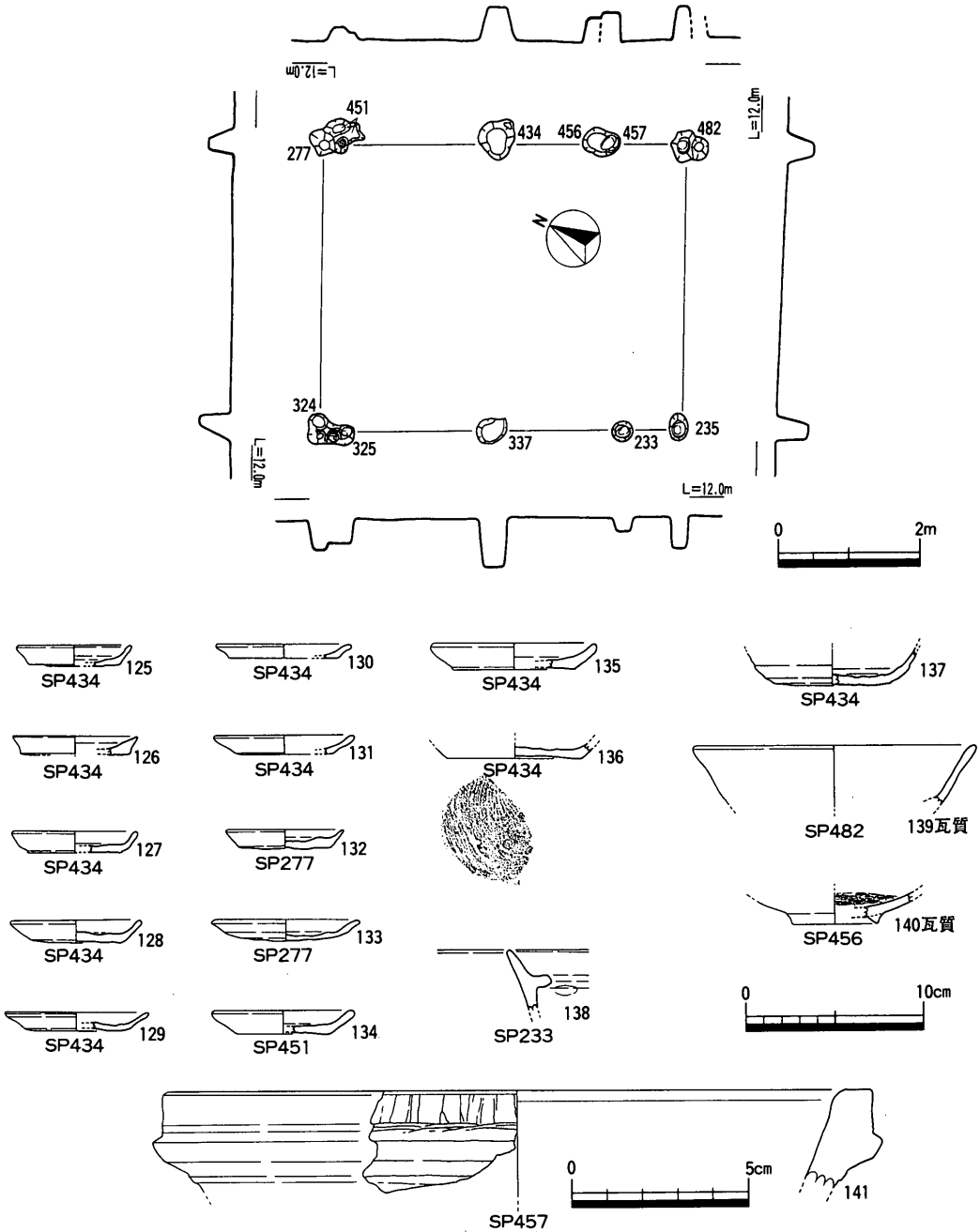
第29図　ＳＢ02平・断面図(1/100)



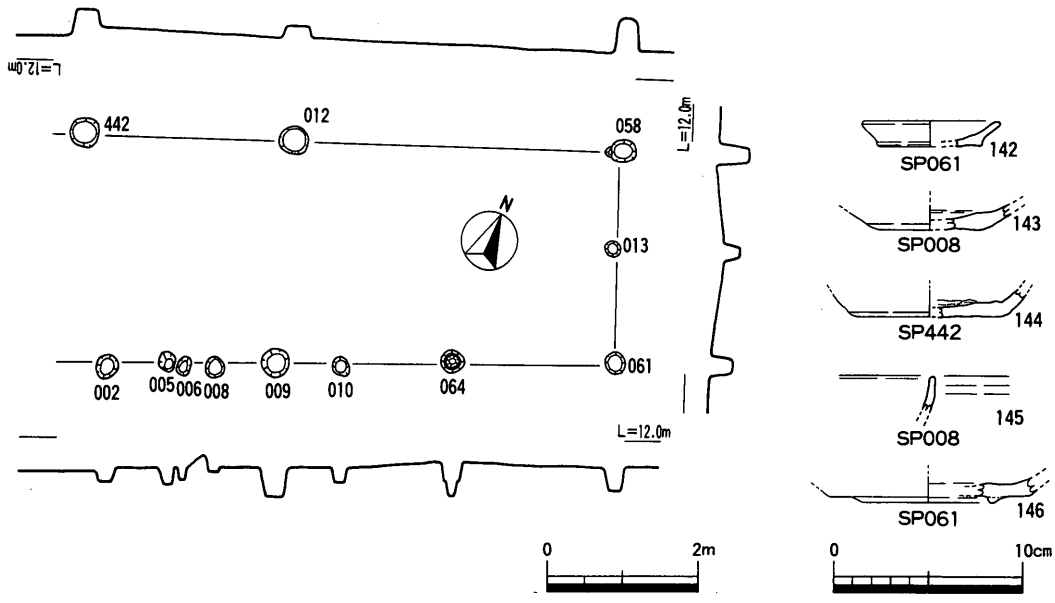
第30図　ＳＢ02出土土器(1/4)



第31図　ＳＢ03平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)



第32図　ＳＢ04平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)



第33図　ＳＢ05平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

他の地区の掘立柱建物跡

ＳＢ06（第34図）

Ｃ５・Ｄ５区画に位置する。ＳＰ045の位置は平板測量によるものでやや不正確である。ＳＰ028とＳＰ039の間と，ＳＰ032とＳＰ045の間は調査時にコンクリート水路があったため調査ができず，柱穴の存在を確認していない。柱穴から弥生土器，土師器，黒色土器，瓦質土器が出土している。

ＳＢ07（第35図）

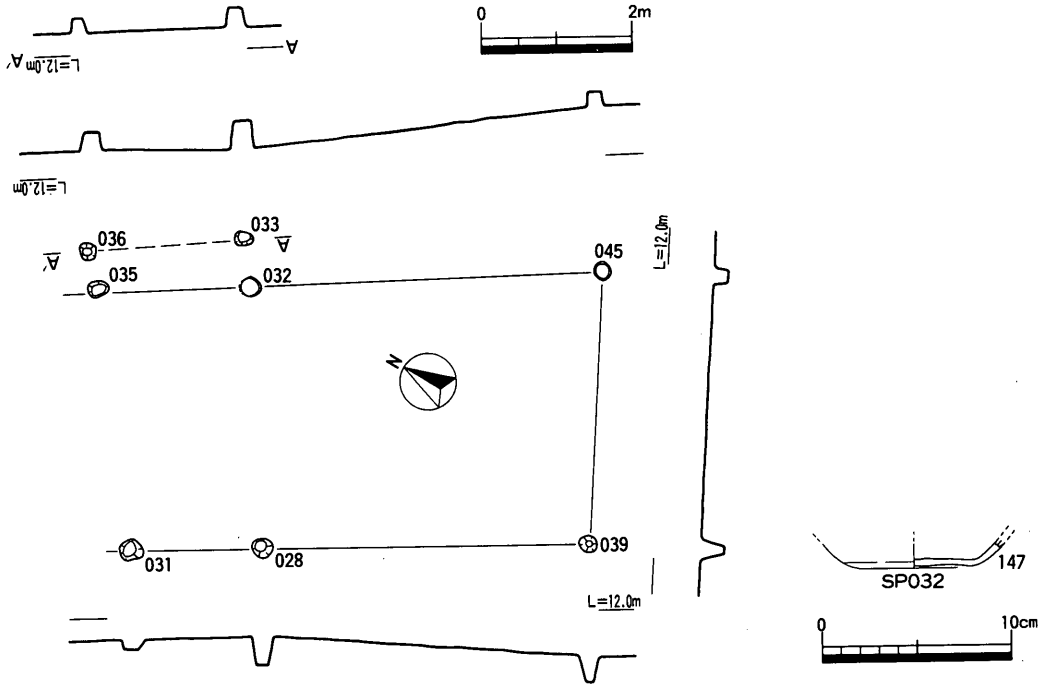
Ｅ４区画に位置する。柱穴平面形が方形であるものが多い。柱穴から遺物は出土していない。

ＳＢ08（第36図）

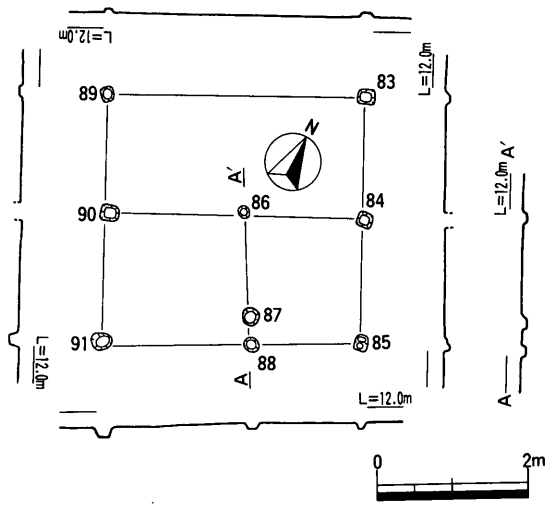
Ｆ５区画に位置する。柱穴からは土師器が出土している。

ＳＢ09（第37図）

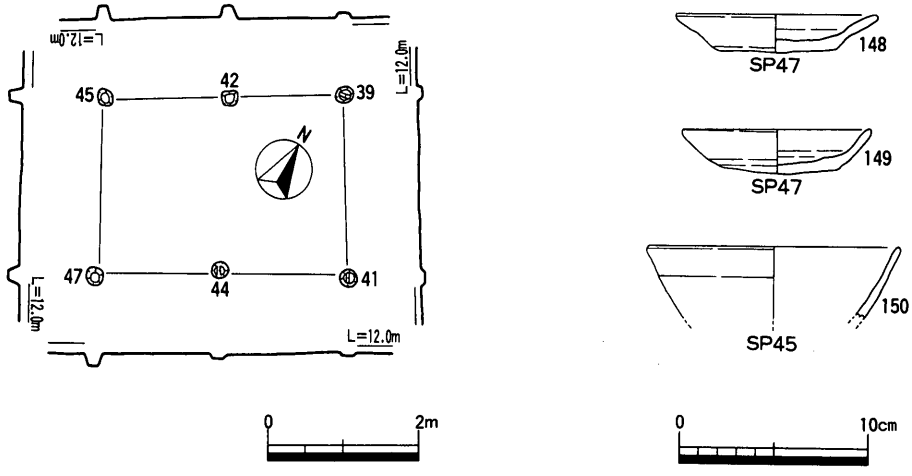
Ｆ５・Ｆ６区画に位置する。Ｆ５ＳＰ092からは完形の土師器椀が出土している。柱穴からは土師器及び瓦器が出土している。



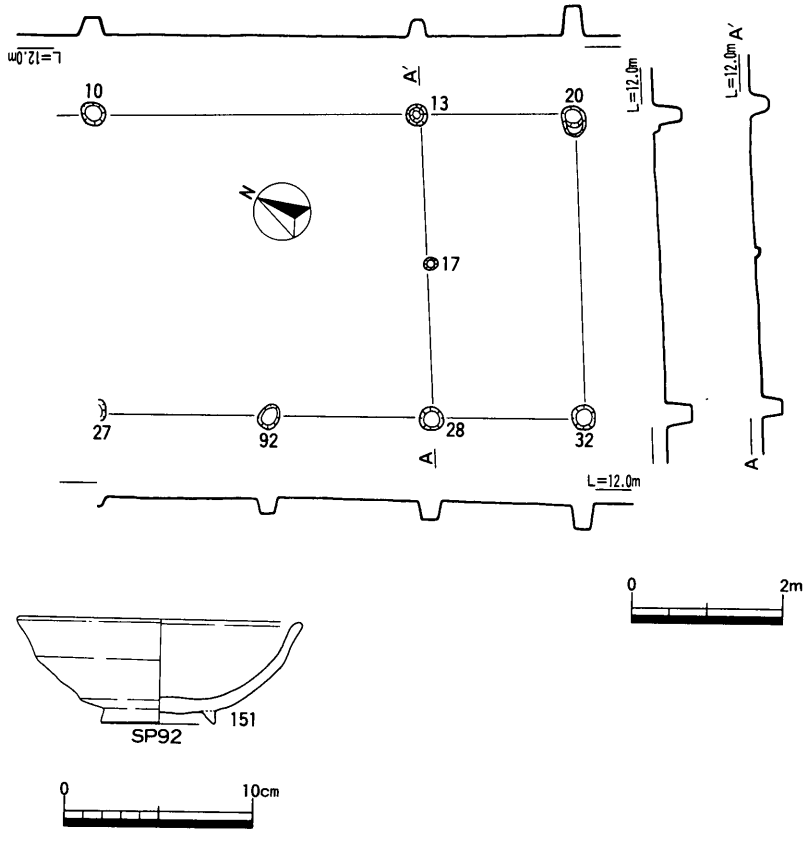
第34図　ＳＢ06平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)



第35図　ＳＢ07平・断面図(1/100)



第36図　ＳＢ08平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)



第37図　ＳＢ09平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

柵列

ここで柵列としたものは掘立柱建物跡の一部の可能性があるが，柵列として報告する。柱穴そのものは掘立柱建物跡の柱穴と区別できるものではない。

SA01（第38図）

Ｅ５区画に位置する。柱穴から遺物は出土していない。

SA02（第38図）

Ｅ４・Ｅ５区画に位置する。柱穴から遺物は出土していない。

SA03（第38図）

Ｆ５区画に位置する。柱穴から土師器が出土している。

SA04（第38図）

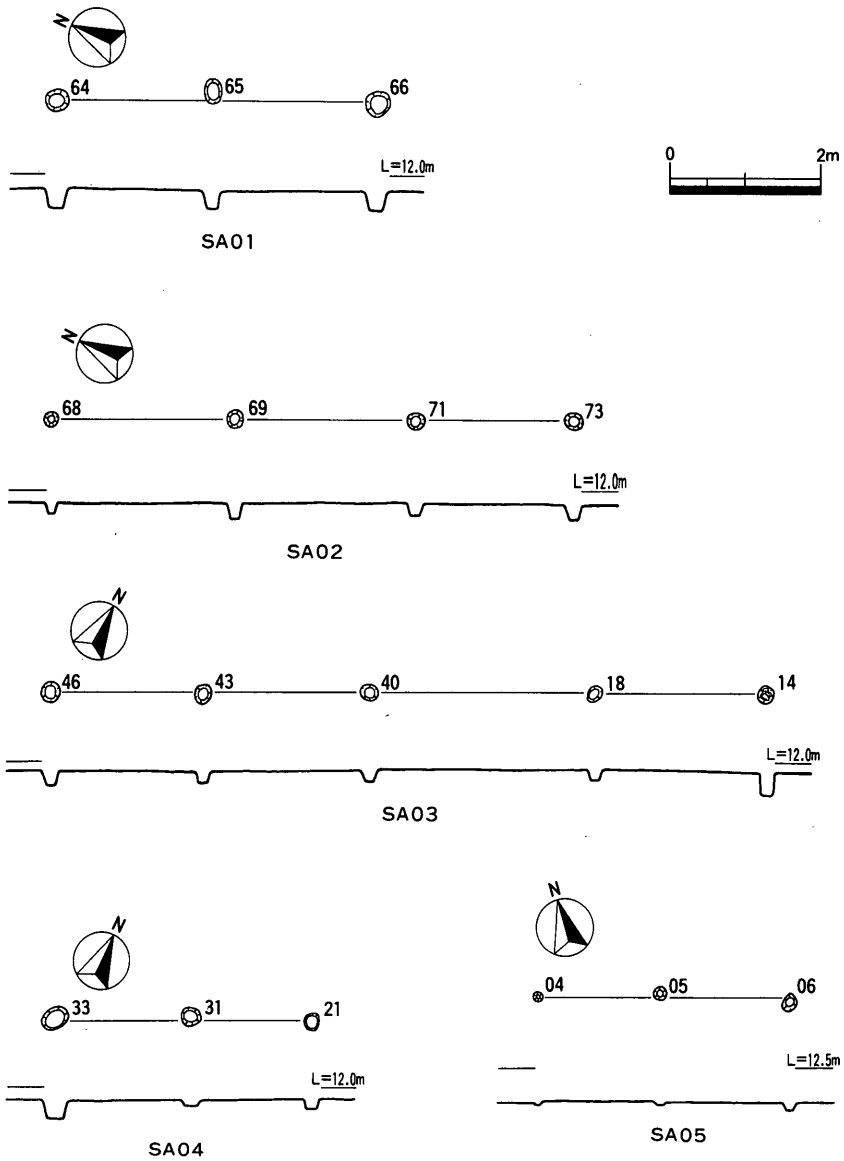
Ｆ５区画に位置する。柱穴から遺物は出土していない。

SA05（第38図）

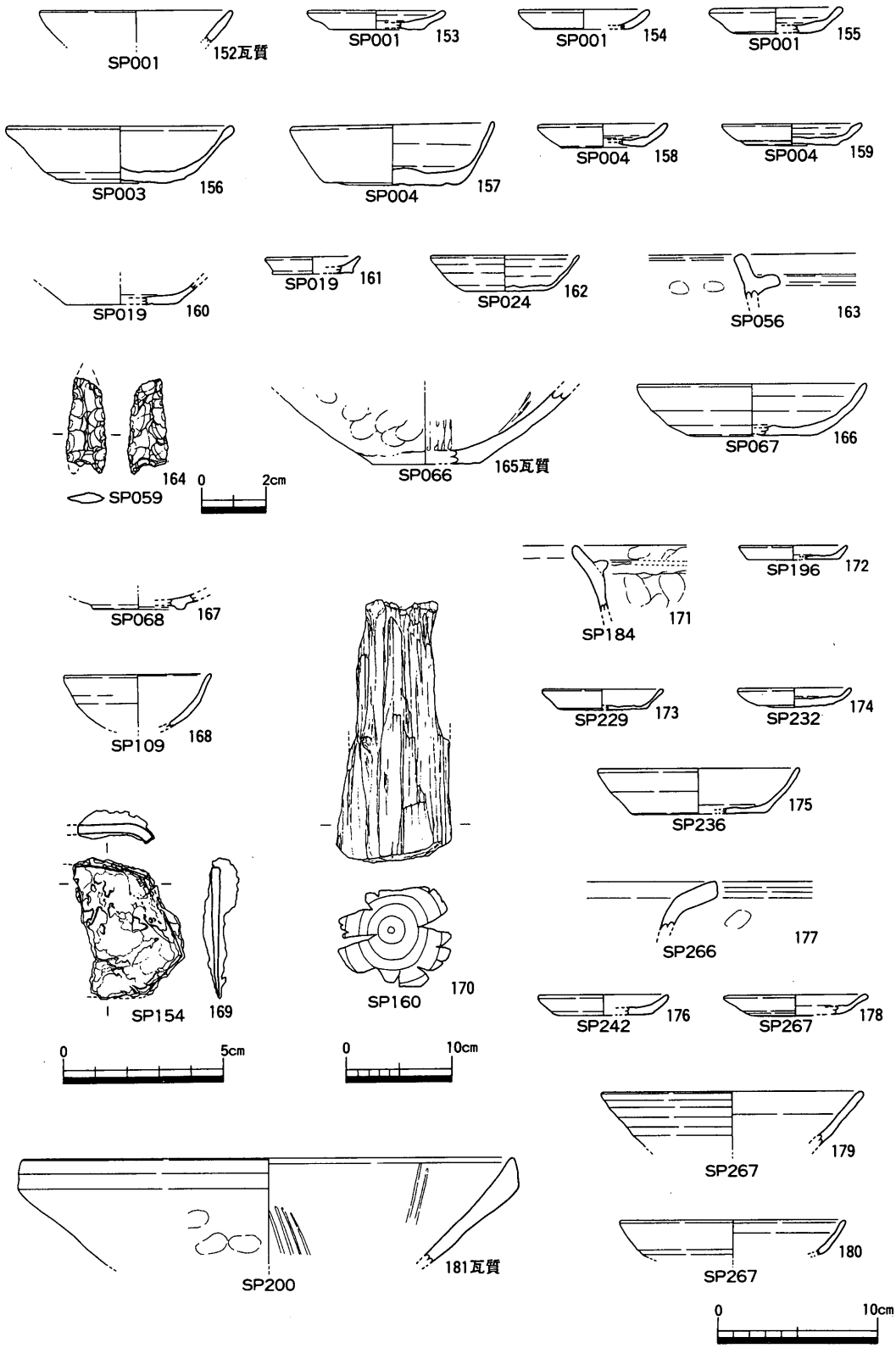
Ｇ６区画に位置する。柱穴から遺物は出土していない。

柱穴（第39～41図）

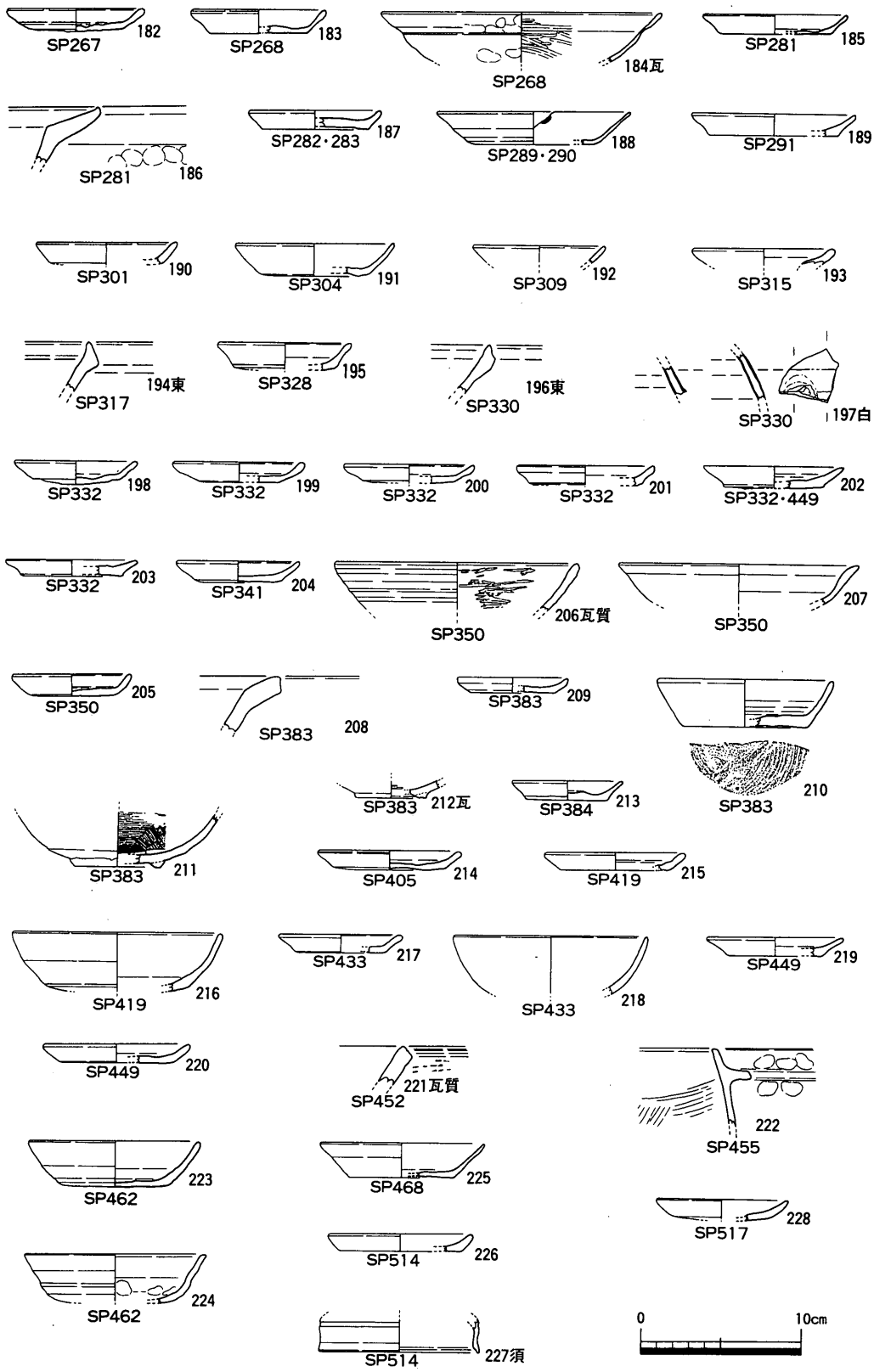
①区の柱穴を除いて，他はすべて中世の柱穴と考えられるので，ここでまとめて出土遺物を掲載する。Ｃ４ＳＰ459・Ｃ４ＳＰ460は，遺物が多量に出土しているが，出土状態は調査時に確認できなかった。おそらく地鎮関係の遺構であったと考える。また柱材が残存していた柱穴は，Ｃ３ＳＰ003・Ｃ３ＳＰ014・Ｃ３ＳＰ089・Ｃ３ＳＰ160・Ｃ３ＳＰ168・Ｃ４ＳＰ526・Ｃ４ＳＰ539である。このうちＳＰ003，ＳＰ160，ＳＰ168，ＳＰ526については，出土材の樹種鑑定を行っている（第４節）。



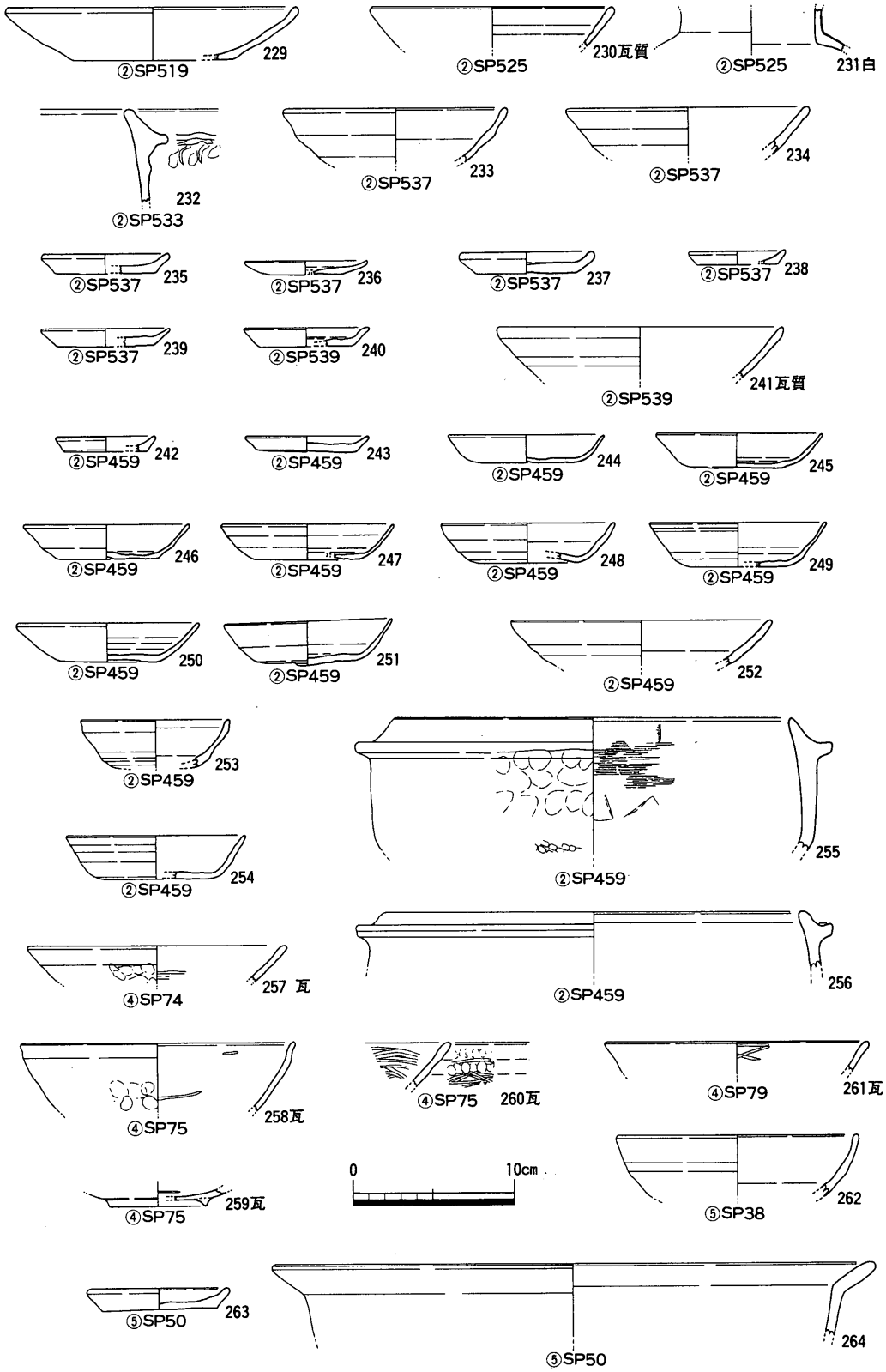
第38図　柵列跡平・断面図(1/100)



第39図　②区柱穴跡出土土器①(1/4)，石器・鉄器(1/2)及び木器(1/6)



第40図　②区柱穴跡出土土器②(1/4)



第41図　②④⑤区柱穴跡出土土器(1/4)

土坑

SK01（第42図）

Ｃ３・Ｃ４区画に位置する。埋土には20cm以下の円礫を多く含む。円礫は配置されたような状況は見られず，廃棄時に投棄されたものと考えられる。

SK02（第43図）

Ｃ４区画に位置する。埋土には20cm以下の円礫を多く含む。礫の中には焼石もある。礫は配置されたような状況は見られず，廃棄時に投棄されたものと考えられる。

溝跡

SD01（第44図）

Ｂ２区画に位置する。遺物は出土していない。埋土から中世頃と考えた。

SD06（第45図）

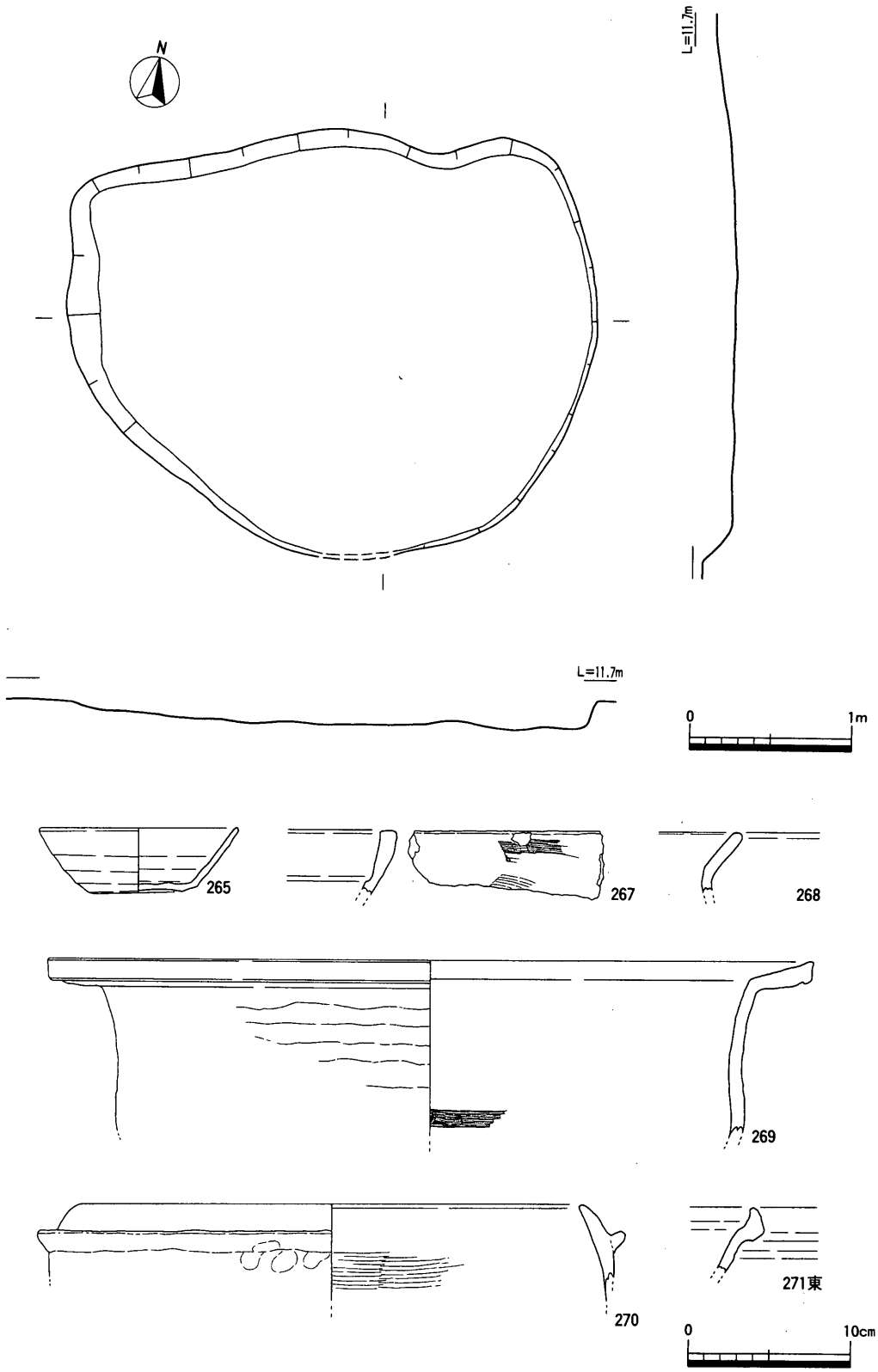
Ｃ４区画に位置する。遺物は出土していない。一部に土坑状の落ち込みがある。方形区画溝と関連するものと考えられるが，残存状態が悪く性格は不明である。

SD17，SD18（第46図）

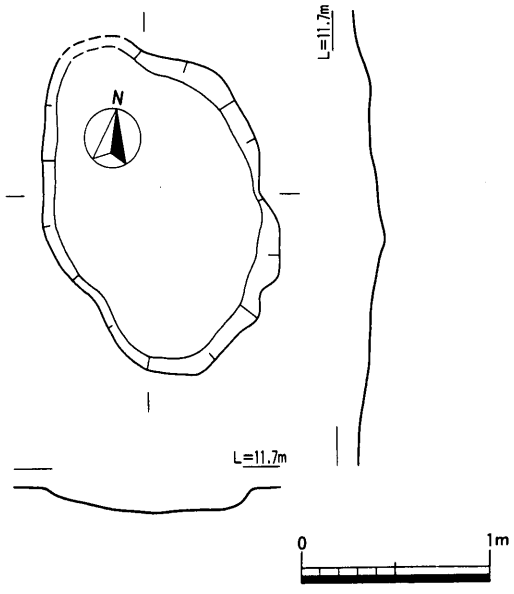
Ｄ４・Ｄ５・Ｅ４区画に位置する。埋土は大きく２層に分かれる。上層（ＳＤ18）は灰白色シルトで，下層は白灰色粘土である。上層は埋没後の再掘削を示している。

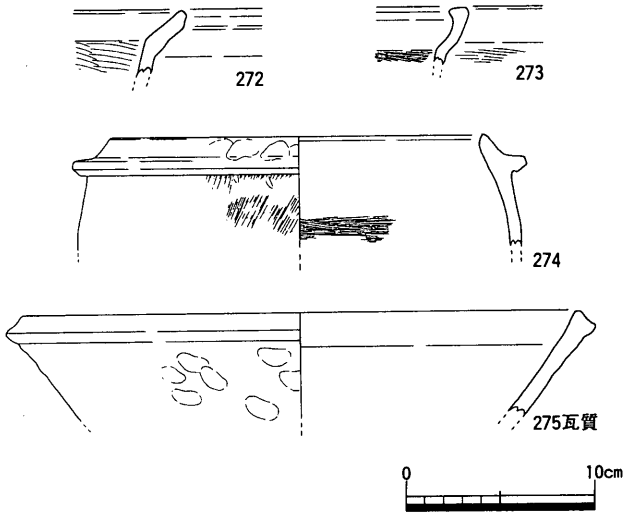
SD23（第47図）

Ｅ７・Ｆ７・Ｆ６・Ｆ５・Ｇ５区画に位置する。現有水路直下で検出された。この位置は現在の字名では，東二字瓦礫と東分字神谷の境界にあたる。断面Ｖ字形の溝である。

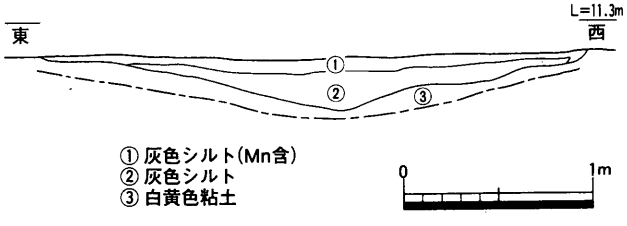


第42図　ＳＫ01平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4)

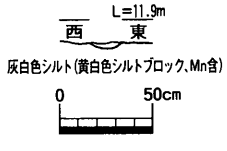




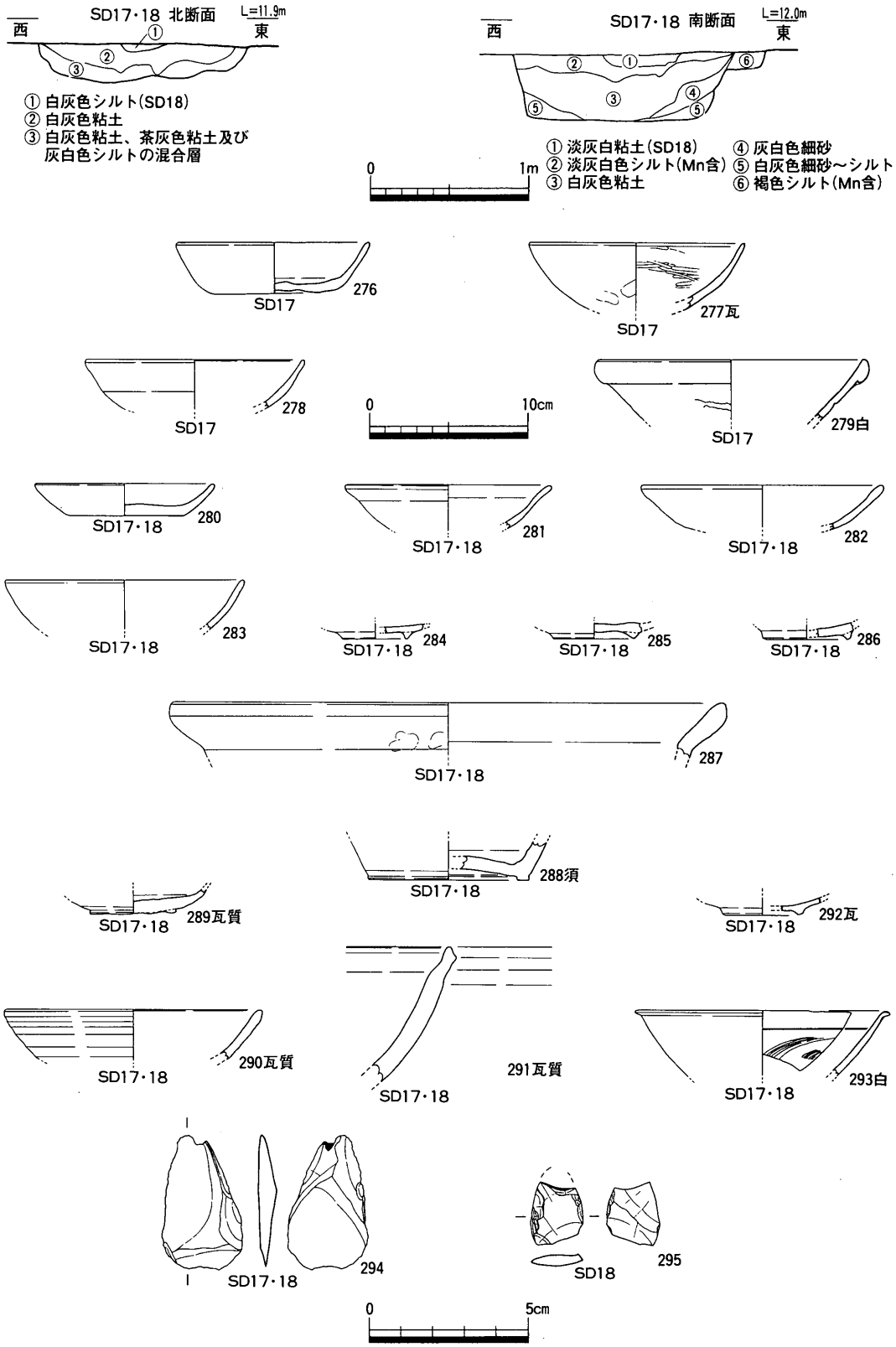
第43図　ＳＫ02平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4)



第44図　ＳＤ01断面図(1/40)



第45図　ＳＤ06断面図(1/40)



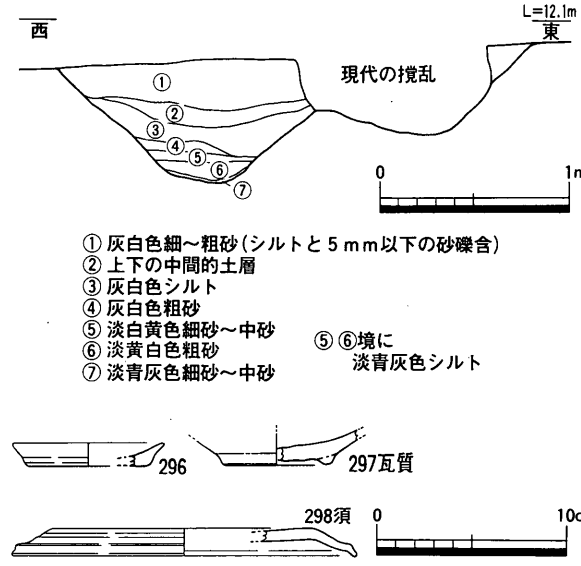
第46図　ＳＤ17・18断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)

川跡

SR01（第7・48～55図）

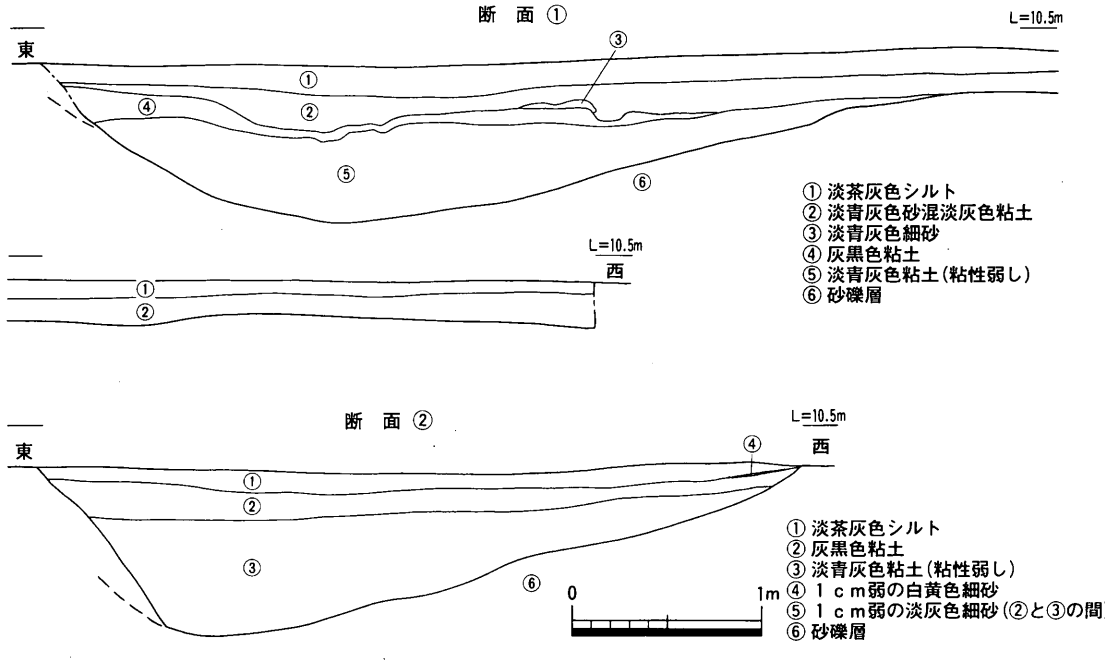
①区は当遺跡の基盤層である白黄色粘土が調査区東端のみに残存する。これから西は川跡の埋土が堆積している。

埋土は大きく3層（第7図）に分かれる。I層は耕作土の直下の層で，近世陶磁器を含む淡青灰色シルト層であり，下部はMn粒を含む（②層）。東に向かって厚い堆積となり，①層と②層は区別できなくなる。第49図には出土位置不明の遺物も一部掲載している。

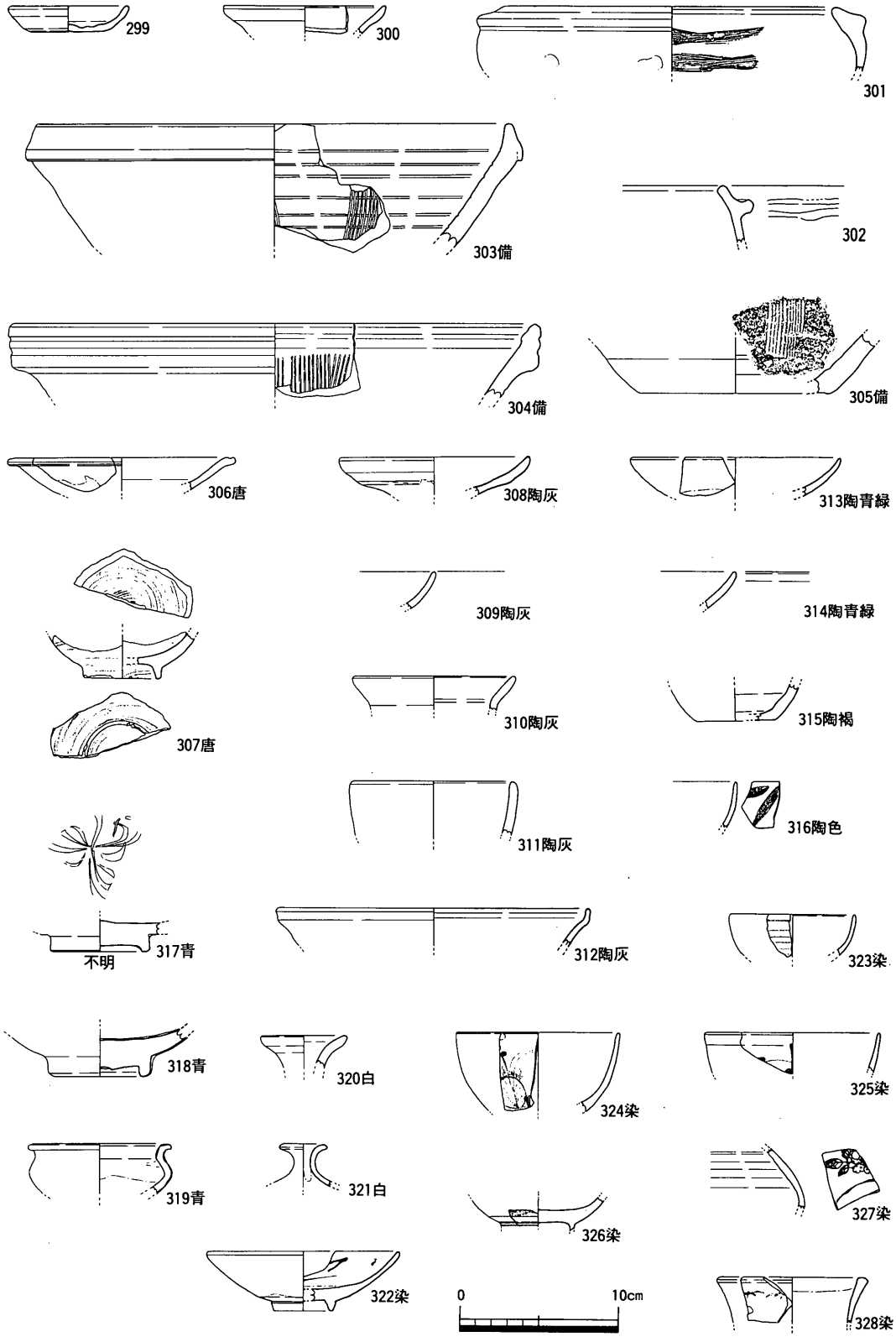


第47図　ＳＤ23断面図(1/40)及び出土土器(1/4)

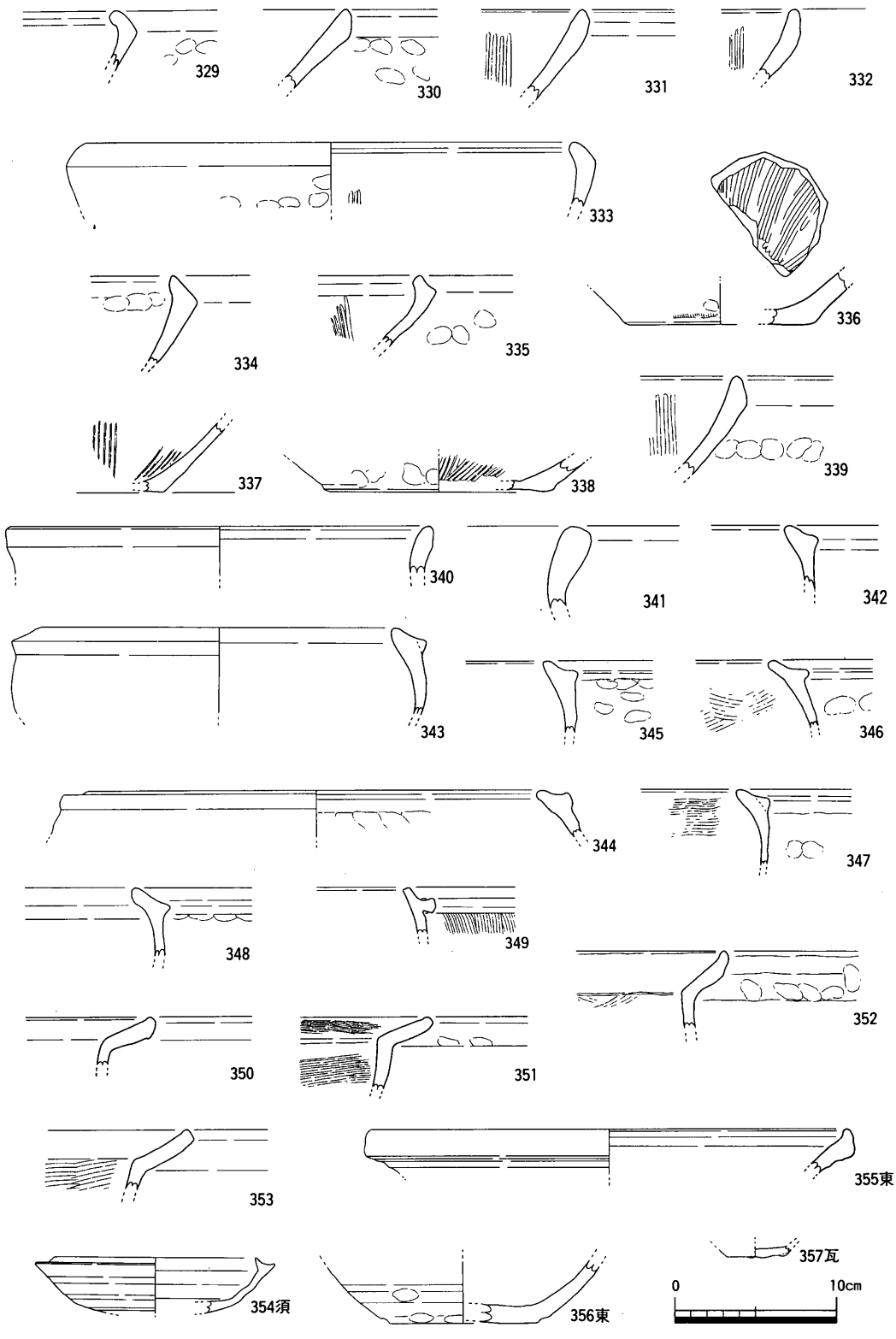
II層は中世の遺物を含む暗淡青灰色粘土層である(③)。③層は調査区東半のみに存在す



第48図　ＳＲ０１断面図(1/40)



第49図　ＳＲ01①層出土土器(1/4)

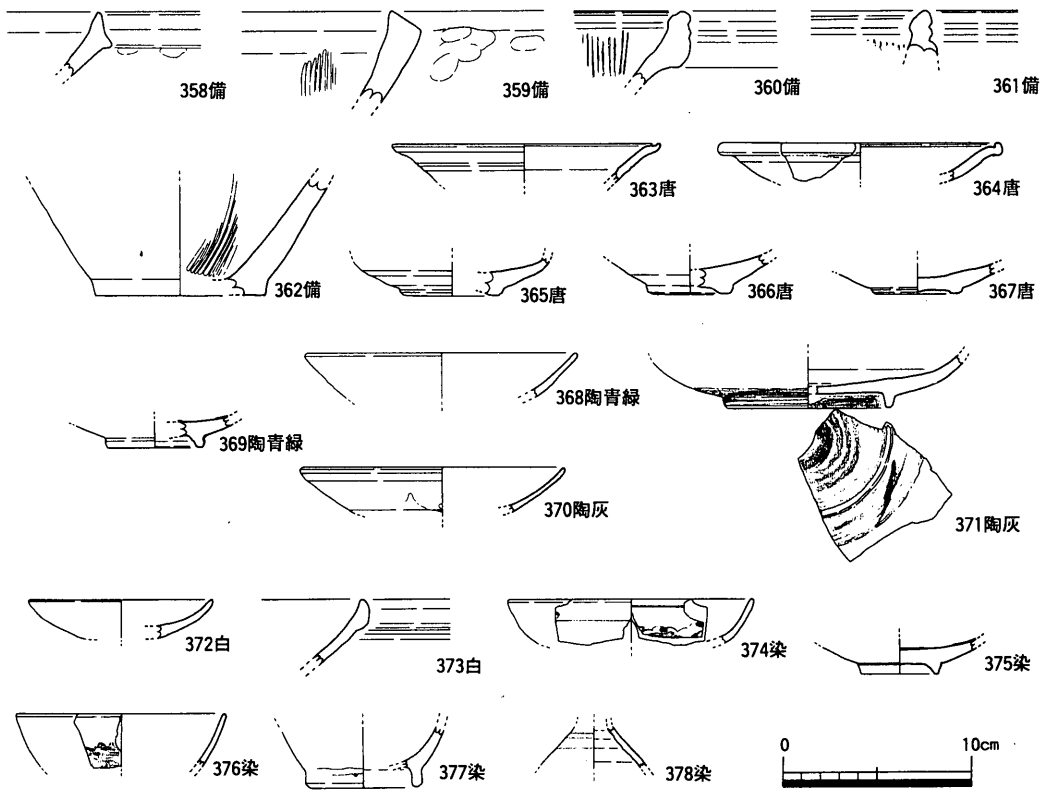


第50図　ＳＲ01②層出土土器①(1/4)

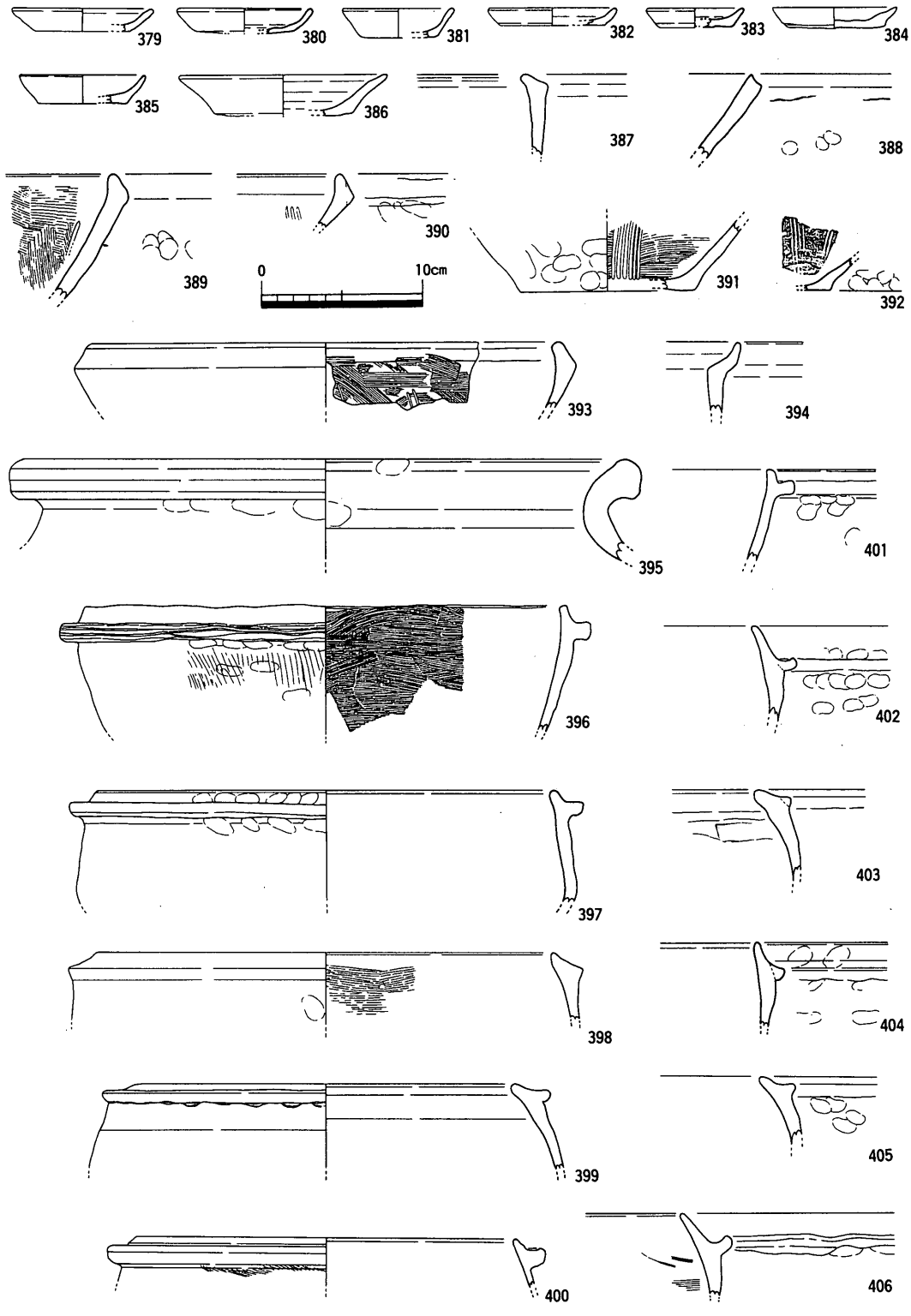
る。Ⅰ層同様，東に向かい厚い堆積となる。上部はMnを含む。

Ⅲ層はそれ以下白黄色粘土（基盤層）あるいは砂礫層までで，シルト層と砂層の堆積が交互に見られる。河道北東部分の当調査区最深部のみに黒灰色粘土及び淡青灰色粘土が堆積しており，この層から中世の土師器土釜の大破片（449）が出土している。またⅢ層の他の部分からも中世の遺物の破片が出土することから，中世段階には少量の流水はあるものの，川は埋没を開始したものと考えられる。なお第48図はⅢ層部分のみの断面図である。

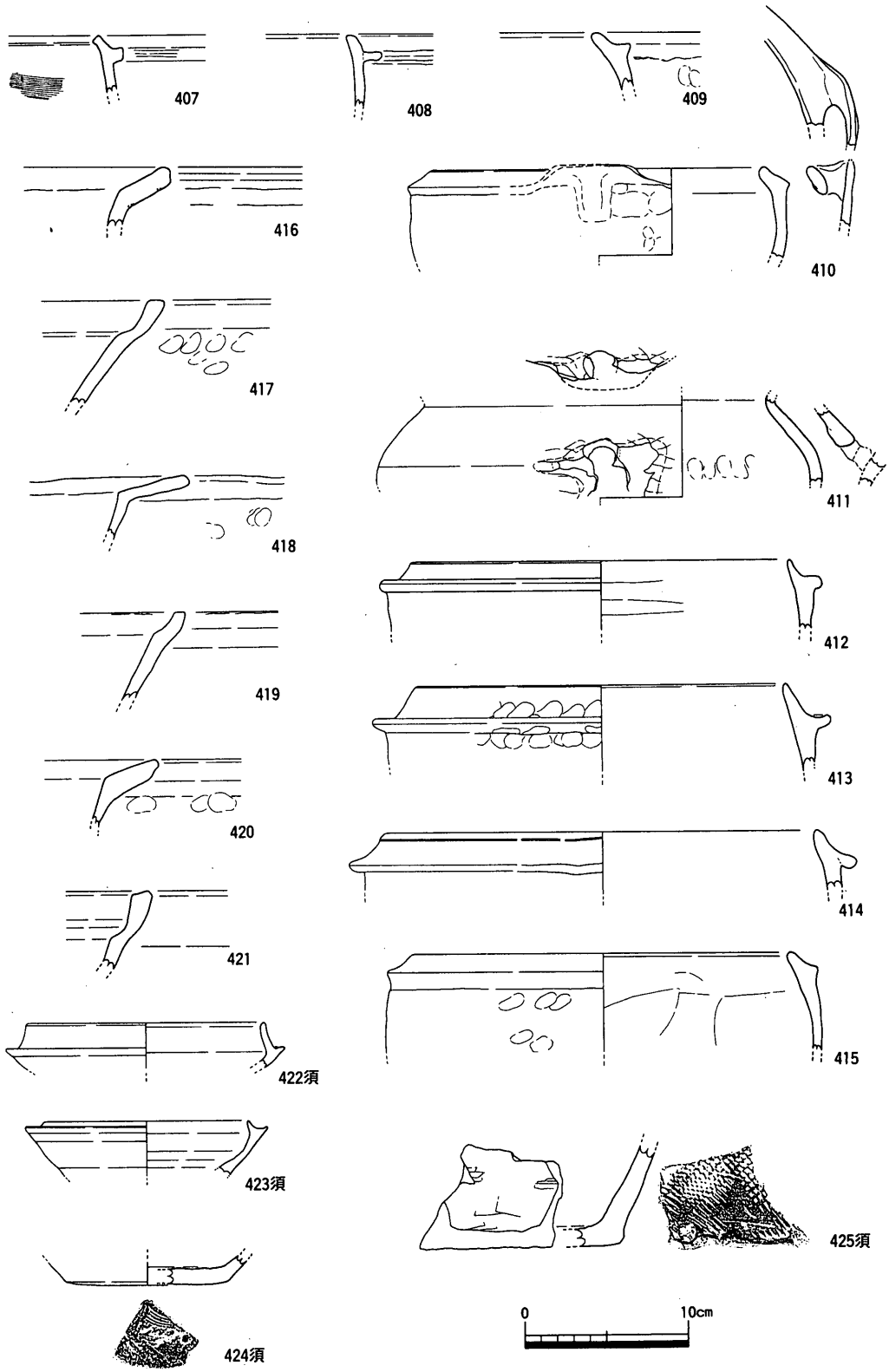
調査区東端での観察によれば，基盤層の白黄色粘土層は約60cmの厚さであり，以下は砂礫層の堆積となっている。また出土状態は正確に把握できなかったが，453の弥生時代中期の土器は川底の砂礫層から出土したと考えられる。



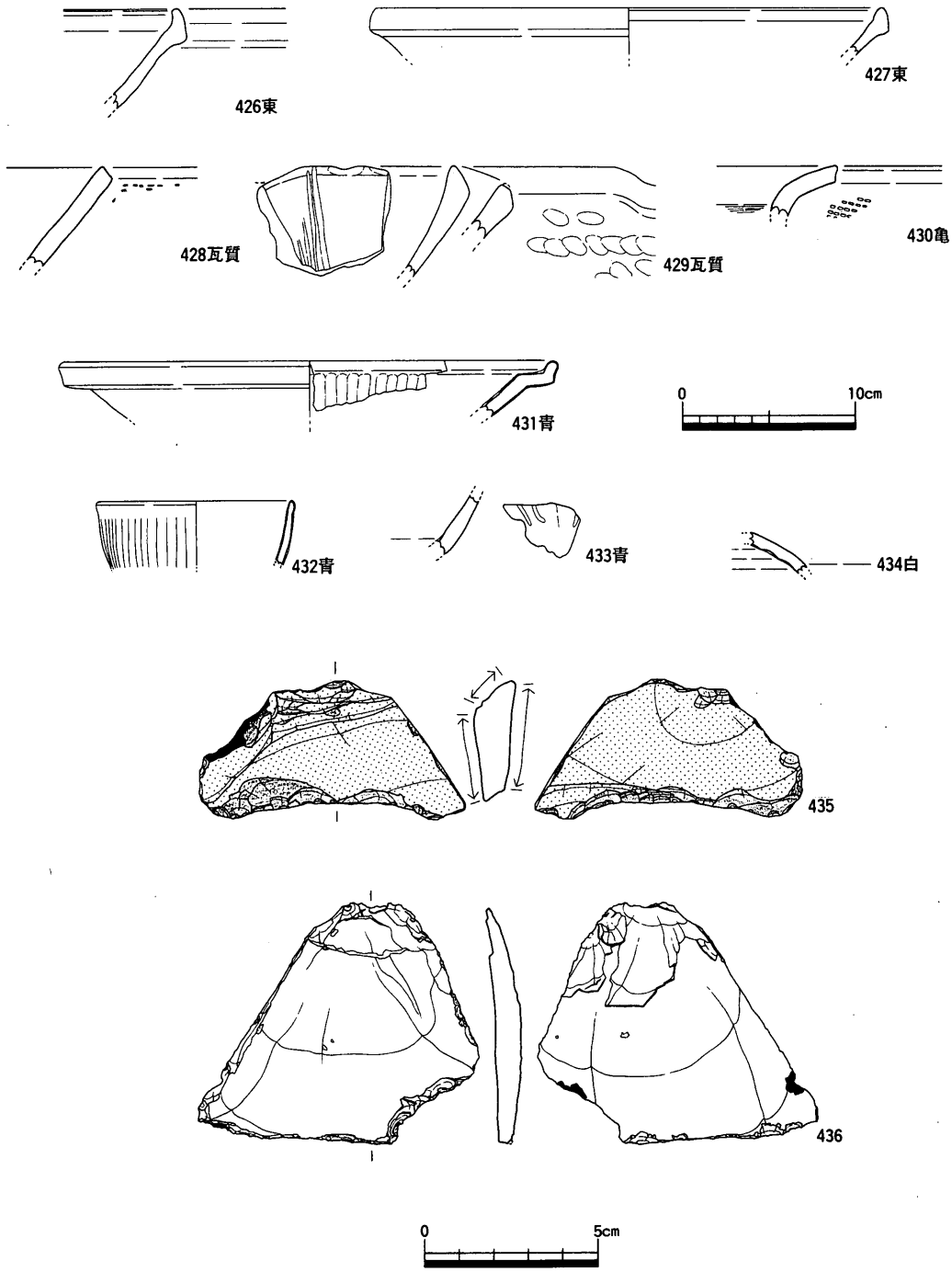
第51図　ＳＲ01②層出土土器②(1/4)



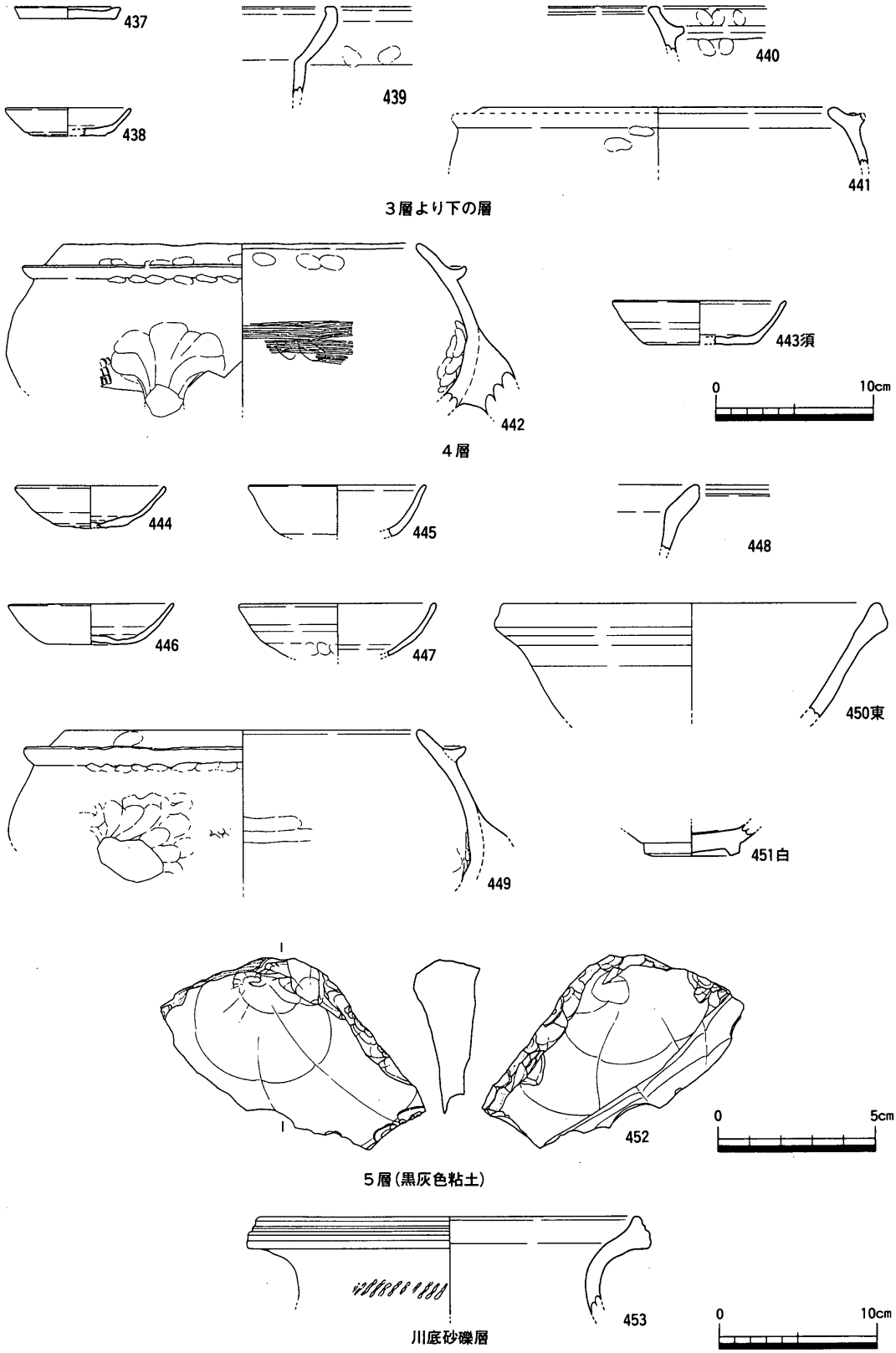
第52図　ＳＲ01③層出土土器①(1/4)



第53図　ＳＲ01③層出土土器②(1/4)



第54図　ＳＲ01③層出土土器③(1/4)及び石器(1/2)



第55図　ＳＲ01その他の層の出土土器(1/4)及び石器(1/2)

4　江戸時代以降

ピット

①区で検出されたピットは，中世・近世の遺物を含む包含層の上面で検出されることから，近世以降の時期と考えられる。

土坑

SK03（第56図）

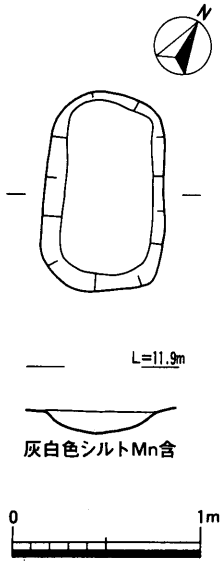
Ｃ４区画に位置する。埋土は基盤層の白黄色粘土層を含む白灰色シルト層である。

SK04（第57図）

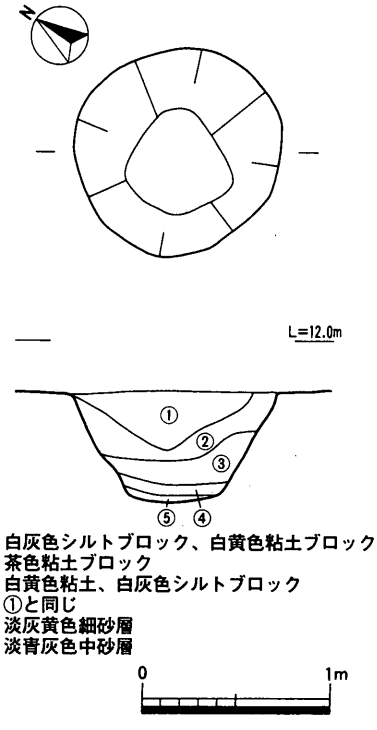
Ｃ５区画に位置する。埋土は基盤層の白黄色粘土ブロック及び周辺に広がる包含層の茶色粘土ブロックを含む白灰色シルト層で，底部には砂が堆積している。いわゆる水溜用の遺構である。

SK05（第58図）

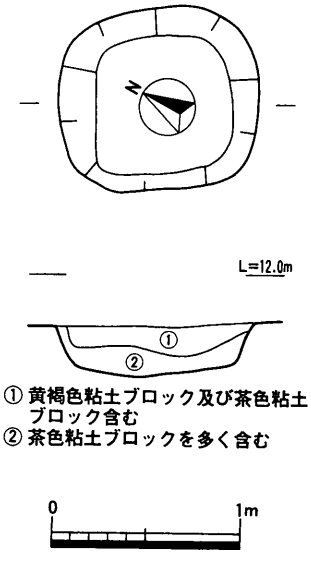
Ｃ５区画に位置する。埋土及び性格はＳＫ04と同じである。



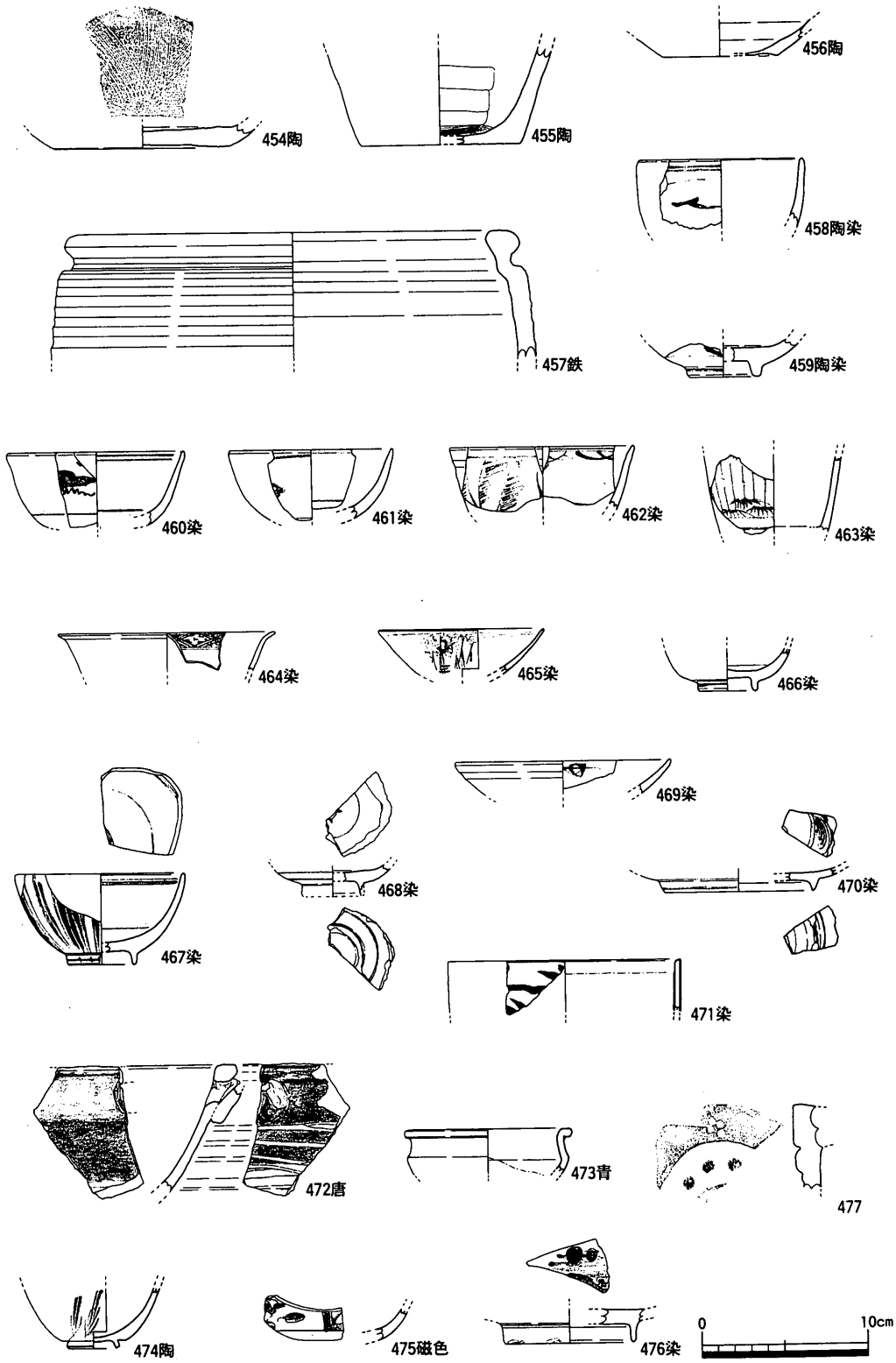
第56図　ＳＫ03平・断面図(1/40)



第57図　ＳＫ04平・断面図(1/40)



第58図　ＳＫ05平・断面図(1/40)



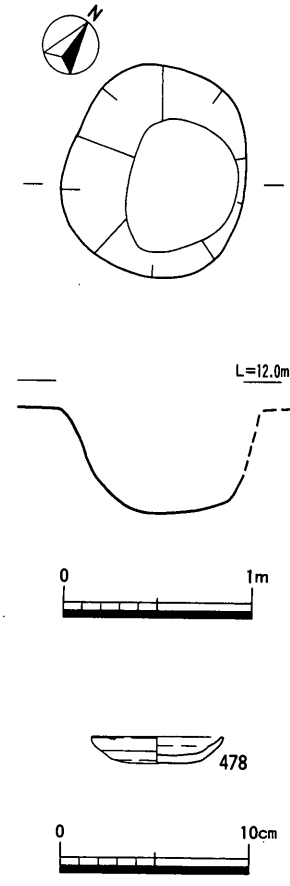
第59図　ＳＫ07出土土器(1/4)及び瓦(1/4)

SK07（第59図）

Ｄ５区画に位置する。掘削深度が大きいことと，調査時間が無かったため，完掘はできなかった。埋土は埋め戻された状況を示していた。埋土から近世の陶磁器を中心に遺物が出土している。

SK09（第60図）

Ｆ６区画に位置する。ＳＤ23埋土掘削中に検出したもので，本来の検出面での平面形は不明である。形態から考えていわゆる水溜用の遺構であると考えられる。埋土から土師器が出土している。

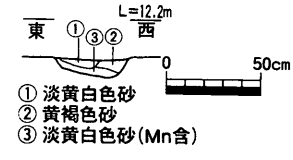


第60図　ＳＫ09平・断面図（1/40）及び出土土器（1/4）

溝　跡

SD28（第61図）

Ｆ５・Ｆ６・Ｇ５区画に位置する。ＳＤ23より新しいことから当時期と考える。遺物は出土していない。



第61図　ＳＤ28断面図（1/40）

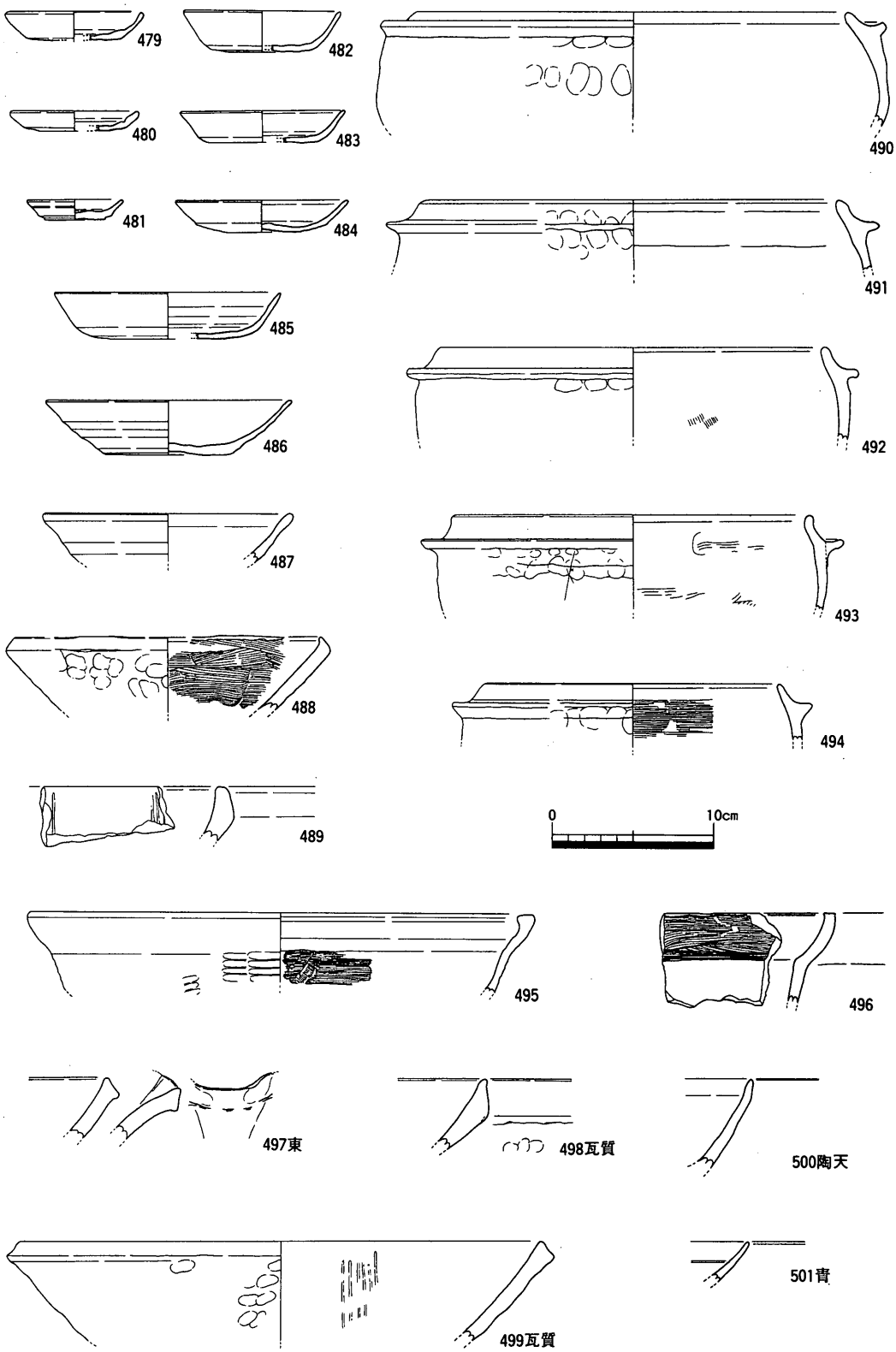
SD33（第11・12図）

Ｇ６・Ｇ７区画に位置する。本来の遺構検出面での検出はできず，調査区壁断面のみで確認した溝跡であり，平面形及び遺物の出土は確認できなかった。流路方向は推定である。埋土及びＳＤ34との前後関係から当時期と考える。

5　包含層出土の遺物（第62～67図）

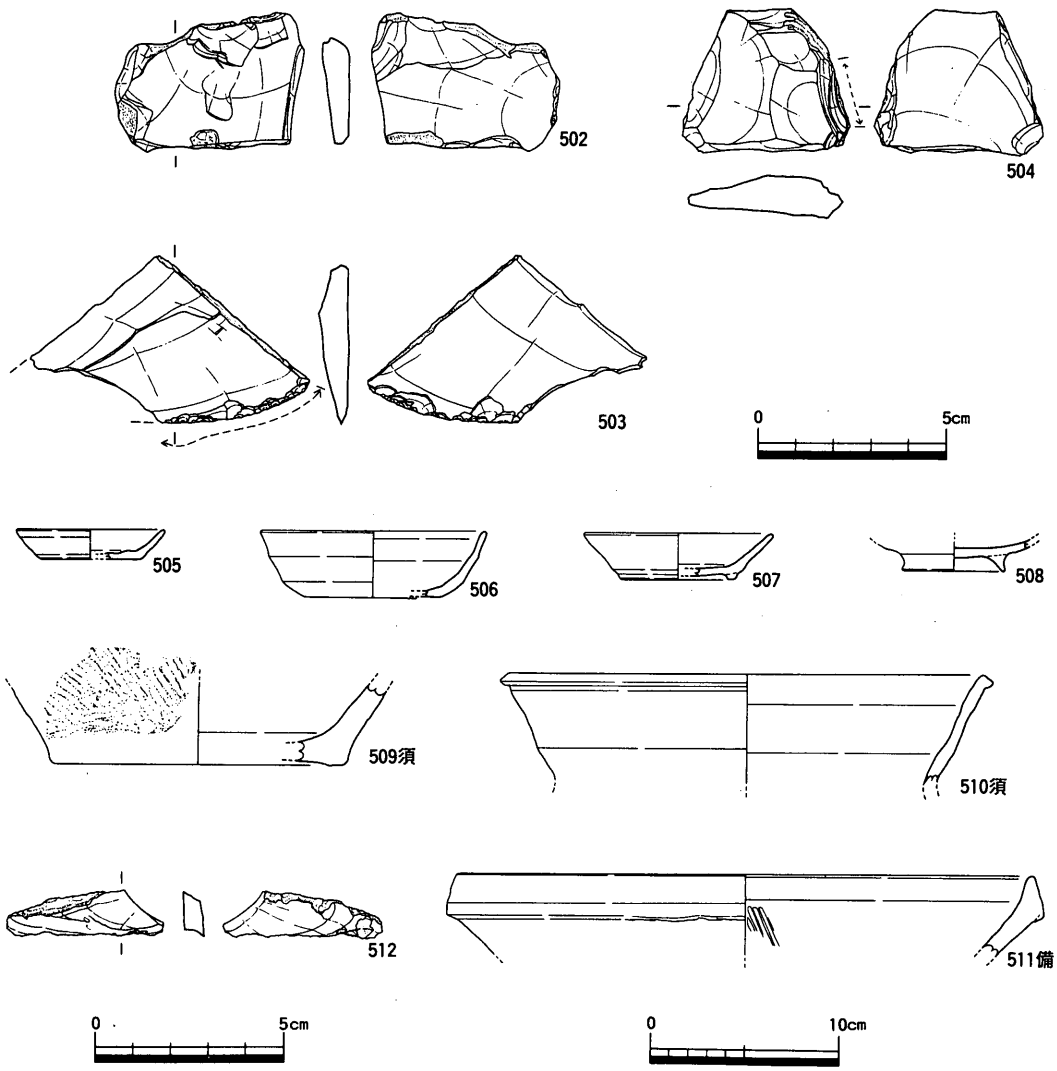
ここでは②区，④区及び⑤区の包含層出土遺物及び出土層位不明の遺物を報告する。

②区包含層①層は現耕作土の床土直下の層で中世頃の堆積層と考えられる。中世の溝ＳＤ17よりは古い堆積層である。中世頃の遺物が出土している。②区包含層②層も中世頃の堆積と考えられる。中世頃の遺物が出土している。

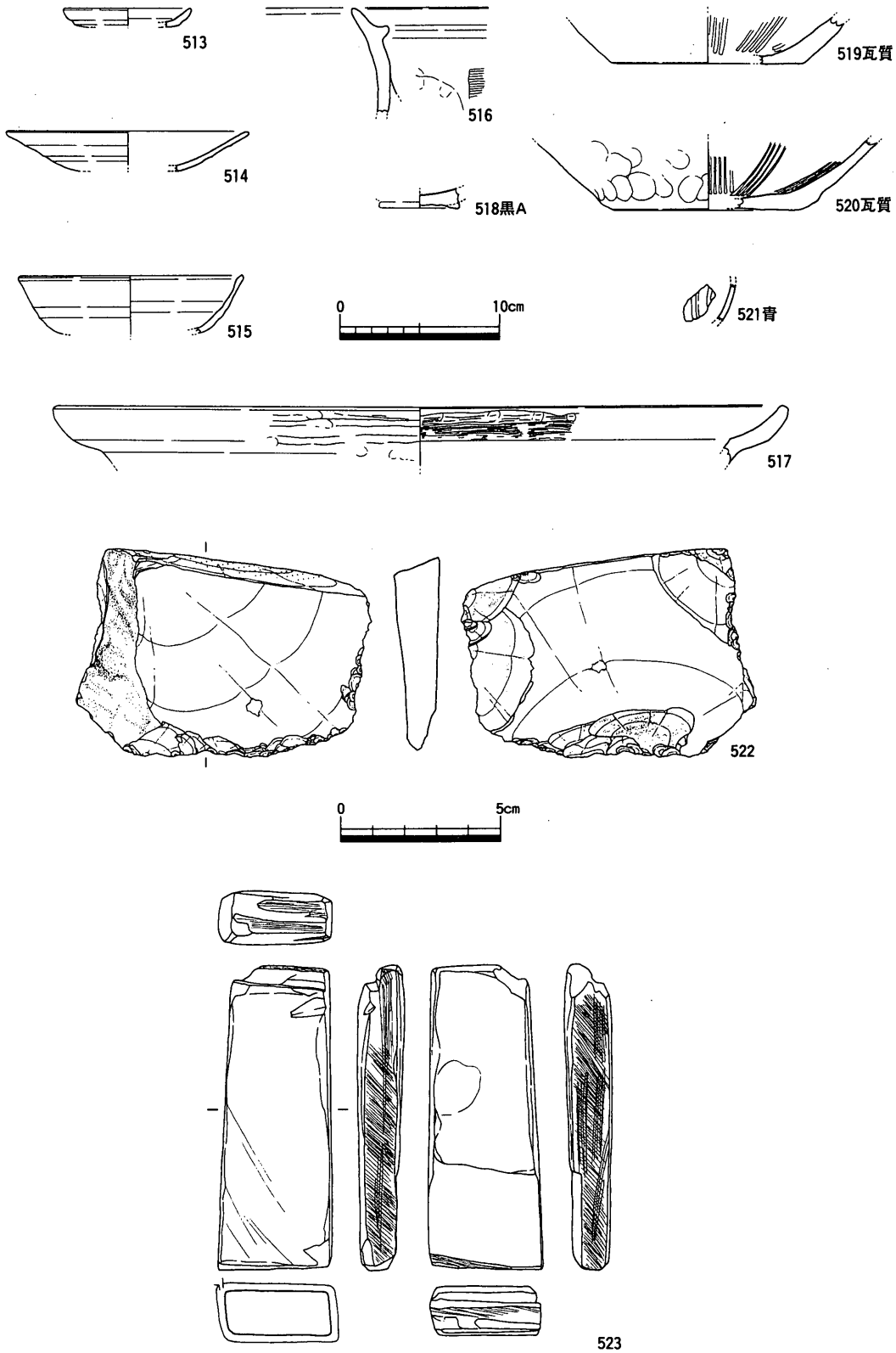


第62図　②区包含層出土土器(1/4)

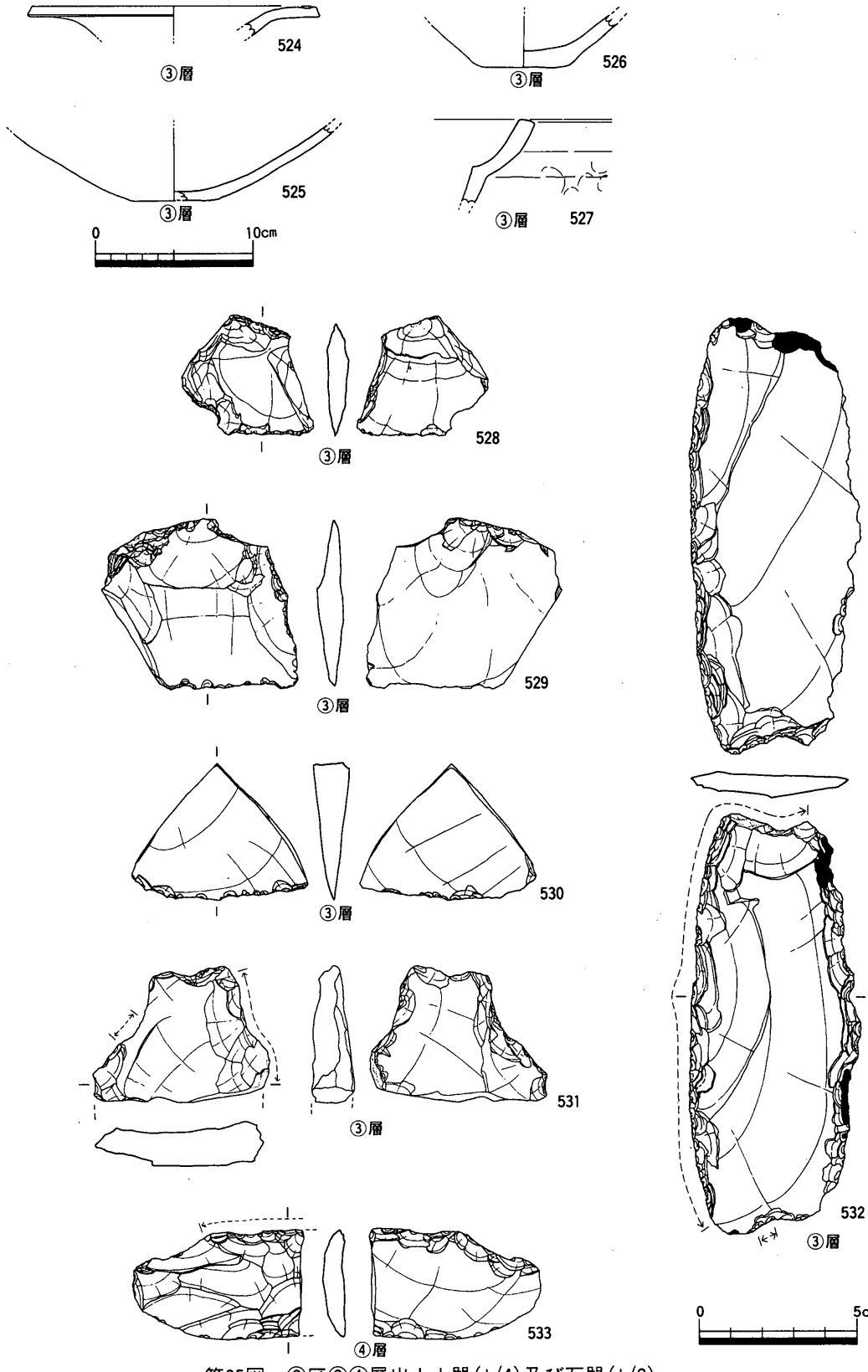
②区包含層③層は③区の古墳時代～平安時代頃の水田耕作土に対応する堆積層である。弥生土器・石器等が出土している。第65図527は中世の土師器鍋であり，出土層位から考えれば混入品であろう。第62・63図479～483,485及び501・502は遺構検出作業時に出土した遺物であり，出土層位は不明である。484・504は調査用トレンチ出土の遺物で層位は不明である。500は天目碗で包含層②層～④層のいずれかの層から出土した遺物である。503は基盤層から出土した石器である。512は横長剝片が折損したものと考えられる，白色風化とは異なる風化の進んだ剝片である。第64図522は図上における上面剝離面に磨滅がみられる。



第63図　②区包含層及び①層出土土器(1/4)・石器(1/2)



第64図　②区②層出土土器(1/4)及び石器(1/2)

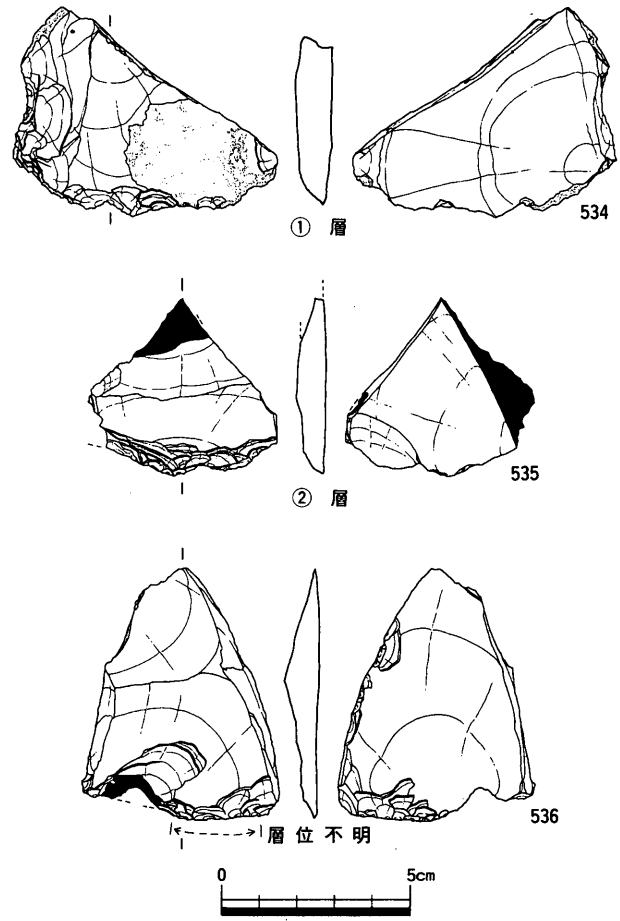


第65図　②区③④層出土土器(1/4)及び石器(1/2)

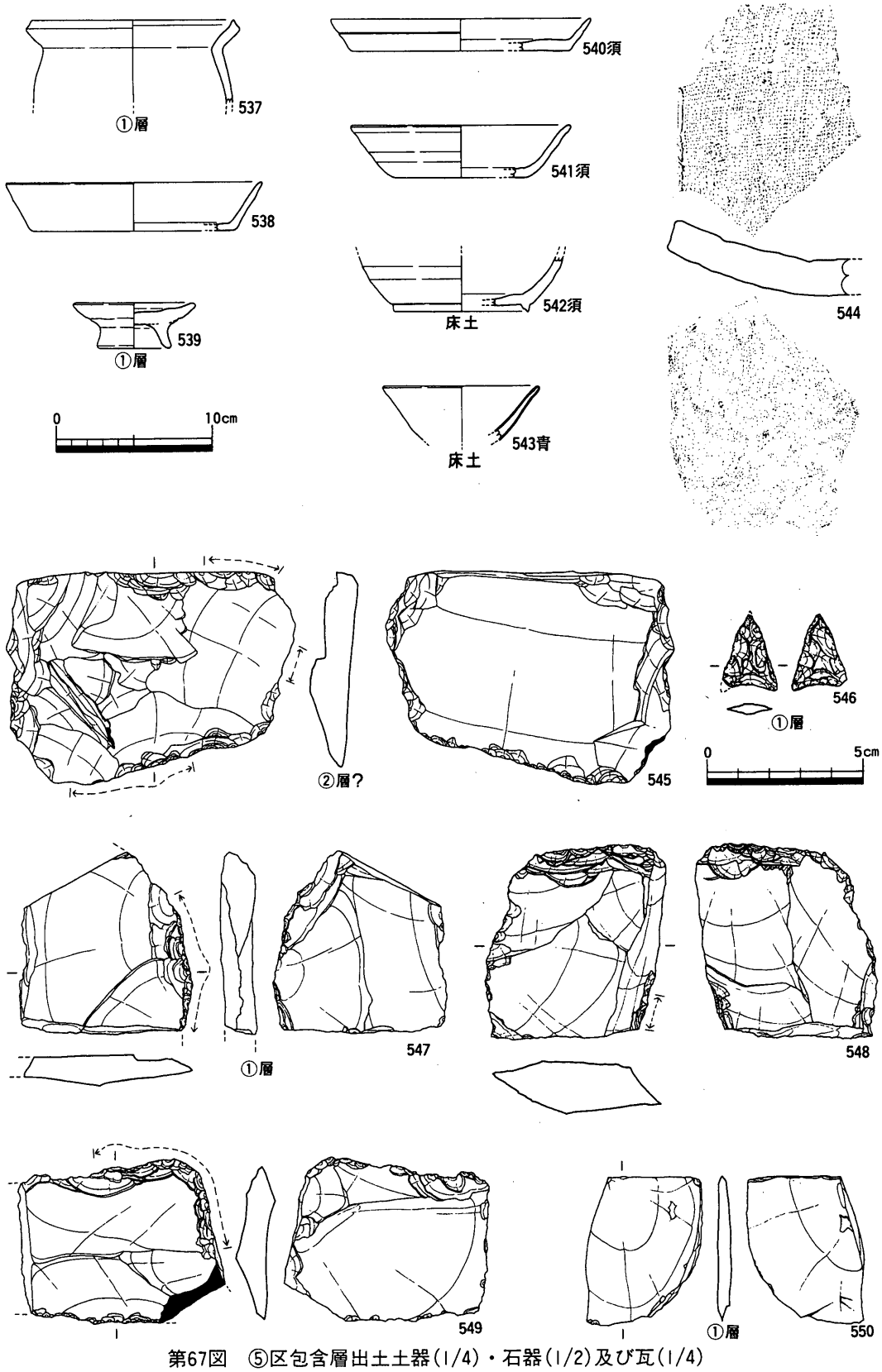
523は扁平片刃石斧の未製品と考えられるが，4側面ともに擦り切り技法による溝状切断痕及び摩擦による線条痕が残存している。第65図528はスクレイパーとしたが，図の上下の刃部を刃側部とする石鏃の未製品の可能性も考えられる。529は白色風化の進んだ剝片を後世再加工したものである。531は剝離面の色調は現代の折損によるものに近い色調の黒色を呈する。比較的新しい時期のものであり，混入品と考えられる。

④区包含層①層は②区包含層①②層に対応する。また④区包含層②層は②区包含層③層に対応する。出土した遺物は石器のみである。第66図534は512と同様に白色風化とは異なる風化の進んだものである。536は出土層位不明の石器である。

⑤区包含層①層は④区包含層①層に対応する。出土遺物のうち，第67図549は調査区壁面で採集したもので，ＳＤ32より古い層から出土した。層名のついていない出土遺物は出土層位不明である。538・544は試掘調査時に出土したもので，出土層位は不明である。544は当遺跡では唯一の中世以前のものと考えられる瓦である。548は縦長剝離面に一部小剝離が認められるものの，意図的な剝離かどうかは疑問の残ることから，ここでは楔形石器としておく。



第66図　④区包含層出土石器(1/2)



第67図　⑤区包含層出土土器(1/4)・石器(1/2)及び瓦(1/4)

第4節　自然科学調査の成果

1　飯野・東二瓦礫遺跡から出土した柱の樹種（図版67）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

香川県では，高松平野や丸亀－坂出平野など，主として海岸平野に位置する遺跡において，発掘調査で出土した木製品の樹種同定が行われてきた（島地・林，1990；能城・鈴木，1990a；パリノ・サーヴェイ株式会社，1993　など）。また，古植生や可食植物の検討が，永井遺跡，林・坊城遺跡，郡家一里屋遺跡等で行われている（能城・鈴木，1990b；古市，1990；パリノ・サーヴェイ株式会社，1993a，1993b）。これらの調査により，県内における各時代の植生や人間の植物利用の状況が明らかになりつつある。とくに，木材利用の検討に関しては，現在の香川県で自生地が限られるコウヤマキが多くの遺跡で確認され，過去の植生，生業活動，流通等を考える上で興味ある結果が得られている。

本報告では，飯野・東二瓦礫遺跡から出土した鎌倉時代頃とされる柱材の樹種を明らかにし，柱材の用材選択について検討する。

1．試　料

試料は，鎌倉時代頃と考えられる柱穴から出土した柱材4点である（試料番号①～④）。

2．方　法

剃刀の刃を用いて，試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し，ガム・クローラル（抱水クローラル，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し，プレパラートを作製した。作製したプレパラートは，生物顕微鏡で観察・同定した。

3．結　果

試料は，①および④がヒノキ属の一種，②および③がマツ属複維管束亜属の一種にそれぞれ同定された(第7表)。各種類の主な解剖学的特徴および現世種の一般的性質を以下に記す。なお，学名・和名は「原色日本植物図鑑　木本編＜II＞」（北村・村田，1979）にしたがい，一般的性質については「木の事典　第6巻」（平井，1980）も参考にした。

第７表　樹種同定結果

試料番号	柱穴の番号	用途	時　代	樹　種　名
①	②区SP003	柱材	鎌倉時代頃	ヒノキ属の一種
②	②区SP160	柱材	鎌倉時代頃	マツ属複維管束亜属の一種
③	②区SP168	柱材	鎌倉時代頃	マツ属複維管束亜属の一種
④	②区SP526	柱材	鎌倉時代頃	ヒノキ属の一種

・マツ属複維管束亜属の一種 (Pinus subgen. Diploxylon sp.)　　**マツ科**

早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで，晩材部の幅は広く，年輪界は明瞭。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織は仮道管，柔細胞とエピセリウム細胞よりなり，分野壁孔は窓状，仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列，１～15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

複維管束亜属（いわゆる二葉松類）には，アカマツ (Pinus densiflora sieb. et Zucc.)，クロマツ (P. thunbergii Parlatore)，リュウキュウマツ (P. luchuensis Mayr) の３種がある。アカマツとクロマツは本州・四国・九州に分布するが，クロマツは暖地の海沿いに多く生育し，また古くから砂防林として植栽されてきた。リュウキュウマツは琉球列島特産である。材は重硬で強度が大きく，保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途が知られている。

・ヒノキ属の一種 (Chamaecyparis sp.)　　**ヒノキ科**

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で，晩材部の幅は狭く，年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され，細胞壁は滑らか，分野壁孔はヒノキ型で１～４個。放射組織は単列，１～15細胞高。

ヒノキ属には，ヒノキ (Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.) Endlcher) とサワラ(C. pisifera (Sieb. et Zucc.) Endlcher)の２種がある。ヒノキは本州(福島県以南)・四国・九州に分布する。材はやや軽軟で加工は容易，割裂性は大きいが，強度・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州（岩手県以南）・九州に自生する。材は軽軟で割裂性は大きく，加工も容易，強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため，樽や桶にするほか各種の用途がある。

4．考　察

柱材には複維管束亜属とヒノキ属が用いられていることが明らかとなった。この2種類は，柱材としての出土例が比較的多く知られている。(島地・伊東，1988；伊東，1990)。とくにヒノキ属はすでに日本書紀の素戔嗚尊の説話の中で宮殿の柱材に適しているとされ，記述と同様の用材選択が実際に行われていたことが平城宮等の調査により明らかにされている（伊東・島地，1979；島地ほか，1980；奈良国立文化財研究所，1985)。また，寺院等の構築材にもヒノキ属は多数認められ(嶋倉，1970)，古くからの柱材等の構築材に使用されてきたことが示唆される。香川県内では，これまでにヒノキ属の柱は出土例がないが，ヒノキ属の木材は各時代を通して多数認められており（島地・林，1990；能城・鈴木，1990a)，様々な用途に使用されていたことが推定される。ヒノキ属が構築材として適した木材であることを考慮すれば，柱材等の構築材にも多数使用されていたことが推定される。

香川県内では，これまでに5遺跡（太田下・須川遺跡，郡家一里屋遺跡，川津中塚遺跡，東山崎・水田遺跡，郡家大林上遺跡）から出土した古墳時代～近世の柱材23点について樹種同定が行われている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1995，1993，1995，1992，1995)。これらの樹種同定結果（第8表）をみると，柱材には10種類の木材が使用され，複維管束亜属が最も多い。また，針葉樹（複維管束亜属，単維管束亜属近似種，モミ属，スギ，コウヤマキ，マキ属，カヤ）の使用例が多く，今回についてもこれまでと調和的な結果といえる。これらの結果から，香川県における柱の使用樹種は，複維管束亜属を中心とした針葉樹材が多く使用されていたことが推定される。しかし，未だ資料が少なく傾向把握に至らない。今後さらに同定資料の蓄積が必要で

第8表　香川県における柱材の樹種

時代	古墳時代		古代		中世	近世			合計
遺跡名 / 樹種名	太田下・須川	郡家一里屋	郡家一里屋	川津中塚	郡家大林上	郡家一里屋	東山崎・水田	郡家大林上	
複維管束亜属		1	1			2	4		8
単維管束亜属*							3		3
モミ属							1		1
スギ				1					1
コウヤマキ		1							1
マキ属					1				1
カヤ								1	1
クヌギ節	1			1					2
コナラ節	1						1		2
サクラ属							1		1
不明							2		2
合　計	2	2	1	2	1	2	12	1	23

＊のついている樹種は近似種

ある。また，柱の用材は時代，建物の性格・用途，使用者の階級等によっても異なっていた可能性があり，用材選択の解明にはこれらの情報とあわせた解析が必要である。

<引用文献>

古市光信（1990）善通寺市永井遺跡（縄文時代）産出の植物遺体（種子）について．「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第九冊　永井遺跡」，p.814-822，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団．

平井信二（1980）木の事典　第6巻．かなえ書房．

北村四郎・村田　源（1979）原色日本植物図鑑　木本編<II>．545p.，保育社．

伊東隆夫（1990）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途II，木材研究・資料，26，p.91-189.

伊東隆夫・島地　謙（1979）古代における建造物柱材の使用樹種．木材研究・資料，14，p.49-76.

奈良国立文化財研究所（1985）木製品．奈良国立文化財研究所学報第42冊「平城宮発掘調査報告XII」，p.19-125.

能城修一・鈴木三郎（1990a）昭和63年度調査の分析委託結果．「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書VII　下川津遺跡　－第2分冊－」，p.533-557，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団．

能城修一・鈴木三郎（1990b）善通寺市永井遺跡の木材化石群集．「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第九冊　永井遺跡」，p.823-864，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団．

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1992）木製品の樹種．「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第1冊　東山崎・水田遺跡」，p.358-368，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局．

（1993a）花粉分析とプラント・オパール分析．「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第2冊　林・坊城遺跡」，p.239-263，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局．

（1993b）郡家一里屋遺跡出土木材等分析業務報告．「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第十二冊　郡家一里屋遺跡」，p.227-230，香川県教育委員会・㈶香

川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団.
(1995) 太田下・須川遺跡から出土した木製品の樹種.「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第4冊　太田下・須川遺跡」, p.232-238, 香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局.
(1995) 龍川四条遺跡出土木製品の樹種（付載：川津中塚遺跡出土木製品の樹種).「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第十五冊　龍川四条遺跡」, P.198-203, 香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団.
(1995) 郡家大林上遺跡出土木製品の樹種「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第十七冊　郡家大林上遺跡」, p.69-71, 香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団.
島地　謙・林　昭三 (1990) 昭和61年度調査の分析委託結果.「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ　下川津遺跡　－第2分冊－」, p.520-532, 香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団.
島地　謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 296p., 雄山閣.
島地　謙・伊東隆夫・林　昭三 (1980) 古代における宮殿・官衙の使用樹種. 古文化財編集委員会編「考古学・美術史の自然科学的研究」, p249-260, 日本学術振興会.
嶋倉巳三郎 (1970) 大和古代木材考 (第2報). 奈良教育大紀要 (自然), 19(2), p.111-118.

＊引用文献については，パリノ・サーヴェイ株式会社の分析調査報告書納品後，発行が明らかとなったものについて，当センターの編集で追加修正した。

2　丸亀平野における遺跡の立地と環境　その2

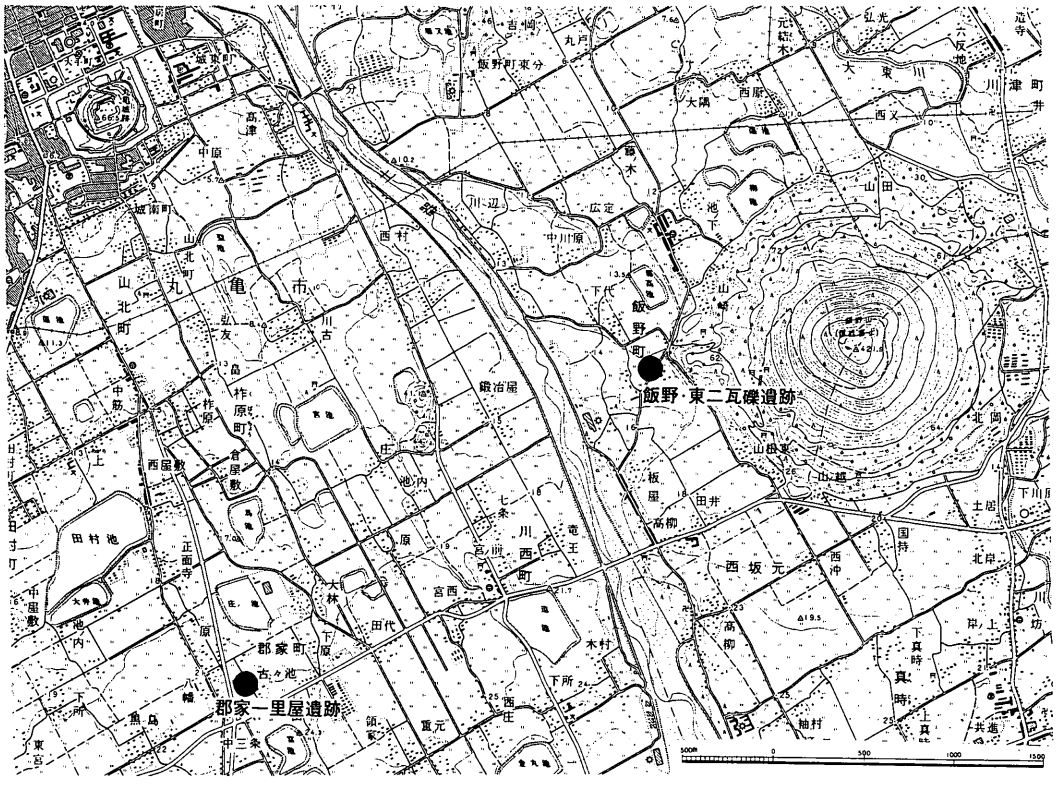
――郡家一里屋遺跡，飯野・東二瓦礫遺跡――

帝京大学山梨文化財研究所　　外　山　秀　一*

1．はじめに

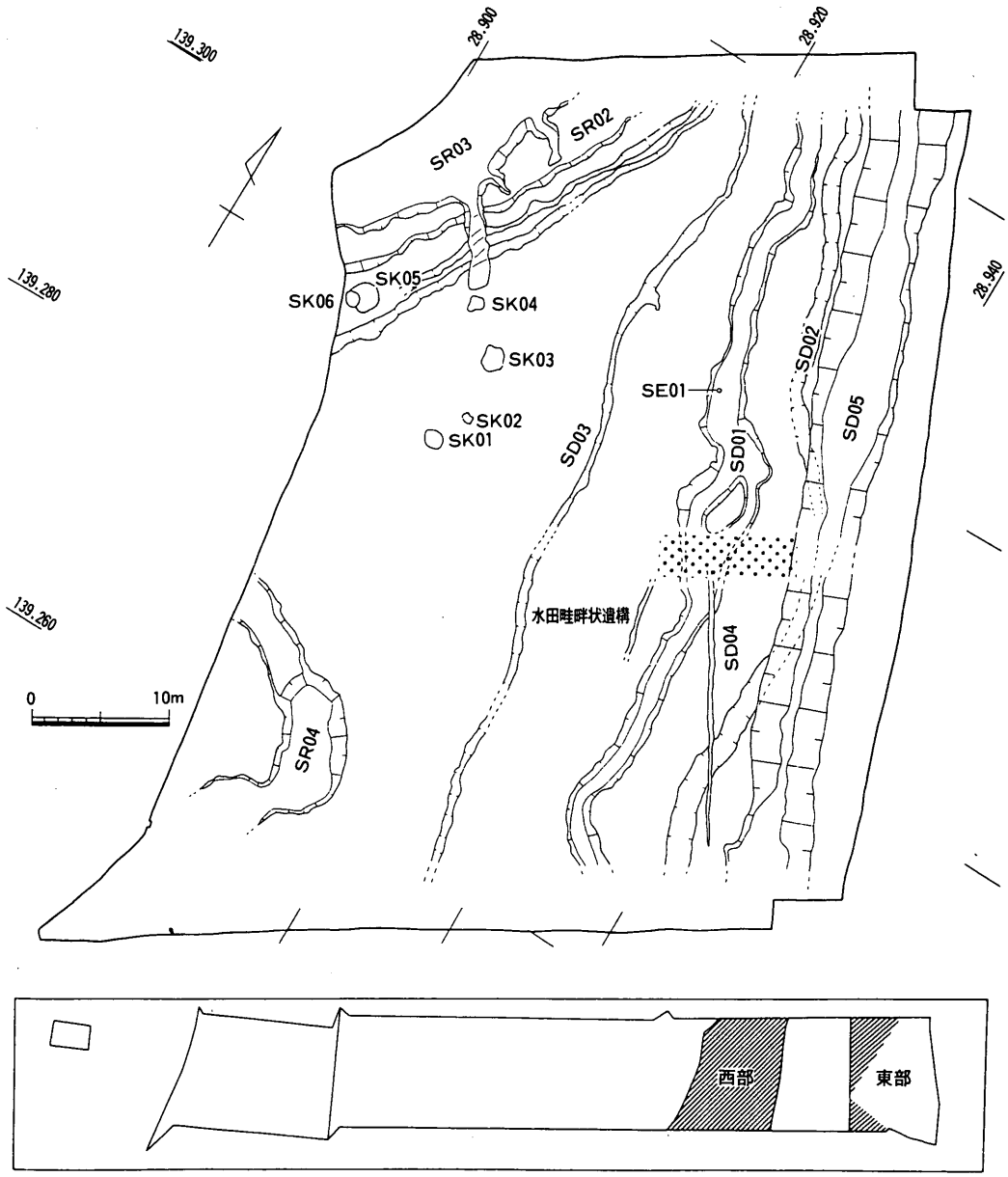
丸亀平野の扇状地性の低地には，旧河道や浅谷状の微凹地が細長く帯状に連続して発達するとともに，自然堤防状や中州状の微高地が点在している[1]。また，丸亀平野では南北線が約30°西偏する条里地割がよく残り，とりわけ土器川と金倉川間の低地に広く分布する[2]。四国横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は，こうした丸亀平野の10ヵ所を超える遺跡で進められており，そのうち郡家一里屋遺跡と飯野・東二瓦礫遺跡において調査・分析の機会が得られた。

*現在，皇学館大学。



第68図　位置図（国土地理院1/25,000　丸亀図幅　1974年発行を60%縮小）

郡家一里屋遺跡は土器川と金倉川のつくる扇状地性低地のほぼ中央部に位置し，周辺には方画地割上に皿池が数多くみられる。他方，飯野・東二瓦礫遺跡は讃岐富士としても知られる飯野山の西方にあたり，土器川右岸の自然堤防の縁辺部に立地している（第68図）。



第69図　遺構図（郡家一里屋遺跡―香川県埋蔵文化財調査センター『郡家一里屋遺跡』第10図に加筆，アミ部分は第70図の断面図の範囲）

両遺跡の立地とその環境を明らかにするために，花粉分析ならびにプラント・オパール分析を実施した。ここでは，分析の結果や地層の堆積状況，発掘調査の成果などに基づき，両遺跡の植生環境と土地条件，土地利用の変化について報告する。

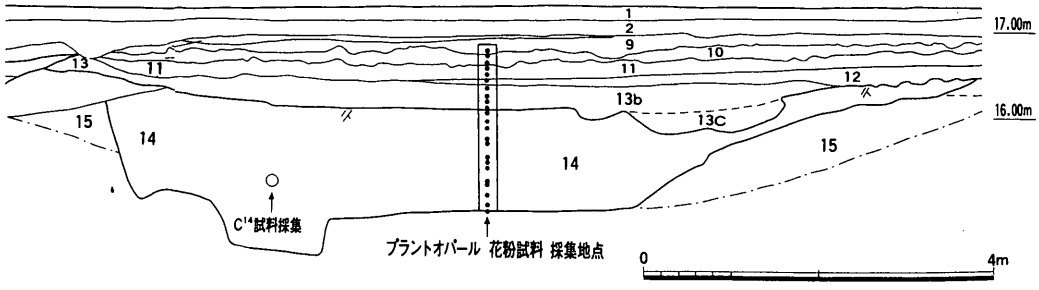
2．地層の堆積状況と試料の採取

郡家一里屋遺跡と飯野・東二瓦礫遺跡における地層の堆積状況と試料の採取状況を，第9表と第10表に示す。

a)　郡家一里屋遺跡

当遺跡の発掘調査区のうち，Ⅳ区の西側は事前調査において作成された10cm等高線図[3]によると微凹地となっているところであるが，発掘調査の結果，ほぼ南北方向に走る幅約10mの河道跡や溝状遺構が検出されている（第69図）[4]。当遺跡では，こうした旧河道の埋積層を分析の対象とした（第70図）。地表面下30cm～230cmまでの地層は16層に細分されるが，これは概ね上部のシルト層と中部の粘土層，そして下部のシルトならびに砂層に分けられる。上部では酸化鉄やマンガンを含有し土壌化が顕著であるのに対し，中部ならびに下部では植物片や材化石を多量に混入し，このうち10層と11層は未分解の木本質泥炭である。なお，発掘調査によると，7層上面からは奈良時代，9層中からは弥生時代中期後半に比定される土器片が出土している[5]。

なお，植生環境や土地条件の変化，土地利用の状況を明らかにするために，花粉分析用の試料は各層の下部より，プラント・オパール分析用の試料は上部より，また層厚のある場合は上部と下部より，それぞれ23計46を採取した。



第70図　断面図（郡家一里屋遺跡―香川県埋蔵文化財調査センター『郡家一里屋遺跡』第150図に加筆）

標高m	深度cm	層名	地層対比	層　　相	（含　有）	試料番号
17.0		1	9	暗褐灰色　砂質シルト	酸化鉄・マンガン	①
	10	2	10	暗褐灰色　シルト	酸化鉄・マンガン	②③
	25	3	11	暗茶灰色　砂混じりシルト	酸化鉄・マンガン	④
	33	4		暗茶灰色　砂混じりシルト	酸化鉄	⑤
	45	5	12	暗茶灰色　細礫混じり砂質シルト	酸化鉄・マンガン	⑥
	52	6	13b	暗灰色　シルト	酸化鉄	⑦⑧
	70	7		黒灰色　粘土質シルト	植物片	⑨⑩
	87	8	14	暗黄灰色　砂混じりシルト		⑪
	102	9		暗褐色　シルト質粘土	植物片	⑫
16.0	109	10		黒褐色　腐植質粘土	材化石	⑬⑭
	130	11		暗褐灰色　腐植質粘土	植物片・材化石	⑮⑯
	152	12		暗茶灰色　腐植質粘土	材化石	⑰
	158	13		暗茶灰色　砂・細礫混じりシルト	材化石	⑱⑲
	180	14		暗灰色　シルト	材化石	⑳
	191	15		暗灰色　砂・シルト互層	植物片	㉑㉒
15.0	213	16		暗灰色　細砂		㉓

第９表　試料採取地点の地層の堆積状況（郡家一里屋遺跡）

標高m	深度cm	層名	層　　相	（含　有）	試料番号
		1	茶灰色　砂質シルト	酸化鉄	
	27	2	暗茶灰色　礫混じり砂質シルト	酸化鉄	①
	42	3	暗茶灰色　砂混じりシルト	酸化鉄・マンガン	②
11.5	53	4	暗褐灰色　礫混じり砂質シルト	酸化鉄	③
	62	5	暗褐灰色　シルト	酸化鉄	④
	67	6	褐灰色　シルト	酸化鉄・マンガン	⑤
	75	7	褐灰色　粘土質シルト		⑥
	84	8	褐灰色　砂質シルト		⑦

第10表　試料採取地点の地層の堆積状況（飯野・東二瓦礫遺跡）

b)　飯野・東二瓦礫遺跡

地表面下約100cmまでの地層は8層に細分される。全般的には，シルト層を主体として砂や細礫，粘土を混じえる。1～6層までは酸化鉄の集積がみられ，一部にマンガン塊を含む。プラント・オパール分析用の試料は，2～8層の各上部より採取した*。

*土壌資料の採取位置は，第74図に示した（財団法人香川県埋蔵文化財調査センター）。

3．分析の方法

a)　花粉分析

花粉分析用の試料の処理は，5% KOH 処理－遠心分離による細粒物質の除去－フッ酸処理－重液（$Zncl_2$，比重約2.00）分離－アセトリシス処理の順序でおこない，残渣にグリセリンゼリーを加えてプレパラートを作成した。

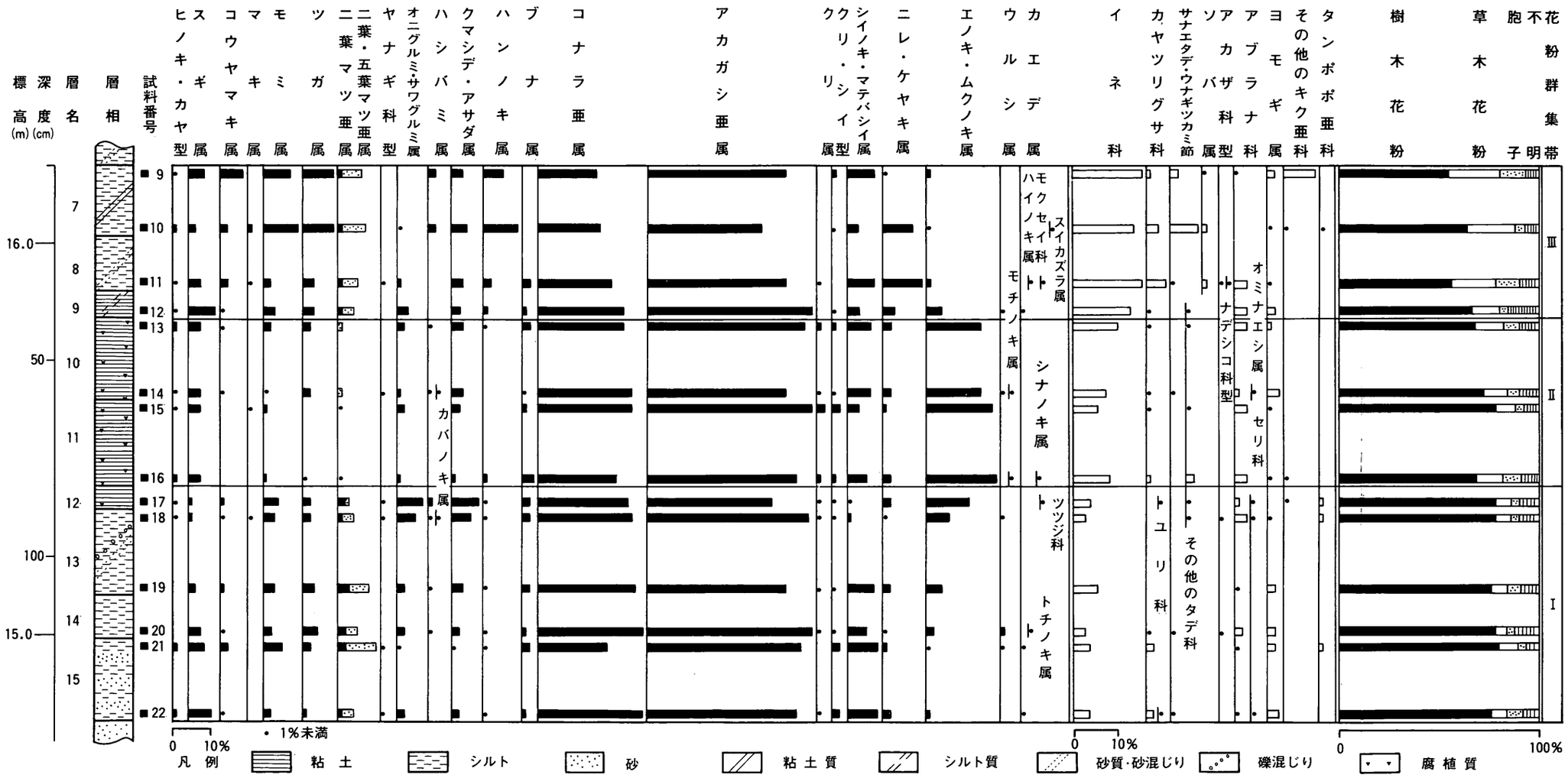
花粉化石の分類学的検討は，400倍ないし600倍の生物顕微鏡下でおこない，樹木花粉が300個以上になるまで計測した。花粉の出現率の算出は，樹木花粉についてはその総数を，草本花粉については全花粉総数を基数として百分率で求めた。また，花粉化石と胞子化石，その他不明なものについては，検出総数を基数とした。花粉化石の相対的な出現傾向を，第71図に示す。

b)　プラント・オパール分析

プラント・オパール定量分析法による試料の処理は，絶対乾燥－重量測定・仮比重測定－ガラス・ビーズの混入－ホモジナイザーよる分散－ストークス法による細粒物質の除去－乾燥の順序でおこない，オイキット液によりプレパラートを作成した。プラント・オパールの分類学的検討は，400倍ないし600倍の偏光顕微鏡下で，主にイネ科草本類の機動細胞プラント・オパールの形態分類に基づいておこなった。

そして，検出されたガラス・ビーズとプラント・オパールとの比率から，試料1ｇおよび1ccあたりのプラント・オパールの個数ならびに総数を算出した。さらに，イネ，ヨシ属，ウシクサ族ならびにタケ亜科の地上部全ての重さ（乾物重）を，層厚1cm・面積10ａあたりの検出量で示した。

分析の結果を，第72図と第73図のＡ（検出数）とＢ（検出量）に示す。



第71図　郡家一里屋遺跡花粉分析結果

4．結　果

a)　花粉分析

主に，樹木花粉の層位的な出現傾向に基づいて，花粉化石群集帯を下位よりⅠ帯～Ⅲ帯に設定した。なお，16層（試料23）は細砂層からなり，検出される花粉化石は極めて少ない。また，1層～6層の試料1～8では炭化物が多数みられる一方で，花粉化石の検出数は下位層準にくらべて極端に減少し，また試料1ではマツ属をはじめとする特定の花粉化石のみが検出される傾向にある。このため，それらは統計処理には不適と考えられ，ダイアグラムとして示すことはできなかった。こうした地層では，酸化鉄やマンガンの集積がみられることから，各層堆積後に酸化や土壌化作用を受け，花粉化石の多くは分解・消失したと考えられる。

各花粉化石群集帯の特徴は，以下のとおりである。

Ⅰ帯（試料17～22）

樹木花粉では，コナラ属のアカガシ亜属とコナラ亜属に代表され，前者は40％前後の高い出現率を示す。また，スギ属やモミ属，ツガ属，マツ属などの針葉樹花粉が安定して出現する。さらに，オニグルミ・サワグルミ属，クマシデ・アサダ属，エノキ・ムクノキ属などの落葉広葉樹花粉が上部の試料17と18で増加する。これに対して，シイノキ・マテバシイ属は減少傾向を示す。

他方，草本花粉ではイネ科が5％前後の出現率をみる。その他，アブラナ科やヨモギ属などが僅かに検出される。

Ⅱ帯（試料13～16）

アカガシ亜属とコナラ亜属はⅠ帯と同様の傾向を示すが，Ⅱ帯では検出される花粉化石の種類が限られる。すなわち，モミ属やツガ属，マツ属とともに，Ⅰ帯上部で増加傾向を示したオニグルミ・サワグルミ属，クマシデ・アサダ属が減少する。その一方で，エノキ・ムクノキ属が増加し，僅少ではあるがシイノキ・マテバシイ属も同様の傾向を示す。

草本花粉では，イネ科が僅かながら増加し，以後安定した出現傾向を示す。

Ⅲ帯（試料9～12）

全般的には樹木花粉に対して草本花粉と胞子化石のしめる割合が高くなる。Ⅰ帯とⅡ帯で高い出現率を示したアカガシ亜属とコナラ亜属に加えてエノキ・ムクノキ属が減少し，かわってⅡ帯で減少したモミ属・ツガ属・マツ属などの針葉樹花粉が増加する。ま

た，試料10と11ではニレ・ケヤキ属が一時的な増加をみせ，上部の試料９と10ではハンノキ属が増える。

これに対して，草本花粉は漸増傾向を示し，なかでもイネ科が優占するとともにカヤツリグサ科が僅かながら増える。また上部の試料10ではサナエタデ・ウナギツカミ節が，さらに試料９ではその他のキク亜科の増加がみられる。加えて，単条型や三条型，ウラボシ科型などの胞子化石の占める割合が高くなる。

b)　プラント・オパール分析

1)郡家一里屋遺跡

主に機動細胞プラント・オパールの層位的な検出状況に基づき，また土地条件や土地利用の変化を踏まえて，プラント・オパール群集帯を下位よりａ帯～ｄ帯に区分し，さらにｄ帯をｄ$_1$帯～ｄ$_5$帯に細分した。各帯の特徴は以下のとおりである。

ａ帯（試料23）

全般的に検出数と量は少なく，ネザサ節型をはじめとするタケ亜科が僅かに検出されるのみである。

ｂ帯（試料17～22）

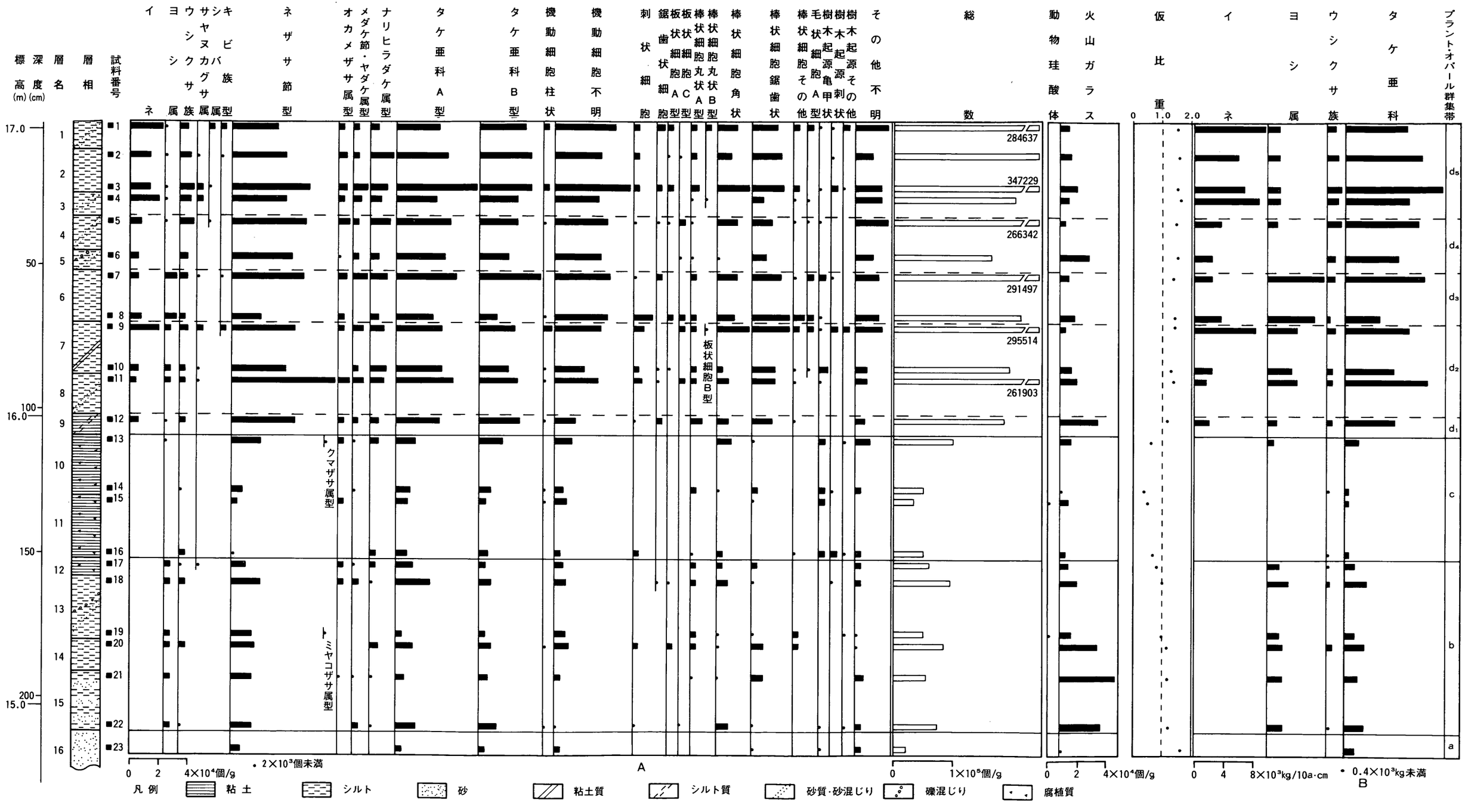
検出数と量が微増し，ヨシ属とタケ亜科が少ないながらも安定した出現傾向を示す。

ｃ帯（試料13～16）

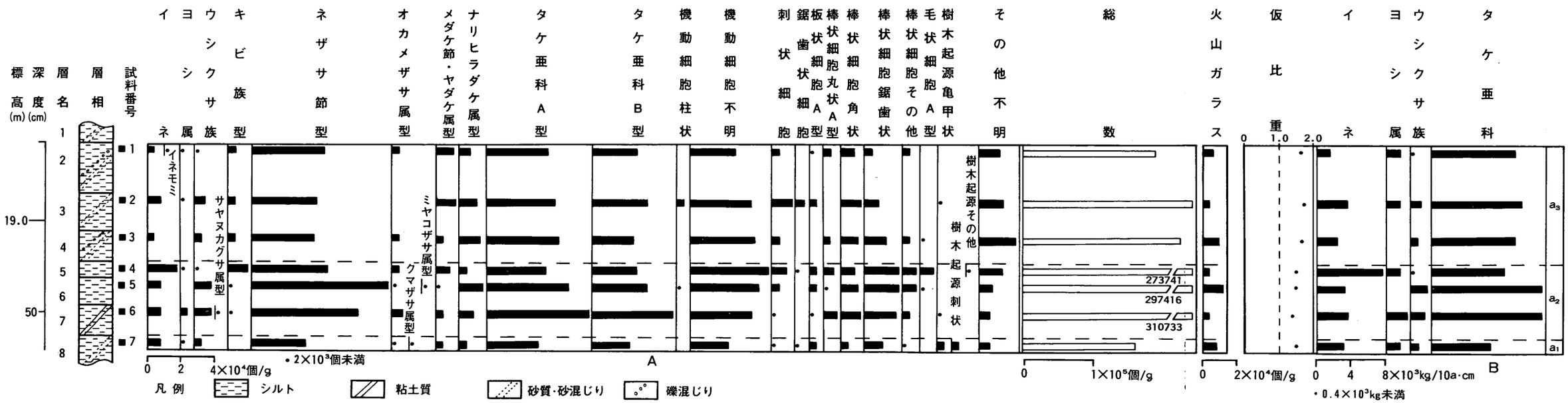
検出数と量が減少するなかで，樹木の広葉樹起源とみられる亀甲状のプラント・オパールが僅かながら検出される。

ｄ帯（試料１～12）

ｄ$_1$帯（試料12）ではタケ亜科をはじめとして検出数と量が僅かに増加するとともに，イネが検出される。ｄ$_2$帯（試料９～11）になると，検出数と量が急増する。また，上部の試料９ではイネが一時的に増加する。ｄ$_3$帯（試料７・８）ではイネが減少する一方で，ヨシ属がさらに増加する。ｄ$_4$帯（試料５・６）になるとヨシ属が減少する。ｄ$_5$帯（試料１～４）では，イネが増加するとともにタケ亜科が高い検出量を示し，全般的には安定した出現傾向となる。



第72図　郡家一里屋遺跡プラント・オパール分析結果



第73図　飯野・東二瓦礫遺跡プラント・オパール分析結果

2) 飯野・東二瓦礫遺跡

全般的には安定した出現傾向を示し，プラント・オパールの検出数と量に大きな変化はみられない。プラント・オパール群集帯はａ帯のみであるが，検出総数の違いやイネの出現傾向により，a_1帯～a_3帯に細分される。

a_1帯（試料７）では，タケ亜科をはじめとしてイネ，ヨシ属，ウシクサ族が僅かながら検出される。a_2帯（試料４～６）になるとタケ亜科が増加し，以後安定した出現傾向を示す。とりわけ試料５・６ではネザサ節型が高出現し，またそれはプラント・オパールの検出総数にも反映している。さらにイネが試料４で一時的に増加をみせる。a_3帯（試料１～３）では検出総数は僅かに減少するものの，各プラント・オパールは安定した出現傾向を示す。

5．考　察

a) 郡家一里屋遺跡の環境の変化

当遺跡の発掘区のうち，Ⅰ区，Ⅱ区，Ⅴ区は旧中州状の微高地，Ⅲ区東部からⅣ区西部にかけては旧河道にあたる[6]。扇状地性の低地を東西方向に横断して進められる発掘調査においては，こうした微地形の配列のみられることが多い。ここでは，分析の結果設定された花粉化石とプラント・オパール群集帯の特徴に基づき，当遺跡およびその近辺の環境変化を明らかにする。

ａ帯（16層層準）

16層は細砂層からなり，プラント・オパールの検出量は極めて少ない。分析の対象とした試料は河床堆積物あるいは河道底を埋積した洪水層とみられ，一時的な土砂の供給を受けていたような不安定な土地条件が考えられる。

Ⅰ帯－ｂ帯（12～15層層準）

アカガシ亜属をはじめとする常緑広葉樹に加えて，コナラ亜属に代表される落葉広葉樹の混在する植生に特徴づけられる。こうした植生環境はその後も当遺跡近辺において継続しており，比較的温暖な気候が続いたと推定される。また，プラント・オパールの検出量は増加傾向を示すものの，やや不安定な状況はその後も変わらない。12～14層では材化石を混入するが，マトリックスは細砂ならびにシルトでラミナが発達し，またプラント・オパールの検出数と量も少ないことから，各層は一時期に堆積したと考えられる。

なお，旧河道内での土器の出土はなく，地層の時期を決定する資料を欠くが，河道内の流木の^{14}C年代測定結果は4440±85yB.P.であり[7]，花粉分析ならびにプラント・オパール分析の結果は，こうした時期前後の遺跡近辺の植生環境を示しているとみられる。

II帯－c帯（10・11層層準）

10層と11層層準は，植物片や材化石を多量に混入する木本質泥炭である。このことは同層準で草本類のプラント・オパールが減少することからも伺え，さらに仮比重の低さにも示されている(第72図)。花粉分析の結果，検出される花粉化石の種類は限られるが，エノキ・ムクノキ属が一時的に増加することから，主に同属に由来する材化石によって旧河道の一部が埋積されたものであろう。

III帯－d_1・d_2帯（7～9層層準）

樹木類はI帯とほぼ同様の出現傾向を示すが，草本類ではイネ科が増加する。プラント・オパールでは8層層準よりイネ科草本類の検出数ならびに検出量が増える。このうち，7層と8層層準でみられるヨシ属は河道内のやや低湿な状況を，タケ亜科は近辺の中州状の微高地の高燥な状況を反映しているものとみられる。

また，イネが9層層準より検出され7層上部で一時的な増加を示しており，同層の上面が旧耕地面と推定される。こうしたことから，花粉化石にみられるイネ科草本類の多くは，雑草類の増加に加えて，稲の栽培にも起因していると考えられる。9層層準からは弥生時代中期後半の土器が出土しており，河道跡はかかる時期以降生産域に変わっていった。また，旧中州状の微高地からは掘立柱遺構や土坑などが多数検出されていることから，旧河道両岸の微高地の居住域と河道跡の生産域といった微地形の違いと生活域との関わりがみてとれる。

なお，郡家一里屋遺跡における稲作の開始期の詳細については不明であるが，初期のイネ資料は香川県内の他の遺跡と同様に，扇状地を開析する旧河道において検出されており，こうした微凹地が稲作開始当初の重要な生産の場であったことが伺える[8]。

d_3帯～d_5帯（1～6層層準）

6層層準では，7層・8層層準と同様にやや低湿な状況であったが，この時期までに河道跡は埋積を終えたとみられ，その後4層・5層層準になると徐々に高燥化していった。こうした状況は1～3層層準でさらに顕著となり，比較的高燥で安定した環境が長期にわたって継続し，そうしたなかで稲が栽培されたとみられる。

なお，7層中からはイネのプラント・オパールが多量に検出されているが，その上面では8世紀後半までに形成された畦畔状遺構が一条検出されているのみである。また，1～3層においても同様に稲作遺構はみられない。地層の堆積状況すなわち酸化鉄やマンガンの集積，土壌化の状況，さらにはイネのプラント・オパールの検出状況などを踏まえると，安定した土地条件のもとで長期にわたり同一地表面上で耕作が繰り返されている。したがって，イネが検出されているにもかかわらず，各時期の稲作遺構はその後の耕作による攪乱を受けたために確認が困難であったとみられる。なお，同様の状況は高松平野においてもみられ[9]，扇状地内の微凹地の高燥化とそこでの開発ならびにその時期を考える上で興味深い。

また，こうしたことが花粉化石の分解・消失の原因になったと考えられる。III帯上部の試料9で花粉膜の厚い種類が数多く検出されることも，上記の点を示唆している。

以上のように，旧河道内の地層の堆積状況や花粉分析とプラント・オパール分析の結果を踏まえると，下部の10～16層層準と上部の1～9層層準に2分される。旧河道底は洪水層や植物片，材化石により比較的短い間に埋積されやや低湿な状況であったが，その後河道跡は徐々に埋積されるような環境となり，安定して高燥な土地条件となっていった。また，第72図のイネの検出量ならびにプラント・オパールの総数にみられるように，それは細分された各層の上部ほど増加する傾向にある。このことは，各層の堆積後に地表面が安定していたことを示しており，稲をはじめとする作物の栽培が比較的長期にわたり営まれたものとみられる。

ところで，郡家一里屋遺跡においては火山ガラスが全層から検出され，とりわけ9層の試料12と15層の試料21で一時的な増加を示す(第72図)。各層の詳細な時期については不明であるが，当遺跡ではテフラが検出され，火山ガラスの屈折率からアカホヤ火山灰とＡＴ（姶良 Tn 火山灰）が確認されている[10]。また，IV区の試料採取地点より約10m東にはＡＴの堆積層があり，旧河道は同層を切って形成されていることから，両層準でピークを示す火山ガラスはいずれもその二次堆積とみられる。

b)　飯野・東二瓦礫遺跡の土地条件と土地利用

飯野・東二瓦礫遺跡の7試料のプラント・オパール分析の結果，その群集帯はa_1帯～a_3帯に細分されたが，全般的には各プラント・オパールの安定した出現傾向に特徴づ

けられる。こうした出現状況から，土器川の溢流堆積物によって自然堤防が形成されるごとに徐々に安定して高燥な土地条件となり，その縁辺部にあたる当遺跡では稲作が営まれた。

なお，当遺跡の分析の結果は，郡家一里屋遺跡のd_4帯やd_5帯と同様の傾向を示している。両者の地層の堆積時期の詳細については不明であるが，各地におけるプラント・オパールの出現傾向と比較すると，歴史時代の比較的新しい時期とりわけ中世以降の状況を示していると推察される[11]。

6．おわりに

花粉分析とプラント・オパール分析その他の成果を踏まえて，郡家一里屋遺跡と飯野・東二瓦礫遺跡における植生環境や土地条件，土地利用など，両遺跡の立地環境についてその概要を述べた。

扇状地ならびに扇状地性低地の環境復原の際には，郡家一里屋遺跡にみられるように，河道跡や浅谷を埋積する地層が貴重な情報を提供してくれる。香川県内の各平野においても同様の地形と地層の堆積状況がみられ，こうした微凹地での調査と分析が今後ますます重要となる。

註

（1） 外山秀一(1993)「丸亀平野における遺跡の立地と環境　その１－植物化石による環境の復原－」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『郡家一里屋遺跡』

（2） 金田章裕(1988)「条里と村落生活」香川県『香川県史　第１巻　通史編　原始・古代』

（3） 木下晴一(1990)「丸亀低地の微地形－発掘調査成果を中心に－（予報）」香川地理学会会報　10号

（4） 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター(1993)『郡家一里屋遺跡』（四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第12冊）香川県埋蔵文化財研究会

（5） 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　木下晴一氏のご教示による。

（6） 前掲（4）

（7） 社団法人日本アイソトープ協会「年代測定結果報告書」前掲（4）

（8） 前掲（1）

（9） 外山秀一(1992)「弘福寺領山田郡田図比定地周辺の遺跡の立地環境」高松市教育委員会『讃岐国弘福寺領の調査』（弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書）

（10） 河西　学(1993)「郡家一里屋遺跡IV区のテフラ層」前掲（4）
京都フィッショントラック(1993)「郡家一里屋遺跡土壌中火山灰抽出分析報告書」前掲（4）

（11） 外山秀一(1992)「地理学におけるプラント・オパール分析の応用」立命館地理学　第４号

図版68

写真1．花粉化石・胞子化石

1．スギ属
2．スギ属
3．モミ属
4．モミ属
5．ツガ属
6．二葉マツ亜属
7．オニグルミ・サワグルミ属
8．カバノキ属
9．クマシデ・アサダ属
10．クマシデ・アサダ属
11．ブナ属
12．ブナ属
13．ハンノキ属
14．コナラ亜属
15．アカガシ亜属
16．アカガシ亜属
17．シイノキ・マテバシイ属
18．シイノキ・マテバシイ属
19．ニレ・ケヤキ属
20．ニレ・ケヤキ属
21．エノキ・ムクノキ属
22．エノキ・ムクノキ属
23．アブラナ科
24．セリ科
25．ヨモギ属
26．その他のキク亜科
27．三条型胞子

＊撮影時倍率11・17・18・24・25-300倍，3・4・5-100倍，その他200倍

図版69

写真2．プラント・オパール

1．イネ
2．イネ
3．イネモミ
4．ヨシ属
5．ヨシ属
6．サヤヌカグサ属
7．ネザサ節型
8．ネザサ節型
9．ネザサ節型
10．ネザサ節型
11．ミヤコザサ節型
12．メダケ節・ヤダケ属型
13．その他のタケ亜科A型
14．その他のタケ亜科B型
15．機動細胞不明
16．板状細胞A型
17．棒状細胞角状
18．棒状細胞その他
19．樹木起源刺状

＊撮影時倍率2・6・9・15-200倍，その他100倍

第5節　ま　と　め（第74・75図）

各時代ごとの遺構を概観して，まとめとする。

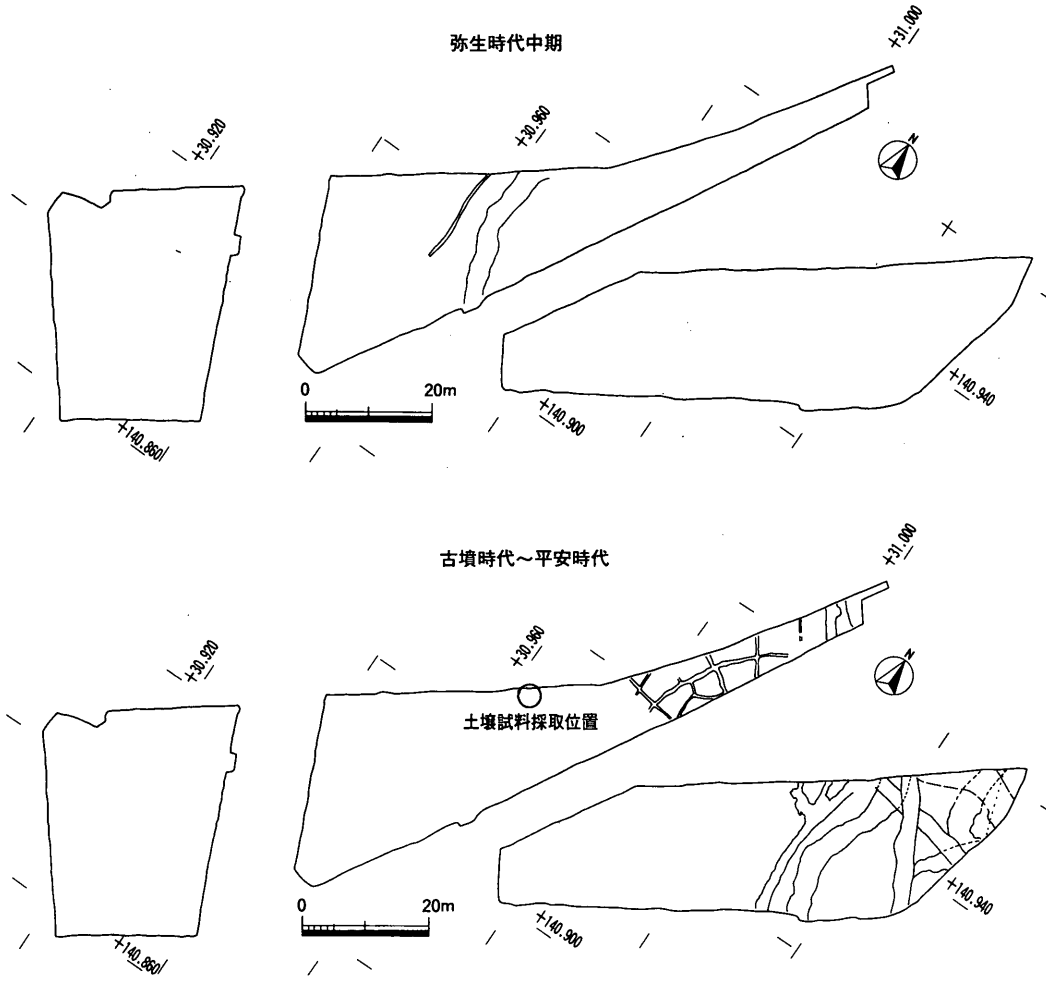
当遺跡では，風化の度合いから考えて旧石器時代にさかのぼる可能性のある石器が出土していることから弥生時代以前に人が生活していた可能性はあるが，当時の遺構は検出されていない。

当遺跡で確実に遺構が存在するのは弥生時代中期からであるが，わずかに溝跡が検出されているにすぎない。土器から考えれば中期前半に遡る時期である。

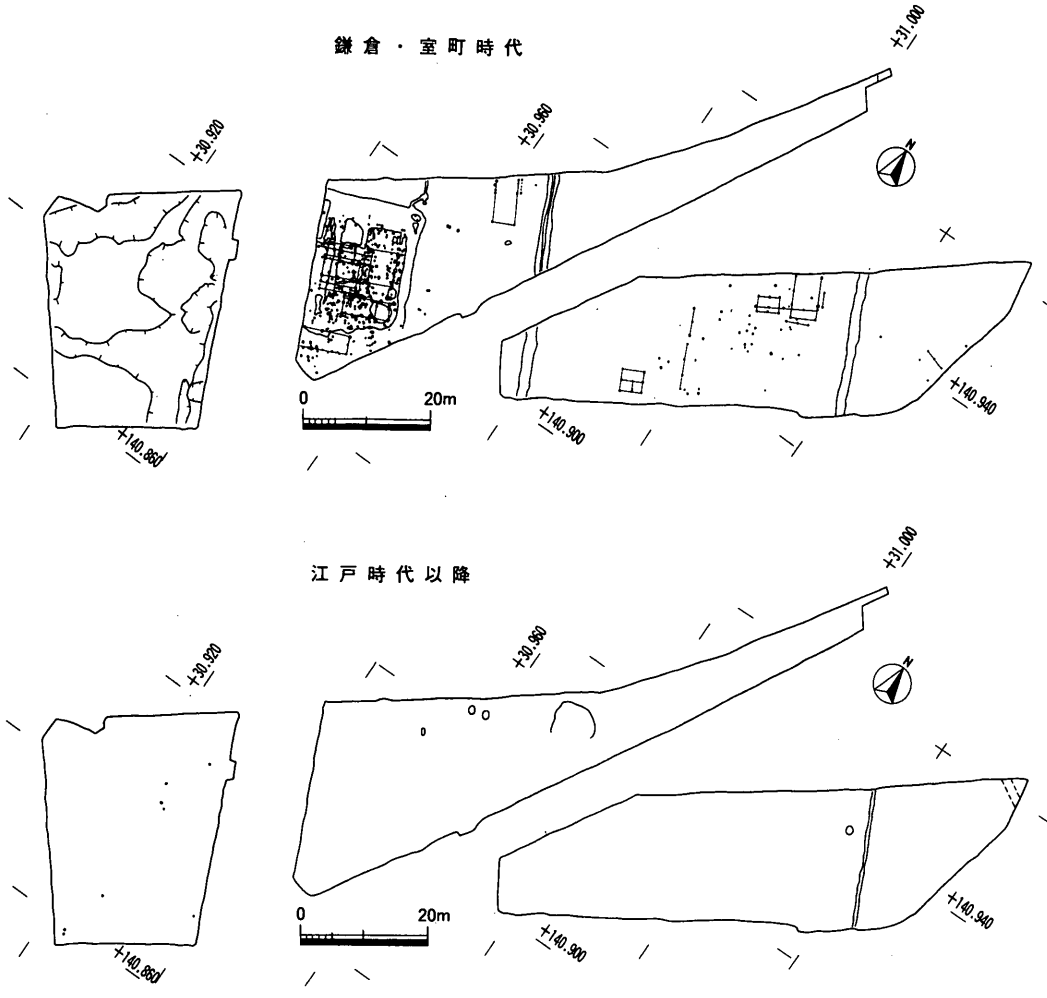
古墳時代～平安時代の時期については，遺構出土の遺物がほとんどないことから詳細な時期は不明とせざるを得ない。水田跡と大溝跡が検出されている。

鎌倉時代～室町時代には集落跡が検出されている。集落跡は東西２つに分かれると考えられる。東側の集落跡はＳＢ09の柱穴から出土している完形の土師器椀から，鎌倉時代頃の時期が考えられる。西側の集落は柱穴及び周辺の遺構からの出土遺物から考えれば，12世紀頃から15世紀頃までの時期が考えられる。遺構の残りが悪く，また柱穴の密集度が高いため，掘立柱建物跡の復元は困難で，方形区画溝跡の出現と消滅の時期を把握することはできない。また遺跡西部にある川跡は埋没土最下層から中世土器が出土することからこの頃から埋没を開始したものと考えられる。

江戸時代以降の遺構は水溜用と考えられる土坑がわずかに見られるのみで建物跡は見られないことから，現在と同じような景観が江戸時代から今日まで続いていたのではないかと考えられる。



第74図　弥生時代中期及び古墳時代～平安時代の遺構配置図（1/1,500）



第75図　鎌倉・室町時代及び江戸時代以降の遺構配置図（1/1,500）

観察表及び一覧表

土器観察表

・色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版標準土色帖1992版』を使用して表す。瓦の観察表についても同様である。

・残存率は遺物の図化部分に占める実物の割合であり，完形品に対する割合ではない。

遺構出土遺物一覧表

・遺物名称は以下のような略号で表す。

弥　弥生土器，土　土師器，須　須恵器，黒　黒色土器（ＡはＡ類，ＢはＢ類），瓦質　瓦質土器，西　西村産瓦質土器，東播　東播系須恵器，亀　亀山焼，備前　備前焼，唐津　唐津焼，青　青磁，白　白磁，染　染付，色　色絵，陶　陶器，磁　磁器

・白磁及び青磁の分類は横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入陶磁器について――型式分類と編年を中心に――」『九州歴史資料館論集４』九州歴史資料館1978によった。

・石器は特に表記の無いものは，原則としてサヌカイト製である。

・数値は破片の概数を示す。ただし明らかに同一個体である破片は１片とする。袋は20cm×30cmの大きさの袋に入る量を，箱は28リットル入りのコンテナの箱数を表す。

・同一種類の遺物の器種の違いは「・」で区分し，遺物種類の違いは「,」で区分する。

第11表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（1）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
1	14	41	弥生土器	壺	SD16	18.7	—	—	長石・石英：礫多量，雲母：中粒砂含む	2.5Y6/3にぶい黄色～10YR6/8明黄褐色	ヨコナデ	凹線1条，ヨコナデ，不明	2/8	②SD06(D5)	
2	14	41	弥生土器	壺	SD16	9.6	—	6.6	長石・石英：礫多量	2.5Y6/8橙色～10YR8/2灰白色	指頭痕後ハケ目	ヨコナデ	4/8	②SD06③砂層 ②SD06(砂層)	
3	14	42	弥生土器	壺	SD16	—	—	7.8	長石・石英：礫多量，角閃石：中粒砂少量，雲母少量	2.5YR7/6橙色～10YR2/1黒色	不明	ハケ目	7/8	②SD06(D5)，②SD06(砂層)	
7	16	41	須恵器	無蓋高坏の脚	SD21	—	—	10.2	中粒砂をわずかに含む	5P4/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	③SD02，03(東より2本目，3本目)	すかし四方
8	16		須恵器	坏蓋	SD21	17.6	—	—	粗砂含む	5PB6/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤SD09	内外面ひだすき
10	17		弥生土器	壺	SD24	14.7	—	—	長石・石英：礫含む，角閃石：粗砂多量，雲母：粗砂多量	7.5YR5/4にぶい褐色	不明	不明	1/8	⑤SD06のあぜより	
13	19	41	黒色土器A類	椀	SD29	—	—	6.5	粗砂多量	10YR8/2灰白色	不明	底部：ヘラ切り後回転ナデ	7/8	⑤SD12上層	
14	21	41	弥生土器	甕	SD31，32	12.0	—	—	長石・石英：礫多量，雲母：細砂含む	2.5YR5/6明赤褐色	ヘラ削り	不明	3/8	⑤SD10とSD12の交流部付近	
15	21	41	弥生土器	壺	SD31	—	—	7.1	長石・石英：礫多量	10YR6/3にぶい黄橙色	指頭痕	不明	6/8	⑤SD10	
16	22		弥生土器	甕		—	—	6.4	長石・石英：礫多量	2.5Y6/3にぶい黄色	不明	不明	6/8	③包含層 黒茶色	
17	22	42	弥生土器	壺		—	—	8.2	長石・石英：礫多量	2.5YR6/8橙色	不明	不明	7/8	③包含層 黒茶色	
18	22	42	須恵器	甕		—	—	—	粗砂含む	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ，カキ目，ヘラ削り	6/8	③包含層第1層(茶灰色粘土)	

第12表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（2）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
22	25		土師器	小皿	SD02	5.8	0.9	4.8	細砂含む	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SD07　③	
23	25	42	土師器	小皿	SD02	6.4	1.1	5.0	細砂含む	5YR8/4淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	②SD07　③	
24	25	42	土師器	小皿	SD02	6.6	1.2	5.1	細砂多量	10YR5/1褐灰色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後板目圧痕	8/8	②SD07　②畦	
25	25		土師器	小皿	SD02	6.8	1.2	5.6	細砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SD07　③	
26	25		土師器	小皿	SD02	7.7	1.1	6.0	細砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　③	
27	25		土師器	小皿	SD02	6.8	1.3	5.4	粗砂少量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SD07　②	
28	25		土師器	小皿	SD02	7.6	—	4.8	粗砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SD07　③	
29	25		土師器	小皿	SD02	7.6	—	6.3	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SD07　②	
30	25		土師器	小皿	SD02	7.6	1.6	4.9	粗砂多量	7.5YR7/2明褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD07　①	
31	25		土師器	皿	SD02	8.8	—	6.9	粗砂含む	10YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD07　①	
32	25		土師器	坏	SD02	9.1	1.9	6.0	中粗砂含む	5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　②	
33	25		土師器	椀	SD02	—	—	5.0	粗砂含む	10YR8/2灰白色	不明	回転ナデ	4/8	②SD07　①	
34	25		土師器	椀	SD02	—	—	5.5	粗砂多量	7.5YR8/2灰白色	不明	回転ナデ	2/8	②SD07　①	
35	25		土師器	坏	SD02	—	—	11.0	粗砂含む	10YR8/2灰白色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SD07　②	
36	25		土師器	土鍋	SD02	—	—	—	粗砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　②	
37	25		土師器	土鍋	SD02	—	—	—	粗砂多量	10YR4/1褐灰色～7.5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SD07　②	
38	25		土師器	土釜	SD02	—	—	—	粗砂多量	5YR3/1黒褐色～10YR7/3にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SD07　②	
39	25		土師器	土釜	SD02	26.0	—	—	粗砂含む	10YR4/1褐灰色～10YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SD07　①	

第13表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（3）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
40	25		土師器	土釜	SD02	26.6	—	—	粗砂多量	7.5YR4/2灰褐色～5YR8/4淡橙色	ヨコナデ，ハケ目，指頭痕	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SD07　①	
41	25		土師器	土釜	SD02	15.2	—	—	粗砂多量	10YR7/4にぶい黄橙色	回転ナデ	ハケ目	1/8	②SD07　①	
42	25	65	東播系須恵器	こね鉢	SD02	—	—	—	粗砂含む	5PB5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　③	
43	25	65	東播系須恵器	こね鉢	SD02	—	—	—	中粒砂多量	7.5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　③	
44	25		瓦質土器	椀	SD02	—	—	4.8	中粒砂含む	N7/0灰白色	ハケ目	回転ナデ	2/8	②SD07　①	
45	25		瓦質土器	椀	SD02	—	—	4.6	中粒砂含む	2.5Y7/1灰白色	ハケ目	回転ナデ	1/8	②SD07　③	
46	25		瓦質土器	鉢	SD02	28.8	—	—	粗砂多量	7.5Y3/1オリーブ黒色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　①	
47	25		瓦質土器	こね鉢	SD02	30.6	—	—	粗砂含む	5Y4/1灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD07　①	
48	25		瓦器	椀	SD02	13.8	—	—	細砂含む	N3/0暗灰色	ヘラミガキ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SD07　③	
50	26		土師器	小皿	SD03	5.8	1.0	4.4	中粒砂含む	10YR8/2灰白色～5YR6/8橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SD08	
51	26	42	土師器	坏	SD03	9.9	2.6	6.6	細砂含む	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SD08	
52	26	43	瓦質土器	擂鉢	SD03	—	—	—	粗砂含む	5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD08	
53	26		土師器	土釜	SD04	—	—	—	中粒砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	回転ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	②SD09	
54	26	65	東播系須恵器	こね鉢	SD04	—	—	—	中粒砂多量	2.5YR7/4淡赤橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD09	
55	26	65	東播系須恵器	こね鉢	SD04	—	—	—	中粒砂多量	5PB6/1青灰色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD09	
56	26	64	中国産白磁	碗	SD04	15.8	—	—	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色 胎土：白色	施釉	施釉	1/8	②SD09	
57	26		土師器	小皿	SD07	5.7	0.9	5.4	細砂含む	2.5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04　②	
58	26		土師器	小皿	SD07	6.1	0.9	5.0	細砂含む	10YR7/3にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04　②	
59	26		土師器	小皿	SD07	7.3	0.9	5.7	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SD04　②	
60	26		土師器	小皿	SD07	8.7	1.2	6.6	細砂含む	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04　①	

第14表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（4）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
61	26		土師器	坏	SD07	7.4	1.9	4.4	粗砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04　②	
62	26	42	土師器	坏	SD07	9.7	2.4	5.8	細砂多量	5YR7/6橙色～7.5YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SD04　②	
63	26		土師器	坏	SD07	10.8	2.5	6.2	細砂含む	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04　②	
64	26		土師器	坏	SD07	14.8	—	—	中粒砂含む	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD04　ベルト除去	
65	26		土師器	坏	SD07	—	—	6.0	中粒砂含む	5YR6/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SD04　②	
66	26		土師器	高台付坏	SD07	—	—	5.7	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	不明	不明，貼り付け高台	4/8	②SD04　②	
67	26		瓦器	椀	SD07	—	—	4.1	砂粒含まず	N4/0灰色	ナデ後ヘラミガキ	指頭痕，貼り付け高台	2/8	②SD04　①	
69	26		土師器	小皿	SD13	7.9	1.1	5.6	中粒砂含む	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②　溝A	
70	26		土師器	小皿	SD14	5.6	1.0	4.8	細砂含む	7.5YR7/2明褐灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD03, 04　合流部	
71	26		土師器	坏	SD14	9.1	—	—	細砂含む	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SD03　③	
72	26		土師器	坏	SD14	12.1	—	—	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD03, 04　合流部	
73	26		土師器	坏	SD14	6.9	—	—	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	不明	不明	1/8	②SD03　①	
74	26	44	土師器	甕	SD14	14.8	—	—	粗砂多量	2.5YR6/6橙色	不明	不明	1/8	②SD03　①	
75	26	44	土師器	甕	SD14	—	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，ハケ目	1/8	②SD03　①	
76	26	45	土師器	土鍋	SD14	—	—	—	中粒砂多量	5YR5/3にぶい赤褐色	回転ナデ	不明	1/8	②SD03　①	
77	26	45	土師器	土鍋	SD14	40.0	—	—	粗砂含む	7.5YR3/1黒褐色	ハケ目，ヨコナデ	ヨコナデ，ハケ目	1/8	②SD03　②	外面煤付着
78	26	45	土師器	土鍋	SD14	—	—	—	粗砂多量	7.5YR5/3にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SD03　①	
79	26	45	土師器	土鍋	SD14	44.0	—	—	粗砂多量	5YR4/1褐灰色	ナデ	ナデ	1/8	②SD03　①	外面煤付着
80	27	45	土師器	土鍋	SD14	—	—	—	中粒砂含む	7.5YR2/1黒色	指頭痕後ハケ目	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SD03　①	
81	27	44	土師器	土釜	SD14	25.7	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	ヨコナデ，ハケ目，不明	ヨコナデ	2/8	②SD03①	

第15表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（5）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
82	27	44	土師器	土釜	SD14	26.4	—	—	粗砂多量	10YR5/2灰黄褐色～7.5Y7/2明褐灰色	ナデ	ナデ，指頭痕	1/8	②SD03①	
83	27		瓦質土器	鉢	SD14	—	—	—	中粒砂多量	10Y5/1灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD03，04　合流部	
84	27	46	瓦質土器	こね鉢	SD14	26.0	—	—	中粒砂含む	5Y4/1灰色	ナデ，ハケ目	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SD03　②	
85	27	46	瓦質土器	擂鉢	SD14	28.2	—	—	粗砂多量	N4/0灰色	ハケ目，卸目	指頭痕，回転ナデ	1/8	②SD03　②	
86	27	46	瓦質土器	擂鉢	SD14	31.2	—	—	中粒砂多量	2.5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SD03　②	
87	27		瓦質土器	擂鉢	SD14	—	—	10.9	粗砂多量	N5/0灰色～7.5Y2/1黒色		指頭痕	2/8	②SD03　西ベルト付近	
88	27		瓦質土器	擂鉢	SD14	—	—	9.7	粗砂多量	N8/0灰白色		ナデ，板ナデ，指頭痕	2/8	②SD03　②	
89	27	65	中国産白磁	皿	SD14	10.6	—	—	砂粒含まず	釉：10Y5/2オリーブ灰色　胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	②SD03，04　合流部	
93	30	42	土師器	小皿	SB02 C4 SP358	5.8	1.1	4.6	細砂多量	7.5YR8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	②SP358	
94	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP187	7.6	1.0	6.0	細砂多量	7.5YR8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SP187	
95	30		土師器	小皿	SB02 C3 SP204	8.3	1.5	5.8	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP204	
96	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP356	7.6	1.2	5.8	粗砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP356	
97	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP187	7.8	1.3	5.8	中粒砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP187	
98	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP432	8.8	1.0	7.8	粗砂含む	5YR8/4淡橙色	不明	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP432	
99	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP356	8.0	0.9	6.0	中粒砂含む	7.5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP356	
100	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP187	7.3	1.5	5.4	中粒砂多量	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SP187	
101	30		土師器	小皿	SB02 C4 SP211	8.0	1.1	5.5	粗砂多量	10YR6/1褐灰色	ナデ	ナデ，底部：板目圧痕	2/8	②SP211	
102	30	42	土師器	坏	SB02 C3 SP181	13.6	3.5	7.8	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SP181	

第16表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（6）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
103	30	47	土師器	坏	SB02 C3 SP204	14.7	3.5	8.4	細砂多量	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ，指頭痕	回転ナデ，底部：ヘラ切り，板目圧痕	4/8	②SP204	
104	30		土師器	坏	SB02 C4 SP187	—	—	7.4	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP187	
105	30		土師器	土釜	SB02 C4 SP187	18.7	—	—	粗砂多量	5YR3/3暗赤褐色	ナデ	ヨコナデ，ナデ，指頭痕	1/8	②SP187	
106	30		土師器	土釜	SB02 C4 SP187	—	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	ハケ目	ハケ目，ヨコナデ	1/8	②SP187	
107	30		瓦質土器	擂鉢	SB02 C4 SP187	—	—	11.4	粗砂多量	5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SP187	
108	31		土師器	小皿	SB03 C4 SP408	6.7	—	4.8	細砂含む	10YR6/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP408	
109	31		土師器	小皿	SB03 C4 SP374	6.7	1.1	4.5	細砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP374	
110	31		土師器	小皿	SB03 C4 SP374	8.2	1.0	6.4	粗砂含む	7.5YR8/6浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP374	
111	31	47	土師器	小皿	SB03 C4 SP418	7.8	1.3	5.6	細砂含む	10YR8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り後ナデ	8/8	②SP418	
112	31	47	土師器	小皿	SB03 C4 SP418	7.8	1.3	6.1	細砂含む	2.5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP418	
113	31	47	土師器	小皿	SB03 C4 SP412	8.5	1.5	5.4	粗砂多量	5YR8/4淡橙色	不明	不明，底部：ヘラ切り	7/8	②SP412	
114	31		土師器	小皿	SB03 C4 SP380	8.2	1.0	6.7	粗砂含む	5YR6/6橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP380	
115	31		土師器	坏	SB03 C4 SP518	11.5	—	7.5	中粒砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	不明	不明，底部：ヘラ切り	3/8	②SP518	
116	31		土師器	坏	SB03 C4 SP374	11.0	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP374	
117	31		土師器	坏	SB03 C4 SP380	13.4	—	—	粗砂多量	5YR6/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP380	

第17表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（7）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
118	31		土師器	坏	SB03 C4 SP365	10.3	2.4	6.4	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り，板目圧痕	7/8	②SP365	
119	31		土師器	坏	SB03 C4 SP380	15.5	—	—	粗砂含む	7.5YR6/4にぶい橙色	不明	不明	1/8	②SP380	
120	31		土師器	椀	SB03 C4 SP412	—	—	4.2	粗砂含む	7.5YR5/2灰褐色	ナデ	ナデ，底部：ヘラ切り，貼り付け高台	3/8	②SP412	
121	31		土師器	椀	SB03 C4 SP412	—	—	5.4	粗砂多量	5YR6/1褐灰色	不明	不明	7/8	②SP412	
122	31		土師器	椀	SB03 C4 SP382	—	—	5.2	細砂含む	7.5YR5/1褐灰色	板ナデ	不明	2/8	②SP382	
123	31		土師器	高台付皿	SB03 C4 SP418	—	—	—	粗砂多量	5YR8/3淡橙色	不明	不明	7/8	②SP418	
124	31		瓦質土器	椀	SB03 C4 SP382	15.8	—	—	細砂少量	5Y8/1灰白色～N3/0暗灰色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SP382	
125	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	6.3	1.2	5.0	細砂含む	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP434	
126	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	7.0	—	6.2	細砂含む	2.5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP434	
127	32	47	土師器	小皿	SB04 C4 SP434	6.8	1.2	5.3	細砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP434	
128	32	47	土師器	小皿	SB04 C4 SP434	7.2	1.3	5.0	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り，板目圧痕	4/8	②SP434	
129	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	8.0	1.0	6.0	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP434	
130	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	7.5	0.8	6.3	細砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP434	
131	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	7.7	1.1	5.6	細砂含む	2.5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP434	
132	32	47	土師器	小皿	SB04 C4 SP277	6.5	1.1	5.0	細砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	8/8	②SP277	
133	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP277	8.0	1.2	7.1	細砂含む	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP277	

第18表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（8）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
134	32	47	土師器	小皿	SB04 C4 SP451	7.7	1.3	5.2	細砂多量	5YR8/3淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP451	
135	32		土師器	小皿	SB04 C4 SP434	9.1	1.5	6.9	細砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP434	
136	32		土師器	坏	SB04 C4 SP434	—	—	7.5	細砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：糸切り	3/8	②SP434	
137	32		土師器	坏	SB04 C4 SP434	—	—	6.6	細砂含む	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP434	
138	32		土師器	土釜	SB04 C4 SP233	—	—	—	粗砂多量	5YR6/6橙色	ナデ	ナデ，指頭痕	1/8	②SP233	
139	32		瓦質土器	椀	SB04 C4 SP482	15.8	—	—	中粒砂少量	N8/0灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ	1/8	②SP482	
140	32		瓦質土器	椀	SB04 C4 SP456	—	—	4.8	細砂多量	2.5Y8/1灰白色	板ナデ	回転ナデ	1/8	②SP456	
142	33		土師器	小皿	SB05 C3 SP061	7.1	1.3	5.5	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP061	
143	33		土師器	坏	SB05 C3 SP008	—	—	5.3	細砂含む	10R6/3にぶい赤橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SP008	
144	33		土師器	坏	SB05 C3 SP442	—	—	7.6	中粒砂含む	10YR7/1灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：板目圧痕	1/8	②SP442	
145	33		土師器	椀	SB05 C3 SP008	—	—	—	中粒砂含む	7.5YR8/3浅黄橙色	不明	回転ナデ	1/8	②SP008	
146	33		土師器	椀	SB05 C3 SP061	—	—	7.1	細砂多量	10YR8/2灰白色	不明	回転ナデ	1/8	②SP061	
147	34		土師器	坏	SB06 D5 SP032	—	—	6.0	粗砂含む	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP032	
148	36	47	土師器	皿	SB08 F5 SP047	10.4	2.0	6.3	粗砂多量	10YR8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り	7/8	⑤SP47	
149	36	47	土師器	坏	SB08 F5 SP047	9.8	2.3	6.4	粗砂多量	7.5YR4/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	⑤SP47	

第19表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（9）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
150	36		土師器	坏	SB08 F5 SP045	13.2	—	—	細砂含む	10YR4/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	⑤SP45	
151	37	48	土師器	椀	SB09 F5 SP092	14.8	5.5	5.9	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	不明	不明，貼り付け高台，底部：ヘラ切り	7/8	⑤SP92	
152	39		西村産瓦質土器	椀	C3 SP001	11.9	—	—	中粒砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP001	
153	39		土師器	小皿	C3 SP001	8.4	1.2	5.8	細砂含む	7.5Y8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP001	
154	39		土師器	小皿	C3 SP001	8.0	—	6.2	粗砂多量	7.5YR8/6浅黄橙色	不明	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP001	
155	39		土師器	小皿	C3 SP001	7.9	1.5	5.6	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP001	
156	39	48	土師器	坏	C3 SP003	14.0	3.5	8.0	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP003	
157	39	48	土師器	坏	C3 SP004	12.5	3.7	8.3	中粒砂多量	7.5YR6/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	6/8	②SP004	
158	39		土師器	小皿	C3 SP004	7.8	1.4	5.2	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP004	
159	39	48	土師器	小皿	C3 SP004	8.6	1.3	5.6	中粒砂多量	5YR8/3淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：糸切り	6/8	②SP004	
160	39		土師器	坏	C3 SP019	—	—	6.8	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP019	
161	39		土師器	小皿	C3 SP019	5.8	1.0	5.0	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP019	
162	39		土師器	坏	C3 SP024	9.2	2.2	5.2	細砂少量	5YR8/4淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP024	
163	39		土師器	土釜	C3 SP056	27.3	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	指頭痕	ハケ目，ナデ	1/8	②SP056	
165	39		瓦質土器	擂鉢	C3 SP066	—	—	6.8	粗砂含む	10YR4/1灰色～N4/0灰色	ナデ	ナデ，不明，指頭痕	1/8	②SP066	
166	39	48	土師器	坏	C3 SP067	14.1	3.2	7.1	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP067	

第20表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（10）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
167	39		土師器	椀	C3 SP068	—	—	5.6	粗砂含む	7.5YR8/2灰白色～N3/0暗灰色	不明	回転ナデ	1/8	②SP068	
168	39		土師器	椀	C3 SP109	9.0	—	—	粗砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP109	
171	39		土師器	土釜	C3 SP184	—	—	—	粗砂多量	5YR6/8橙色	ヨコナデ	指頭痕	1/8	②SP184	
172	39		土師器	小皿	C3 SP196	6.6	0.9	5.7	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP196	
173	39		土師器	小皿	C4 SP229	7.4	1.3	5.6	中粒砂含む	5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP229	
174	39	48	土師器	小皿	C4 SP232	6.8	1.2	4.8	粗砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	②SP232	
175	39		土師器	坏	C4 SP236	12.4	2.8	8.4	中粒砂含む	5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP236	
176	39		土師器	小皿	C4 SP242	8.0	1.3	6.0	中砂多量	5YR8/3淡橙色	ナデ	ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP242	
177	39		土師器	土鍋	C4 SP266	—	—	—	礫含む．	10YR7/4にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SP266	
178	39		土師器	小皿	C4 SP267	8.6	1.2	6.9	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP267	
179	39		土師器	椀	C4 SP267	16.0	—	—	粗砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8	②SP267	
180	39		土師器	坏	C4 SP267	14.0	—	—	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP267	
181	39	46	瓦質土器	擂鉢	C3 SP200	30.1	—	—	中粒砂多量	5Y6/1灰色	不明	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SP200	
182	40	48	土師器	小皿	C4 SP267	8.2	1.4	6.2	細砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP267	
183	40		土師器	小皿	C4 SP268	8.2	1.5	6.1	粗砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP268	
184	40		瓦器	椀	C4 SP268	17.0	—	—	粗砂少量	5Y7/1灰白色	ヨコナデ，ナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ，ナデ	1/8	②SP268	
185	40		土師器	小皿	C4 SP281	8.8	1.2	7.0	粗砂多量	10YR7/4にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP281	
186	40		土師器	土鍋	C4 SP281	—	—	—	粗砂多量	7.5YR8/2灰白色	ナデ	ナデ，指頭痕	1/8	②SP281	
187	40		土師器	小皿	C4 SP282，283	8.0	1.2	6.6	粗砂含む	2.5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP282，283	

第21表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（11）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
188	40		土師器	灯明皿	C4 SP289	11.8	—	7.4	中粒砂含む	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP289	欠損部に煤付着
189	40		土師器	小皿	C4 SP291	10.0	1.3	8.0	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP291	
190	40		土師器	小皿	C4 SP301	8.6	1.3	6.5	細砂含む	2.5YR6/6橙色	ナデ	ナデ	1/8	②SP301	
191	40		土師器	坏	C4 SP304	9.7	2.0	6.7	細砂含む	10YR5/2灰黄褐色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP304	
192	40		土師器	小皿	C4 SP309	8.0	—	—	中粒砂含む	5YR7/6橙色	不明	不明	1/8	②SP309	
193	40		土師器	小皿	C4 SP315	8.6	—	—	粗砂多量	5YR8/4淡橙色	不明	不明	1/8	②SP315	
194	40		東播系須恵器	こね鉢	C4 SP317	—	—	—	粗砂多量	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP317	
195	40		土師器	小皿	C4 SP328	8.0	—	6.2	中粒砂多量	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP328	
196	40	65	東播系須恵器	こね鉢	C4 SP330	—	—	—	中粒砂含む	N5/0灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8	②SP330	
197	40	65	中国産白磁	壺	C4 SP330	—	—	—	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色 胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	②SP330	
198	40	48	土師器	小皿	C4 SP332	7.6	1.4	5.4	粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP332	
199	40		土師器	小皿	C4 SP332	7.9	1.2	5.0	細砂含む	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP332	
200	40		土師器	小皿	C4 SP332	9.0	—	5.7	中砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP332	
201	40		土師器	小皿	C4 SP332	8.4	—	7.0	中粒砂多量	5YR8/4淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP332	
202	40		土師器	小皿	C4 SP332,449	8.5	1.3	6.2	中粒砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP332,SP449	
203	40		土師器	小皿	C4 SP332	8.0	1.0	6.4	細砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP332	
204	40		土師器	小皿	C4 SP341	7.6	1.3	5.5	細砂含む	10YR8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP341	
205	40	49	土師器	小皿	C4 SP350	7.4	1.4	5.1	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	5/8	②SP350	

第22表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（12）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
206	40		瓦質土器	坏	C4 SP350	15.0	—	—	粗砂少量	5Y6/1灰色	回転ナデ後ヘラミガキ	回転ナデ	1/8	②SP350	
207	40		土師器	坏	C4 SP350	14.8	—	—	粗砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP350	
208	40		土師器	土鍋	C4 SP383	—	—	—	粗砂多量	7.5YR5/4にぶい褐色	回転ナデ	不明	1/8	②SP383	
209	40		土師器	小皿	C4 SP383	6.8	0.9	5.3	中粒砂多量	5YR7/6橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP383	
210	40	49	土師器	坏	C4 SP383	10.9	2.9	7.8	中粒砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：糸切り	3/8	②SP383	
211	40		土師器	椀	C4 SP383	—	—	5.3	粗砂含む	N8/0灰白色	ハケ目	回転ナデ	2/8	②SP383	
212	40		瓦器	椀	C4 SP383	—	—	4.4	細砂含む	N3/0暗灰色	ヘラミガキ	回転ナデ	3/8	②SP383	
213	40	49	土師器	小皿	C4 SP384	6.8	1.2	5.0	中粒砂含む	7.5YR7/8黄橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	②SP384	
214	40	49	土師器	小皿	C4 SP405	8.7	1.2	7.1	細砂含む	7.5YR6/1褐灰色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP405	
215	40		土師器	小皿	C4 SP419	8.5	1.1	6.8	細砂多量	5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②SP419	
216	40		土師器	坏	C4 SP419	12.9	—	9.1	細砂含む	2.5Y5/1黄灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP419	
217	40		土師器	小皿	C4 SP433	7.6	1.1	5.8	粗砂含む	7.5YR8/4浅黄橙色	不明	不明	1/8	②SP433	
218	40		土師器	坏	C4 SP433	12.0	—	—	細砂多量	5YR8/4淡橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP433	
219	40		土師器	小皿	C4 SP449	8.4	1.2	5.8	粗砂多量	7.5YR6/3にぶい褐色	不明	不明，底部：ヘラ切り	1/8	②SP449	
220	40		土師器	小皿	C4 SP449	9.0	1.2	7.2	細砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP449	
221	40		瓦質土器	鉢	C4 SP452	—	—	—	中粒砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ，タタキ後ナデ	1/8	②SP452	
222	40		土師器	土釜	C4 SP455	—	—	—	粗砂多量	10YR7/4にぶい黄橙色	ナデ，ハケ目	指頭痕	1/8	②SP455	
223	40	49	土師器	坏	C4 SP462	10.5	2.8	6.4	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SP462	
224	40		土師器	坏	C4 SP462	11.1	—	8.6	細砂多量	7.5YR6/1褐灰色	指頭痕後回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後ナデ	2/8	②SP462	

第23表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（13）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
225	40		土師器	坏	C4 SP468	10.2	2.1	6.5	細砂多量	5YR8/4淡橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP468	
226	40		土師器	小皿	C4 SP514	8.8	1.1	7.6	細砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP514	
227	40		須恵器	坏蓋	C4 SP514	9.8	—	—	中粒砂多量	5P5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP514	
228	40		土師器	小皿	C4 SP517	8.1	—	5.9	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り，板目圧痕	2/8	②SP517	
229	41		土師器	坏	C3 SP519	17.8	3.1	9.8	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	不明	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP519	
230	41		瓦質土器	椀	C4 SP525	14.8	—	—	細砂多量	5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP525	
231	41	65	中国産白磁	壺	C4 SP525	—	—	—	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色 胎土：N8/0灰白色	施釉，貫入	施釉，貫入	2/8	②SP525	
232	41		土師器	土釜	C4 SP533	—	—	—	粗砂多量	10YR4/1褐灰色	ナデ	ヨコナデ，指頭痕	1/8	②SP533	
233	41		土師器	坏	C4 SP537	13.6	—	—	中粒砂多量	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP537	
234	41		土師器	坏	C4 SP537	14.6	—	—	細砂含む	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP537	
235	41		土師器	小皿	C4 SP537	7.7	1.2	6.3	粗砂含む	10YR5/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SP537	
236	41		土師器	小皿	C4 SP537	7.5	0.8	4.7	細砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP537	
237	41	49	土師器	小皿	C4 SP537	8.0	1.2	6.2	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	②SP537	
238	41		土師器	小皿	C4 SP537	5.8	0.8	5.0	細砂多量	10YR3/1黒褐色	不明	不明，底部：ヘラ切り	2/8	②SP537	
239	41		土師器	小皿	C4 SP537	7.9	1.1	6.0	細砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP537	
240	41		土師器	小皿	C4 SP539	7.6	1.2	5.7	細砂多量	5YR6/8橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②SP539	
241	41		瓦質土器	椀	C4 SP539	17.5	—	—	砂粒含まず	5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SP539	
242	41		土師器	小皿	C4 SP459	5.8	0.9	5.1	細砂少量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD04の西側一括出土	

第24表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（14）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
243	41	49	土師器	小皿	C4 SP459	7.5	0.9	6.2	中粒砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り，板目圧痕	8/8	②SD04　西側一括出土	
244	41		土師器	坏	C4 SP459	9.5	1.7	5.7	中粒砂含む	2.5YR7/3淡赤橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後板目圧痕	3/8	②SD04　西側一括出土	
245	41	49	土師器	坏	C4 SP459	10.2	2.1	5.9	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後板目圧痕	5/8	②SD04　西側一括出土	
246	41		土師器	坏	C4 SP459	10.2	2.1	6.4	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	②SD04　西側一括出土	
247	41		土師器	坏	C4 SP459	10.5	2.2	6.7	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：板目圧痕	3/8	②SD04　西側一括出土	
248	41		土師器	坏	C4 SP459	10.6	2.4	6.1	中粒砂多量	10YR4/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04の西側一括出土	
249	41		土師器	坏	C4 SP459	10.8	2.7	6.0	中粒砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②SD04の西側一括出土	
250	41	49	土師器	坏	C4 SP459	11.1	2.4	6.1	中粒砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	②SD04　西側一括出土	
251	41	49	土師器	坏	C4 SP459	10.3	2.7	6.6	中粒砂多量	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後板目圧痕	7/8	②SD04　西側一括出土	
252	41		土師器	坏	C4 SP459	15.8	—	—	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD04の西側一括出土	
253	41		土師器	坏	C4 SP459	9.0	—	—	中粒砂多量	10YR6/1褐灰色～2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，ナデ	1/8	②SD04の西側一括出土	
254	41		土師器	坏	C4 SP459	10.9	2.7	6.4	中粒砂多量	10YR8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	5/8	②SP459	
255	41		土師器	土釜	C4 SP459	24.3	—	—	粗砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	ハケ目	回転ナデ，指頭痕，タタキ	2/8	②SD04　西側一括出土	
256	41		土師器	土釜	C4 SP459	25.4	—	—	粗砂多量	5YR7/6橙色～10YR7/3にぶい黄橙色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SD04の西側一括出土	
257	41		瓦器	椀	F4 SP074	15.8	—	—	礫少量	N4/0灰色	回転ナデ，ヘラミガキ	回転ナデ，指頭痕	1/8	④SP74	

第25表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（15）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
258	41		瓦器	椀	F4 SP075	16.7	—	—	砂粒含まず	N3/0暗灰色	ヘラミガキ	指頭痕，回転ナデ	1/8	④SP75	
259	41		瓦器	椀	F4 SP075	—	—	6.0	細砂含む	5Y7/1灰白色	ヘラミガキ	回転ナデ，貼り付け高台後回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	④SP75	
260	41		瓦器	椀	F4 SP075	—	—	—	細砂含む	N4/0灰色	回転ナデ，ヘラミガキ	回転ナデ，指頭痕後ヘラミガキ	1/8	④SP75	
261	41		瓦器	椀	E4 SP079	16.0	—	—	粗砂含む	N2/0黒色	ヘラミガキ	回転ナデ	1/8	④SP79	
262	41		土師器	坏	F5 SP038	14.7	—	—	粗砂含む	10YR7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤SP38	
263	41	50	土師器	小皿	F5 SP050	8.4	1.4	7.2	細砂含む	2.5YR7/6橙色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	8/8	⑤SP50	
264	41		土師器	土鍋	F5 SP050	36.8	—	—	中粒砂多量	7.5YR3/1黒褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤SP50	
265	42	50	土師器	坏	SK01	12.0	4.0	5.9	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後ナデ	7/8	②SK03	
267	42		土師器	土鍋	SK01	—	—	—	粗砂含む	10YR4/1褐灰色	回転ナデ	ハケ目	1/8	②SK03	
268	42		土師器	土鍋	SK01	—	—	—	粗砂含む	7.5YR8/2灰白色	不明	不明	1/8	②SK03	
269	42	50	土師器	甕	SK01	46.8	—	—	粗砂多量	5YR6/4にぶい橙色～5YR3/1黒褐色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ	1/8	②SK03	
270	42		土師器	土釜	SK01	30.8	—	—	粗砂多量	5YR6/4にぶい橙色	ヨコナデ，ハケ目	ヨコナデ，指頭痕後ヨコナデ	1/8	②SK03	
271	42	65	東播系須恵器	こね鉢	SK01	—	—	—	中粒砂多量	N8/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②SK03	
272	43		土師器	土鍋	SK02	—	—	—	粗砂多量	10YR5/2灰黄褐色～2.5Y8/2灰白色	回転ナデ，ハケ目	不明	1/8	②SK04	
273	43		土師器	土鍋	SK02	—	—	—	中粒砂含む	5YR7/6橙色，7.5YR5/2灰褐色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ，ハケ目	1/8	②SK04	
274	43		土師器	土釜	SK02	19.6	—	—	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色～7.5YR2/2黒褐色	ナデ，ハケ目	ハケ目	1/8	②SK04	
275	43		瓦質土器	こね鉢	SK02	29.4	—	—	粗砂多量	2.5Y4/1黄灰色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②SK04	
276	46	50	土師器	坏	SD17	11.9	3.2	7.8	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	不明	不明，底部：ヘラ切り	7/8	②SD02　灰白色粘土	
277	46		土師器	坏	SD17	13.6	—	—	粗砂含む	10YR6/2灰黄褐色～10YR6/6赤橙色	不明	不明	1/8	②SD02　ベルト除去　第1層	

第26表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（16）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
278	46		瓦器	椀	SD17	13.4	—	—	砂粒含まず	5Y7/1灰白色	ヘラミガキ，ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ，指頭痕	1/8	②SD02 ベルト除去　第3層	
279	46	64	中国産白磁	碗	SD17	16.8	—	—	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色 胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	②SD02　水路より北　第2層	
280	46		土師器	坏	SD17,18	11.2	2.0	7.3	粗砂多量	7.5YR8/2灰白色	不明	底部：ヘラ切り，不明	4/8	④SD13	
281	46		土師器	坏	SD17,18	12.8	—	—	粗砂含む	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	④SD13	
282	46		土師器	椀	SD17,18	15.0	—	—	中粒砂含む	10YR7/2にぶい黄橙色	不明	不明	1/8	④SD13	
283	46		土師器	坏	SD17,18	14.8	—	—	粗砂多量	5YR8/3淡橙色	不明	不明	1/8	④SD13	
284	46		土師器	椀	SD17,18	—	—	4.0	中粒砂多量	5Y8/1灰白色	不明	貼り付け高台，不明	2/8	④SD13	
285	46		土師器	椀	SD17,18	—	—	5.0	中粒砂含む	2.5Y8/1灰白色	不明	不明	4/8	④SD13	
286	46		土師器	椀	SD17,18	—	—	5.0	粗砂多量	2.5YR7/4にぶい橙色	不明	貼り付け高台，不明	2/8	④SD13	
287	46		土師器	甕	SD17,18	34.4	—	—	粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	不明	指頭痕，不明	1/8	④SD13	
288	46		須恵器	壺	SD17,18	—	—	10.0	細砂含む	10GY2/1緑黒色～5PB7/1明青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	④SD13	
289	46		瓦質土器	椀	SD17,18	—	—	5.1	粗砂多量	2.5Y8/1灰白色	不明	ヘラ切り後貼り付け高台，不明	8/8	④SD13	
290	46		瓦質土器	鉢	SD17,18	16.0	—	—	粗砂含む	2.5Y7/1灰白色	ナデ，ヘラミガキ	回転ナデ	1/8	④SD13	
291	46		瓦質土器	こね鉢	SD17,18	—	—	—	粗砂含む	N6/0灰色～N3/0暗灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	④SD01,02	
292	46		瓦器	椀	SD17,18	—	—	4.4	粗砂含む	10YR5/8黄褐色	不明	不明	1/8	④SD13	
293	46	64	中国産白磁	碗	SD17,18	15.4	—	—	砂粒含まず	釉：7.5Y7/1灰白色 胎土：白色	施釉	施釉	2/8	④SD01,02	
296	47		土師器	小皿	SD23	7.8	1.0	6.8	砂粒含まず	5YR6/6橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	⑤SD04	
297	47		瓦質土器	椀	SD23	—	—	5.8	中粒砂含む	10YR6/8明黄褐色	不明	ナデ，貼り付け高台，底部：ヘラ切り	2/8	⑤SD04	
298	47		須恵器	坏蓋	SD23	—	—	18.2	細砂多量	5PB5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤SD04	

第27表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（17）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
299	49		土師器	小皿	SR01	7.3	1.6	4.2	中粒砂含む	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り，板目圧痕	2/8	①試掘N1Tr.溝	
300	49		土師器	灯明皿	SR01	10.0	—	—	中粒砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
301	49		土師器	土釜	SR01	20.8	—	—	中粒砂多量	7.5YR7/4にぶい橙色	ヨコナデ，ハケ目	ヨコナデ，指頭痕	1/8	①A2・B3 1層	
302	49		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	不明	不明	1/8	①北試掘トレンチ壁，耕作土直下淡青灰色シルト(1)	
303	49	66	備前焼	擂鉢	SR01	29.4	—	—	粗砂多量	2.5YR5/6明赤褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①ベルト2，1番上の層(灰白シルト)	
304	49	66	備前焼	擂鉢	SR01	32.6	—	—	粗砂含む	2.5YR6/6橙色～7.5YR4/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①A2・B2 1層	
305	49	66	備前焼	擂鉢	SR01	—	—	12.1	粗砂含む	7.5YR5/1褐灰色	不明	回転ナデ後ナデ	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
306	49	63	唐津焼	灰釉縁溝皿	SR01	14.0	—	—	中粒砂少量	釉：7.5Y7/1灰白色 胎土：2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉(底部除く)	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
307	49	63	唐津焼	刷毛目碗	SR01	—	—	4.7	砂粒含まず	釉：7.5YR5/4にぶい褐色　胎土：7.5YR7/3にぶい橙色	施釉	施釉(畳付除く)	2/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
308	49	63	陶器	灰釉皿	SR01	11.8	—	—	細砂含む	釉：5GY8/1灰白色 胎土：7.5YR7/4にぶい橙色	施釉	施釉(底部除く)	2/8	①耕土直下淡青灰色シルト層	
309	49	63	陶器	灰釉皿	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：7.5Y4/2灰オリーブ色　胎土：5Y8/1灰白色	施釉	施釉(底部除く)	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色シルト	
310	49	63	陶器	灰釉碗	SR01	9.9	—	—	砂粒含まず	釉：5Y6/1灰色　胎土：5Y7/1灰白色	施釉，貫入	施釉，貫入	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	

第28表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（18）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
311	49	63	陶器	灰釉碗	SR01	9.9	—	—	粗砂少量	釉：2.5GY7/1灰白色　胎土：5Y7/1灰白色	施釉，貫入	施釉，貫入	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
312	49	63	陶器	灰釉碗	SR01	19.4	—	—	砂粒含まず	釉：5Y6/4オリーブ黄色　胎土：5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	①B2耕作土直下淡青灰色層	
313	49	63	陶器	青緑釉皿	SR01	13.0	—	—	砂粒含まず	釉：10Y4/2オリーブ灰色～2.5Y7/2灰黄色　胎土：2.5Y8/1灰白色	青緑釉	灰釉（底部除く）	1/8	①B3 1層	
314	49	63	陶器	青緑釉皿	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：5Y4/3暗オリーブ色　胎土：5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色シルト	
315	49	65	陶器	褐釉壺	SR01	—	—	5.0	砂粒含まず	釉：10YR2/2黒褐色　胎土：5YR7/3にぶい橙色	無釉	施釉	2/8	①B3 1層	
316	49	63	陶器	色絵	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：5Y7/2灰白色　胎土：5Y8/2灰白色	施釉	施釉	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
317	49	64	龍泉窯系青磁	碗	SR01	—	—	6.2	砂粒含まず	釉：5GY6/1オリーブ灰色　胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉(畳付及び外底の大部分を除く)	8/8	①不明	
318	49	64	中国産青磁	碗	SR01	—	—	5.7	砂粒含まず	釉：7.5Y4/2灰オリーブ色　胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉(外底輪状釉剝ぎ)	5/8	①B3 耕作土直下淡青灰色シルト	
319	49	64	青磁	香炉	SR01	8.4	—	—	砂粒含まず	釉：7/5GY7/1明緑灰色　胎土：白色	施釉(底部除く)	施釉	2/8	①B2耕作土直下淡青灰色層	
320	49	62	白磁	壺	SR01	5.1	—	—	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色　胎土：N8/0灰白色	施釉，貫入	施釉，貫入	2/8	①B2耕作土直下淡青灰色層	
321	49	62	白磁	徳利	SR01	2.6	—	—	砂粒含まず	釉：5GY8/1灰白色　胎土：白色	施釉（口縁部のみ）	施釉	8/8	①B3 1層	
322	49	62	磁器　染付	皿	SR01	6.0	3.7	3.8	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色　胎土：白色	施釉	施釉（底部除く）	3/8	①B3耕作土直下淡青灰色	

第29表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（19）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
323	49	62	磁器　染付	碗	SR01	7.8	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①B2耕作土直下淡青灰色層	
324	49	62	磁器　染付	碗	SR01	10.0	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
325	49	62	磁器　染付	碗	SR01	10.8	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①B3 耕作土直下淡青灰色シルト	
326	49	62	磁器　染付	碗	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	2/8	①B3 耕作土直下淡青灰色層	
327	49	62	磁器　染付	徳利	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	無釉	施釉	1/8	① 耕土直下淡青灰色シルト層	
328	49	62	磁器　染付	香炉	SR01	9.0	—	—	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色 胎土：白色	施釉（口縁部のみ）	施釉	1/8	①B3 1層	
329	50		土師器	鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
330	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/6黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①A2淡青灰色シルト層	
331	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色	不明	不明	1/8	①A2第2層	
332	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/4浅黄橙色	不明	不明	1/8	①A2第2層	
333	50		土師器	擂鉢	SR01	30.0	—	—	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	①B2淡青灰色シルト	
334	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR8/2灰白色	回転ナデ，指頭痕	回転ナデ，不明	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
335	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
336	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	11.9	粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	不明	ハケ目	1/8	①Aベルト第2層	
337	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	7.6	粗砂含む	2.5Y7/1灰白色	不明	不明	2/8	①A3淡青灰色シルト層	
338	50		土師器	擂鉢	SR01	—	—	14.2	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	不明	指頭痕	1/8	①A2第2層	
339	50	43	土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	礫多量	10YR8/3浅黄橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	1/8	①A2第2層	

第30表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（20）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
340	50		土師器	甕	SR01	25.8	—	—	粗砂多量	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
341	50		土師器	甕	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR5/1褐灰色～10YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①A3 2層淡青灰色シルトMn	
342	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①A2淡青灰色シルト層	
343	50		土師器	土釜	SR01	21.9	—	—	粗砂多量	5YR6/6橙色	不明	不明	1/8	①B2第2層	
344	50		土師器	土釜	SR01	37.8	—	—	粗砂多量	5YR5/8明赤褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①A2淡青灰色シルト	
345	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	7.5YR6/1褐灰色	不明	指頭痕	1/8	①A3第2層	
346	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	礫含む	7.5YR8/6浅黄橙色	ヨコナデ，ハケ目	ヨコナデ，指頭痕	1/8	①A2第2層	
347	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	10R6/6赤橙色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	①A3第2層	
348	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B2第2層	
349	50		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，ハケ目	1/8	①A2淡青灰色シルト層	
350	50		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR6/2灰黄褐色	不明	不明	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
351	50		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/2灰白色	ハケ目，回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
352	50		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR4/1褐灰色	ハケ目，回転ナデ	指押さえ，回転ナデ	1/8	①A2第2層	
353	50		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	5YR6/6橙色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
354	50		須恵器	坏	SR01	12.4	—	—	中粒砂少量	5PB6/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
355	50	65	東播系須恵器	こね鉢	SR01	29.1	—	—	細砂多量	5PB7/1明青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
356	50	65	東播系須恵器	こね鉢	SR01	—	—	9.0	中粒砂多量	N7/0灰白色	使用による摩滅	回転ナデ，底部：糸切り	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
357	50		瓦器	椀	SR01	—	—	3.6	砂粒含まず	N6/0灰色	不明	不明	3/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	

第31表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（21）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
358	51	66	備前焼	鉢	SR01	—	—	—	粗砂含む	5R4/1暗赤灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①A2淡青灰色シルト層	
359	51	66	備前焼	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	5P3/1暗紫灰色～10R4/4赤褐色	回転ナデ	回転ナデ後指頭痕	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
360	51	66	備前焼	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂含む	2.5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ，ナデ	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
361	51	66	備前焼	擂鉢	SR01	—	—	—	中粒砂含む	7.5YR4/4にぶい赤色～2.5Y3/3暗オリーブ褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
362	51	66	備前焼	擂鉢	SR01	—	—	9.0	粗砂含む	5YR7/8橙色～2.5YR4/1赤灰色	回転ナデ	不明	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
363	51	63	唐津焼	皿	SR01	14.0	—	—	粗砂少量	釉：7.5YR6/3にぶい褐色　胎土：7.5YR7/3にぶい橙色	施釉	施釉	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
364	51	63	唐津焼	灰釉縁溝皿	SR01	14.6	—	—	砂粒含まず	釉：7.5Y8/1灰白色　胎土：5YR7/2明褐灰色	施釉	施釉(口縁部のみ)	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
365	51	63	唐津焼	皿	SR01	—	—	5.0	中粒砂含む	釉：7.5Y7/1灰白色　胎土：10R6/4にぶい赤橙色	施釉	無釉	4/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
366	51	63	唐津焼	灰釉皿	SR01	—	—	4.4	砂粒含まず	釉：10Y6/1灰色　胎土：2.5YR7/2明赤灰色	施釉，胎土目積	無釉	2/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
367	51	63	唐津焼	灰釉皿	SR01	—	—	4.4	砂粒含まず	釉：5Y5/3灰オリーブ色　胎土：N8/0灰白色	施釉，貫入，胎土目積	無釉	2/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
368	51	64	陶器	青緑釉皿	SR01	14.2	—	—	砂粒含まず	釉：10Y5/2オリーブ灰色～2.5Y7/1灰白色　胎土：2.5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
369	51	64	陶器	青緑釉皿	SR01	—	—	5.1	砂粒含まず	釉：10GY4/1暗緑灰色　胎土：2.5Y8/1灰白色	施釉，蛇ノ目釉剝ぎ	施釉(高台部除く)	2/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	

第32表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（22）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
370	51	63	陶器	灰釉皿	SR01	13.8	—	—	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色 胎土：5YR7/3にぶい橙色	施釉	施釉（底部除く）	1/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
371	51	64	陶器	灰釉皿	SR01	—	—	8.5	砂粒含まず	釉：5Y5/3灰オリーブ色　胎土：5Y7/1灰白色	施釉	施釉，底部：鉄塗	2/8	①A2淡青灰色シルト層	
372	51	63	白磁	小皿	SR01	9.6	—	—	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色 胎土：N8/0灰白色	施釉，蛇ノ目釉剝ぎ	施釉	2/8	①B3第2層淡青灰色シルトMn	
373	51	64	中国産白磁	碗	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
374	51	63	磁器　染付	皿	SR01	13.0	—	—	砂粒含まず	釉：10BG7/1明青灰色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
375	51	63	磁器　染付	皿	SR01	—	—	4.1	砂粒含まず	釉：10Y8/1灰白色 胎土：白色	施釉：蛇ノ目釉剝ぎ	無釉	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
376	51	63	磁器　染付	碗	SR01	10.9	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①A2淡青灰色シルト層	
377	51	63	磁器　染付	徳利	SR01	—	—	5.6	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	無釉	施釉，畳付無釉	1/8	①B2 2層淡青灰色シルトMn	
378	51	63	磁器　染付	徳利	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	無釉	施釉	1/8	①A3淡青灰色シルト層	
379	52		土師器	小皿	SR01	8.4	1.3	6.0	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
380	52		土師器	小皿	SR01	8.1	—	6.0	中粒砂多量	5YR7/8橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
381	52		土師器	小皿	SR01	6.7	1.8	4.6	中粒砂多量	10YR8/4浅黄橙色	不明	不明，底部：ヘラ切り	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
382	52		土師器	小皿	SR01	7.7	1.1	6.5	粗砂含む	2.5Y8/2灰白色	不明	底部：ヘラ切り，不明	2/8	①A3第3層淡青灰色粘土	
383	52		土師器	小皿	SR01	5.7	1.2	4.5	粗砂含む	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
384	52	50	土師器	皿	SR01	7.6	1.3	6.2	中粒砂少量	5YR6/6橙色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	8/8	①B2第3層淡青灰色粘土	

第33表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（23）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
385	52		土師器	皿	SR01	7.6	1.8	5.4	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り	2/8	①B2第3層	
386	52		土師器	坏	SR01	12.5	—	8.5	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
387	52		土師器	鉢	SR01	—	—	—	粗砂含む	5Y8/2灰白色	不明	不明	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
388	52		土師器	鉢	SR01	—	—	—	中粒砂多量	5Y2/1黒色	不明	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
389	52		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	ハケ目	指頭痕	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
390	52		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
391	52		土師器	擂鉢	SR01	—	—	10.8	礫含む	2.5Y8/2灰白色	ハケ目	指頭痕，ナデ	2/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
392	52		土師器	擂鉢	SR01	—	—	—	礫含む	10YR8/2灰白色	不明	指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
393	52		土師器	擂鉢	SR01	28.6	—	—	粗砂多量	10YR8/2灰白色	ハケ目，回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
394	52		土師器	甕	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
395	52		土師器	甕	SR01	36.8	—	—	粗砂多量	2.5Y6/3にぶい黄色	指頭痕	指頭痕，不明	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
396	52		土師器	土釜	SR01	29.6	—	—	中粒砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	ハケ目	ハケ目，回転ナデ	2/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
397	52		土師器	土釜	SR01	28.0	—	—	中粒砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
398	52		土師器	土釜	SR01	27.8	—	—	粗砂多量	2.5Y7/3浅黄色～5Y4/1灰色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
399	52		土師器	土釜	SR01	23.3	—	—	粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	

第34表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（24）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
400	52		土師器	土釜	SR01	23.0	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	不明	回転ナデ，ハケ目	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
401	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	不明	指頭痕，回転ナデ	1/8	①A3 3層淡青灰粘土	
402	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR6/4にぶい黄橙色	回転ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	①A3 3層淡青灰粘土	
403	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	10YR7/3にぶい黄橙色	回転ナデ，板ナデ	回転ナデ	1/8	①A3第3層淡青灰色粘土	
404	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	5YR8/4淡橙色	不明	指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
405	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	2.5Y6/3にぶい黄色	ハケ目後ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	①A3第3層淡青灰色粘土	
406	52		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
407	53		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
408	53		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	不明	回転ナデ	1/8	①A3 3層淡青灰粘土	
409	53		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR4/1褐灰色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①A3第3層淡青灰色粘土	
410	53		土師器	土釜	SR01	20.0	—	—	粗砂多量	2.5Y8/4淡黄色～10YR4/2灰黄褐色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
411	53		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂含む	2.5Y8/1灰白色	ナデ，指頭痕	ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
412	53		土師器	土釜	SR01	23.0	—	—	粗砂含む	2.5Y6/3にぶい黄色	不明	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	外面煤付着
413	53		土師器	土釜	SR01	22.4	—	—	粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	2/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
414	53		土師器	土釜	SR01	26.0	—	—	粗砂多量	2.5Y6/3にぶい黄色	回転ナデ	不明	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
415	53		土師器	土釜	SR01	22.7	—	—	粗砂多量	7.5YR4/1褐灰色～2.5Y7/3浅黄色	板ナデ，回転ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	

第35表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（25）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
416	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	不明	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
417	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR4/2灰褐色	回転ナデ	指頭痕	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
418	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂含む	7.5YR7/6橙色	ナデ	指頭痕	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	外面煤付着
419	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	中粒砂多量	2.5Y5/4黄褐色	不明	不明	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
420	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	2.5Y5/2暗灰黄色	不明	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
421	53		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂多量	10YR5/2灰黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
422	53		須恵器	坏か高坏	SR01	14.4	—	—	粗砂少量	N7/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
423	53		須恵器	坏	SR01	12.4	—	—	細粒砂含む	N7/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
424	53		須恵器	鉢	SR01	—	—	10.0	粗砂多量	5PB4/1暗青灰色	回転ナデ後ナデ	ナデ，底部：糸切り	2/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
425	53		須恵器	壺か甕	SR01	—	—	—	細礫含む	10Y5/2灰 赤 色～5PB6/1青灰色	板削り後ナデ	タタキ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
426	54	65	東播系須恵器	こね鉢	SR01	—	—	—	粗砂多量	5B5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	① 3層淡青灰色粘土	
427	54	65	東播系須恵器	こね鉢	SR01	29.0	—	—	中粒砂多量	5PB6/1青灰色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
428	54		瓦質土器	こね鉢	SR01	—	—	—	粗砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ	タタキ後回転ナデ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
429	54	43	瓦質土器	擂鉢	SR01	—	—	—	中粒砂多量	N3/0暗灰色	不明	指頭痕	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
430	54		亀山焼	甕	SR01	—	—	—	中粒砂多量	N5/0灰色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ，タタキ	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	

第36表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（26）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
431	54	64	中国産青磁	縁折皿	SR01	28.0	—	—	砂粒含まず	釉:10GY7/1明緑灰色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	①B2第3層淡青灰色粘土	
432	54	64	中国産青磁	碗	SR01	11.0	—	—	砂粒含まず	釉：7.5GY6/1緑灰色　胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	①B3・B2 3層淡青灰色粘土	
433	54	64	中国産青磁	碗	SR01	—	—	—	砂粒含まず	釉：10Y6/2オリーブ灰色　胎土：2.5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
434	54	64	中国産白磁	壺	SR01	—	—	—	粗砂少量	釉：2.5GY5/1灰色　胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	①B3 3層淡青灰色粘土	
437	55		土師器	小皿	SR01	6.6	0.8	6.1	中粒砂含む	2.5YR7/6橙色	不明	不明	2/8	①h(Q1)4と3の間灰色シルト	
438	55		土師器	坏	SR01	7.8	1.7	4.8	中粒砂多量	10YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	①A2第3層の下の層	
439	55		土師器	土鍋	SR01	—	—	—	粗砂含む	10YR2/1黒色～2.5Y6/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①A2第3層の下の層	
440	55		土師器	土釜	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR6/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	①断面⑥P1	
441	55		土師器	土釜	SR01	22.0	—	—	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	指押さえ，回転ナデ	1/8	①A2第3層の下の層	
442	55		土師器	土釜	SR01	22.3	—	—	中粒砂多量	2.5Y8/2灰白色	ハケ目，回転ナデ	回転ナデ，ナデ，指頭痕	2/8	①試掘トレンチ掘り下げ，灰色粘土層	449と同一個体か？
443	55		須恵器	坏	SR01	10.8	2.8	6.5	細砂含む	5PB4/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	①B3 4層白灰色粘土	
444	55		土師器	坏	SR01	9.4	2.7	4.8	粗砂含む	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	4/8	①B3 5層黒灰色粘土	
445	55		土師器	坏	SR01	11.0	—	7.5	細砂多量	2.5Y6/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，ナデ	2/8	① 5層黒灰色粘土	
446	55	50	土師器	坏	SR01	10.2	2.6	5.3	中粒砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り後板目圧痕	8/8	①B3 5層黒灰色粘土	
447	55		土師器	椀	SR01	12.2	—	—	粗砂含む	2.5Y8/2灰白色	ナデ	ナデ，指頭痕	1/8	①B3 5層黒灰色粘土	

第37表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（27）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
448	55		土師器	甕	SR01	—	—	—	粗砂多量	7.5YR3/1黒褐色	回転ナデ	不明	1/8	① 5層黒灰色粘土	
449	55		土師器	土釜	SR01	22.0	—	—	粗砂多量	2.5Y7/1灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ，タタキ，指頭痕	2/8	① 5層黒灰色粘土	442と同一個体か？
450	55	65	東播系須恵器	こね鉢	SR01	23.6	—	—	中粒砂多量	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	①B3 5層黒灰色粘土	
451	55	64	中国産白磁	碗	SR01	—	—	6.0	黒色細砂含む	釉：7.5Y6/2灰オリーブ色　胎土：N8/0灰白色	蛇ノ目釉剝ぎ	無釉	4/8	①B3 5層黒灰色粘土	
453	55		弥生土器	壺	SR01	23.6	—	—	長石・石英：粗砂多量	5YR6/8橙色	不明	凹線，櫛歯刺突文	1/8	① B2断面2とh付近	
454	59	62	陶器	擂鉢	SK07	—	—	10.7	中粒砂含む	10R5/6赤色	ナデ後卸目	回転ナデ	2/8	③SK01 第3層	
455	59	50	無釉陶器	壺	SK07	—	—	9.8	中粒砂多量	7.5Y3/1暗赤灰色	ハケ目，板ナデ	不明	3/8	③SK01 第3層	
456	59	61	陶器	土瓶	SK07	—	—	7.0	細砂含む	釉：2.5YR5/8明赤褐色　胎土：5YR7/6橙色	施釉	無釉	4/8	③SK01 第3層	外面煤付着
457	59	62	陶器	鉄釉甕	SK07	24.0	—	—	粗砂含む	釉：10R4/4赤褐色　胎土：10R6/6赤橙色	施釉	無釉	1/8	③SK01 第4層	
458	59	61	陶胎染付	碗	SK07	9.8	—	—	中粒砂少量	釉：10Y6/1灰色　胎土：10YR3/1黒褐色	施釉，貫入	施釉，貫入	3/8	③SK01 第3層	
459	59	61	陶胎染付	碗	SK07	—	—	4.2	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色　胎土：2.5Y7/1灰白色	施釉	施釉(畳付以外)	1/8	③SK01 第3層	
460	59	61	磁器　染付	碗	SK07	9.6	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01 第3層	
461	59	61	磁器　染付	碗	SK07	9.9	—	—	砂粒含まず	釉：5GY8/1灰白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01 第4層	
462	59	61	磁器　染付	碗	SK07	10.9	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01 第3層	
463	59	61	磁器　染付	碗	SK07	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	2/8	③SK01 第3層	

第38表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（28）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
464	59	61	磁器　染付	碗	SK07	12.8	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01　第3層	
465	59	61	磁器　染付	碗	SK07	9.8	—	—	砂粒含まず	釉：2.5Y7/1灰白色 胎土：2.5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	③SK01　第3層	
466	59	61	磁器　染付	碗	SK07	—	—	3.4	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉（畳付以外）	2/8	③SK01　第4層	
467	59	61	磁器　染付	碗	SK07	10.0	5.6	4.0	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉（畳付以外）	2/8	③SK01　第4層	
468	59	61	磁器　染付	碗	SK07	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉（畳付以外）	3/8	③SK01　第3層	
469	59	61	磁器　染付	皿	SK07	12.8	—	—	砂粒含まず	釉：5Y8/1灰白色 胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01　第3層	
470	59	61	磁器　染付	皿	SK07	—	—	9.0	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉（畳付以外）	1/8	③SK01　第4層	
471	59	61	磁器　染付	蓋物	SK07	14.0	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	口縁部釉剝ぎ	施釉	1/8	③SK01　第4層	
472	59	62	陶器　唐津焼	刷毛目鉢	SK07	—	—	—	中粒砂少量	釉：7.5YR3/2黒褐色　胎土：7.5R5/3にぶい赤褐色	施釉	施釉(底部以外)	1/8	③SK01　第3層	
473	59	64	青磁	香炉	SK07	9.4	—	—	砂粒含まず	釉：2.5GY6/1オリーブ灰色　胎土：N8/0灰白色	上部のみ施釉	施釉	1/8	③SK01　第1層白灰シルト	
474	59	61	陶器	碗	SK07	—	—	2.8	砂粒含まず	釉：7.5YR7/2明褐灰色　胎土：2.5Y8/1灰白色	施釉	施釉（底部以外）	3/8	③SK01～03	
475	59	61	磁器　色絵	碗	SK07	—	—	—	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉	1/8	③SK01～03 試掘トレンチ	
476	59	61	磁器　染付	皿	SK07	—	—	7.7	砂粒含まず	釉：白色　胎土：白色	施釉	施釉，高台内面釉剝ぎ	1/8	③SK01～03 試掘トレンチ	
478	60		土師器	灯明皿	SK09	7.0	1.4	4.7	細砂少量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	⑤SK01	

第39表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（29）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
479	62		土師器	小皿		8.2	—	5.8	粗砂多量	5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
480	62		土師器	小皿		7.8	1.2	6.4	中粒砂含む	2.5YR6/8橙色	不明	底部：ヘラ切り	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
481	62		土師器	小皿		5.8	1.2	3.8	細砂含む	2.5YR6/6橙色～10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り後板目圧痕	4/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
482	62		土師器	坏		9.6	2.5	5.8	細砂含む	7.5YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
483	62		土師器	坏		10.0	1.9	6.8	中粒砂多量	2.5YR7/4淡赤橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
484	62		土師器	坏		10.5	1.9	8.2	粗砂多量	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	②南部包含層サブトレンチ(東)	
485	62		土師器	坏		13.9	2.9	9.4	中粒砂多量	10YR8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
486	62	51	土師器	坏		15.0	3.3	8.0	細砂含む	7.5YR7/3にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り	4/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
487	62		土師器	坏		15.0	—	—	細砂含む	5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
488	62		土師器	鉢		18.8	—	—	粗砂多量	10YR4/1褐灰色	ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	②南部包含層サブトレンチ(東)	
489	62	43	土師器	擂鉢		—	—	—	粗砂多量	2.5Y2/1黒色	不明	不明	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
490	62		土師器	土釜		26.2	—	—	粗砂多量	7.5YR3/2黒褐色～10YR6/3にぶい黄橙色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ，ナデ，指頭痕	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
491	62		土師器	土釜		25.2	—	—	粗砂多量	10YR5/2灰黄褐色	ナデ，回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
492	62		土師器	土釜		23.5	—	—	粗砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	ナデ，ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	

第40表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（30）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
493	62		土師器	土釜		22.0	—	—	粗砂多量	10YR5/3にぶい黄褐色	ハケ目，回転ナデ，ナデ	ナデ，指頭痕，回転ナデ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	外面煤付着
494	62		土師器	土釜		18.1	—	—	粗砂多量	5YR5/6明赤褐色	ハケ目	回転ナデ，指頭痕	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
495	62		土師器	土鍋		30.8	—	—	粗砂含む	7.5YR4/2灰褐色～7.5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ，ハケ目	回転ナデ，タタキ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
496	62		土師器	土鍋		—	—	—	粗砂多量	7.5YR3/2黒褐色	ハケ目	不明	1/8	②C3，C4	
497	62	65	東播系須恵器	こね鉢		—	—	—	粗砂含む	2.5Y6/1黄灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
498	62	43	瓦質土器	擂鉢		—	—	—	粗砂少量	5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
499	62		瓦質土器	擂鉢		32.0	—	—	粗砂多量	2.5Y4/1黄灰色	回転ナデ	指頭痕，回転ナデ	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
500	62	65	陶器	天目釉碗		—	—	—	砂粒含まず	釉：7.5YR3/3暗褐色　胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉(底部除く)	1/8	②南側(C3)残したピットのまわりの土除去包含層第2～4層	
501	62	64	中国産青磁	碗		—	—	—	砂粒含まず	釉：2.5GY4/1暗オリーブ灰色　胎土：N5/0灰色	施釉	施釉	1/8	②C3，C4 遺構検出時出土	
505	63		土師器	小皿		7.7	1.6	5.3	粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	不明	不明	2/8	②D4 第1層上面検出時	
506	63		土師器	坏		11.8	3.5	7.1	中粒砂多量	10YR5/2灰黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C4，D4，D5 第1層(淡青灰色粘土層)	
507	63		土師器	高台付坏		9.9	2.4	6.1	中粒砂含む	2.5Y7/3浅黄色	不明	不明，底部：ヘラ切り，貼り付け高台	4/8	②D4 第1層 上面検出時	
508	63		土師器	椀		—	—	5.3	粗砂多量	2.5Y8/1灰白色	不明	不明	3/8	②杭C4付近 1層 上面検出時	
509	63		須恵器	壺		—	—	15.2	中粒砂少量	2.5Y7/1灰白色	ナデ	タタキ	1/8	②D4 淡青灰色粘土＋黄粘(第1層)	

第41表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（31）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
510	63		須恵器	甕		25.0	—	—	中粒砂少量	5PB6/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②杭C4付近 1層 上面検出時	
511	63	66	備前焼	擂鉢		30.2	—	—	粗砂多量	5PB4/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②杭C4付近 1層 上面検出時	外面自然釉付着
513	64		土師器	小皿		7.8	—	6.6	細砂含む	2.5YR6/6橙色	不明	不明	2/8	②C3包含層第2層	
514	64		土師器	皿		15.0	—	—	中粒砂含む	2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	ナデ，回転ナデ	2/8	②C3包含層第2層	
515	64		土師器	坏		13.8	—	8.9	粗砂多量	5YR5/2灰褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C3包含層第2層	
516	64		土師器	土釜		—	—	—	粗砂多量	7.5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	②C3包含層第2層	
517	64		土師器	土鍋		45.2	—	—	粗砂含む	7.5YR2/1黒色	ハケ目，回転ナデ	板ナデ，指頭痕	1/8	②C3包含層第2層	
518	64		黒色土器A類	椀		—	—	5.0	中粒砂含む	2.5Y2/1黒色～2.5Y8/1灰白色	不明	不明	4/8	②C3包含層第2層	
519	64		瓦質土器	擂鉢		—	—	12.2	中粒砂多量	5Y7/1灰白色～7.5YR7/4にぶい橙色	不明	不明	2/8	②C3包含層第2層	
520	64		瓦質土器	擂鉢		—	—	12.0	粗砂多量	N4/0灰色	不明	指頭痕	2/8	②C3，SK03周囲畦除去，包含層第2・3層	
521	64	64	龍泉窯系青磁	碗		—	—	—	砂粒含まず	釉：7.5GY6/1緑灰色　胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	②C3包含層第2層	
524	65		弥生土器	壺		17.9	—	—	長石・石英：礫多量，雲母：細砂少量	10YR6/4にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8	②D4 第3層（黒褐色粘土）	
525	65		弥生土器	壺		—	—	5.0	長石・石英：礫多量，雲母：細砂含む	10YR6/2灰黄褐色	不明	不明	2/8	②D5 第3層（黒褐色粘土）	
526	65		弥生土器	壺		—	—	5.2	長石・石英：礫多量	2.5Y6/3にぶい黄色	不明	不明	4/8	②D4 第3層（黒褐色粘土）	

第42表　飯野・東二瓦礫遺跡　土器表（32）

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
527	65		土師器	土鍋		—	—	—	中粒砂多量	7.5YR3/1黒褐色	回転ナデ	回転ナデ，指頭痕	1/8	②C3 第4層 黒褐色粘土	
537	67		弥生土器	甕		12.8	—	—	長石・石英：粗砂多量	5YR5/4にぶい赤褐色	不明	不明	2/8	⑤ 東半 包含層(灰色)	
538	67		土師器	坏		16.2	3.0	12.8	粗砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤ 東半 試掘トレンチ埋土	
539	67	51	土師器	台付皿		7.4	2.8	4.4	粗砂含む	2.5Y8/2灰白色	ナデ	ナデ	7/8	⑤ 包含層 第1層 SD03近く	
540	67		須恵器	皿		16.4	2.0	13.8	粗砂含む	5B5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤ 東半 包含層	
541	67		須恵器	坏		13.8	3.2	8.4	中粒砂含む	2.5Y6/1黄灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	⑤ 東半 包含層	
542	67		須恵器	高台付坏		—	—	8.6	粗砂含む	5PB5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	⑤ 東半 床土掘削出土 包含層のものがほとんどであろう	
543	67	64	青磁	碗		9.8	—	—	砂粒含まず	釉：10GY6/1緑灰色　胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	⑤ 東半 床土掘削出土 包含層のものがほとんどであろう	

第43表　飯野・東二瓦礫遺跡　平瓦表

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	長さ(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	胎土	色調	調査時遺構名	備考
544	67	51	須恵質	平瓦		11.9	—	—	2.2	未調整	布目痕	ヘラ切り，未調整	—	粗砂多量	N7/0灰白色	⑤ 試掘 N4 Tre.	

第44表　飯野・東二瓦礫遺跡　丸瓦表

番号	挿図番号	図版番号	器種	報告遺構名	長さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁長(cm)	厚さ(cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	胎土	色調	調査時遺構名	備考
477	59		軒丸瓦	SK07	1.7	—	—	—	12.4	1.4		ナデ			中粒砂含む	N5/0灰色	③SK01 第3層	

第45表　飯野・東二瓦礫遺跡　石器表（1）

報告書遺物番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査時遺構名	備考
4	14	52	SD16	打製石器	スクレイパー	5.3	7.4	1.2	36.5	サヌカイト	②SD06(D4)	白色風化
5	14	52	SD16	打製石器	剝片	5.5	7.1	1.1	30.6	サヌカイト	②SD06(D4)	
6	14	52	SD16	打製石器	スクレイパー	3.8	5.7	1.0	22.6	サヌカイト	②SD06(D5)	
9	16	53	SD21，22	打製石器	スクレイパー	10.5	9.3	1.8	154.3	サヌカイト	⑤SD09	
11	17	53	SD24～26	打製石器	スクレイパー	3.6	3.4	0.8	8.5	サヌカイト	⑤SD06～08	
12	18	53	SD27	打製石器	スクレイパー	5.7	5.3	1.0	27.9	サヌカイト	⑤SD05　上層	
19	22	54		打製石器	スクレイパー	4.2	3.8	0.5	7.0	サヌカイト	③包含層　黒茶色	
20	22	55		打製石器	スクレイパー	6.7	8.7	1.1	62.1	サヌカイト	③包含層　灰色シルト（黒の上）	
21	22	56		打製石器	2次加工のある剝片	7.7	7.3	1.4	58.4	サヌカイト	③黒茶色　包含層	
49	25	52	SD02	打製石器	2次加工のある剝片	4.1	2.6	0.7	8.1	サヌカイト	②SD07②	
68	26	52	SD07	磨製石製品	砥石	4.2	1.5	4.1	42.8	花崗岩	②SD07　③SD04	
90	27	57	SD14	磨製石製品	砥石	7.2	3.5	2.4	87.9	花崗岩	②SD03③	
91	27	57	SD14	打製石器	スクレイパー	9.7	5.9	0.9	65.9	サヌカイト	②SD03③	
141	32	57	SB04　C4　SP457	磨製石器	石鍋	20.0	—	—	38.7	滑石	②SP457	
164	39	57	C3 SP059	打製石器	石鏃	2.9	1.3	0.3	1.2	サヌカイト	②SP059	
294	46	53	SD17，18	打製石器	調整のある剝片	2.6	4.2	0.6	6.9	サヌカイト	④SD13	白色風化
295	46	57	SD18	打製石器	剝片	2.0	1.7	0.4	1.1	サヌカイト	②SD01	
435	54	59	SR01	打製石器	スクレイパー	7.7	4.0	1.1	36.3	サヌカイト	①B2　3層　淡青灰色粘土土層	全体摩滅後に再調整されている
436	54	55	SR01	打製石器	2次加工のある剝片	8.0	7.0	0.8	47.2	サヌカイト	①B3　3層　淡青灰色粘土	
452	55	56	SR01	打製石器	剝片	8.9	5.0	2.1	69.9	サヌカイト	①5層　黒灰色粘土	
502	63	56		打製石器	2次加工のある剝片	4.9	3.6	0.7	17.3	サヌカイト	②C3．C4 遺構検出時出土	
503	63	58		打製石器	スクレイパー	7.4	4.3	0.7	20.6	サヌカイト	②D4 地山直上	
504	63	59		打製石器	2次加工のある剝片	4.5	3.7	1.1	22.0	サヌカイト	②D4 サブトレンチ　2層以下	

第46表　飯野・東二瓦礫遺跡　石器表（２）

報告書遺物番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種　類	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材　質	調査時遺構名	備　考
512	63	56		打製石器	剝片	4.2	1.2	0.8	3.4	サヌカイト	②D4 1層　上面検出時	
522	64	60		打製石器	スクレイパー	9.3	6.5	1.8	104.9	サヌカイト	②ベルト除去　第２層（茶灰色粘土）	
523	64	55		磨製石器	扁平片刃石斧未製品	9.4	3.5	1.4	87.1	粘板岩	②C3 包含層　第２層	擦切技法
528	65	58		打製石器	スクレイパー	4.1	3.7	0.8	11.2	サヌカイト	②D4 第３層（黒褐色粘土）	
529	65	56		打製石器	スクレイパー	6.2	5.2	0.9	28.5	サヌカイト	②D4 第３層（黒褐色粘土）	
530	65	58		打製石器	スクレイパー	4.3	5.6	1.2	19.6	サヌカイト	②D4 第３層（黒褐色粘土）	
531	65	59		打製石器	石斧	4.3	5.6	1.4	32.1	サヌカイト	②D4 第３層（黒褐色粘土）	
532	65	54		打製石器	石庖丁	13.3	5.4	1.0	77.2	サヌカイト	②D4 第３層（黒褐色粘土）	
533	65	58		打製石器	スクレイパー	5.4	3.5	0.7	15.9	サヌカイト	②４層　灰色粘土層	
534	66	54		打製石器	スクレイパー	7.0	5.5	1.1	35.1	サヌカイト	④包含層　第１層	白色風化
535	66	54		打製石器	スクレイパー	4.7	5.0	0.8	16.4	サヌカイト	④包含層　第２層（黒色土）	
536	66	59		打製石器	スクレイパー	6.6	5.2	1.0	32.3	サヌカイト	④試掘 S4 トレンチ西部	
545	67	60		打製石器	スクレイパー	9.3	6.8	1.5	118.1	サヌカイト	⑤東半　包含層	
546	67	58		打製石器	石鏃	2.4	1.8	0.3	0.9	サヌカイト	⑤東半　包含層（灰色）	
547	67	59		打製石器	石斧	5.8	5.5	1.2	44.2	サヌカイト	⑤東半　包含層（灰色）	
548	67	54		打製石器	楔形石器	5.7	6.1	1.8	75.2	サヌカイト	⑤不明	
549	67	58		打製石器	石庖丁	6.6	5.2	1.0	42.1	サヌカイト	⑤東壁断面	
550	67	56		打製石器	剝片	5.8	3.8	0.6	13.4	サヌカイト	⑤東半　包含層（灰色）	

第47表　飯野・東二瓦礫遺跡　鉄器表

番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	報告遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査時遺構名	備　考
92	27	66	不明		SD14	2.6	3.1	0.9	5.9	鉄	②SD03②	
169	39	66	鉄	鎌	SP154	3.5	4.4	0.9	13.4	鉄	②SP154	

第48表　飯野・東二瓦礫遺跡　木器表

番号	挿図番号	図版番号	種類	報告遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査時遺構名	備　考
170	39		柱材	SP160	24.1	10.7	9.2			②SP160	［木取り］芯持ち

第49表　飯野・東二瓦礫遺跡　掘立柱建物表

遺構名	区画名	構造(間×間)	桁行(m)	梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	挿図
SB01	C3・C4	8×2	7.35	2.75	20.01	N62°E	28
SB02	C3・C4	3×2	5.54	4.14	22.94	N64.5°E	29
SB03	C4	4×3	4.30	2.51	10.79	N64.5°E	31
SB04	C4	3×1	5.15	3.94	20.29	N27°W	32
SB05	C3	7以上×2	−	2.72	−	N64.5°E	33
SB06	C5	2以上×1	−	3.57	−	N30°W	34
SB07	E4	2×2	3.43	3.30	11.32	N60.5°E	35
SB08	F5	2×1	3.28	2.21	7.25	N59°E	36
SB09	F5・F6	3以上×1	−	4.03	−	N28°W	37

第50表　飯野・東二瓦礫遺跡　柵列表

遺構名	区画名	構造(間)	長さ(m)	方位	挿図
SA01	E5	2	4.24	N25.5°W	38
SA02	E4・E5	3	6.91	N26.0°W	38
SA03	F5	4	9.50	N58.5°E	38
SA04	F5	2	3.40	N65.0°E	38
SA05	G6	2	3.34	N75.5°W	38

第51表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（1）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
①区	B3	001	22	21	12	淡青灰色シルト	
①区	B3	002	15	11	6	淡灰色シルト	
①区	B2	003	23	20	17	淡青灰色シルト	
①区	B1	004	32	23	27	淡灰色シルト	土杯椀1・釜1・小破片2
①区	B1	005	34	28	35	淡灰色中粒砂	
①区	B3	006	24	18	10	白灰色シルト	
①区	B3	007	31	25	27	明淡青灰色シルト	土杯1・小片1
①区	B2	008	27	19	10	灰色シルト	
①区	B3	009	56	47	9	焼土	
②区	C3	001	33	28	34	灰白色シルト	土皿5・杯5・杯椀5・杯皿3・小片4，西椀1，弥1
②区	C3	002	27	23	19	灰白色シルト	土杯椀1
②区	C3	003	25	15	24	灰白色シルト	土杯2
②区	C3	004	35	29	42	灰白色シルト	土皿7・杯1・杯椀2・小片7，瓦椀1（和泉型），石石鏃1
②区	C3	005	24	14	25	灰白色シルト	土小片2
②区	C3	006	21	15	18	茶灰色粘土	土皿1・杯皿1・小片4
②区	C3	007	20	15	25	灰白色シルト	土杯皿1
②区	C3	008	22	15	29	灰白色シルト	土杯1・杯椀1・釜鍋2・小片13
②区	C3	009	35	14	39	灰白色シルト	土杯1・皿杯1・杯椀1，弥1
②区	C3	010	20	15	20	灰白色シルト	
②区	C3	011	20	19	26	灰白色シルト	
②区	C3	012	35	22	19	灰白色シルト＋黄褐色粘ブロック	
②区	C3	013	25	18	23	灰白色シルト	土杯1・杯椀1・小片1
②区	C3	014	27	20	不明	白灰シルト	土杯1
②区	C3	015	26	18	34	灰白色シルト	土杯1・杯椀1・小片1
②区	C3	016	25	11	30	灰白色シルト	土杯椀1・小片2

第52表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（2）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C3	017	24	18	22	灰白色シルト	土杯椀2・小片1
②区	C3	018	24	18	18	灰白色シルト	土杯1
②区	C3	019	53	44	47	灰白色シルト	土皿1・杯4・皿杯1・釜8・小片9，西小片2
②区	C3	020	25	不明	不明		
②区	C3	021	31	21	25		土杯3・皿杯1・小片2
②区	C3	022	32	20	17	灰白色シルト	土杯1・釜鍋1・小片1
②区	C3	023	20	15	22	灰白色シルト	土小片3
②区	C3	024	51	23	17	灰白色シルト	土杯6・杯椀1・小片5，黒Ａ椀1
②区	C4	025	30	28	5	淡灰色シルト，白黄色粘土，灰茶色粘土がブロックとして混じる	土皿1・杯1・皿杯1・釜1
②区	C4	026	35	31	20	淡灰色シルト，白黄色粘土，灰茶色粘土がブロックとして混じる	
②区	C4	027	28	25	3	黄渇色シルト（床土か）	
②区	C5	028	24	22	39	淡青灰色シルト	
②区	C5	029	25	15	39	淡青灰色シルト	
②区	C5	030	26	26	28	淡青灰色シルト	
②区	C5	031	26	23	11	淡青灰色シルト	
②区	D5	032	25	25	36	淡青灰色シルト	土杯3・小片2，弥1
②区	D5	033	22	20	25	淡青灰色シルト	
②区	D5	034	20	10	40	淡青灰色シルト	土杯3
②区	D5	035	22	20	26	淡青灰色シルト	土杯4・小片2，黒Ｂ椀1
②区	D5	036	21	13	17	淡青灰色シルト	土杯1
②区	D5	037	18	?	?	?	
②区	D5	038	−	−	−	−	
②区	D5	039	24	10	34	灰白色シルト	土杯1・杯椀2，瓦質杯鉢1
②区	C4	040	23	20	7	灰白色シルト	
②区	C4	041	20	10	9	灰白色シルト	
②区	C4	042	20	17	13	灰白色シルト	土杯1
②区	C4	043	20	14	22	灰白色シルト	
②区	D4	044	28	21	30	灰白色シルト	土皿杯1・小片1
②区	D5	045	23	20	19	灰白色シルト炭あり，灰もあるか？	土皿1・杯椀1・釜鍋1
②区	C3	046	15	12	10	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	047	13	9	10	灰白色シルト，2層上面	
②区	C3	048	14	13	1	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	049	10	5	8	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	050	13	10	11	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	051	17	11	25	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	052	6	4	5	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	053	13	10	4	灰白色シルト，3層上面	
②区	欠番	054	欠番				
②区	C3	055	10	9	11	灰白色シルト，3層上面	
②区	C3	056	23	14	35	白灰色粘土と黄色粘土混，2層上面	土釜1
②区	C3	057	20	14	15	灰白色シルト，2層上面	土杯皿1
②区	C3	058	32	23	47	白灰色粘土と黄渇色粘土混，3層上面	
②区	C3	059	20	10	16	灰白色シルト，浅い，3層上面，もっと上からのものか？	石鏃1
②区	C3	060	18	13	26	灰白色シルト渇色粘土，3層上面	
②区	C3	061	26	20	30	灰白色シルト，3層上面	土皿1・杯3・椀1・小片6
②区	C3	062	17	5	12	灰白色シルト，3層上面	

第53表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（3）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C3	063	19	11	10	?	土杯1・鉢1・小片2
②区	C3	064	30	12	26	?	土杯椀4・釜1
②区	C3	065	33	27	40	白灰色粘土＋黄褐色粘土ブロック，2層上面	土皿杯1・杯椀1
②区	C3	066	14	0	40	白灰色粘土＋黄褐色粘土ブロック，2層上面	土釜1，瓦質すり鉢1
②区	C3	067	11	10	12	白灰色粘土＋黄褐色粘土ブロック，2層上面	土杯1
②区	C3	068	27	26	50	白灰色粘土＋黄褐色粘土ブロック，2層上面	土杯3・椀1・杯椀1・釜鍋1・小片1
②区	C3	069	21	21	29	白灰色粘土＋黄褐色粘土ブロック，2層上面	土小片3
②区	C3	070	7	7	12	?　3層上面	
②区	C3	071	14	11	8	灰白色シルト，3層上面	
②区	欠番	072	欠番				
②区	C3	073	30	24	25	白灰色粘土黄色粘土混2層上面	
②区	C3	074	15	12	10	灰白色シルト，炭混	
②区	C3	075	25	20	13	灰白色シルト，炭混	
②区	C3	076	32	23	17	白灰色粘土	土杯皿1
②区	C3	077	19	12	12	灰茶色粘土	
②区	C3	078	20	14	16	灰茶色粘土	
②区	C3	079	20	14	15	白灰色シルト	
②区	C3	080	16	11	13	灰茶色粘土	
②区	C3	081	18	12	9	茶灰色粘土	
②区	C3	082	16	9	6		
②区	C3	083	20	14	13		
②区	欠番	084	欠番				
②区	C3	085	16	10	12		
②区	C3	086	22	15	22		
②区	C3	087	25	17	17		
②区	C3	088	26	20	27	茶灰色粘土	
②区	C3	089	24	17	18	白灰色粘土	
②区	C3	090	19	12	18	灰茶色粘土	
②区	C3	091	28	21	20	白灰色シルト	土小片2，西椀1
②区	C3	092	23	18	27	茶灰色粘土	
②区	C3	093	31	25	23	白灰色シルト	
②区	C3	094	17	12	13	炭混茶白色シルト	
②区	欠番	095	欠番			欠番	
②区	C3	096	32	25	不明	白灰色シルト	土杯皿1・小片2
②区	C3	097	27	15	29	白灰色シルト	
②区	C3	098	21	15	11	茶灰色粘土	
②区	C3	099	21	18	7	白灰色シルト	
②区	C3	100	18	13	16	白灰色シルト	
②区	C3	101	16	11	5	灰白色シルト	
②区	C3	102	23	14	9	白灰色シルト	土杯皿2・小片1
②区	C3	103	25	16	15	白灰色シルト	
②区	C3	104	16	10	9	白灰色粘土	
②区	欠番	105	欠番				
②区	C3	106	36	24	13	白灰色シルト	
②区	C3	107	29	23	19	白灰色シルト	
②区	C3	108	29	17	19	白灰色シルト	土皿杯2
②区	C3	109	41	20	33	白灰色シルト	土杯2・杯椀1
②区	C3	110	15	11	33	白灰色シルト	

第54表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（4）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C3	111	26	20	13	灰白色シルト	
②区	C3	112	−	−	−	−	
②区	C3	113	19	15	10	白灰色シルト	
②区	C3	114	30	24	21	灰白色シルト，やや茶色を帯びる	土椀1・小片1
②区	C3	115	18	15	40	淡灰色シルト	
②区	C3	116	27	21	18	白灰色シルト	土杯1・杯椀1
②区	C3	117	21	17	26	淡灰色シルト	土杯1
②区	C3	118	18	11	不明	灰白色シルト	
②区	C3	119	33	16	24	淡灰色シルト	土杯椀2・釜鍋2・小片1
②区	C3	120	23	20	27	茶灰色シルト	
②区	C3	121	22	18	16	灰色シルト	土皿杯1
②区	C3	122	23	17	18	淡灰色シルト	
②区	C3	123	22	17	10	白灰色シルト	
②区	C3	124	38	24	28	淡灰色シルト	土皿1・杯椀3・杯1・小片1
②区	C3	125	14	9	9	？	
②区	C3	126	15	10	7	淡灰色シルト	
②区	C3	127	17	11	8	白灰色シルト（茶色粒多し）	
②区	C3	128	24	17	12	白灰色シルト	土皿杯1，瓦器和泉型椀1(III段階)
②区	C3	129	26	19	12	白灰色シルト	
②区	C3	130	21	15	28	淡灰色シルト	
②区	C3	131	35	25	10	淡灰色シルト	土赤彩小片1・釜鍋1
②区	C3	132	28	22	19	淡灰色シルト	
②区	C3	133	19	12	15	白灰色シルト	土杯皿1・小片1
②区	C3	134	25	18	8	白灰色粘土	
②区	C3	135	29	21	20	白灰色粘土，茶色粒混	土皿杯1・小片1，須杯1
②区	C3	136	17	11	11	白灰色シルト，茶色粒多し	
②区	C3	137	15	11	4	白灰色シルト	
②区	C3	138	20	15	不明	淡灰色シルト	
②区	C3	139	−	−	−	白灰色シルト	
②区	C3	140	−	−	−	灰白色シルト	
②区	C3	141	22	16	21	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C3	142	26	21	11	灰白色シルト	
②区	C3	143	31	22	31	白灰色シルト	
②区	C3	144	24	19	17	灰白色シルト	
②区	C3	145	21	16	16	淡灰色シルト	
②区	C3	146	21	14	17	灰白色シルト	土皿杯1
②区	C3	147	25	19	12	淡灰色シルト，茶色粒	土杯椀1，西小片1
②区	C3	148	−	−	−	淡灰色シルト	
②区	C3	149	40	30	18	灰白色シルト	弥3，土杯椀1・小片3，須小片1
②区	C3	150	19	13	7	白灰色シルト，茶色粒多し	
②区	C3	151	22	15	9	灰白色シルト	
②区	C3	152	28	11	10	灰白色シルト	
②区	C3	153	26	22	21	白灰色シルト	
②区	C3	154	23	18	8	白灰色シルト	鉄鎌1，土杯1
②区	C3	155	18	13	13	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C3	156	25	20	28	灰色シルト	土杯1・皿杯2
②区	C3	157	−	−	−	白灰色シルト	
②区	C3	158	19	15	14	白灰色シルト	土杯1
②区	C3	159	16	10	13	白灰色シルト	
②区	C3	160	37	32	35	灰白色シルト	土皿杯3・釜鍋1
②区	C3	161	24	16	10	？	
②区	C3	162	30	23	18	灰色シルト	

第55表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（5）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C3	163	26	19	18	白灰色シルト	土小片1
②区	C4	164	44	35	21	白灰色シルト	
②区	C4	165	23	13	18	白灰色シルト	
②区	C3	166	32	8	22	灰白色シルト	土皿1・杯1・杯椀2
②区	C3	167	28	13	28	灰色シルト	
②区	C3	168	33	35	46	白灰色シルト	
②区	C3	169	16	12	11	白灰色シルト	
②区	C3	170	25	20	30	白灰色シルト	土杯1・釜鍋1
②区	C3	171	21	8	15	灰白色シルト	
②区	C3	172	21	14	15	白灰色シルト，茶色粒多し	
②区	C3	173	12	8	5	白灰色シルト	
②区	C3	174	－	－	－	白灰色シルト	
②区	C3	175	27	17	28	白灰色シルト	
②区	C3	176	30	23	23	灰白色シルト	土皿1・杯2・小片2
②区	C3	177	26	11	不明	白灰色シルト	
②区	C3	178	26	15	21	白灰色シルト	
②区	C3	179	38	24	37	灰白色シルト	土皿杯1
②区	C3	180	19	14	13	？	
②区	C3	181	49	33	28	灰白色シルト	土杯2
②区	C3	182	30	13	43	灰白色シルト	土杯椀2，石焼石5
②区	C3	183	32	20	32	灰白色シルト	土小片1，石焼石1，焼土1
②区	C3	184	50	43	49	白灰色シルト	土釜1
②区	欠番	185	欠番	－	－		
②区	欠番	186	欠番	－	－		
②区	C4	187	40	28	41	白灰色シルト 焼土ブロック	土皿4・小片7・杯4・釜2，瓦質すり鉢1
②区	C3	188	25	20	11	白灰色シルト 焼土ブロック	
②区	C3	189	18	11	10	白灰色シルト 焼土ブロック	
②区	C3	190	41	18	34	白灰色シルト 焼土ブロック	
②区	C3	191	27	13	6	白灰色シルト	
②区	C3	192	30	23	29	白灰色シルト	
②区	C3	193	44	31	30	灰白色シルト	
②区	欠番	194	欠番				
②区	C3	195	25	17	29	白灰色シルト	
②区	C3	196	36	20	29	灰白色シルト	土皿1
②区	C3	197	－	－	－	灰白色シルト	
②区	C3	198	30	17	19	白灰色シルト	
②区	C3	199	55	14	52	白灰色シルト	土杯4・小片4
②区	C3	200	40	12	32	白灰色シルト	土釜鍋1，瓦質すり鉢1
②区	欠番	201	欠番				
②区	C3	202	－	－	－		
②区	C4	203	34	20	30	灰白色シルト	
②区	C3	204	58	35	48	灰白色シルト	土皿1・皿杯1・杯椀1・杯3
②区	C4	205	22	16	12	白灰色シルト	
②区	C4	206	19	13	9	白灰色シルト	
②区	C4	207	20	15	8		
②区	C4	208	37	22	24	白灰色シルト	土小片6
②区	C4	209	22	15	12	？	
②区	C4	210	30	10	17	灰白色シルト	土釜5
②区	C4	211	35	11	78	白灰色シルト	土皿1・杯2・杯椀1
②区	C4	212	46	32	37	灰白色シルト	土杯1・杯椀2
②区	C4	213	30	13	21	灰白色シルト	
②区	C4	214	18	13	12	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C4	215	－	－	－	灰白色シルト	

第56表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（6）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	216	20	14	17	白灰色シルト	
②区	C4	217	15	10	12		
②区	C4	218	11	8	10		
②区	C4	219	16	11	9	白灰色シルト	
②区	C4	220	25	18	15	灰白色シルト	
②区	C4	221	34	25	不明		
②区	C4	222	15	10	2	灰白色シルト	
②区	C4	223	19	15	10	白灰色シルト	
②区	C4	224	17	12	15	灰白色シルト	
②区	C4	225	－	－	－		
②区	C4	226	－	－	－	茶灰色粘土	
②区	C4	227	30	25	30	茶灰色粘土	
②区	C4	228	22	17	20	白灰色シルト	
②区	C4	229	31	16	46	白灰色シルト	土皿1・杯1・皿杯1・杯椀2・小片1
②区	C4	230	34	15	46	白灰色シルト	
②区	C4	231	49	32	31	灰白色シルト	土皿1・杯2・椀2，西小片1
②区	C4	232	52	20	24	白灰色シルト	土皿1・杯椀1
②区	C4	233	28	10	20	白灰色シルト	土皿杯2・釜1，西小片1
②区	C4	234	11	8	13	灰白色シルト	
②区	C4	235	35	8	46	灰白色シルト 焼土混	
②区	C4	236	33	22	35	灰白色シルト	弥小片1，土杯2
②区	C4	237	26	20	37	灰白色シルト	土杯2・皿杯1・小片4
②区	C4	238	23	18	11	茶褐色粘土 灰白色シルト混	土小片1
②区	C4	239	20	15	21	白灰色シルト	土杯椀2・小片1
②区	C4	240	－	－	－		
②区	C4	241	28	20	37	白灰色シルト	土杯椀1
②区	C4	242	35	20	25	白灰色シルト	土皿2・杯1・小片1
②区	C4	243	33	10	25	白灰色シルト	土杯1・小片1
②区	C4	244	－	－	－		
②区	C4	245	－	－	－		
②区	C4	246	11	6	4	白灰色シルト	
②区	C4	247	28	14	26	灰白色シルト	
②区	C4	248	25	18	16	灰白色シルト	土皿1・杯1
②区	C4	249	20	18	16	淡灰茶色粘土	
②区	C4	250	34	27	19	灰色粘土	土小片1
②区	C4	251	15	8	21	白灰色粘土 茶色粒	
②区	C4	252	25	20	33	淡茶灰色粘土	土皿杯1
②区	C4	253	14	9	16	灰白色粘土，地山粒，茶色粒混	
②区	C4	254	15	11	不明	灰白色粘土，地山粒，茶色粒混	
②区	C4	255	15	11	18	灰白色粘土，地山粒，茶色粒混	
②区	C4	256	19	11	14	灰白色粘土，地山粒，茶色粒混	
②区	C4	257	－	－	－	茶褐色シルト	
②区	C4	258	25	19	21	淡茶灰色粘土	土鍋1
②区	C4	259	15	10	19	261と同じ	
②区	C4	260	18	12	15	261と同じ	
②区	C4	261	26	20	10	灰白色粘土，地山粒，茶色粒混合	土皿1・椀1
②区	C4	262	23	18	26	灰白色粘土 茶色粒	
②区	C4	263	19	12	10	白灰色粘土 茶色粒	
②区	C4	264	－	－	－	灰白色シルト	
②区	C4	265	21	15	27	灰白色シルト	
②区	C4	266	－	－	－	灰色粘土，茶色粒	土皿杯1・鍋1
②区	C4	267	33	25	42	灰白色シルト，茶色粒	土皿5・杯1・皿杯1・杯椀5・小片1

第57表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（7）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	268	31	21	不明	白灰色粘土，茶色粒	土皿2・皿杯2・杯椀4・釜4・釜鍋3，亀甕1，瓦器和泉椀1
②区	C4	269	—	—	—	灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	270	—	—	—	灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	271	17	8	不明	灰色粘土，茶色粒混	
②区	C4	272	23	11	14	灰黒色粘土	土皿1
②区	C4	273	21	14	23	茶灰色粘土	土皿杯2・釜鍋2，須甕1
②区	C4	274	18	14	15	灰色シルト	
②区	C4	275	19	12	23	白灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	276	18	13	21	白灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	277	34	15	36	灰色シルト	土皿2・杯1・皿杯1・杯椀2・釜鍋2・小片2
②区	C4	278	25	16	17	白灰色シルト，茶色粒	土釜鍋1
②区	C4	279	22	9	6	白灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	280	33	20	22	褐色粘土ブロック　灰白色シルトブロック	
②区	C4	281	31	16	28	白灰色シルト	土皿2・皿杯3・杯椀3・鍋1・釜1・小片5
②区	C4	282	20	13	24	白灰色シルト	土杯1・皿杯1
②区	C4	283	27	9	17	淡灰色シルト，茶色粒	土皿1・釜1
②区	C4	284	—	—	—		土皿杯1・小片2
②区	欠番	285	欠番				
②区	C4	286	21	14	22	白灰色シルト，茶色粒	
②区	C4	287	—	—	—	白灰色シルトと褐色粒　混	
②区	C4	288	17	9	不明	灰色シルト　地山混	
②区	C4	289	56	43	16	白灰色シルト　地山ブロック	土杯4・皿杯1・釜1，焼土2
②区	C4	290	60	50	16	白灰色シルト（地山ブロック多い）	土杯3・小片1
②区	C4	291	21	15	25	白灰色シルト	土皿1・杯1・小片4
②区	C4	292	16	11	不明	淡灰色シルト	
②区	C4	293	26	21	4		
②区	C4	294	15	10	不明	灰白色シルト	
②区	C4	295	15	10	9	灰白色シルト	
②区	C4	296	34	14	18	淡灰白色シルト	土釜鍋1，焼土1
②区	C4	297	17	12	15	灰白色シルト	
②区	C4	298	—	—	—		
②区	C4	299	20	13	5	白灰色シルト	土釜鍋1・小片1
②区	C4	300	14	9	9	淡灰色シルト	
②区	C4	301	20	10	33	淡灰色シルト	土皿1・皿杯4・鍋1・釜鍋1
②区	C4	302	30	13	42	白灰色シルト	土皿杯3，弥小片1
②区	C4	303	29	10	9	白灰色シルト	
②区	C4	304	57	15	32	白灰色シルト	土杯3・皿杯1・杯椀1
②区	C4	305	20	10	22	淡灰色シルト	
②区	C4	306	24	15	28	淡灰色シルト	
②区	欠番	307	欠番				
②区	C4	308	27	11	13	淡灰色シルト	
②区	C4	309	23	16	25	淡灰色シルト	土皿1・皿杯1・小片1
②区	C4	310	23	11	35	地山混　灰白色砂	土皿杯3・小片2
②区	C4	311	18	13	11	灰白色シルト　褐色粒混	
②区	C4	312	14	8	5	白灰色シルト（柱痕）	
②区	C4	313	16	10	8	白灰色シルト（柱痕）	
②区	C4	314	12	8	13	褐色と灰白色シルト混（柱痕）	土皿杯1
②区	C4	315	37	16	29	地山と灰白色シルト混(316の埋土の可能性もある)	土皿1
②区	C4	316	37	16	29	315を切る　灰色シルト	土皿2・杯1・皿杯4・釜鍋1・小片1

第58表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（8）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	317	30	21	不明	褐色と白色シルト混合	須杯1，東播鉢1
②区	C4	318	13	6	6	褐色と白色シルトの混合	土皿杯1
②区	C4	319	16	12	不明	淡灰色シルト	
②区	C4	320	25	13	17	淡灰色シルト　褐色粒混	
②区	C4	321	16	11	15	淡灰色シルト　褐色粒混	
②区	C4	322	32	11	20	淡灰色シルト　褐色粒混	土皿杯1・釜2，東播鉢1
②区	C4	323	21	15	24	淡灰色シルト　褐色粒混	
②区	C4	324	43	20	44	白灰色粘土，地山ブロック混	土皿杯1・杯椀1・小片3
②区	C4	325	25	14	33	灰色シルト	土皿1・杯1・皿杯1・鍋1・小片4
②区	C4	326	24	17	24	淡灰色シルト	土杯1・椀1・釜鍋1
②区	C4	327	17	10	17	灰白色シルト　地山ブロック	
②区	C4	328	21	17	17	灰白色シルト　地山ブロック	土皿2・皿杯2・杯椀1，須杯1
②区	C4	329	24	19	22	灰白色シルト　地山ブロック	土杯椀1，瓦器小片1
②区	C4	330	19	14	21	灰黒色シルト	土杯1,東播鉢1,磁中国産白磁壺1
②区	C4	331	19	11	18	灰色粘　地山ブロック	土杯1・皿杯2
②区	C4	332	25	13	24	灰色シルト	土皿9・皿杯7・杯椀1・釜鍋1・小片1
②区	C4	333	24	18	27	白灰色粘土	須杯1
②区	C4	334	34	15	34	地山ブロック　灰白色粘土　茶色粘土　混合	土杯3
②区	C4	335	24	16	不明	白灰色シルト	土皿杯1・杯椀1
②区	C4	336	14	10	14	淡茶灰色粘土	石焼石1
②区	C4	337	36	10	70	淡茶灰色シルト	土杯4・皿杯1・釜3・小片2
②区	C4	338	24	15	58	白灰色シルト	土皿杯1，石剝片1
②区	C4	339	32	17	29	灰白色粘土	土皿杯1・小片8，西小片1
②区	C4	340	28	20	28	灰白色粘土	土皿杯1
②区	C4	341	24	17	14	炭混　灰黒色粘土	土皿2・皿杯1・小片2
②区	C4	342	21	16	16	淡茶灰色粘土	
②区	C4	343	42	34	6	白色シルト	
②区	C4	344	34	14	54	淡茶灰色粘土	土釜鍋1，石焼石1
②区	C4	345	16	12	14	白灰色シルト	
②区	C4	346	28	22	32	白灰色シルト	
②区	C4	347	19	14	17	茶灰色粘土　黄色シルト	
②区	C4	348	16	10	18	白灰色シルト	
②区	C4	349	26	19	24	白灰色シルト	土小片1，焼土4
②区	C4	350	56	15	70	白灰色粘土　黄色シルトブロック混	土皿2・杯3・椀1・皿杯3・杯椀3・鍋1,西椀1，石花崗岩1
②区	C4	351	21	15	30	灰白色粘土	
②区	C4	352	18	13	9	淡茶灰色粘土	
②区	C4	353	21	17	10	灰白色粘土	
②区	C4	354	24	15	17	白灰色シルト	土杯3・杯椀1
②区	C4	355	21	16	12	淡灰茶色粘土	
②区	C4	356	37	15	30	炭混　黒灰色シルト	土皿9・杯4・皿杯10
②区	C4	357	24	18	12	白灰色粘土	
②区	C4	358	31	21	42	灰白色シルト　やや暗い	土皿1・杯2・皿杯1
②区	C4	359	25	15	26	白灰色シルト	
②区	欠番	360	欠番				
②区	C4	361	25	16	13	白灰色シルト	
②区	C4	362	11	7	8	白灰色シルト	
②区	C4	363	34	26	30	白灰色シルト	土杯2・皿杯1，石焼石破片1
②区	C4	364	15	11	12	白灰色シルト	
②区	C4	365	33	21	27	白灰色シルト	土皿2・杯3・小片2
②区	C4	366	22	17	8	白灰色シルト	
②区	C4	367	16	12	15	白灰色シルト	

第59表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（9）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	368	19	14	18	白灰色シルト	
②区	C4	369	24	15	31	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C4	370	33	27	34	白灰色シルト	土皿杯1・杯椀1・小片1
②区	C4	371	25	13	22	白灰色シルト	
②区	C4	372	27	16	23	白灰色シルト	
②区	C4	373	22	13	25	白灰色シルト	
②区	C4	374	34	14	60	白灰色シルト	土皿2・杯2・皿杯3・小片7
②区	C4	375	39	23	39	白灰色シルト	土皿1・皿杯1・杯椀1
②区	C4	376	18	13	24	白灰色シルト	
②区	C4	377	22	15	19	灰白色シルト	
②区	C4	378	27	17	11	白灰色シルト	
②区	C4	379	27	15	26	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C4	380	35	24	29	灰白色シルト	土皿3・杯3・皿杯2・小片5，瓦器和泉椀1，焼土2
②区	C4	381	27	14	38	灰白色シルト	土杯椀1・小片2
②区	C4	382	23	17	26	白灰色シルト	土皿杯3・椀1，西椀1
②区	C4	383	40	15	66	白灰色シルト	土皿1・杯6・皿杯3・杯椀1・鍋1・小片2，瓦和泉椀1，西椀1
②区	C4	384	30	21	22	白灰色シルト	土皿1・杯1・皿杯1・鍋2・小片1
②区	C4	385	23	14	20	灰白色シルト	
②区	C4	386	24	15	23	灰白色シルト	土杯1・皿杯1・杯椀1・釜鍋1・小片2，西椀1
②区	C3	387	30	15	20	白灰色シルト	
②区	C3	388	21	14	11	白灰色シルト	
②区	C3	389	42	30	37	白灰色シルト	土杯1・皿杯4・杯椀1・小片21，亀甕1
②区	C3	390	31	10	16	灰白色シルト	
②区	C3	391	－	－	－		
②区	C3	392	26	21	6		
②区	C3	393	38	30	19	白灰色シルト	
②区	C3	394	31	23	16	白灰色シルト	土杯1・皿杯1・小片1
②区	C3	395	19	14	14	白灰色シルト	
②区	C3	396	33	22	48	白灰色シルト	
②区	C3	397	－	－	－		土皿1・皿杯5・杯椀2・釜鍋1・小片3，西椀1
②区	C3	398	－	－	－	白灰色シルト	
②区	C3	399	38	23	30	灰白色シルト	
②区	C3	400	36	30	23		
②区	C3	401	－	－	－	白灰色シルト	土皿杯2
②区	C3	402	－	－	－	白灰色シルト	
②区	C3	403	－	－	－		
②区	欠番	404	欠番				
②区	C4	405	43	38	14	白灰色シルト	土皿1・皿杯3・釜鍋1
②区	C4	406	26	19	22	白灰色シルト	
②区	C4	407	23	20	11	白灰色シルト	
②区	C4	408	37	24	59	灰白色シルト	土皿2・杯1・皿杯2・小片2，石焼石1，焼土10
②区	C4	409	21	15	11	白灰色シルト	
②区	C4	410	42	10	40	白灰色シルト	土皿杯1・釜鍋1・小片1
②区	C4	411	28	20	11	灰白色シルト	
②区	C4	412	33	18	43	灰白色シルト	土皿6・杯7・皿杯11・椀2・小片8，西椀1
②区	C4	413	27	20	19	灰白色シルト	土皿杯1
②区	C4	414	26	18	7	灰白色シルト	
②区	C4	415	22	15	15	白灰色シルト	
②区	C4	416	19	13	15	白灰色シルト	
②区	C4	417	33	11	22	灰白色シルト	土皿2

第60表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（10）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	418	24	17	16	灰白色シルト	土皿2・高台付杯1・皿杯1・小片2
②区	C4	419	25	18	18	灰白色シルト	土皿2・杯2・皿杯3・小片1
②区	C4	420	28	18	25	白灰色シルト	土杯1
②区	C4	421	28	19	24	白灰色シルト	土皿1・杯1・皿杯2
②区	C4	422	25	17	25	白灰色シルト	
②区	C4	423	20	15	8	白灰色シルト	土皿1・杯1・皿杯2
②区	C4	424	11	6	8	白灰色シルト	
②区	C4	425	32	22	24	白灰色シルト	
②区	C4	426	21	14	8	炭混，灰白色シルト	
②区	C4	427	22	16	5		
②区	欠番	428	欠番				
②区	C4	429	15	9	8		
②区	欠番	430	欠番				
②区	C4	431	49	10	34	白灰色シルト	土皿1・杯椀1，瓦質椀2
②区	C4	432	35	14	31	灰色シルト	土皿3・杯2・杯椀2・小片2，西椀1，瓦器椀1
②区	C4	433	33	17	35	灰色シルト　茶色粒	土皿2・杯1・皿杯1・釜鍋4
②区	C4	434	53	35	46	淡茶灰色シルト	土皿12・杯11・皿杯9・杯椀1・釜1・鍋1・釜鍋5
②区	C4	435	－	－	－		
②区	C3	436	20	8	20	灰色シルト	
②区	C3	437	21	3	14	白灰色シルト	
②区	C3	438	－	－	－	灰白色シルト	
②区	C3	439	－	－	－		
②区	C3	440	－	－	－		
②区	C3	441	30	20	22	白灰色シルト	
②区	C3	442	36	27	36	灰白色シルト	土杯4・杯椀3・釜鍋1・小片6
②区	C3	443	－	10	6	白灰色シルト	
②区	C3	444	48	21	8	淡灰色シルト	
②区	C3	445	23	19	18	淡灰色シルト	
②区	C3	446	－	8	6	白灰色シルト	
②区	C3	447	21	15	32	茶灰色シルト	土皿杯1
②区	C4	448	22	6	33	灰色シルト	土杯3
②区	C4	449	24	16	23	灰色シルト	土皿6・杯3・杯椀1・小片3
②区	C4	450	－	－	－		
②区	C4	451	－	19	20	灰色シルト	土皿2・杯皿1
②区	C4	452	28	14	23	灰白色粘土　茶色粒	瓦質ごね鉢，土皿2・皿杯1
②区	C4	453	28	18	41	茶灰色粘土	
②区	C4	454	－	－	－	白灰色粘土　茶色粒	
②区	C4	455	39	30	21	地山　白灰色粘土　茶色粒　混合	土皿1・杯2・皿杯1・釜3・釜鍋1
②区	C4	456	不明	不明	31	淡茶灰色粘土	土椀
②区	C4	457	不明	20	41	淡茶灰色粘土　やや暗い	土皿1・杯3・釜鍋1・小片2，瓦質鉢1，石滑石製石鍋1
②区	C4	458	31	23	37	淡茶灰色粘　焼土	土杯1
②区	C4	459	25	9	不明	淡茶灰色シルト	土皿4・杯35・釜6・鍋1・釜鍋6・皿杯4・椀1
②区	C4	460	不明	10	不明	白灰色シルト	
②区	C4	461	23	17	9	淡茶灰色粘土	
②区	C4	462	43	32	28	灰色シルト	土皿1・杯7・釜鍋2・小片1
②区	欠番	463	欠番				土皿杯1
②区	C4	464	－	－	－		
②区	C3	465	23	17	21	淡灰色シルト	
②区	C3	466	19	12	24	白灰色シルト	
②区	C3	467	－	－	－		
②区	C4	468	－	－	9	淡茶灰色粘土	土杯1・皿1・皿杯1

第61表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（11）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	469	−	−	9	灰色シルト	
②区	C4	470	29	17	22	白灰色シルト	
②区	C4	471	−	−	−		
②区	C4	472	31	23	−	白灰色シルト	土釜鍋1
②区	C4	473	22	15	30	白灰色シルト	
②区	C4	474	30	23	46	灰白色シルト	
②区	C4	475	46	34	35	白灰色シルト	土皿杯2
②区	C4	476	31	21	29	白灰色シルト	
②区	C3	477	40	26	32	白灰色シルト	土皿杯1
②区	C3	478	16	13	13	灰黒色シルト	
②区	C4	479	−	−	−		土杯2・皿杯1
②区	C4	480	−	−	−	白灰色シルト	土杯1・小片1
②区	C4	481	44	14	29	白灰色シルト	土皿2・杯1・釜鍋3，西椀1
②区	C4	482	29	15	40	灰色シルト	土皿1・皿杯1・杯1・釜鍋2，西椀1，石焼石3
②区	C4	483	23	15	21	灰白色シルト	土皿1
②区	C4	484	21	18	18	白灰色シルト	
②区	C4	485	18	11	12	白灰色シルト	
②区	C3	486	56	44	23	白灰色シルト	土皿杯2
②区	C3	487	23	17	18	白灰色粘土	
②区	C3	488	19	13	不明	白灰色シルト	
②区	C3	489	36	30	15	白灰色シルト	
②区	C3	490	不明	不明	不明	白灰色シルト	
②区	C3	491	32	18	16	灰白色シルト	土杯1・皿杯2・小片1
②区	欠番	492	欠番				
②区	欠番	493	欠番				
②区	C4	494	−	−	−	白灰色シルト	
②区	C4	495	28	18	14	白灰色シルト	土杯1
②区	C4	496	22	15	不明	白灰色シルト	
②区	C4	497	38	14	30	白灰色シルト	
②区	C4	498	27	19	31	地山と灰茶色粘土混	
②区	C3	499	26	21	29	白灰色シルト	
②区	C4	500	37	28	25	茶灰色シルト	土皿杯1
②区	C4	501	33	27	32	灰黒色シルト	
②区	C4	502	21	15	15		
②区	C4	503	−	−	−		土釜鍋1
②区	C4	504	56	20	38		
②区	C4	505	31	23	22	淡灰色シルト	
②区	C4	506	46	41	38	白灰色シルト　やや茶色を帯びる	土杯2・皿杯1
②区	C4	507	−	−	−		
②区	C4	508	30	22	28	白灰色シルト	土杯1・皿杯6・小片1
②区	欠番	509	欠番				
②区	欠番	510	欠番				
②区	C4	511	25	17	28	白灰色シルト	
②区	C4	512	28	20	不明	白灰色シルト	土杯1・皿杯2・小片1
②区	C4	513	28	17	39	白灰色シルト	
②区	C4	514	20	11	45		土皿2・杯1・皿杯5・釜鍋1，須杯蓋1
②区	欠番	515	欠番				土釜鍋1
②区	欠番	516	欠番				土皿2・釜鍋1・小片6
②区	C4	517	28	18	60	白灰色シルト	土皿3・小片3
②区	C4	518	21	10	42	灰色シルト	土杯2・皿杯2・小片3
②区	C3	519	38	30	33	灰白色シルト	土杯2・小片5

第62表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（12）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
②区	C4	520	27	20	25	灰白色シルト	
②区	C4	521	29	21	30	灰白色シルト	
②区	C4	522	16	10	10	灰白色シルト（柱）	
②区	C4	523	20	15	12	灰白色シルト（柱）	
②区	C4	524	17	12	9	灰色シルト（柱）	
②区	C4	525	30	20	27	白灰色シルト	土皿1・皿杯2・釜鍋1・小片3，西椀1，磁白磁壺1
②区	C4	526	20	13	40	白灰色シルト（柱）	
②区	C4	527	31	27	3	白灰色シルト	
②区	C4	528	24	14	20		
②区	C4	529	20	14	3	灰白色シルト　地山混	
②区	C4	530	18	10	10	灰白色シルト	
②区	C4	531	19	13	28	灰白色シルト　茶色粒	土杯1・皿杯3
②区	C4	532	15	10	3	灰白色シルト　地山混	
②区	C4	533	23	8	13	白灰色粘土＋黄褐色シルトブロック	土皿1・杯6・皿杯8・釜3・釜鍋7・小片22
②区	C4	534	17	10	11	白灰色シルト	土杯1・釜1
②区	C4	535	17	11	12	白灰色シルト	土杯1・釜鍋1・小片3，須壺鉢1
②区	C4	536	15	10	11	白灰色シルト	
②区	C4	537	24	17	35	灰白色シルト	土皿6・杯椀3・皿杯4・釜鍋1
②区	C4	538	28	20	14	灰白色シルト	土皿杯2
②区	C4	539	20	17	36	白灰色シルト	土皿1・皿杯3，西椀1
②区	欠番	540	欠番				
②区	欠番	541	欠番				
②区	C3	542	15	12	6		
②区	C3	543	15	12	13		
②区	C3	544	15	11	26	黒灰色粘土	
②区	C3	545	29	13	25		
②区	C3	546	26	20	17		
②区	C3	547	22	17	15	灰黒色粘土（柱）	
②区	C3	548	21	19	40	灰色粘土	
②区	C4	549	28	18	20	白灰色シルト　地山混	土釜1・釜鍋1
②区	C4	550	24	20	14	白灰色シルト　地山混	
②区	C4	551	26	20	34	白灰色シルト　地山混	土杯1・皿杯2・小片4
②区	欠番	552	欠番				
②区	C4	553	12	8	2	灰白色シルト	
④⑤区	G6	001	－	－	－		
④⑤区	G6	002	44	32	9		
④⑤区	G6	003	36	26	2		
④⑤区	G6	004	－	－	－		
④⑤区	G6	005	－	－	－		
④⑤区	G6	006	20	12	12	灰白色粗砂混シルト	
④⑤区	G6	007	16	10	3	灰白色粗砂混シルト	
④⑤区	G5・G6	008	20	10	7	灰白色粗砂混シルト	
④⑤区	欠番	009	欠番				
④⑤区	F6	010	34	22	23	灰白色シルト	
④⑤区	F6	011	20	10	22	灰白色シルト	
④⑤区	F5	012	30	19	20	灰白色シルト	
④⑤区	F5	013	27	11	24	灰白色シルト	土杯皿1
④⑤区	F5	014	20	14	30	灰白色シルト	土杯1・釜鍋2
④⑤区	F5・F6	015	36	30	9	灰白色シルト　茶黒色粘土ブロック	

第63表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（13）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
④⑤区	欠番	016	欠番				
④⑤区	F5	017	16	10	6	灰白色シルト	
④⑤区	F5	018	−	−	−	灰白～白色シルト	
④⑤区	F5	019	36	31	10	灰色シルト	
④⑤区	F5	020	38	20	39	灰白色シルト～細砂	
④⑤区	F5	021	20	17	15	灰白色シルト～細砂	
④⑤区	F5	022	20	10	3	灰白色シルト	
④⑤区	F5	023	−	−	−		
④⑤区	F5	024	22	16	8	灰白色シルト	
④⑤区	欠番	025	欠番				
④⑤区	F5	026	19	12	17	灰白色シルト	土杯1
④⑤区	F6	027	26	16	不明	灰白色シルト	
④⑤区	F5	028	28	19	27	灰白色シルト	土小片1
④⑤区	F5	029	16	9	14	灰白色シルト　灰白～白色	土釜鍋1
④⑤区	F5	030	24	12	6	白色シルト＋黄褐色シルト	
④⑤区	F5	031	25	15	8	白色シルト＋黄褐色シルト	
④⑤区	F5	032	30	20	33	灰白色シルト　ほとんど白色に近い	瓦器椀1
④⑤区	F5	033	36	27	28	灰白色シルト　ほとんど白色に近い	
④⑤区	F5	034	22	14	6	白色シルト	
④⑤区	F5	035	20	12	3	白色シルト	
④⑤区	F5	036	24	16	5	白灰色細砂	
④⑤区	F5	037	36	25	10		
④⑤区	F5	038	32	22	3	白色シルト	土皿杯1・杯椀1
④⑤区	F5	039	22	15	6	白色シルト	
④⑤区	F5	040	22	12	16	灰白色シルト	土小片2
④⑤区	F5	041	22	16	6	白色シルト	
④⑤区	F5	042	22	13	16	白色シルト	
④⑤区	F5	043	22	13	16	白色シルト	土皿杯1
④⑤区	F5	044	22	16	8	白色シルト	
④⑤区	F5	045	24	12	18	白色シルト	土杯椀3
④⑤区	F5	046	26	16	21	白色シルト	
④⑤区	F5	047	24	12	17	白色シルト	土皿2・杯椀2
④⑤区	F5	048	28	17	22	白色シルト	
④⑤区	欠番	049	欠番				
④⑤区	F5	050	20	10	17	灰白シルト	土皿1・鍋1
④⑤区	欠番	051	欠番				
④⑤区	F5	052	22	16	5	白色シルト	
④⑤区	F5	053	26	17	26	白色シルト	
④⑤区	欠番	054	欠番				
④⑤区	F5	055	25	14	20	白色シルト	
④⑤区	F5	056	25	18	22	白色シルト	
④⑤区	F5	057	20	12	6	白色シルト	
④⑤区	F5	058	28	16	12	白色シルト	
④⑤区	F5	059	19	10	6	白色シルト	土釜鍋1
④⑤区	F5	060	15	8	2	白色シルト	
④⑤区	E5	061	30	19	20	白色シルト	
④⑤区	E5	062	23	12	21	灰白色シルト	
④⑤区	欠番	063	欠番				
④⑤区	E5	064	28	18	26	灰白色シルト　白色に近い	
④⑤区	E5	065	30	20	24	灰白色シルト　白色シルト	

第64表　飯野・東二瓦礫遺跡　ピット表（14）

調査区	区画	Pit. No	上端径(cm)	下端径(cm)	深さ(cm)	埋土，層名	出土遺物
④⑤区	E5	066	32	21	27	白に近い灰白色シルト	
④⑤区	E5	067	30	20	23	白色シルト	
④⑤区	E5	068	16	10	14		
④⑤区	E5	069	20	15	20	灰白～白色シルト	
④⑤区	E5	070	20	10	18	灰白～白色シルト	土杯1
④⑤区	E4	071	20	14	17	灰白～白色シルト	
④⑤区	欠番	072	欠番				
④⑤区	E4・F4	073	22	12	20	灰白～白色シルト	
④⑤区	F4	074	24	12	21	灰白～白色シルト	土皿1・杯2・鍋1・釜鍋1，須小片1，瓦器椀1
④⑤区	F4	075	28	24	25	灰白～白色シルト	弥小片2，土かまど1・小片2，瓦器椀5
④⑤区	F4	076	17	10	12	灰白～白色シルト	
④⑤区	F4	077	19	12	16	白色シルト	
④⑤区	欠番	078	欠番				
④⑤区	E4	079	36	29	25		瓦器椀1
④⑤区	E4	080	32	22	8	灰白色シルト（炭灰）	
④⑤区	E4	081	34	26	14	灰白色シルト（炭灰）	
④⑤区	欠番	082	欠番				
④⑤区	E4	083	20	12	5		
④⑤区	E4	084	19	11	不明	灰白～白色シルト	
④⑤区	E4	085	20	16	8		
④⑤区	E4	086	16	10	6		
④⑤区	E4	087	22	13	7	灰白～白色シルト	
④⑤区	E4	088	20	11	7	灰白～白色シルト	
④⑤区	E4	089	15	11	5	灰白～白色シルト	
④⑤区	E4	090	22	15	不明	灰白～白色シルト	
④⑤区	E4	091	26	16	14	灰白～白色シルト	
④⑤区	F5	092	34	24	20	灰白色シルト	土椀1・小片1
④⑤区	F5	093	20	10	5	灰白色シルト	
④⑤区	F5	094	10	4	6	灰白色シルト　炭灰まじり	
④⑤区	欠番	095	欠番				
④⑤区	欠番	096	欠番				
④⑤区	欠番	097	欠番				
④⑤区	欠番	098	欠番				
④⑤区	欠番	099	欠番				
④⑤区	E5	100	－	－	－		
④⑤区	E5	101	－	－	－		
④⑤区	E5	102	－	－	－		
④⑤区	E5	103	－	－	－		
④⑤区	欠番	104	欠番				
④⑤区	欠番	105	欠番				

第65表　飯野・東二瓦礫遺跡　土坑表

遺構名	区画名	長軸長(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	挿図	図版	調査時遺構名
SK01	C3・C4	3.26	2.59	0.18	土 皿7・杯21・皿 杯28・杯 椀5・椀2・小 片20・釜3・鍋5・釜鍋28,東播鉢1,亀甕1,石焼石2	42	34	②区 SK03
SK02	C4	1.80	1.22	0.15	土杯1・皿杯11・小片4・釜2・鍋2・釜鍋7,瓦質鉢2,瓦器椀1,須杯蓋1	43	34	②区 SK04
SK03	C4	1.05	0.65	0.11	土大甕1	56	−	②区 SK05
SK04	C5	1.10	0.11	0.58	土皿杯4・小片1	57	39	②区 SK01
SK05	C5	1.07	0.27	0.27	土皿1・皿杯1・釜鍋4・小片1	58	40	②区 SK02
SK09	F6	1.05	1.05	0.51	土皿1・釜鍋1・大甕6	60	40	⑤区 SK01

第66表　飯野・東二瓦礫遺跡　溝出土遺物一覧表

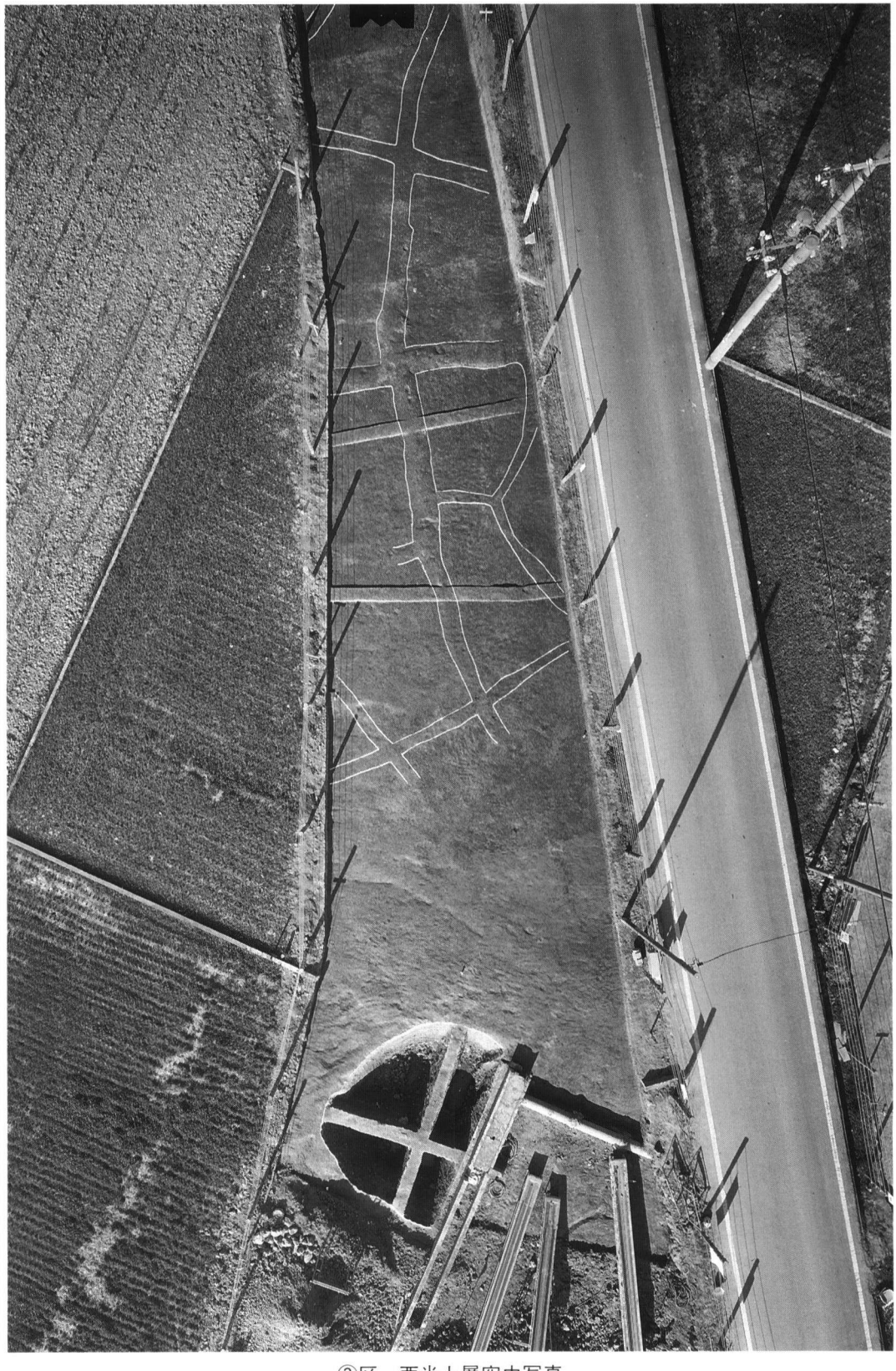
報告遺構名	区画名	出土遺物	調査時遺構名
SD01	B2	土皿1・皿杯3・杯3・釜鍋3・小片22,須杯1,瓦器小片2,石剝片1	②区 SD01
SD02	B4,C4	土皿34・杯76・皿杯135・椀4・杯椀1・甕3・鍋8・釜27・鍋釜70・小片59,須杯1・杯蓋1・鉢3・甕4・小片1,西椀4,瓦質鉢9・小片1,瓦器椀2,東播2,磁白磁椀1・白片1,石焼石3・スクレイパー？1・石鍋1	②区 SD07
SD03	B4,C4	土皿3・杯14・杯皿21・杯椀1・鍋1・釜1・鍋釜3・小片2,瓦質すり鉢1	②区 SD08
SD04	C3,C4	土皿3・皿杯31・杯10・釜3・釜鍋9・小片8,西椀1,東播鉢2,磁白磁IV類椀1	②区 SD09
SD05	C4	土杯2・皿杯1	②区 SD10
SD07	C4,C5	土皿30・杯51・皿杯106・椀6・杯椀5・鍋2・釜8・鍋釜29・鉢1・赤彩皿1・小片66,西椀5,瓦器和泉椀2,須杯蓋1・小片5,鉄不明1,磁青磁小片1,石砥石1	②区 SD04
SD08	C4	土皿杯1・釜鍋1	②区 畦17西溝(SD11)
SD13	C3	土皿1・皿杯1	②区 溝A
SD14	C3	土皿4・杯18・皿杯40・杯椀3・鉢1・すり鉢18・鍋19・釜39・釜鍋98・甕4・小片46,須小片1,備甕1,陶鉄釉土管1,石焼石2・スクレイパー1・砥石1,鉄不明1	②区 SD03
SD16	C5,D4,D5	弥壺2・甕1・小片45・こしき1,土杯1,石スクレイパー1・剝片1	②区 SD06
SD17	D4,D5,E4	土皿杯10・杯14・椀16・杯椀1・鍋2・釜鍋52・小片76,須壺1,西椀1,瓦器椀9,弥1,磁中国産白磁椀1,瓦質鉢1,瓦丸瓦1・平瓦1,石安山岩剝片1・剝片1	④区 SD01，02(SD13)
SD17	D4,D5,E4	土皿1・杯18・椀3・皿杯10・杯椀1・鉢1・釜1・釜鍋17・小片28,瓦器和泉椀4,須甕1・小片1,陶土ぴん1,磁中国産白磁IV類1・中国産白磁小片2	②区 SD02
SD20	E6,E7	弥11	③区 SD04
SD21	E7,F6,G6	弥甕1・小片1,土かまど1・鍋釜4・小片1,須杯蓋1・杯1・瓶1,石スクレイパー1	⑤区 SD09
SD21,SD22	E7,F7	弥小片2,須高杯1	③区 SD02，03
SD23	E7,F7	弥3	③区 SD01
SD23	E7,F5,F6,F7,G5	土皿1・皿杯1・杯10・椀2・釜鍋11・小片1,瓦質鉢1,須杯1・杯蓋1・壺1・小片1,陶鉄釉皿1,焼土1	⑤区 SD04
SD24	F5,F6	弥壺1	⑤区 SD06
SD24～26	F5,F6	弥1,土皿杯2・鍋1・小片7,黒A椀1,須杯蓋1・甕1,石スクレイパー1・安山岩剝片1	⑤区 SD06～08
SD27	F5,F6,G6	弥2,石スクレイパー1	⑤区 SD05
SD29	F6,G5,G6	土皿杯1・釜鍋1・小片3,須杯1,黒A椀1	⑤区 SD02
SD30,SD31	G6,G7	弥甕3・小片1	⑤区 SD10とSD12の合流部
SD31	G6,G7	弥壺2・小片1	⑤区 SD10
SD31,SD32	G6,G7	土杯1・釜鍋1・小片1	⑤区 SD10，SD11

図　　版

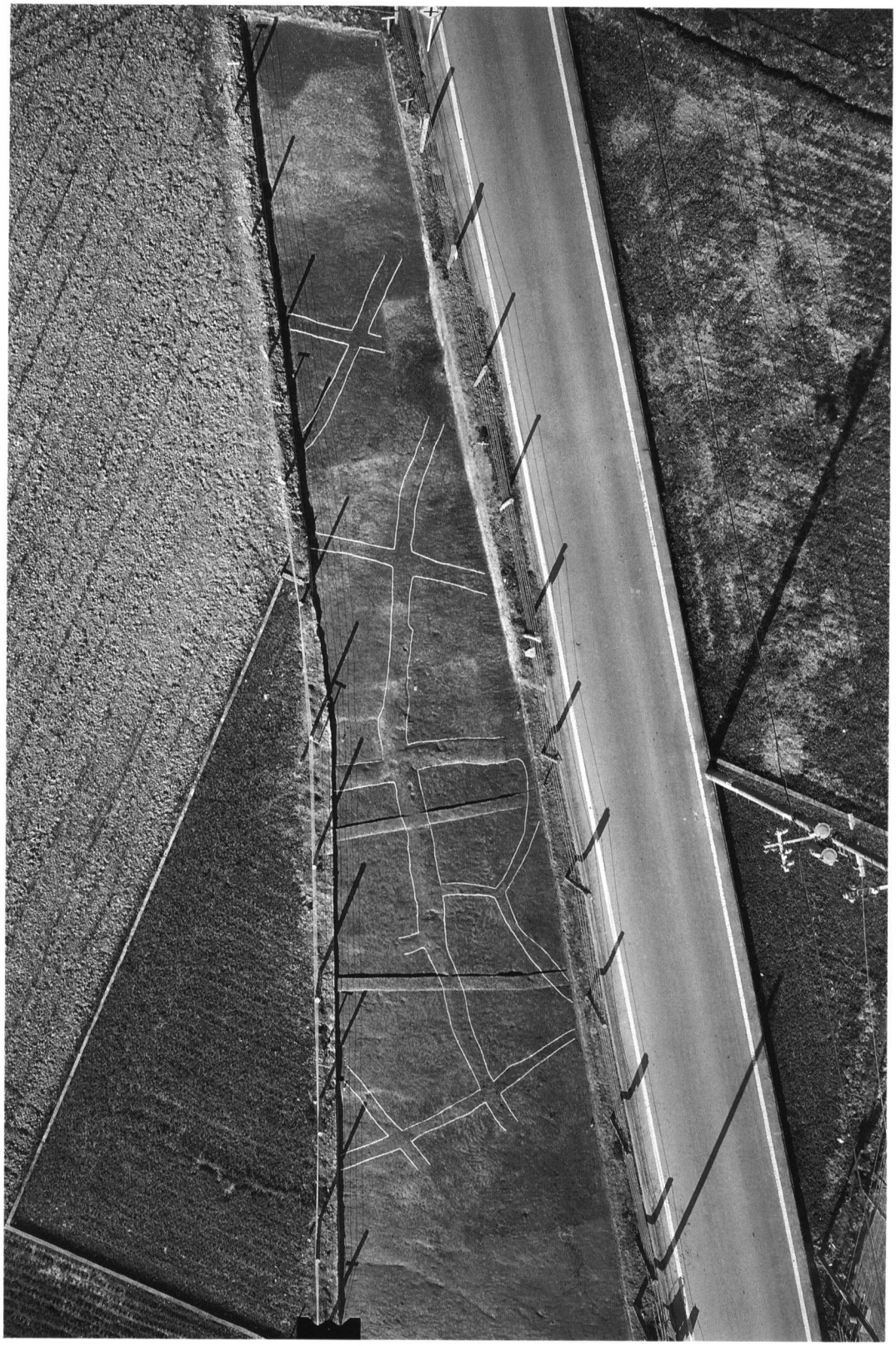
遺跡全景　東から

①区　空中写真

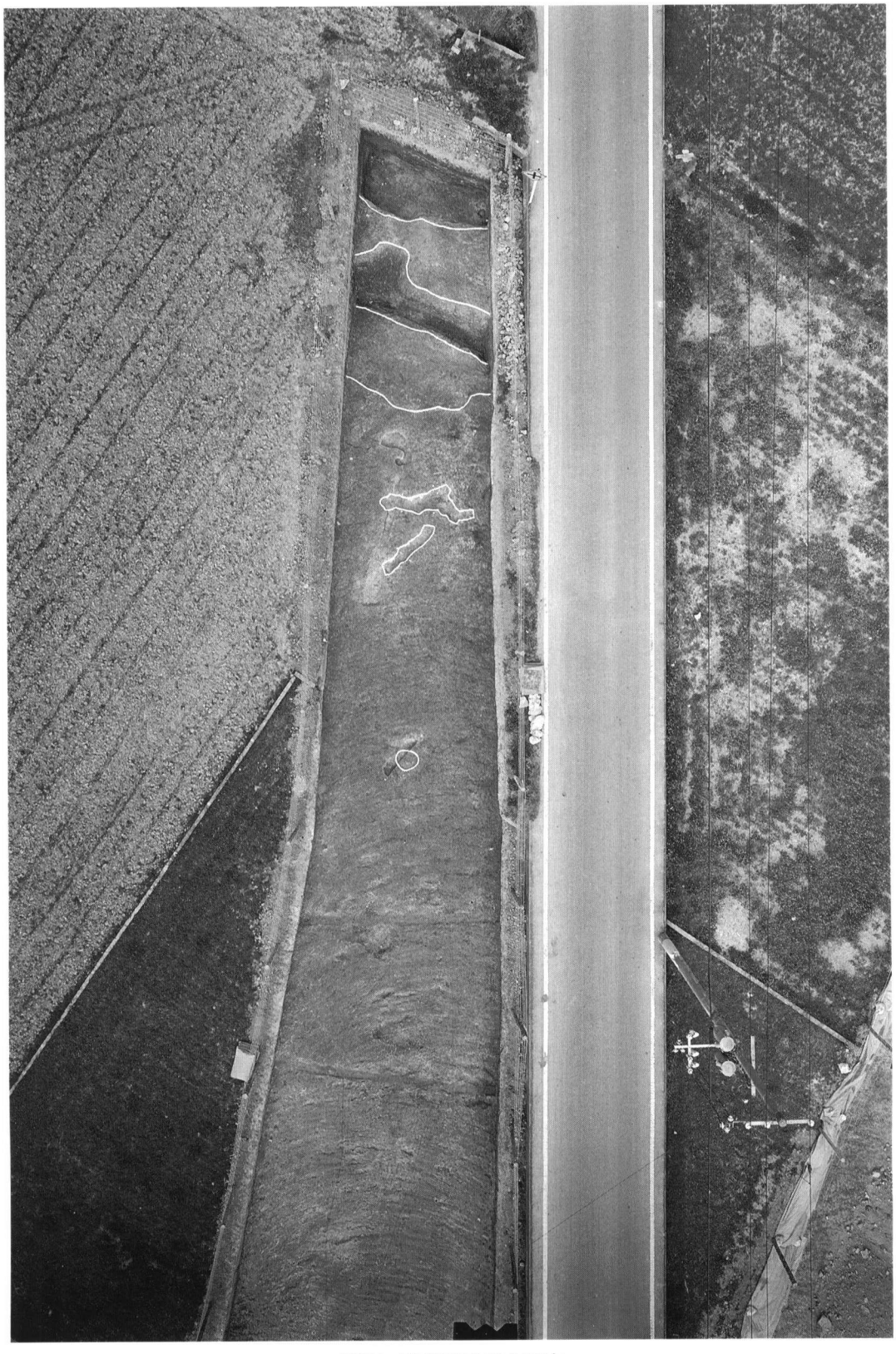
②区　空中写真



③区　西半上層空中写真



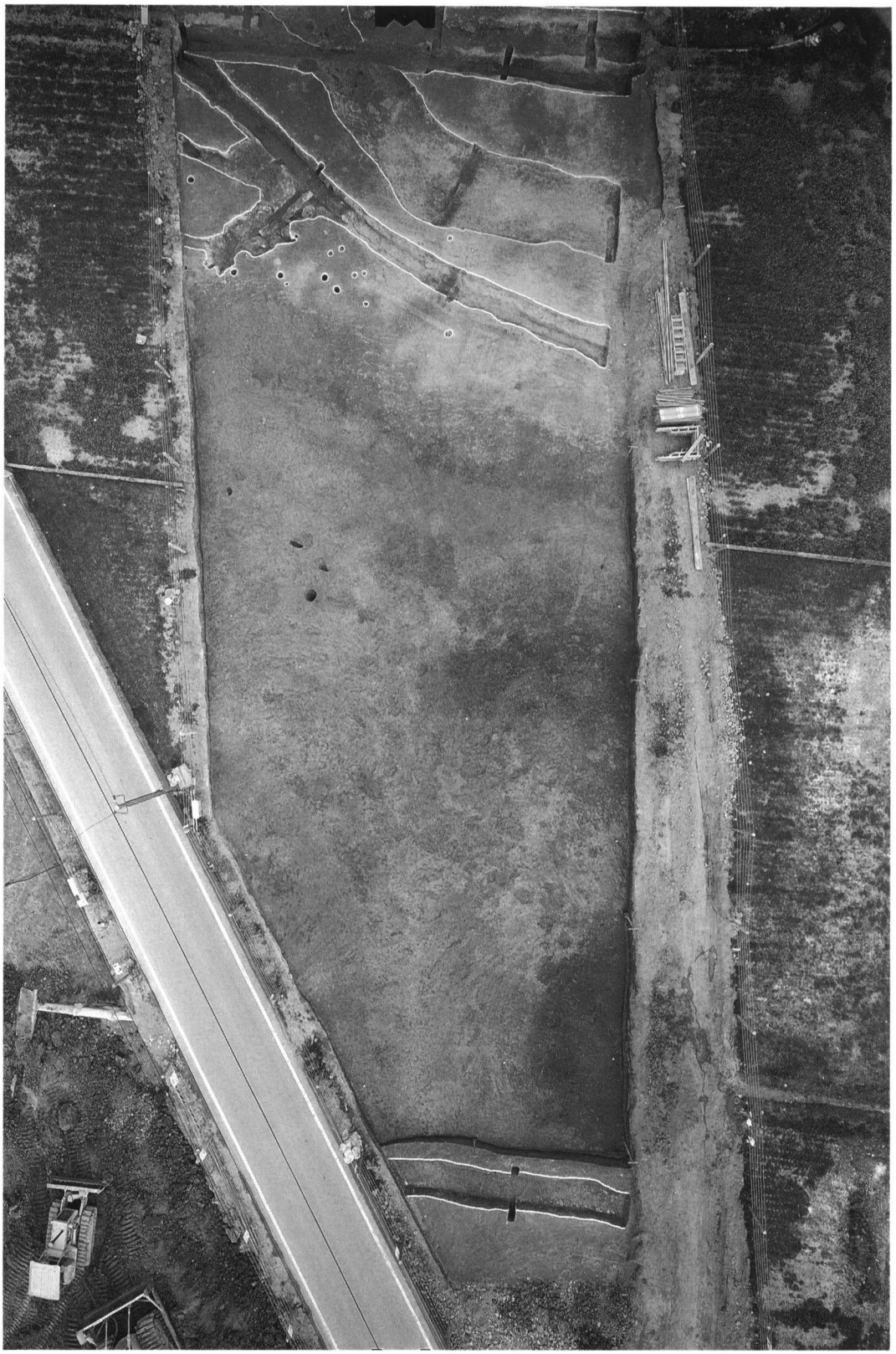
③区　東半上層空中写真



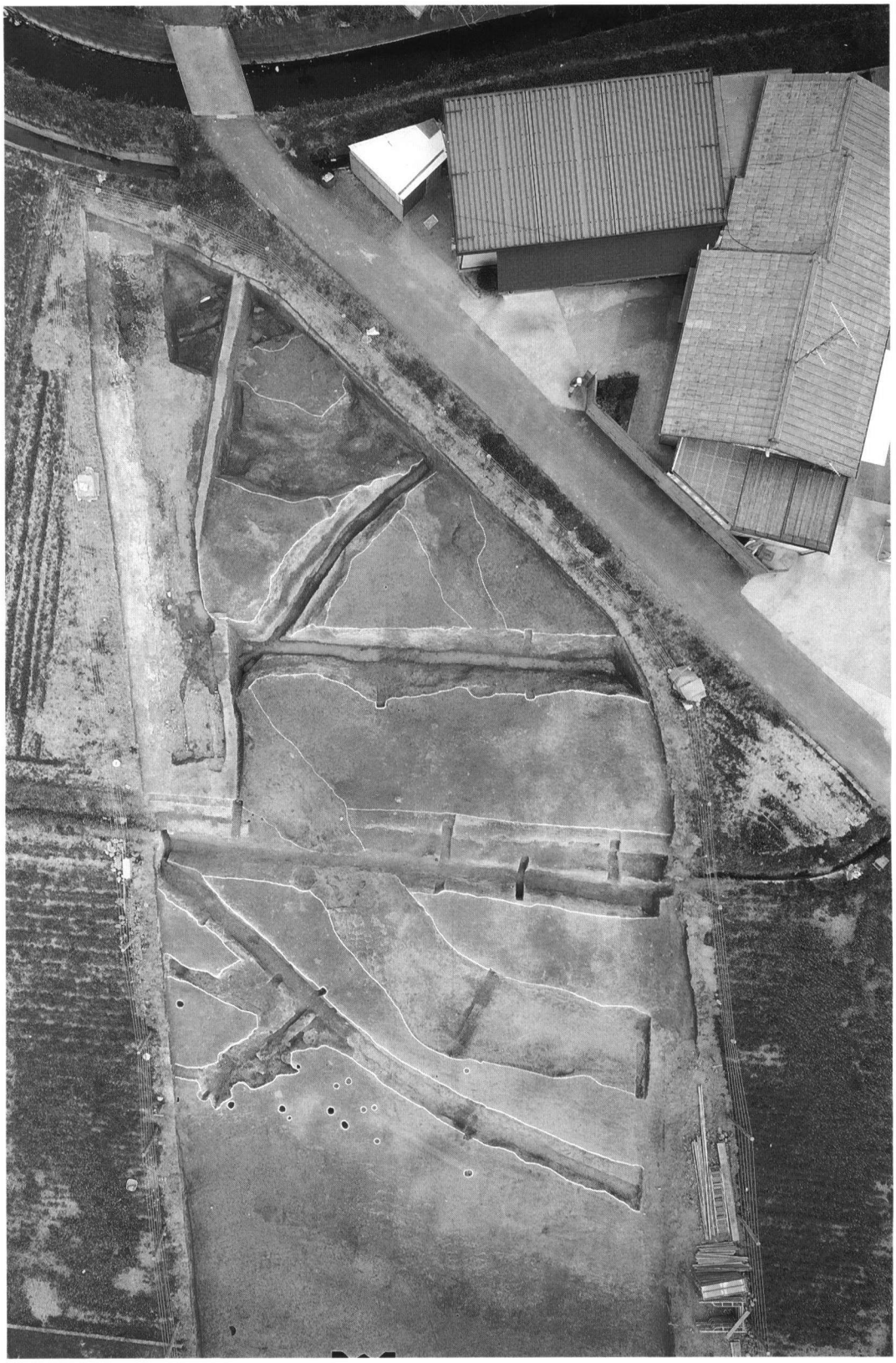
③区　東半下層空中写真

④区　上層空中写真

⑤区　上層空中写真

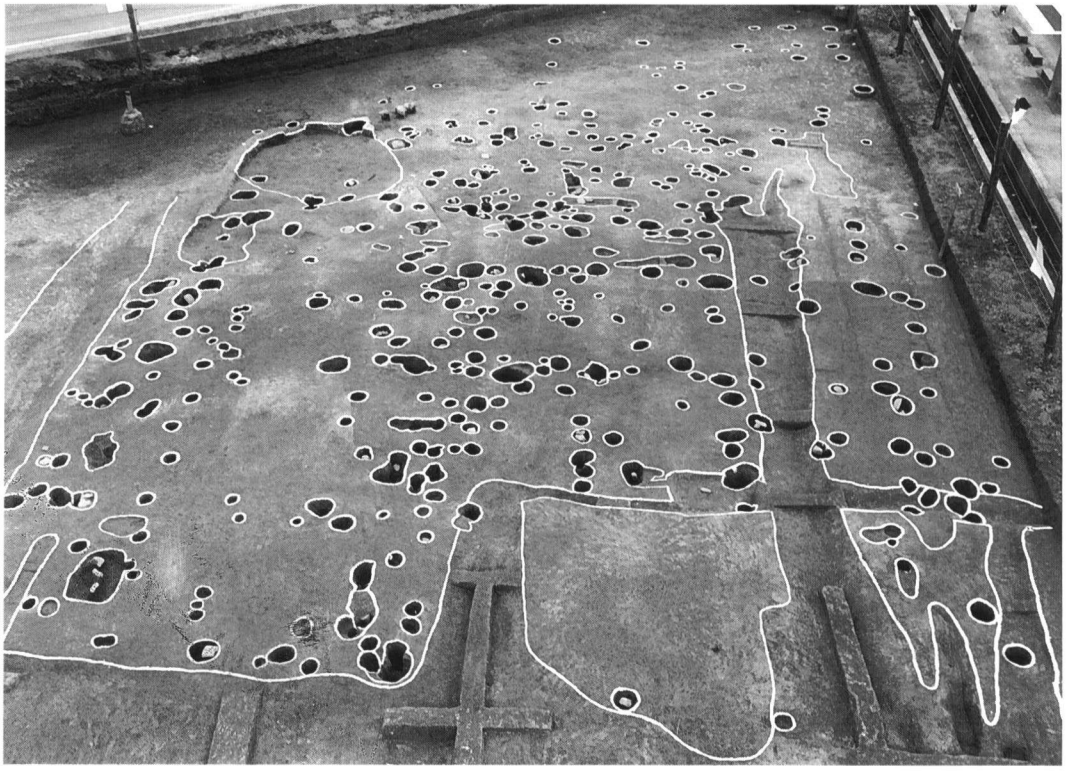


④区　下層空中写真

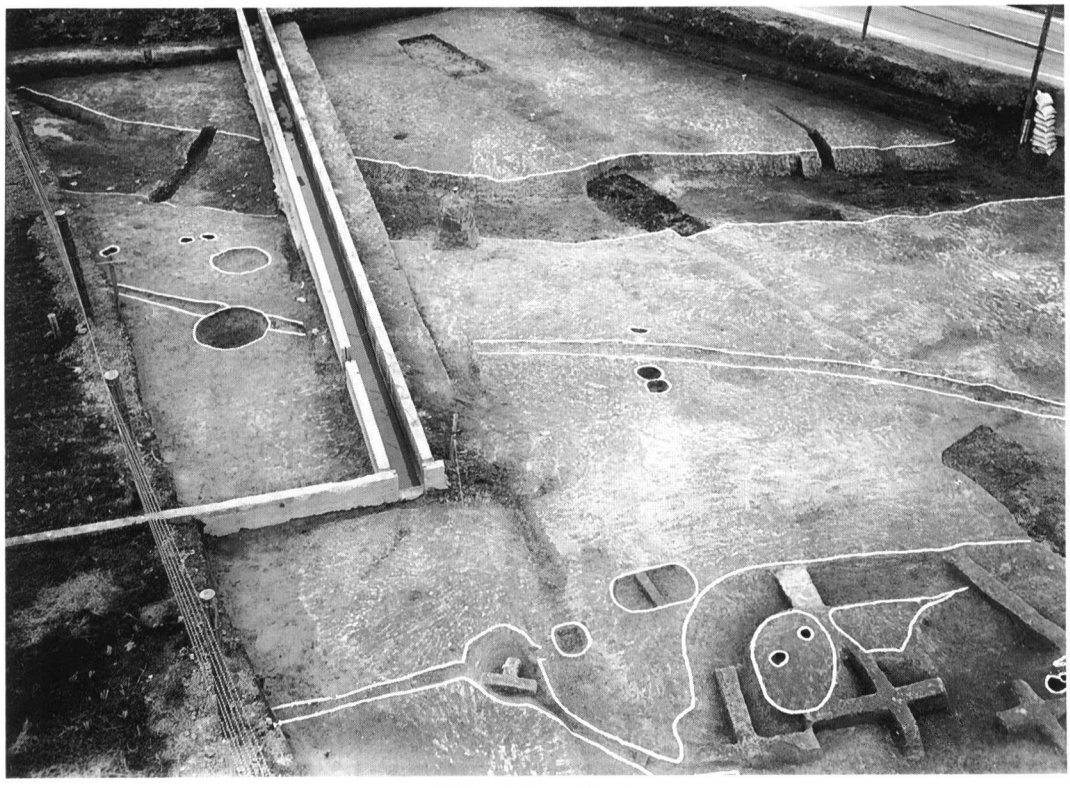


⑤区　下層空中写真

①区　完掘全景　北から



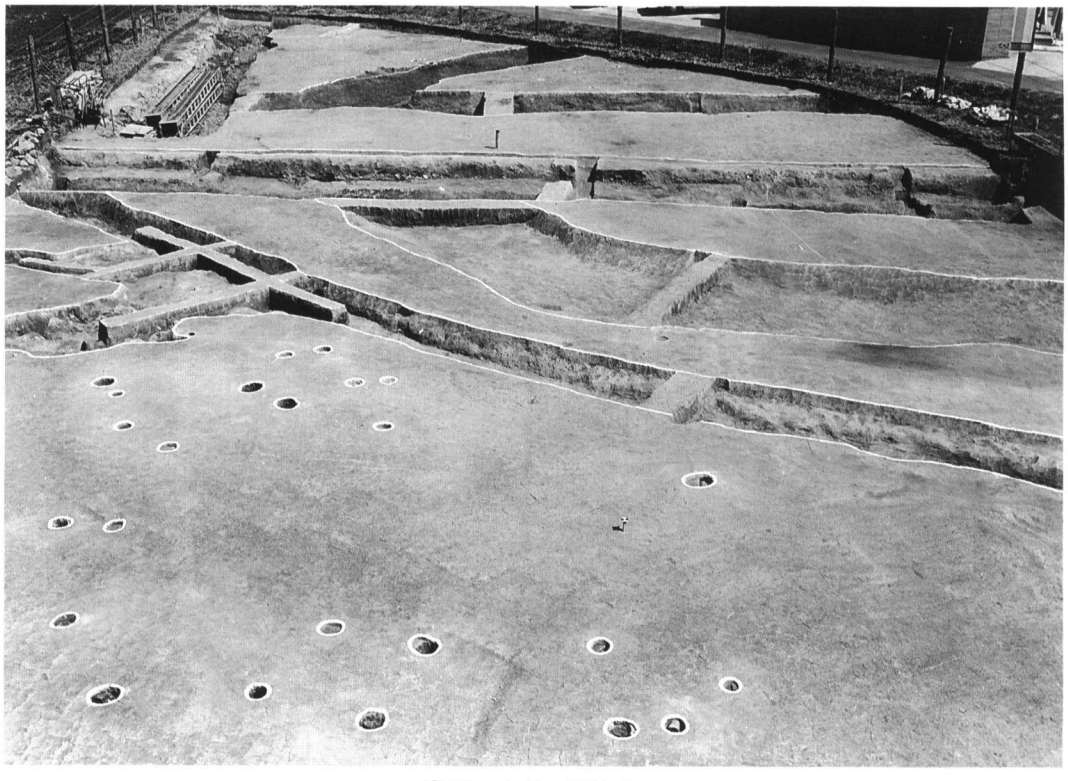
②区　全景　北から



②区　全景　西から

②区　全景　東から

③区　水田跡　西から



⑤区　全景　西から

④⑤区　完掘全景　西から

①区断面６　Ａライン以西（西）　北から

①区断面６　Ａライン以西（東）　北から

①区断面６　Ａライン以東（西）　北から

①区断面６　Ａライン以東（中）　北から

①区断面６　Ａライン以東（東）　北から

③区　調査区北壁断面　南から

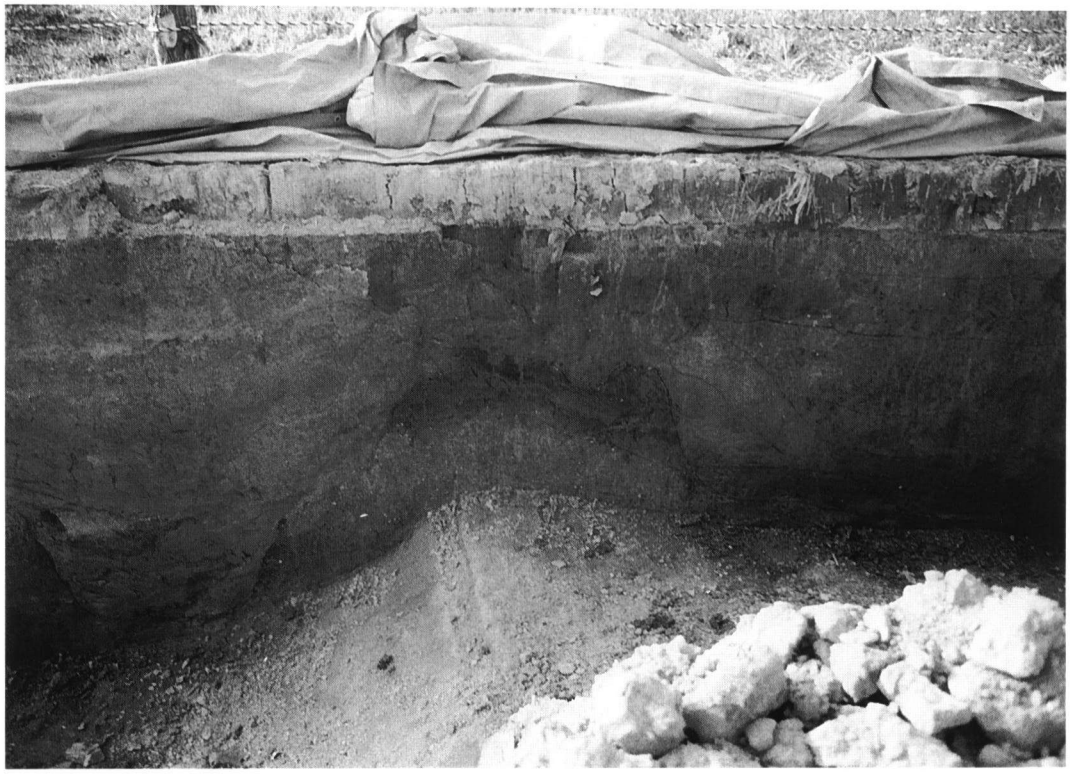
⑤区　調査区北壁断面（1）　南から

⑤区　調査区北壁断面（2）　南から

⑤区　調査区北壁断面（3）　南から

⑤区　調査区北壁断面（4）　南から

⑤区　調査区北壁断面（5）　南から

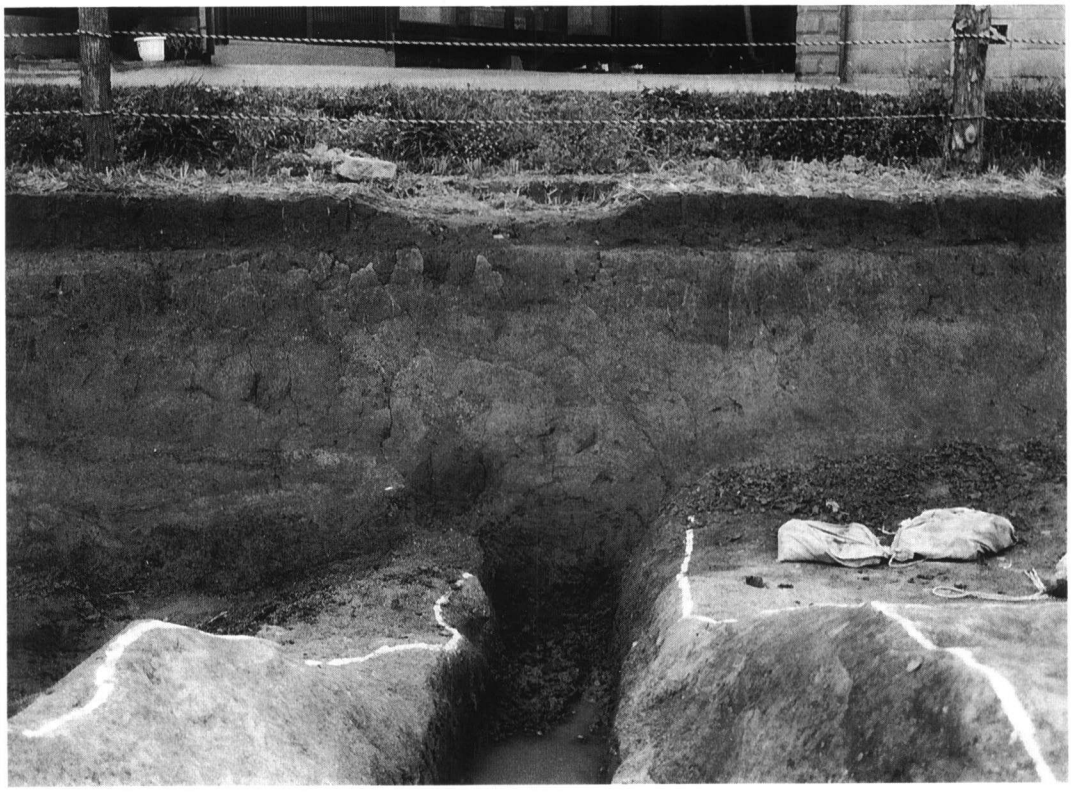


⑤区　調査区北壁断面（６）　南から

⑤区　調査区北壁断面（７）　南から

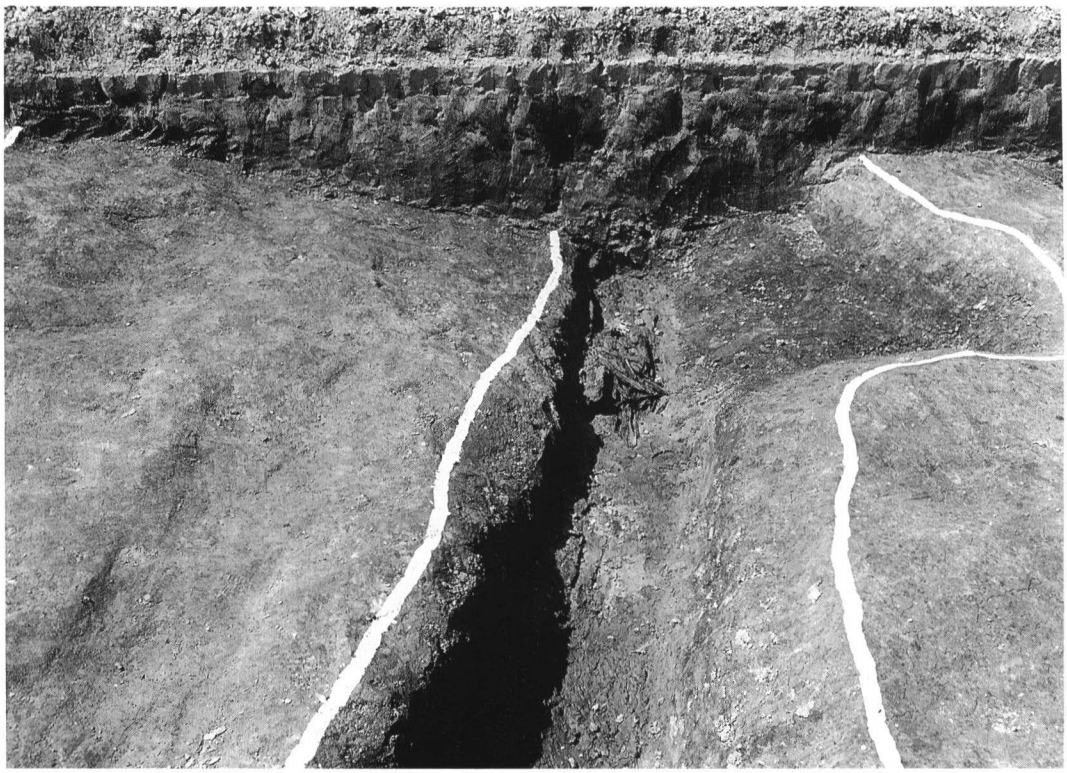
⑤区　調査区北壁断面（８）　南から

⑤区　調査区北壁断面（９）　南から

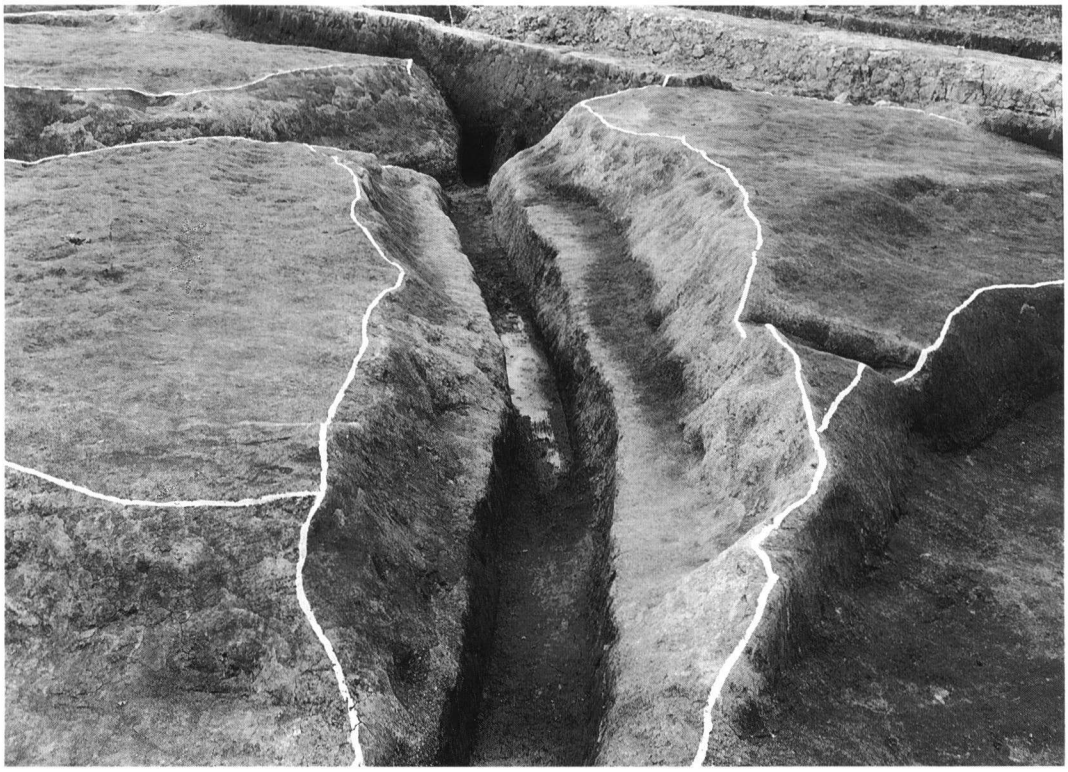


⑤区　調査区東壁断面　西から

ＳＤ21完掘　東から



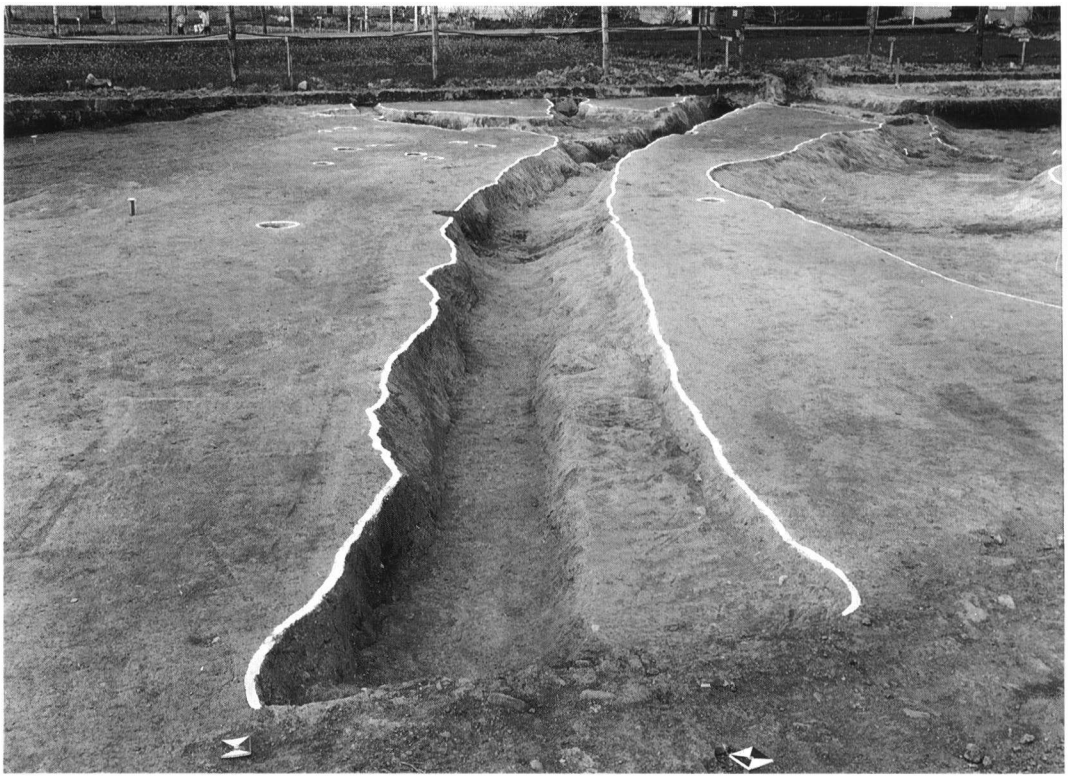
ＳＤ21完掘　南から



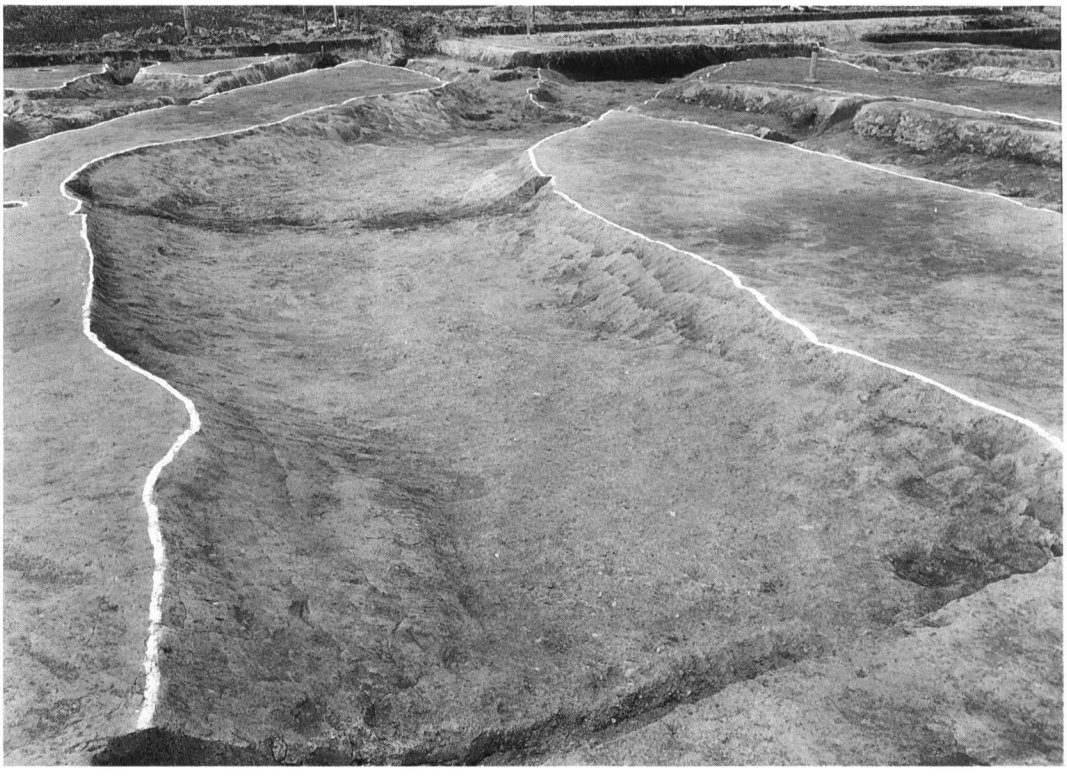
ＳＤ21完掘　東から

ＳＤ22完掘　南から

ＳＤ24断面　北から

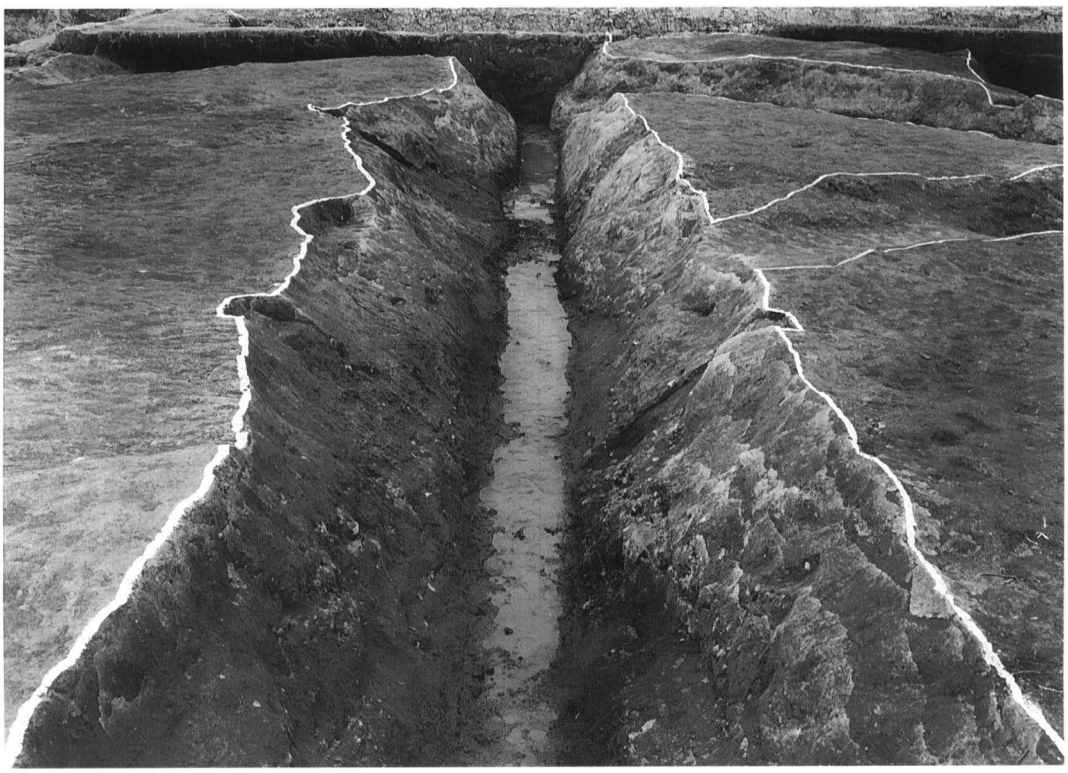


ＳＤ24～26完掘　南から



ＳＤ27完掘　南から

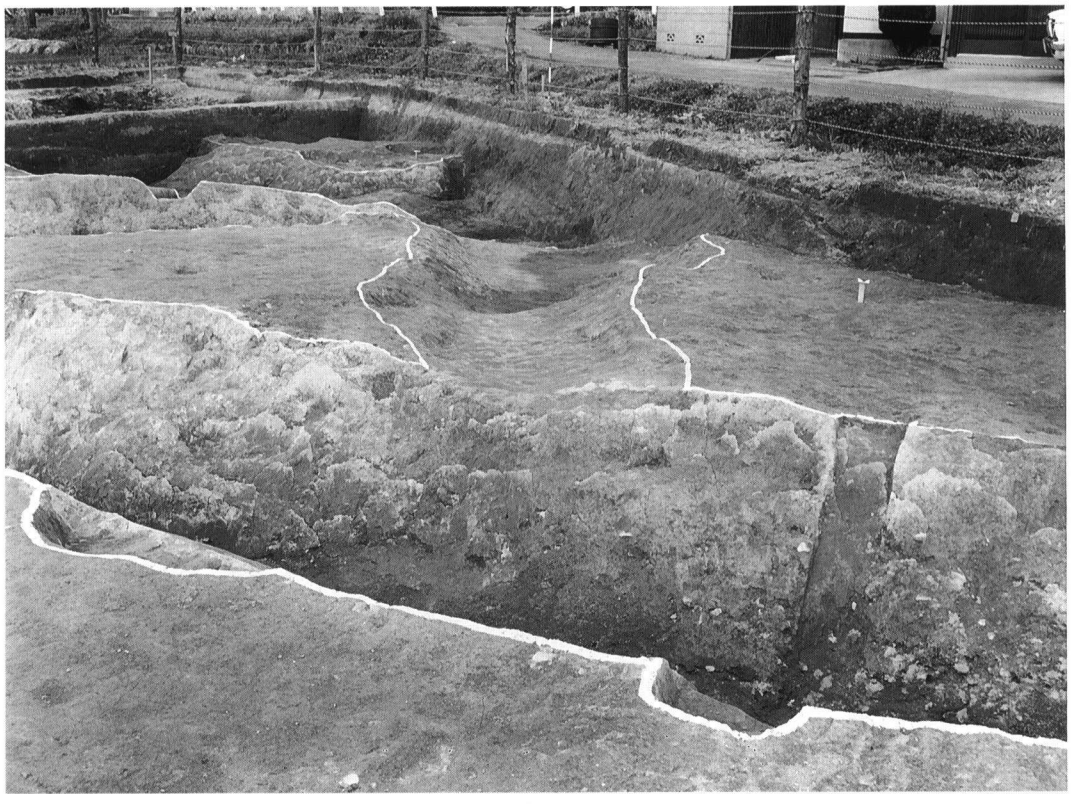
ＳＤ25，26完掘　南から



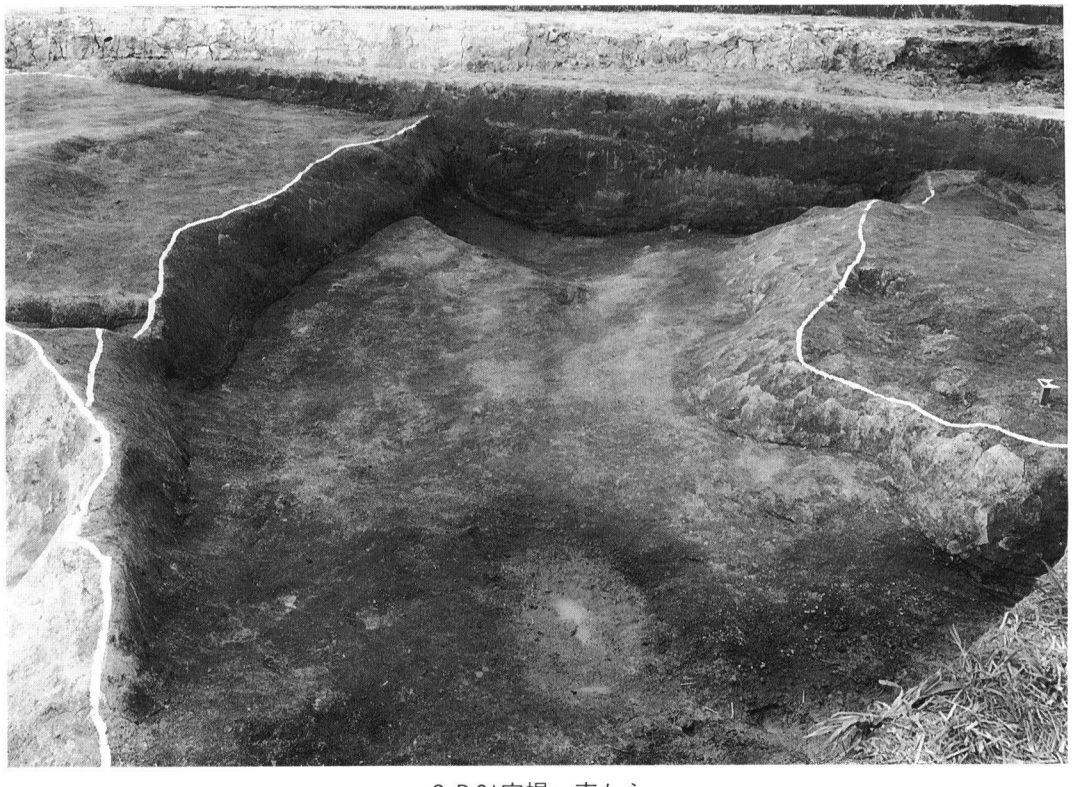
ＳＤ29完掘　南から

ＳＤ29断面　北から

ＳＤ29，21断面　南から



ＳＤ30完掘　南から



ＳＤ31完掘　南から